（公財）北九州市芸術文化振興財団 委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査20 報告書

2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
2029
2030
2031
2032
2033
2034
2035
2036

2024年3月

IfCC Institute for Culture Commons 文化コモンズ研究所

◎ はじめに

この報告書は、（公財）北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、文化コモンズ研究所が実施した「北九州芸術劇場　事業評価調査（その20）」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任（アカウンタビリティ）への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

北九州芸術劇場は、そうした動きに先立ち、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

20年目にあたる2022年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。

なお、2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きかった2020年度、2021年度と比較すると、主要な指標は回復してきているものの、コロナ禍以前の水準には戻ってはいなかった。しかしその一方で、実際に公演を鑑賞した観客や貸館での施設の利用者のアンケートによると、満足度を測る指標の多くで高い評価を維持した。そうした結果から、コロナ禍を経ても北九州芸術劇場への支持や共感は変わっておらず、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。

末筆ではあるが、2003年度以降、20ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた（公財）北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2024年3月
文化コモンズ研究所

◎ 目　次

序章　調査研究の目的・内容と本報告書の構成..... i

［本編］

第1章　2022年度事業の概要と実績 3

第2章　観客の特性と観客からみた評価 10

第3章　貸館利用者からみた評価..... 17

第4章　経済波及効果とパブリシティ効果..... 21

第5章　評価フレームに基づいた事業評価結果..... 28

［資料編］

資料Ⅰ　実績調査結果 資-1

資料Ⅱ　観客調査結果 資-25

資料Ⅲ　貸館利用者調査結果..... 資-71

資料Ⅳ　経済波及効果 資-105

資料Ⅴ　パブリシティ効果..... 資-119

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1.調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

20年目にあたる2022年度は、2003年度あるいは2004年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出

を実施した。

(2) 調査の内容

①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から20年間の経年分析を行なった(詳細は、p.資-1～資-24参照)。

②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-25～資-622参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンル等)など、観客特性の把握

③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、2022年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-71～資-102参照)。

④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-103～資-115参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-117～資-126参照)。

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内

容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる5つの章によって構成されている。

- 「第1章　2022年度事業の概要と実績」
  劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章　観客の特性と観客からみた評価」
  自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見（公演やサービスへの満足度など）、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章　貸館利用者からみた評価」
  貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章　経済波及効果とパブリシティ効果」
  産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章　評価フレームに基づいた事業評価結果」
  第1章から第4章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。

  A 劇場の設置目的:
  鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動支援、地域への貢献

  B 運営・管理:　場の提供・支援、施設のホスピタリティ・サービス、施設の維持管理

  C 経営:　経営体制、リサーチ＆マーケティング、経営努力

(2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「実績調査結果」では、2022年度の劇場運営の基礎データや2003年以降の推移を整理した。
- 資料Ⅱ「観客調査結果」では、2022年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「貸館利用者調査結果」では、2010年度～22年度の12ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅳ「経済波及効果」では、2022年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅴ「パブリシティ一覧」では、2022年度の新聞記事掲載件数や金額換算の実績や2003年以降の推移を整理した。

◎ 調査研究体制

文化コモンズ研究所

吉本光宏（代表・統括研究員）

大澤寅雄（代表・主任研究員）

北九州芸術劇場
事業評価調査

［本編］

第1章 2022年度事業の概要と実績

事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2022年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

1．事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と2022年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

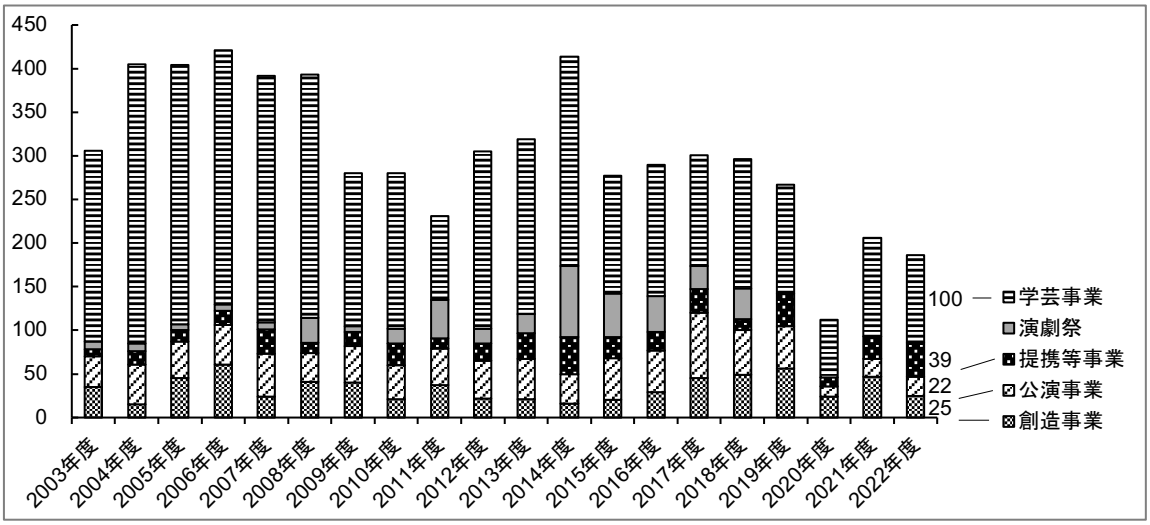
北九州芸術劇場では、開館以来「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードにした事業展開が行われてきた。開館10周年の節目を経過し、新たな一歩を踏み出すため、4つめのキーワードとして、2014年度から「支える」が加わった。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **［創る］**：北九州発のオリジナリティのある良質の作品づくりを通じて、地域資源の発掘と北九州市のシティブランド発信に取り組む。
- **［育つ］**：『交流』と『育成』を柱に、舞台芸術の力を活用し、地域の未来を担う人材を育成する。
- **［観る］**：幅広いラインナップの充実を図り、市民に良質な公演を提供する。また、新たな観客づくりや、にぎわいづくりに寄与する。
- **［支える］**：市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を積極的に行う。

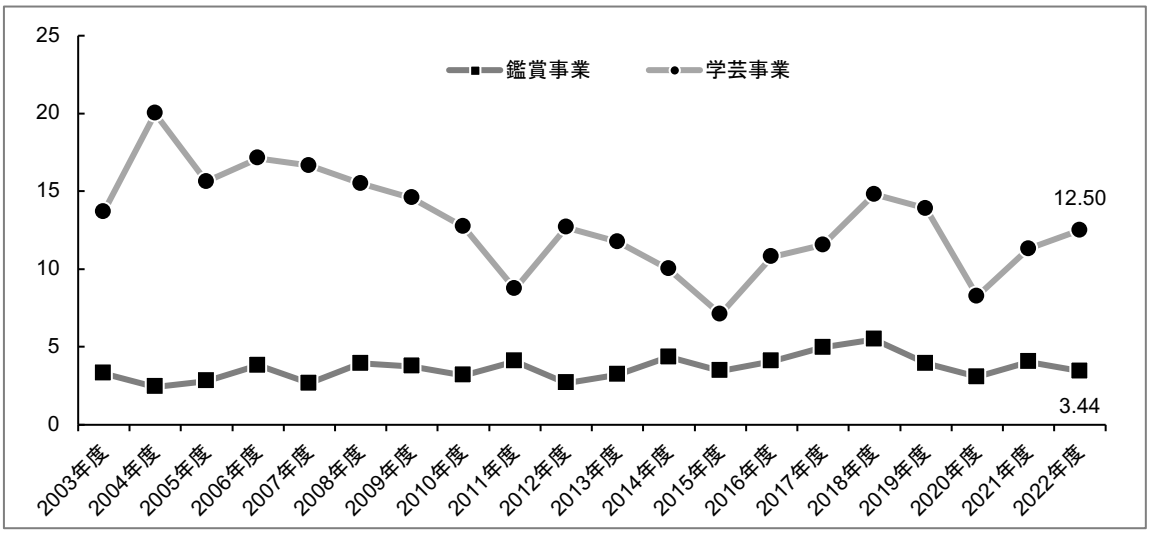
(2) 事業の内容と実績、入場者数

- 2022年度も4つのコンセプトに基づき、 2022年度の自主事業の事業数は、鑑賞事業が25事業、学芸事業が8事業、支援事業が6事業となっている。
- 2022年度の鑑賞事業の公演回数は86回、学芸事業の実施回数は100回、支援事業は39回となっている（図表1-1）。鑑賞事業の1事業あたりの公演回数は3.44回、学芸事業の1事業あたりの実施回数は12.50回となっている（図表1-2）。
- 2022年度の鑑賞事業の入場者数は18,762人、学芸事業の参加者数は789人、支援事業の参加者数は1,551人となっており、年間の入場者（参加者）数の総合計は19,551人となっている。
- 2022年度の鑑賞事業で、総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数は16,095人で、総席数は18,584席となっており、入場率は86.6%となっている（図表1-3）。前年度の2021年度の入場率を上回り、入場率はコロナ禍前の2019年度（90.0%）の水準に近づいた。
- なお、2022年度では、新型コロナウイルスの影響で中止になった事業は1件で、その他に台風や大雪の影響で変更になった事業があった。
- 2003年の開館以来の20年間の鑑賞事業の累計入場者数は685,679人で、北九州市の人口（2023年3月1日時点の推計で920,070人）の74.5%の人数規模となる。

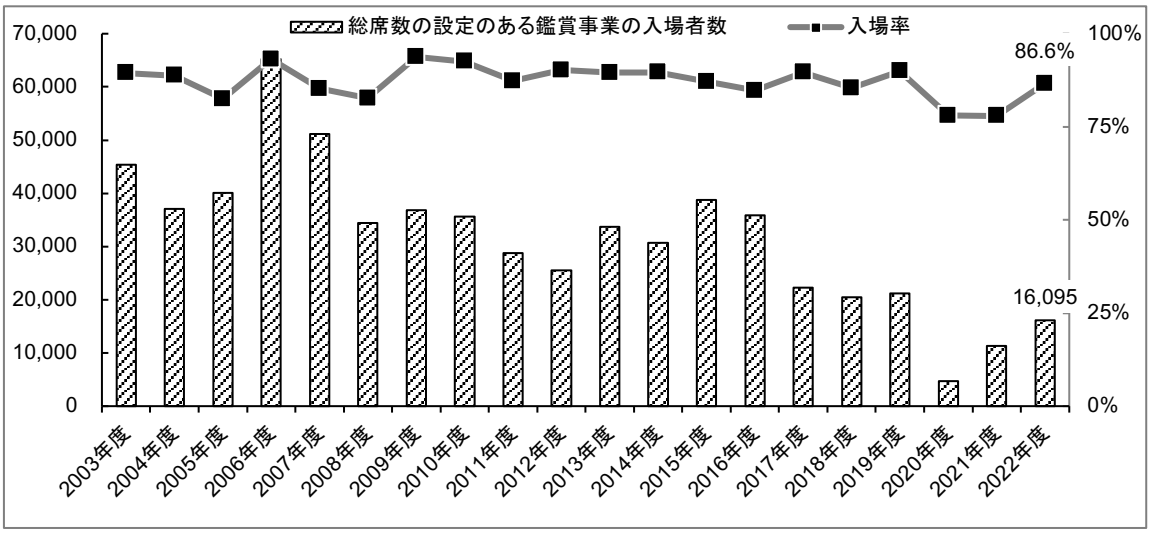
図表1-1 公演（実施）回数の実績



図表1-2 1事業あたりの公演（実施）回数



図表1-3 入場者数と入場率



- 以下、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。

①創る：創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
  - 10年間で73名の北九州の街で長年暮らしてきた高齢者の方々にインタビューを行い、戯曲に仕上げて舞台化し、北九州・東京で上演した北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re：北九州の記憶～」
  - 国内外で高い評価を受け続けている舞踏カンパニー・山海塾の4年ぶり待望の新作を、世界に先駆け北九州で上演した北九州芸術劇場×山海塾共同プロデュースによる山海塾「TOTEM 真空と高み」の世界初演
  - 小倉の上空を走行するモノレールが「走る劇場」に生まれ変わる人気企画の第6弾、日本文学の名作「銀河鉄道の夜」をモチーフに劇団「ままごと」主宰の柴幸男が作・演出したモノレール公演「きみをさがして」

  といった事業が実施された。
- 2022年度は4事業で25回の公演・ワークショップが行われ、入場者数は1,902人となっている。2021年度と比べると、回数は減少し、入場者数は増加している（2021年度の実績は4事業、47回、1,149人）。入場率では、2021年度の82%から2022年度では75%と減少している。
- 個別の入場率では、モノレール公演「きみをさがして」が94%、北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re：北九州の記憶～」北九州公演が89%、東京公演が75%となっている。

②育つ：学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
  - 演劇・ダンス分野から地元や国内外で活躍するアーティストを招いて未来を担う子ども達が、多様な価値観をもつアーティストや芸術とふれあう「キタQアーティストふれあいプログラム」
  - 高校生に〔的〕を絞った取り組みを通して、いろんな人に出会い、多様な価値観に触れ、刺激を受けることを応援するため、演劇・パフォーマンスをより身近に感じていただき、高校生が劇場を〔的〕にして集うきっかけを提供した「高校生〔的〕シアター」
  - 北九州市の企業や団体等と国内外の第一線で活躍するアーティストが協働し、オリジナルの実演芸術作品を創作する「地域のアートレパートリー創造事業」

  など、学芸事業全体では、創造参加も含め、8事業で100回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は1,566人となっている。

③観る：公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、日本演劇界の旗手ケラリーノ・サンドロヴィッチの最新作で多方面で活躍する俳優陣が集結したKERA・MAP「しびれ雲」、大人計画主宰の松尾スズキの第71回読売文学賞受賞作品の再演による東京成人演劇部vol.2「命、ギガ長スW（ダブル）」、溝口健二監督映画の脚本を元に演出家・長塚圭史が上演台本・作詞を手掛けたミュージカル「夜の女たち」など、幅広い観客層を対象とした公演が実施された。
- 公演事業では11事業が上演され、公演数は22回、入場者数は6,416人となっている。2021年度と比べると、公演数、入場者数ともに増加している（2021年度の実績は20回、5,595人）。また、公演事業全体の入場率は87%となっている。

- 提携等事業では、小劇場・現代演劇など10事業が上演され、公演数は39回、入場者数は10,444人であった。2021年度と比べると、公演数、入場者数ともに増加している（2021年度の実績は26回、9,696人）。また、提携等事業全体の入場率は89%となっている。
- 創造事業、公演事業、提携等事業を含めた公演事業全体の公演作品数は25本、公演数は86回、入場者数は18,762人である。2021年度の年間入場者数と比べると、公演数は減少し、入場者数は増加している（2021年度の実績は25本、93回、16,440人）。

④支える：地元劇団等の創造活動支援、多施設との連携、貸館事業

- 「支える」に対応した主催事業では、
  - 地域舞台人の新たな表現活動の一助となるため、創造活動を行う表現者の創造環境支援に重点を置いて実施する「演カツ!! 2022」
  - 「上演時間は20分以内」「登場人物は3人まで」というルールのもと、九州各地の劇団による短編作品を上演し、競い合う「劇トツ×20分」
  - 北九州を拠点に活動する、大体2mm、ブルーエゴナク、飛ぶ劇場との提携事業

  などを行った。
- 支援事業の公演回数は39回で入場者数は1,551人（前掲の「観る：公演事業」と「育つ：学芸事業」の入場者数の計に含まれる事業が多い）。
- また、「支える」では市民の文化活動の支援を貸館として行い、「提案する劇場」として、使用申込みから当日までのケア、催し内容へのアドバイス、施設の安全性や非常時対応の説明等、使用者が安心して催しを開催できるように総合的にサポートした。
- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、公演や講演など、計263事業が開催された。公演・講演数は348回、総来場者数は122,797人となっている。

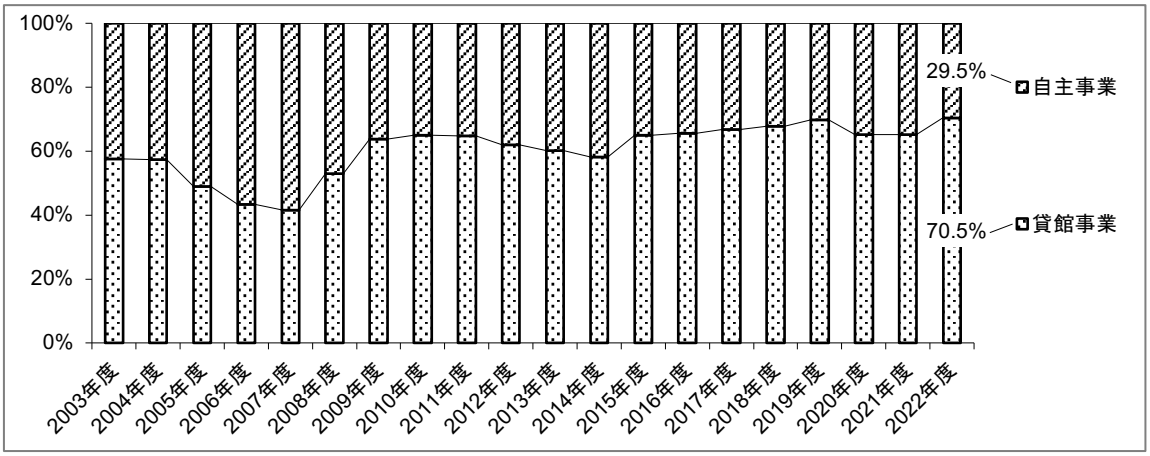
⑤利用者数、利用件数

- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数を見ると、2022年度は1,467件の利用があり（図表1-4）、利用者数は約18万2千人となっている。
- そのうち、利用件数は自主事業433件、貸館事業1,034件となっており、利用者数は自主事業約2万6千人、貸館事業約15万6千人である。前年度と比べて、自主事業、貸館事業ともに利用件数と利用者数は増加している。
- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースでみると、2022年度は、貸館事業が70.5%、自主事業は29.5%となっている（図表1-5）。開館から2007年度までは自主事業の利用の比率が増加傾向にあったが、2008年度以降は貸館事業の比率が増加傾向にある。2022年度は開館以降で最も貸館事業の比率が高い。
- ホールの規模別の自主事業の比率を見ると、2022年度は大ホールが10.3%、中劇場が28.2%、小劇場が50.4%となっている（図表1-6）。
- 2013年度以降の第3期からは、自主事業が劇場から地域に出て展開する企画が増加しており、その分、劇場は貸館事業に利用されることが増加していると考えられる。
- 2003年の開館以来の20年間の施設利用の累計利用者数は5,092,460人で、北九州市の人口（2023年3月1日時点の推計で920,070人）の5.5倍の人数規模となる。

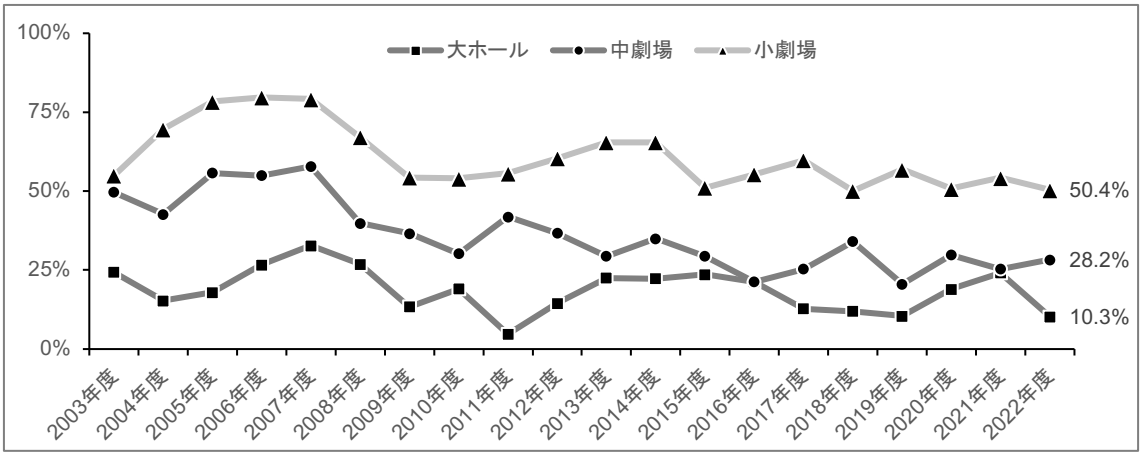
図表1-4 施設の利用件数

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	66	205	271	143	145	288	121	99	220	330	449	779
2004年度	87	482	569	242	325	567	404	176	580	733	983	1,716
2005年度	102	467	569	289	229	518	471	130	601	862	826	1,688
2006年度	139	382	521	298	244	542	573	146	719	1,010	772	1,782
2007年度	186	381	567	325	237	562	564	148	712	1,075	766	1,841
2008年度	134	365	499	217	327	544	462	226	688	813	918	1,731
2009年度	64	415	479	213	369	582	318	267	585	595	1,051	1,646
2010年度	104	441	545	159	367	526	316	269	585	579	1,077	1,656
2011年度	25	503	528	230	319	549	337	268	605	592	1,090	1,682
2012年度	80	470	550	197	340	537	368	241	609	645	1,051	1,696
2013年度	131	452	583	158	379	537	399	210	609	688	1,041	1,729
2014年度	110	383	493	175	325	500	359	189	548	644	897	1,541
2015年度	139	450	589	177	424	601	324	310	634	640	1,184	1,824
2016年度	120	443	563	99	366	465	359	289	648	578	1,098	1,676
2017年度	69	470	539	135	397	532	341	229	570	545	1,096	1,641
2018年度	59	435	494	159	307	466	259	258	517	477	1,000	1,477
2019年度	56	482	538	105	405	510	333	252	585	494	1,139	1,633
2020年度	35	150	185	74	174	248	131	127	258	240	451	691
2021年度	110	345	455	111	326	437	232	196	428	453	867	1,320
2022年度	51	445	496	137	348	485	245	241	486	433	1,034	1,467
累計	1,867	8,166	10,033	3,643	6,353	9,996	6,916	4,271	11,187	12,426	18,790	31,216

図表1-5 自主事業・貸館事業比率 ［件数ベース］



図表1-6 ホール別の自主事業比率 ［件数ベース］



(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の施設稼働率（利用対象日数に対する公演日数の割合）は、大ホールが68%、中劇場は65%、小劇場は66%となっており、3ホール合計では66%となっている（図表1-7）。コロナ禍の影響の大きい2020年度、2021年度に次いで少ない稼働率となっている。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2019年度の（一財）地域創造の悉皆調査結果（2020年5月発行のデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は73.9%）と比較して同程度の水準にある。
- 施設の稼働率について第1期から第3期までと、2022年度を含む第4期を比較すると、コロナ禍の影響が大きかった第4期は大ホール、中劇場、小劇場ともに平均の利用件数、利用者数、稼働率が第1期から第3期までの数値を下回った。

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の2022年度の事業費は約1億4千万円となっている。前年度（約1億3千万円）から増加したが、開館以降、2020年度、2021年度に次いで3番目に少ない事業費となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約2,700万円で全体の20%、市の補助金が約6,200万円で45%、文化庁と（一財）地域創造などによる外部資金が約4,900万円で36%となっている（図表1-8、図表1-9）。事業費の財源のうちチケット収入と外部資金で事業費の55%をカバーしている。
- 開館した2003年度の市の補助金は約1億1,200万円で、2022年度の補助金は、開館年度の補助金の55%の水準となっている。北九州市の市税収を見ると、2003年度は1,504億円、2022年度は1,780億円（いずれも当初予算）で開館年度の118%の水準となっている。
- 全国平均の試算値※と比較すると、2022年度の北九州芸術劇場のチケット収入の割合は全国平均を上回っている。また、北九州芸術劇場における2003～2022年度累計の市補助金の割合（33%）は、全国平均の試算値での「設置者からの収入」（63%）の2分の1に近い割合となっている。

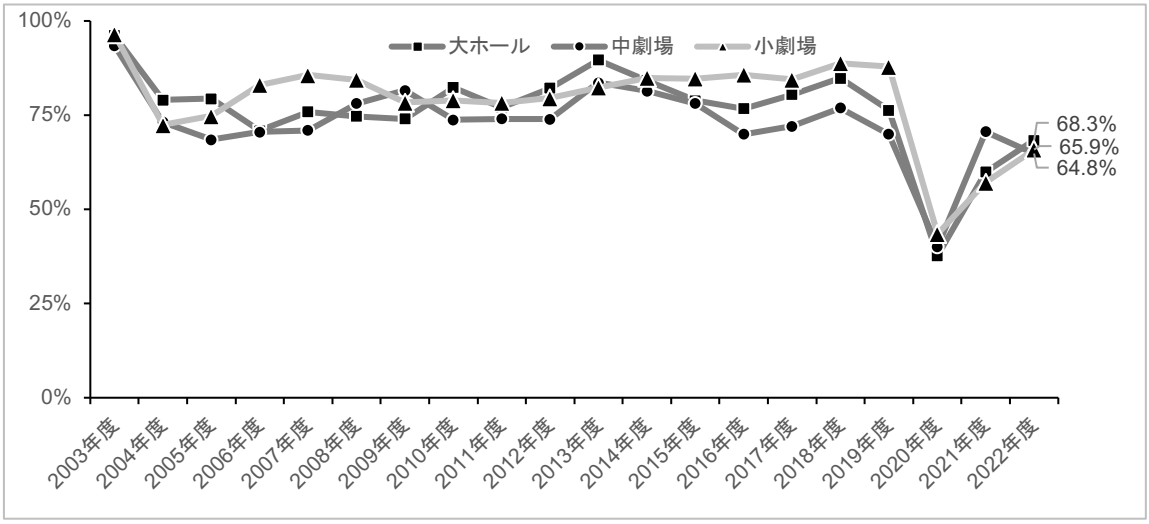
  ※（一財）地域創造の悉皆調査結果（2019 年度）から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの収入」が 63.0%、「事業収入」が 12.6%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が 3.5%である。

  ※指定管理施設の 2018 年度決算金額平均値の「収入」欄から、それぞれの内訳比率を算出したため、「設置者からの収入」には人件費や運営管理費の財源でもある指定管理料が含まれている。

(2) 事業収支

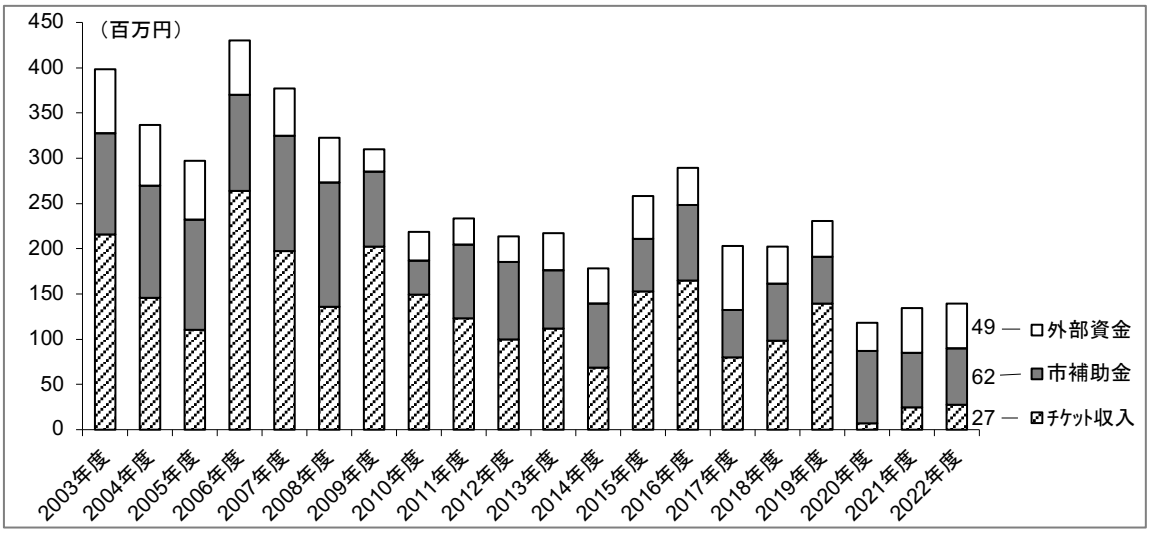
- 2022年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約3,286万円の減収、補助金等収入は約46万円の減収となっている。2022年度は事業収入と補助金等収入がともに減少した形になった。
- 2003年の開館以来の20年間の予算額と決算額の差異を見ると、事業収入の差異の累計は約2億900万円の増加、市補助金の差異の累計額は5億6,400万円の減少となっている。
- 開館以来、劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていることとともに、積極的な営業努力を行っていることがうかがえる。

図表1-7 北九州芸術劇場の稼働率

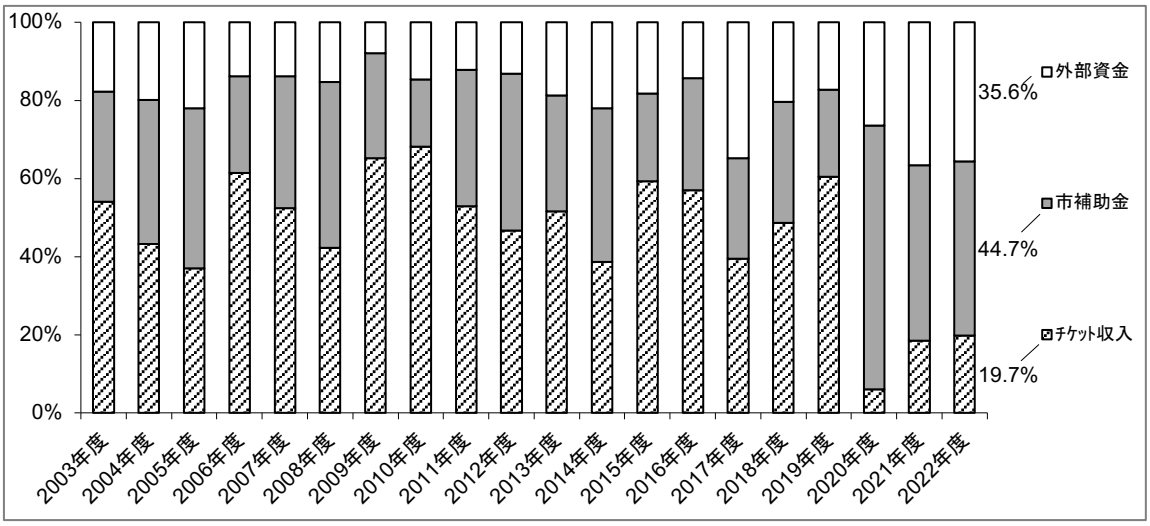


注）稼働率は「公演日数／利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

図表1-8 事業費の財源内訳



図表1-9 事業費の比率



第2章　観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、2022年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

1．観客調査の実施要領

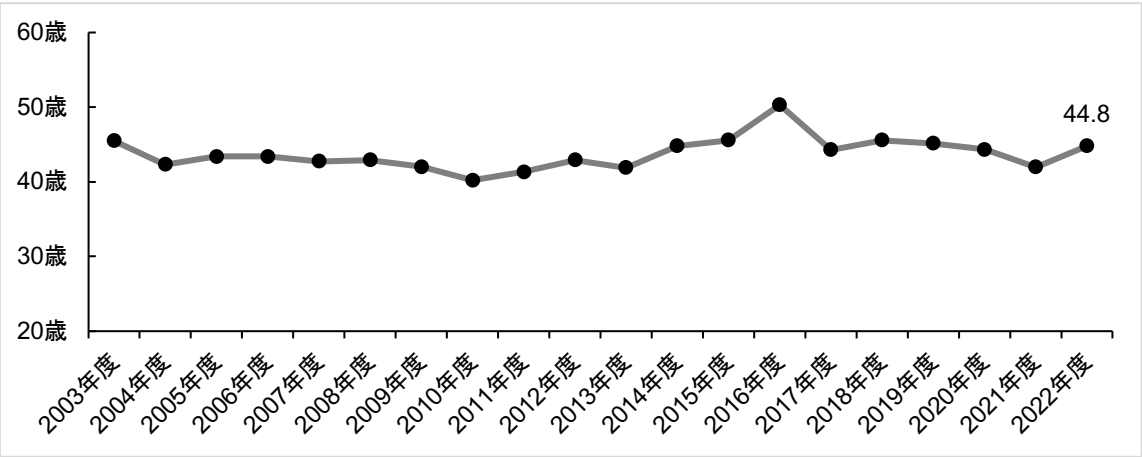
- 調査の対象：2022年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演　19公演
- 配布・回収方法：各公演の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期：2022年4月15日～2023年3月19日
- 有効回答数（回収率）：995、回収率：10.3%（配布数：9,639件）

2．観客調査の結果概要

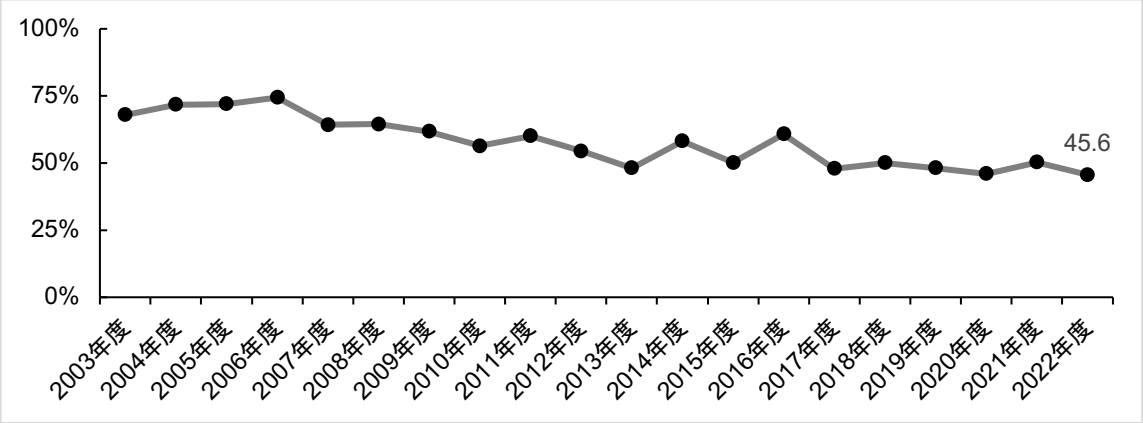
（1）観客（アンケート回答者）の属性

- 観客は、「男性」が27%、「女性」が73%と、「女性」の割合が高い。いずれのジャンルも男性に比べて女性の割合が高い。
- 平均年齢は44.8歳。年齢層に大きな偏りはなく、「50歳代」が29%と最も割合が高い。次いで「60歳以上」が20%、「40歳代」が18%、「18～29歳」が16%、「30歳代」が10%、「18歳未満」が7%と、幅広い年齢層の観客が来場している。
- 年齢層の割合の推移を見ると、2016年度が最も平均年齢が高く50.3歳となったが、それ以外は40歳代で推移している（図表2-1）。
- 居住地域は、北九州市及び周辺地域が46%（「北九州市」：38%、北九州市周辺：8%）を占めている（図表2-2）。福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は52%となっている。
- 観客の居住地域の経年推移を見ると、07年度以降は増減があるものの、北九州市と周辺以外のエリア（福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など）の割合が3割を超え、北九州市+周辺が減少する傾向にあった。
- 福岡県以外の九州をみると、大分県（23件）、熊本県（13件）、佐賀県（8件）、鹿児島県（4件）長崎県（4件）、宮崎県（3件）等の記載がある。九州・山口以外では、広島県（15件）、東京都（5件）、兵庫県（5件）、島根県（4件）、大阪府（3件）等の回答もある。

図表2-1　平均年齢



図表2-2　居住地域（北九州市+周辺の割合）



（2）北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

①来場公演のジャンル

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が83%である。アンケート配布公演19公演のうち15公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 2007年度までは「ミュージカル・商業演劇」の割合が大きかったが、07年度以降、若干の増減はあるが「小劇場・現代演劇」の割合が増加している。

②公演情報の入手経路

- 公演情報の入手経路は、全体では「ホームページ、情報誌Q」が26%、「友人・知人から聞いた」が23%、「出演者、公演関係者から聞いた」が17%、「他の公演会場で配布されたチラシ」が15%となっている（図表2-3）。
- 公演情報の入手経路を年齢別で見ると、「18歳未満」では「出演者、公演関係者から聞いた」、「18～29歳」と「30歳代」では「友人・知人から聞いた」、それ以外の年齢層では「ホームページ、情報誌Q」が最も高い。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が「11回以上」では「ホームページ、情報誌Q」の割合が44%と高い割合となっている。

③公演に来た理由

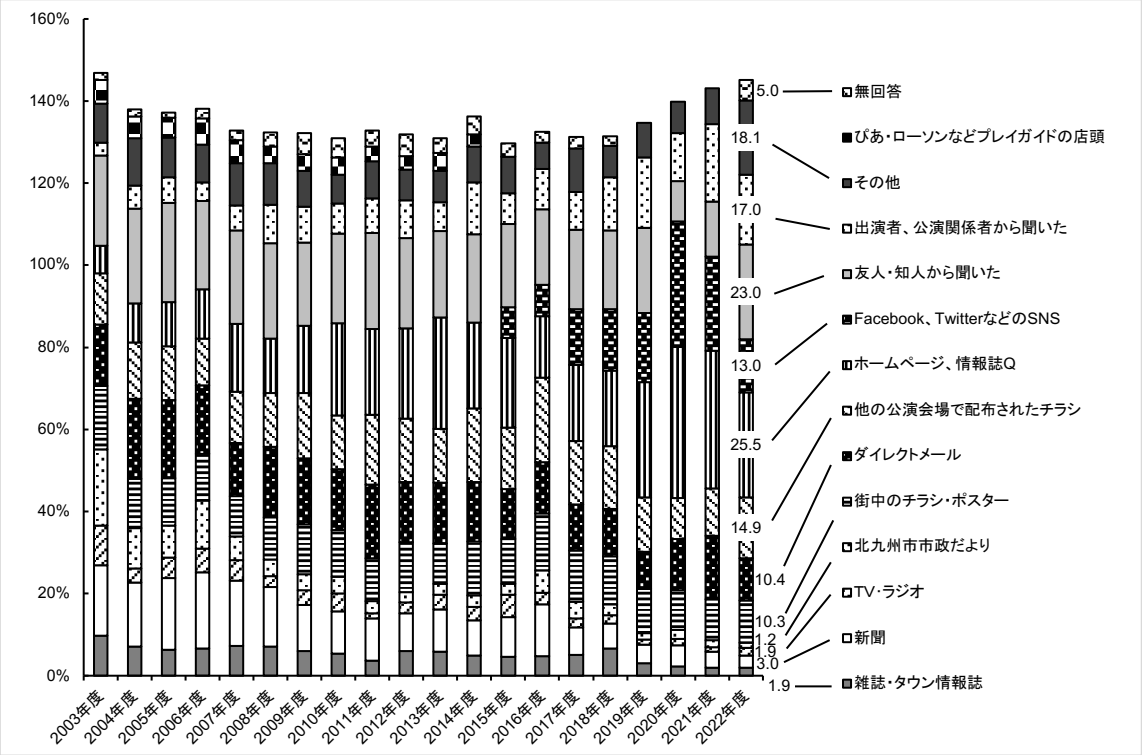
- 公演に来た理由については「出演者が好きだから」と「公演内容が面白そうだったから」が56%となっている（図表2-4）。「公演内容が面白そうだったから」が「出演者が好きだから」を上回ったのは2003年度、2014年度、2018年度、2021年度の4回となっている。
- 過去調査と比較して、2022年度は「公演内容が面白そうだったから」が過去最高の割合となった。また、例年は「北九州芸術劇場の催しものだから」の割合は1割を下回っていたが、20年度は16％、21年度と22年度は15%と1割を上回っているのが特徴的である。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験

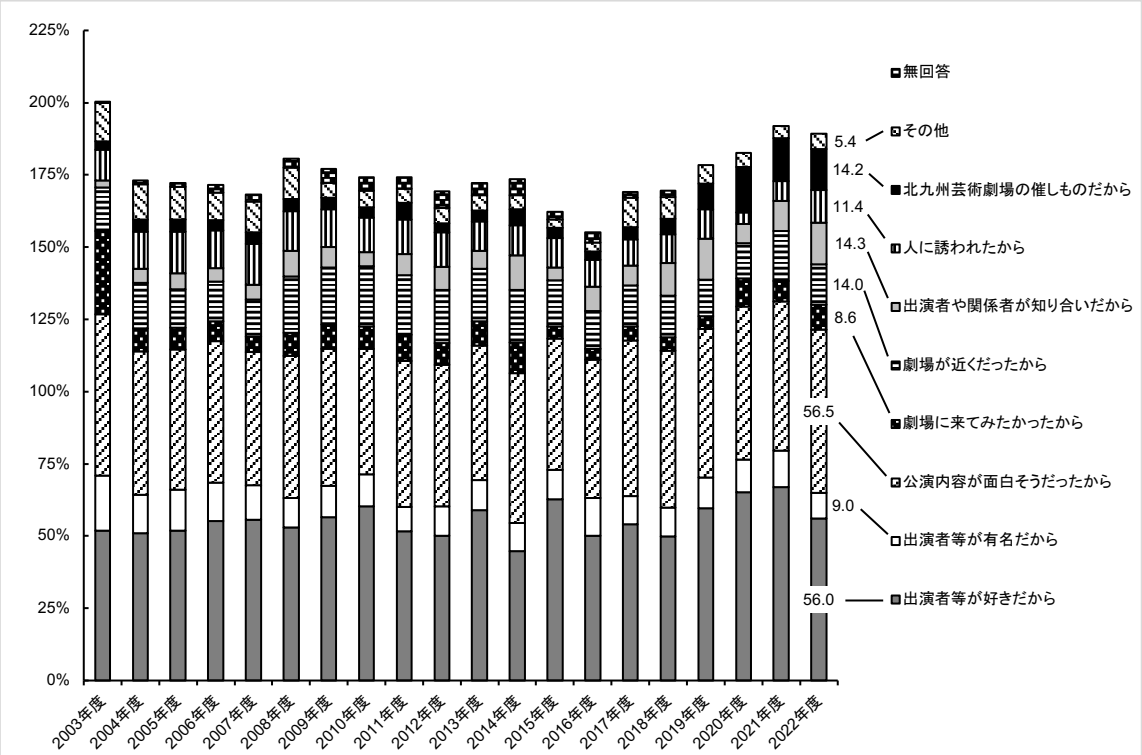
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「11回以上」が33%と最も高い。次いで、「今日が初めて」（19%）、「3～5回」（16%）、「6～10回」（12%）、「1～2回」（11%）となっており、「11回以上」が3分の1を超える割合となっている。
- 北九州芸術劇場の鑑賞経験が6回以上の割合の推移を見ると、08年度までの調査では増加傾向で08～09年度は30%を超えていたものの、10年度は29%と減少し、11年度以降は、6回以上の割合が30%から40%の間を増減している。2022年度の6回以上の割合は45%と過去最高だった前年度の52%から減少している。（図表2-5）。

- 年々劇場での鑑賞経験の多い観客が増えており、6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは年齢別では50歳代以上で、2022年度では50歳以上で6回以上の鑑賞経験者の割合は61%である。

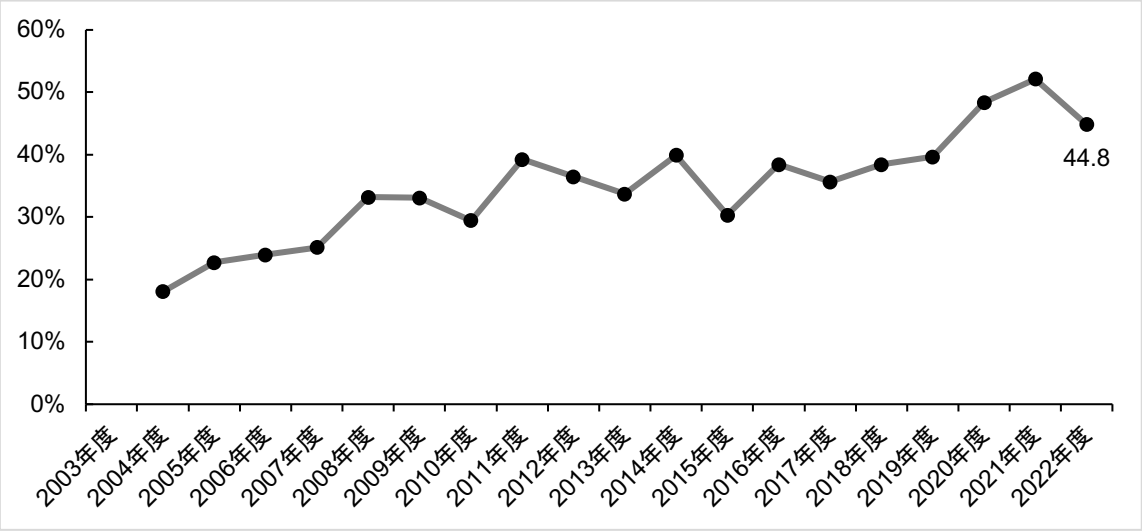
図表2-3　公演情報の入手経路



図表2-4　公演に来た理由



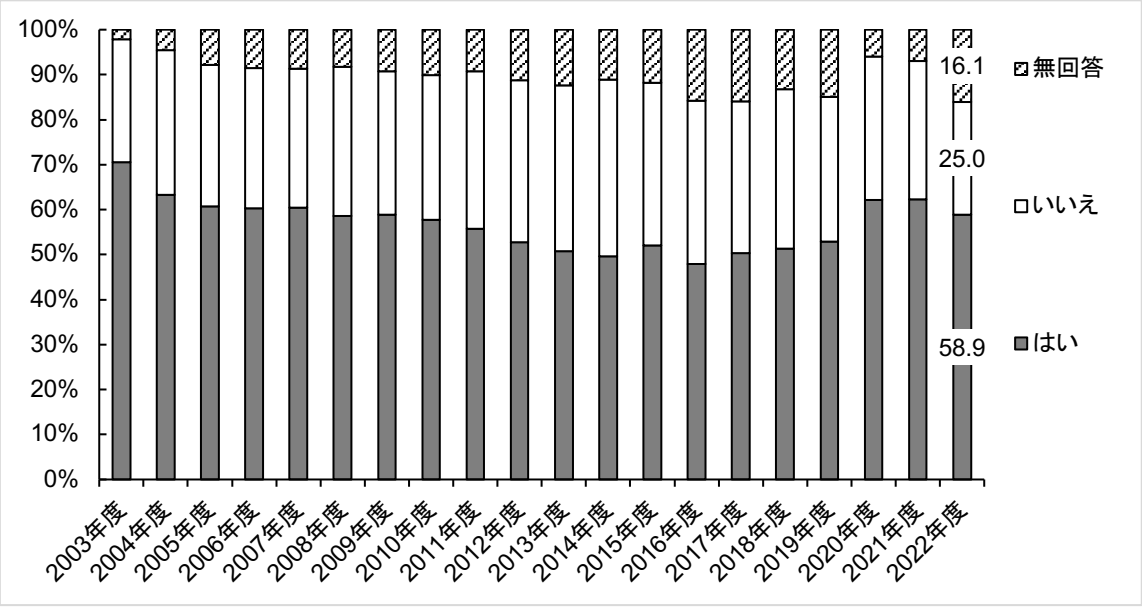
図表2-5　北九州芸術劇場での鑑賞経験（6回以上の割合）



⑤公演前後の飲食やショッピング

- 公演前後に飲食やショッピングをしている割合は59%である（図表2-6）。飲食をしている場合の平均金額は1,818.6円、ショッピングをしている場合の平均金額は2,760.3円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額とショッピング平均額がともに増加している。

- 図表2-6　公演前後の飲食・ショッピング

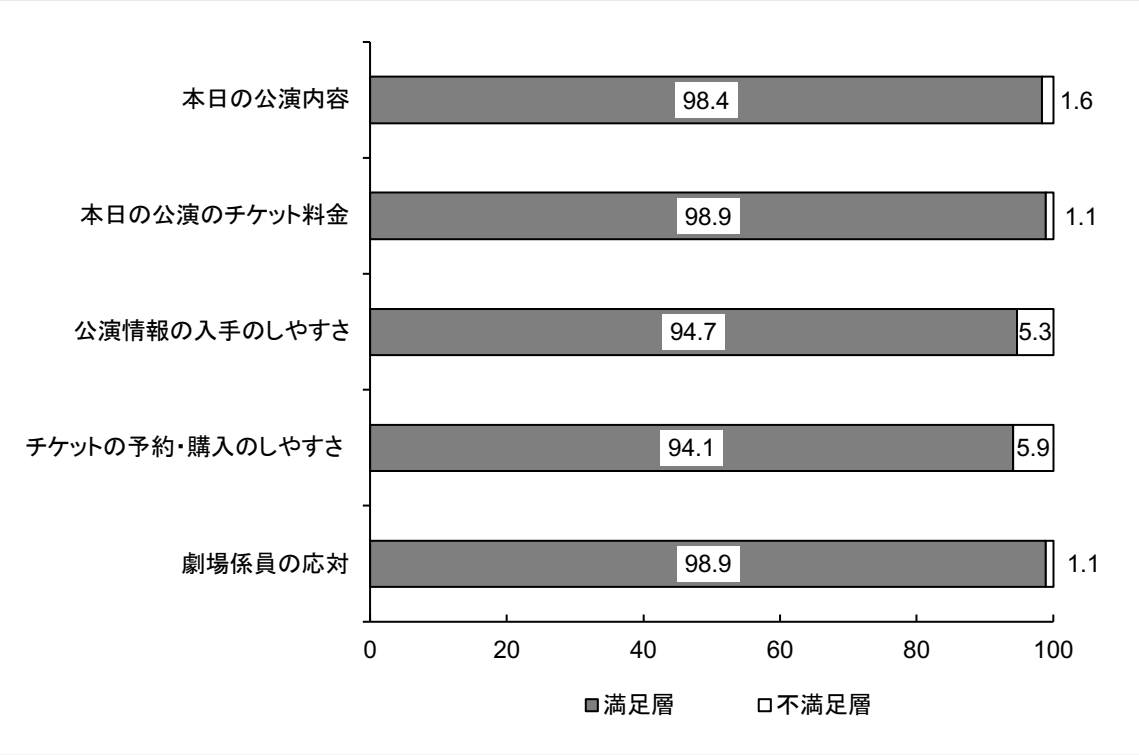


（3）公演や劇場に対する満足度

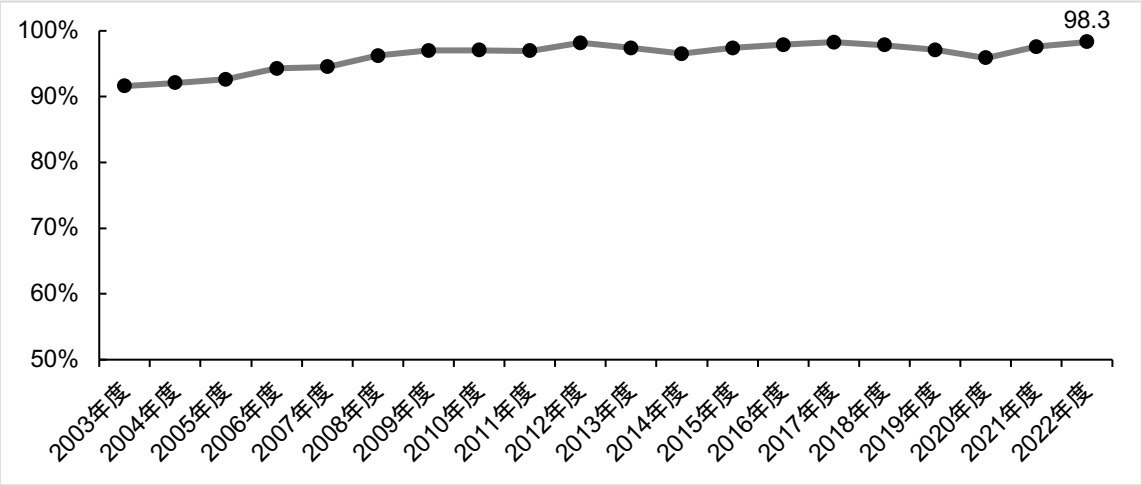
- 満足層の割合（「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く）が95%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「劇場係員の応対」の3項目である（図表2-7）。
- 「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」、「本日の公演のチケット料金」、「チケットの予約・購入のしやすさ」の4項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ78%、72%、67%、55%と高い評価となっている。
- 多くの4項目で、年齢層が高いほど「たいへん満足」の割合が低くなる傾向にある。

- 過去調査結果の満足層の推移を見ると、「本日の公演内容」は2003年度以降、「劇場係員の応対」は、2004年度以降は安定して高い評価を得ており、それ以外の項目でも、おおむね増加傾向となっている。
- 「公演内容」については、2003年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」も2005年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも関わっていると考えられる。
- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、増減しながらも満足度は向上し、2015年度の満足層の割合が前年度に比べて減少したが2016年度に再び向上した。
- 「劇場係員の応対」は開館当初から、満足層の割合が90%を超えており、そのまま高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は満足度の伸びが大きい。ホームページからのオンラインチケット購入が可能となった2011年度に90%まで伸び、2015年度は前年度から減少したが、2016年度は再び向上した。
- 2022年度は、「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「劇場係員の応対」の4項目で、開館以降で最高の割合となっている。
- 2022年度の劇場に対する総合的な意見（満足度）については、満足層が98%（「たいへん満足」＋「まあ満足」の割合。無回答は除く）である。過去調査結果の満足層の推移を見ると、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、22年度は開館以降で最高の割合となっている。（図表2-8）

図表2-7　公演や劇場に対する満足層と不満足層の割合（無回答を除く）



図表2-8　総合的な満足度



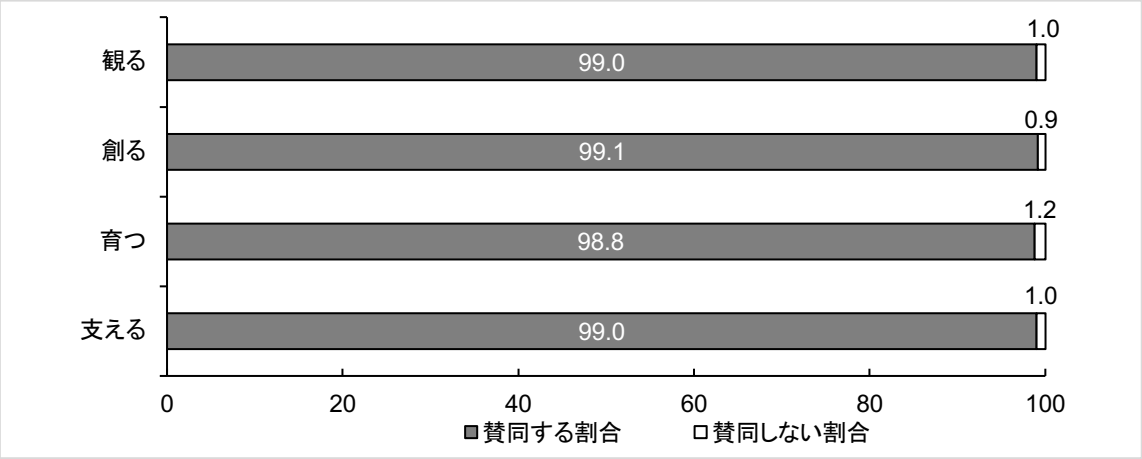
（4）劇場の運営方針について

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」（※）については、いずれも、賛同者の割合（「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く）は95%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は100%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も77%と高い割合を占める（図表2-10）。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わり、16年度からアンケート調査に含めている。

- 「創る」、「育つ」、「支える」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」がいずれも過半の割合を占めている。
- 年齢層別に見ると、「創る」、「育つ」では「18歳未満」が他の年代に比べて最も「ぜひやってほしい」への割合が高い。
- 2022年度は「創る」と「支える」の賛同の割合が過去最高となっている。

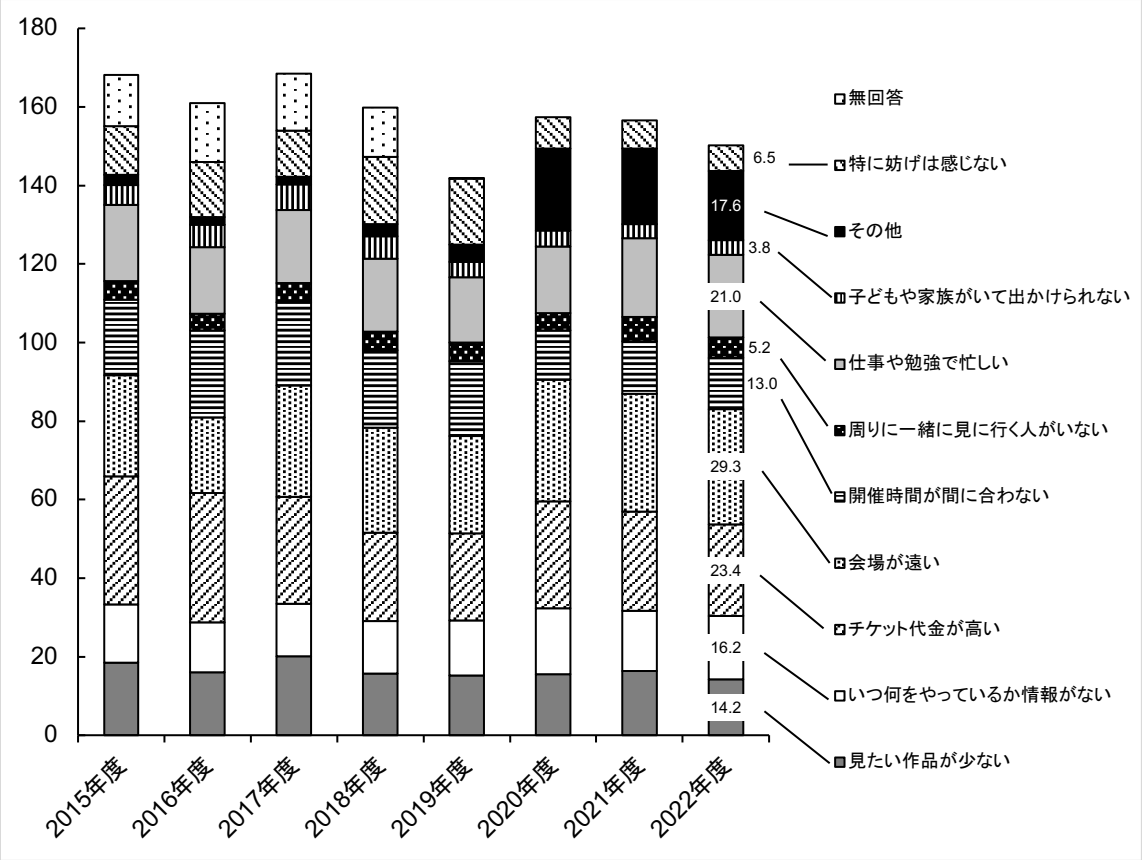
図表2-9　運営方針への賛同する割合と賛同しない割合



（5）来場の妨げになっていること

- 来場の妨げになっていることは、「会場が遠い」（29%）、「チケット代金が高い」（23%）、「仕事や勉強で忙しい」（21%）、「その他（18%）、「いつ何をやっているか情報がない」（16%）となっている。（図表2-11）。「その他」の自由記述では「新型コロナウイルスの感染不安」という意見が多数となっている。

図表2-11　来場の妨げになっていること



第3章　貸館利用者からみた評価

1．利用者調査の実施要領

- 調査の対象：2022年度の貸館利用者（団体）
- 配布・回収方法：利用当日に配布、回収（後日ファックス、郵送での回収も受付）
- 配布件数：260件
- 有効回答数（回収率）：194件（74.6%）

2．利用者調査の結果概要

（1）劇場の使いごこちに関する総合的な満足度

- 劇場の使いごこちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が90%、「まあ満足している」が10%である。劇場利用者の満足度は大変高い。
- 2010年度以降の経年変化でみると、2022年度は貸館の利用者調査を開始した2010年度以降で、「とても満足している」回答が2020年度と同率で最も高い割合となっている。（図表3-1）。

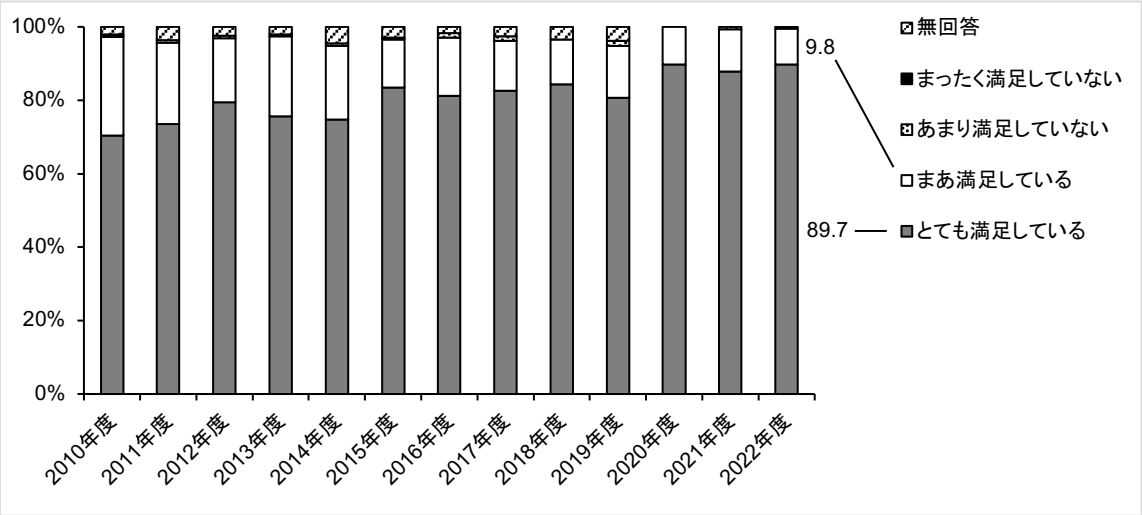
（2）施設に関する意見

- 施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価（「はい」+「どちらかといえば『はい』」）の割合は、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」が100.0%で、すべての項目が96%以上となっている。
- 「はい」の割合をみると、「搬入・搬出がやりやすい」と「舞台裏の施設・設備が使いやすい」以外の5項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い（図表3-2）。
- 2010年以降の経年変化を見ると、「館内が清潔」は「はい」の回答は常に高い割合（97%以上）を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」だが、2017年度以降は80%を超えている。
  ※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側（リバーウォーク北九州）と協議・調整する等の対策を講じている。

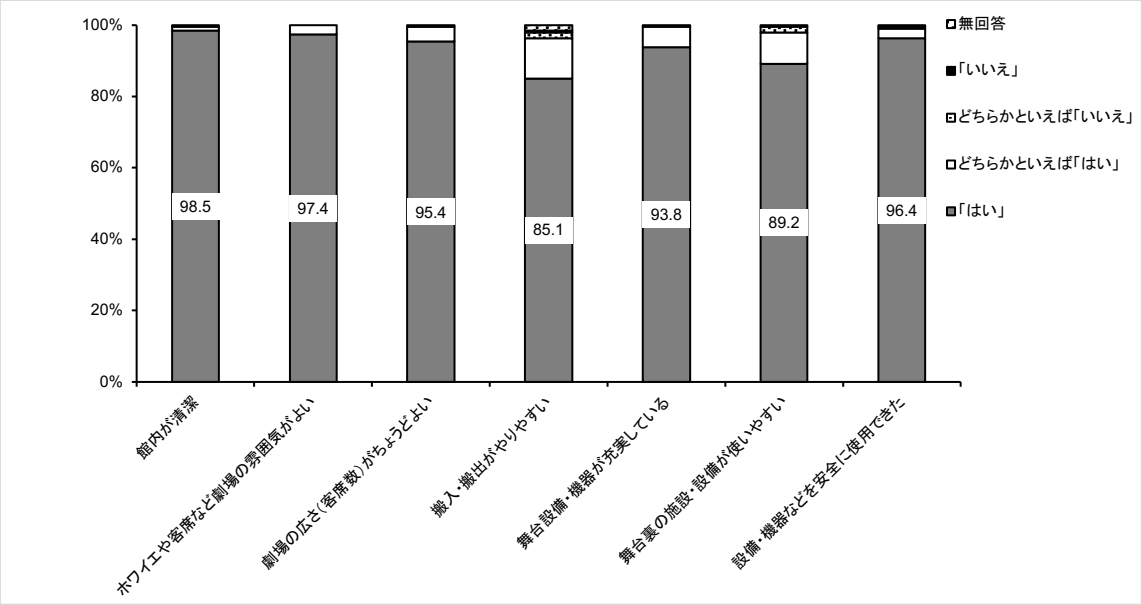
（3）運営や応対に関する意見

- 劇場の運営や応対に関する11項目についての意見をみると、肯定的な評価（「はい」+「どちらかといえば『はい』」）の割合は、すべての項目で95%以上となっており、「事前打ち合わせが円滑」、「事務スタッフの応対がよい」、「施設の利用に関する説明が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」の項目で100.0%となっている。
- 「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「はい」（80%）の回答が少なくなっている。（図表3-3）。
- 経年変化を見ると、「事務スタッフの応対がよい」、「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの応対がよい」は「はい」の回答が2010年度以降90%を超えており常に高い割合を維持している。

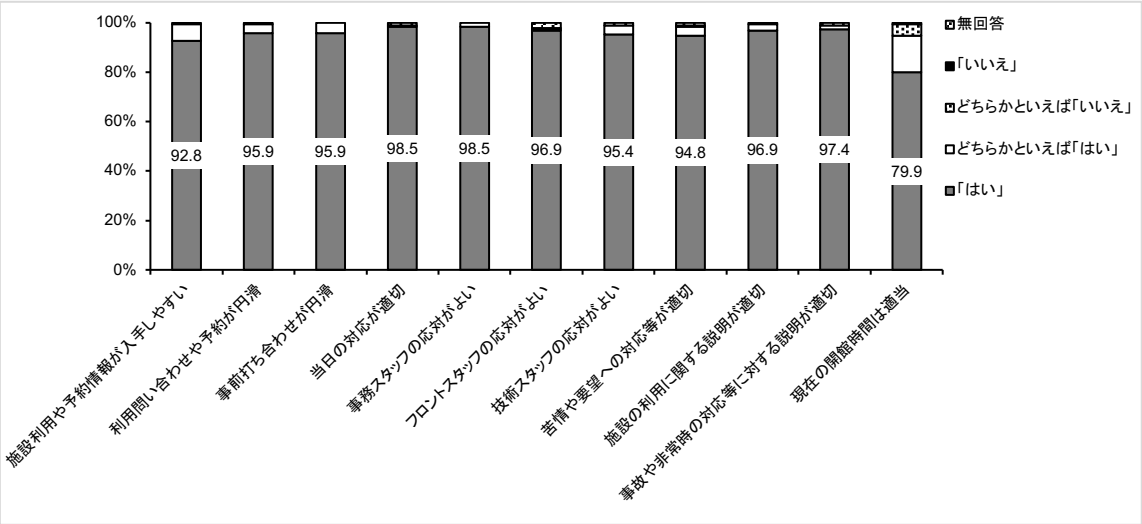
図表3-1　使いごこちに関する総合的な意見



図表3-2　施設（ハード）に関する意見



図表3-3　運営や応対（ソフト）に関する意見



（4）今後の利用の意向

- 今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が94%、「どちらかといえば『はい』」が5%となっており、今後の利用の意向のある回答（「はい」＋「どちらかといえば『はい』」）は99%となっている。
- 2010年度以降の経年変化でみると、2015年度の92%から2018年度の97%まで「はい」の回答が向上したが、2019年度にやや減少した後は再び増加し、2022年度は前年度からやや減少している。（図表3-4）。今後の利用意向の高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものであると考えられる。

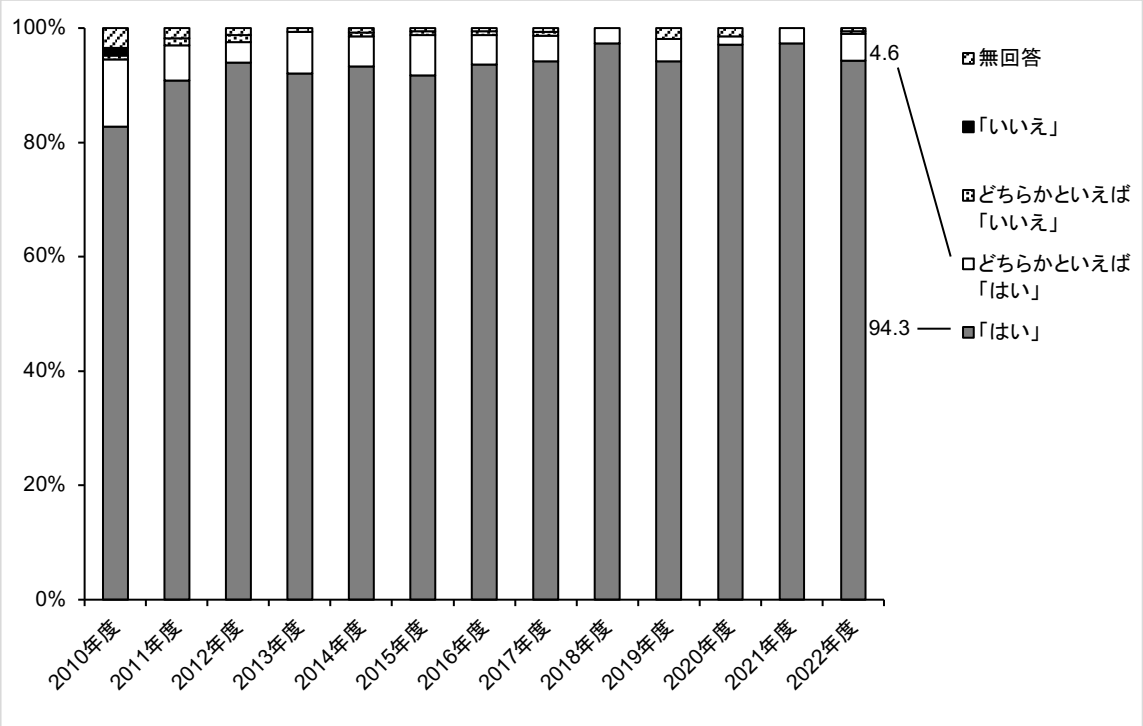
（5）利用の際、重視すること

- 施設を利用する際重視することとして回答が多いのは、「立地がよいこと」（92%）、「ホールの規模が適切」（81%）となっている。次いで、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「舞台設備・機器が充実」、「利用料金が安い」が50%以上となっている。
- 施設を利用する際に最も重視することは「立地が良いこと」が34%で最も高く、次いで「ホールの規模が適切」（24%）、「分野に適したホール特性」（20%）と続いている。
- 2番目に重視することは、「ホールの規模が適切」（23%）が最も多く、次いで「立地がよいこと」（20%）となっている（図表3-5）。

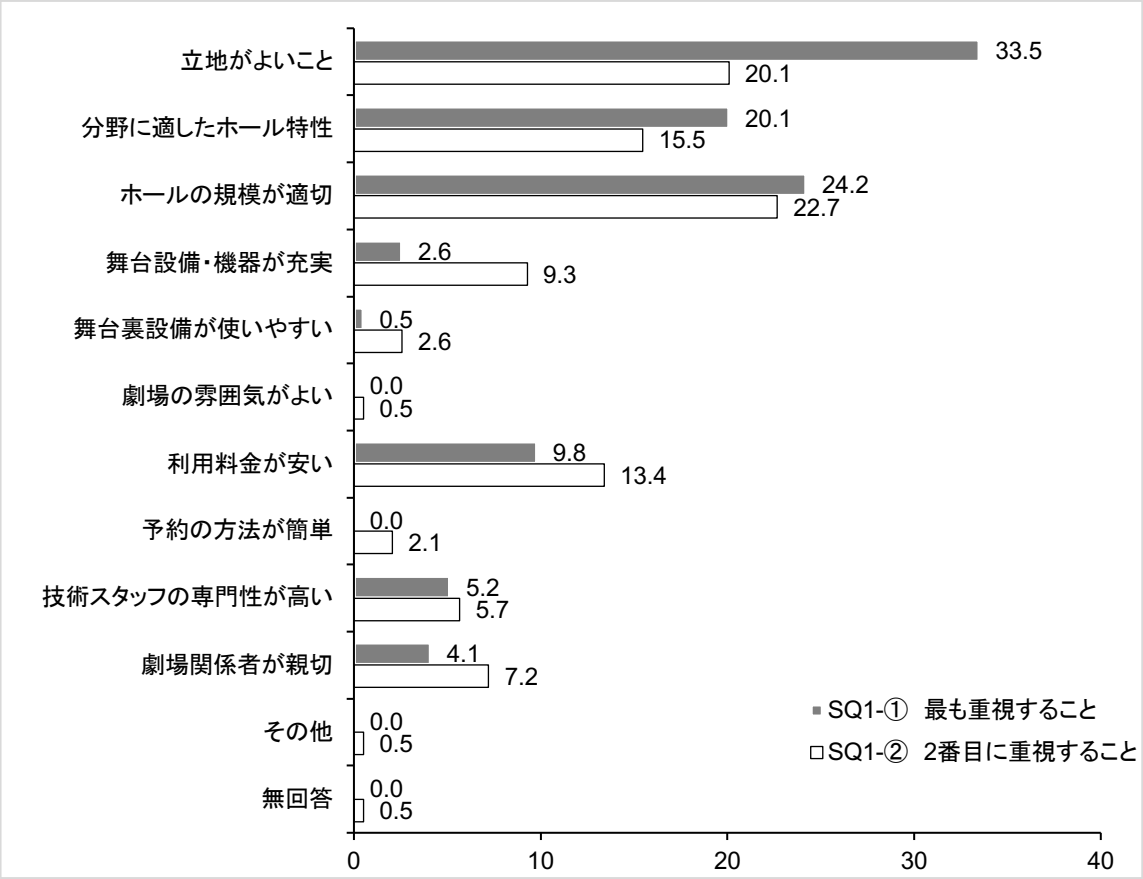
（6）利用のきっかけ

- 劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、69%を占めている。劇場への満足度が高くリピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」（21%） となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっている（図表3-6）。

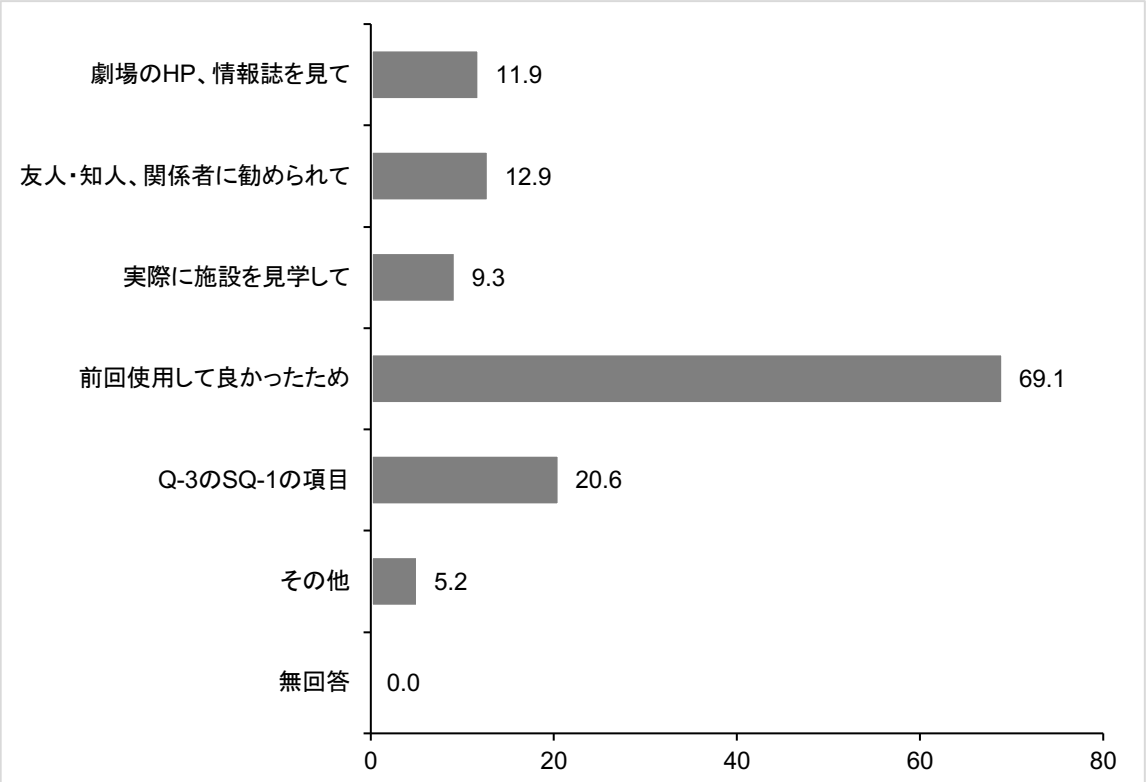
図表3-4　今後の利用の意向



図表3-5　利用の際、重視すること（最も重視すること／2番目に重視すること）



図表3-6　利用のきっかけ



第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1．経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要（直接的経済効果）、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

2022年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出（最終需要）は、
  ①劇場の管理運営に関する支出
  ②劇場の主催事業に関する支出
  ③劇場の主催事業の観客の消費支出
  ④貸館事業の主催者の事業支出
  ⑤貸館事業の観客の消費支出
  の5つに分類することができる（図表4-1）。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演当たりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。なお、本文中および図表に表記されている個別の項目の数値は100万円未満を四捨五入しているため、小計、合計、誘発係数には四捨五入による誤差が生じている箇所がある。
- ①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億5,900万円、1億3,900万円、1億3,300万円、合計で9億3,100万円となっている。そのうち、77%にあたる約9億2,900万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が8億8,000万円、②が2億1,000万円、③が2億円、合計で12億9,100万円である。そのうち、72%にあたる9億2,900万円が北九州市内での

経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.39、北九州市内で1.29である。

- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果（北九州市内のみ）は、約3億5,400万円～3億9,700万円、生産誘発係数は1.30である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約15億5,000万円～15億9,200万円で生産誘発係数は1.36、北九州市内に限ってみると、約4億8,900万円～5億4,400万円で生産誘発係数は1.30となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数（労働量）では130～136人、雇用者数（有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む）では116～121人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億5,900万円 （5億8,600万円）	8億8,000万円 （7億5,800万円）	1.34 （1.29）
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費（交通費、宿泊費、食費、制作雑費）、宣伝費、記録費、予備費	1億3,900万円 （6,200万円）	2億1,000万円 （8,000万円）	1.51 （1.30）
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億3,300万円 （7,000万円）	2億円 （9,100万円）	1.51 （1.29）
	小計	9億3,100万円 （7億1,800万円）	12億9,100万円 （9億2,900万円）	1.39 （1.29）
貸館事業（参考値）	④貸館事業（貸館主催者の支出） 出演料、製作費、その他	8,500万円 ～1億2,700万円	1億900万円 ～1億6,300万円	1.28
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	2億9,200万円	3億8,100万円	1.30
	小計（参考値）	3億7,700万円 ～4億1,900万円	4億8,900万円 ～5億4,400万円	1.30
	合計（参考値）	13億800万円 ～13億5,000万円 （10億9,500万円 ～11億3,700万円）	17億8,000万円 ～18億3,400万円 （14億1,800万円 ～14億7,200万円）	1.36 （1.30）
		雇用効果 （北九州市内）	130～136人（就業者ベース） 116～121人（雇用者ベース）	

注）下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と合わない箇所がある。

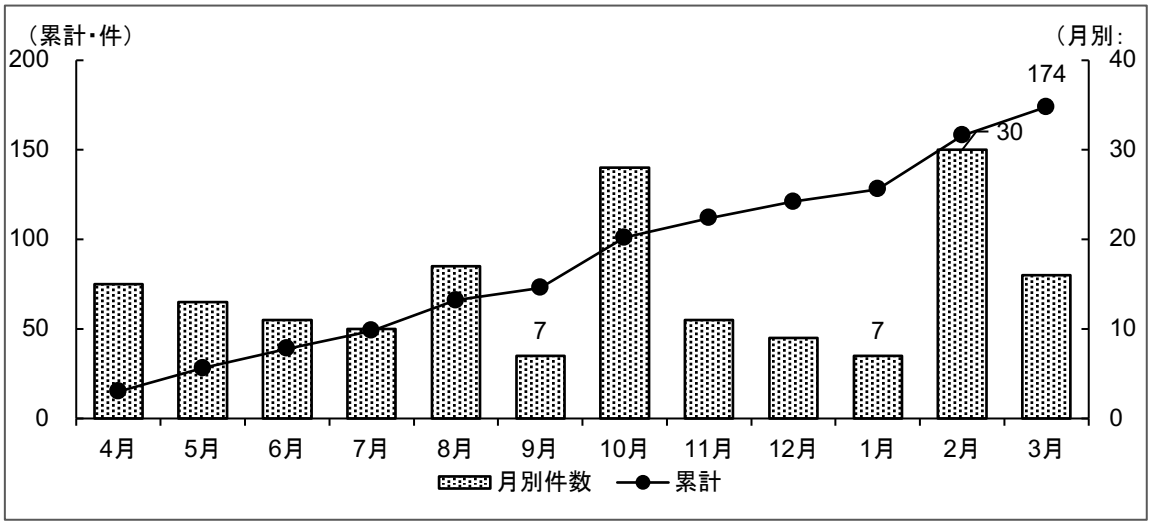
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、2003年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、2022年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

(1)「北九州芸術劇場」をキーワードとした2022年度の掲載記事の件数と内容

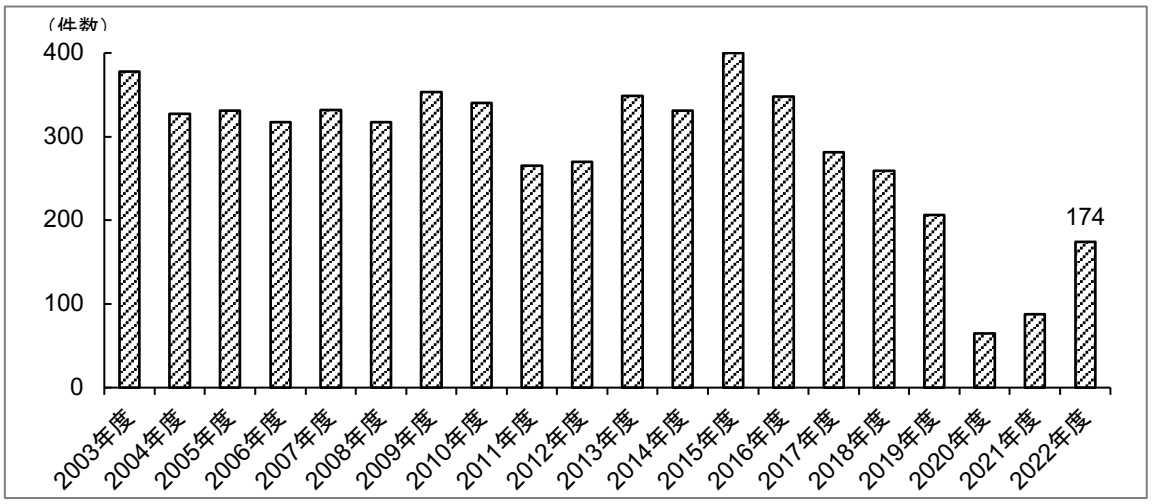
- 2022年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は174件である(図表4-2)。
- 2003年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。2004年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。2011年度に過去最少の掲載件数となったが、その要因は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられる。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、掲載件数は開館以降で最も少ない件数となっている(図表4-3)。
- 新聞別に見ると、2022年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(58件)、次いで、毎日新聞(50件)、朝日新聞と読売新聞(24件)、その他の新聞は17件となっている(図表4-4)。
- これら記事を、
  ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
  ② 北九州芸術劇場のＰＲキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
  ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
  ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事（会場名が「北九州芸術劇場」）
  ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベント情報（会場名が「北九州芸術劇場」）
  の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、141件であった(2021年度:67件)。
- その内容を「主催/提携・協力事業」「学芸事業」「貸館事業」「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、43件、0件、78件、20件であった(図表4-5)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計

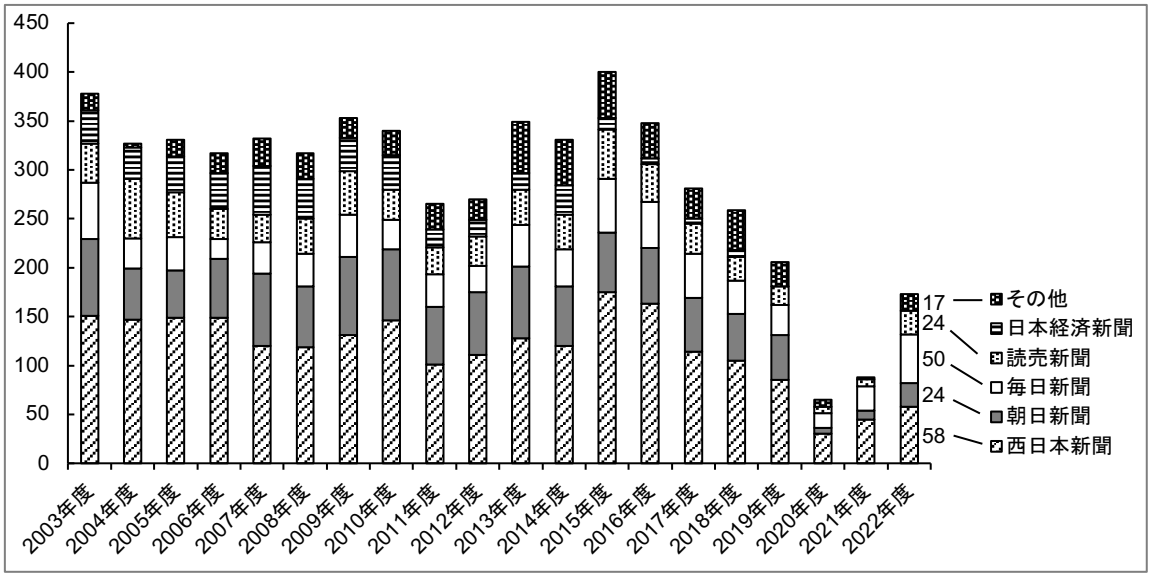


資料)「日経テレコン」記事検索の結果より作成(図表4-3, 4-4も同様)

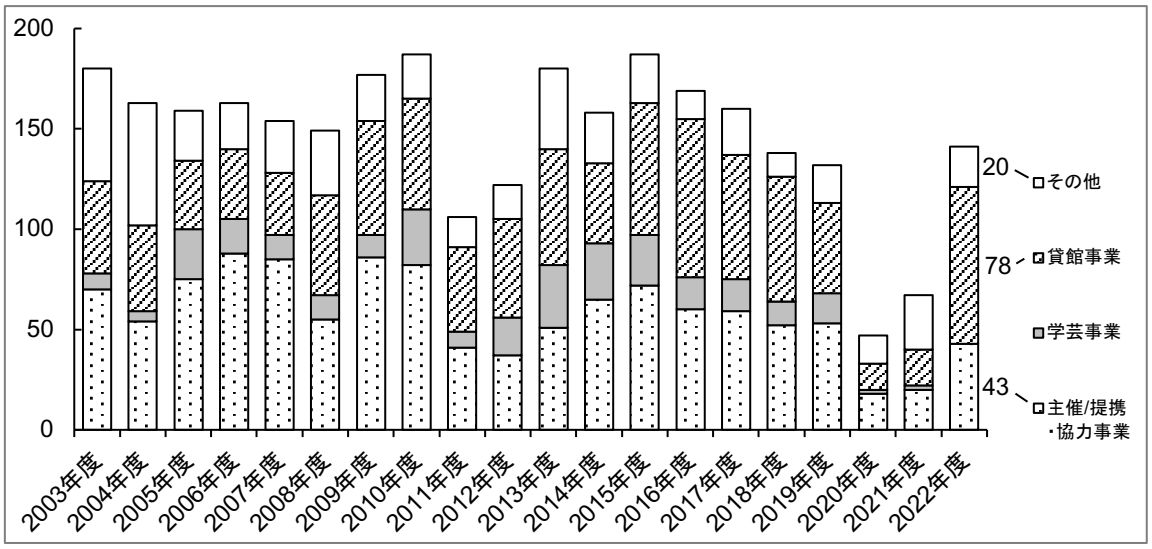
図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数



図表4-4 新聞別件数



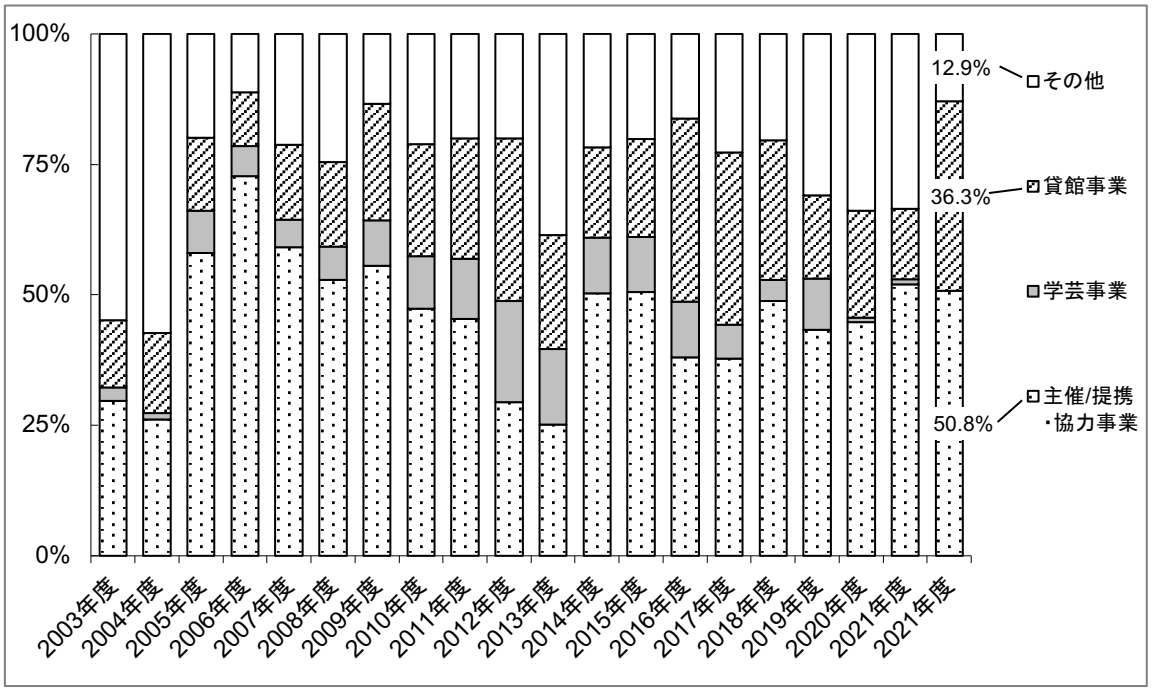
図表4-5 新聞掲載記事の内容と件数



(2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら141件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億4,650万円という結果となっている(2021年度:約8,300万円)。
- 2003年度は開館、2004年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 2005年度は全国展開型の創造事業の公演数が多く、2006年度は朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙の掲載件数が多かった。広告の単価は全国紙で高いため、2005年度と2006年度は全体の掲載件数は突出して多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。
- 2007年度以降は、コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになっている。2022年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約6,200万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模を上回る成果を生み出していると言える。
- 事業ごとの掲載割合を金額換算ベースで見た場合、2009年度の時点で過半数の割合だった主催/提携・協力事業の割合が年々減少し、学芸事業、貸館事業、その他事業の割合が年々増加してきたが、2014年度は主催/提携・協力事業の割合が2013年度に比べて大幅に増加した(図表4-6)。

図表4-6 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース]



※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

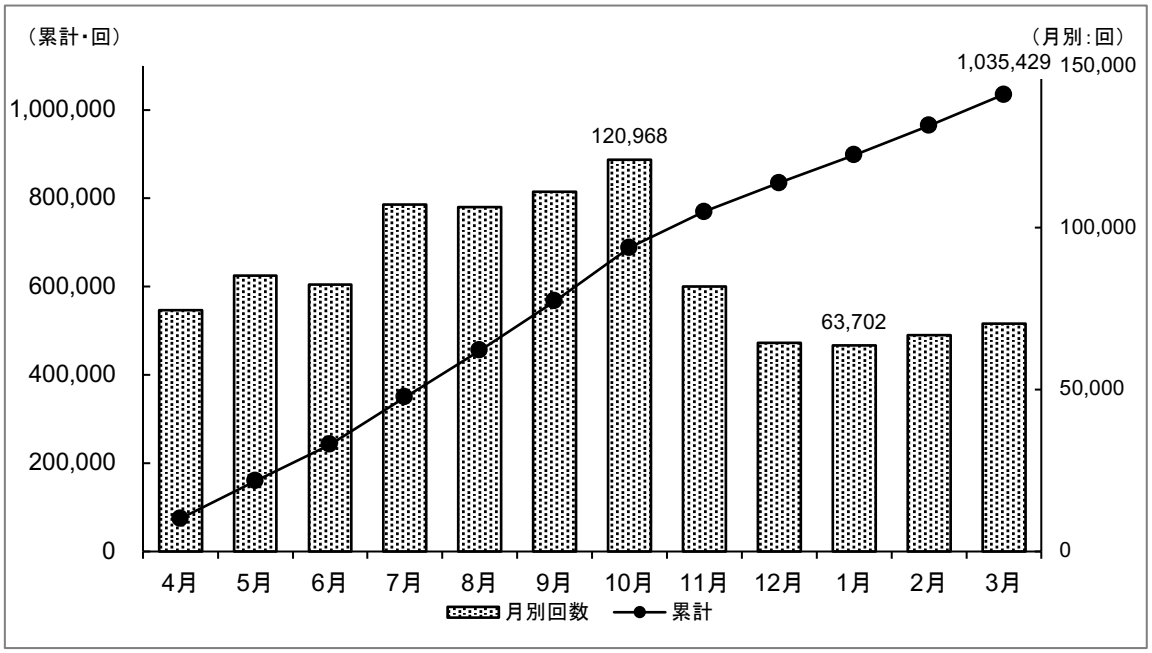
(3) ホームページ、SNS によるパブリシティ効果

- 新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果に加えて、2019年度からはホームページやSNSによるパブリシティ効果についても測定を行うこととした。
- 2022年度の北九州芸術劇場のホームページへのアクセス件数は累計で1,035,429件となっている。10月のアクセス件数が120,968回で最も多く、1月が63,702回で最も少なくなっている(図表4-7)。月平均では86,286回となっている。
- 2008年度以降の北九州芸術劇場のホームページのアクセス件数の推移を見ると、2012年

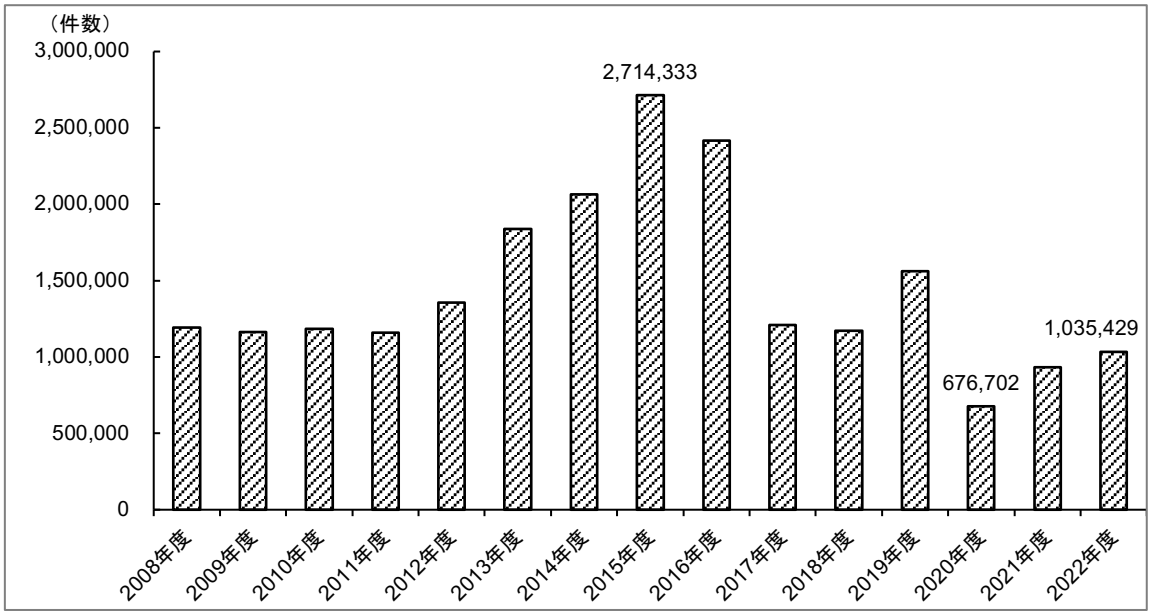
度から2015年度にかけてアクセスが増加し、最も多いアクセス件数があったのは2015年度の2,714,333件で月平均では約22万6千件のアクセスがあった。2017年度には前年度に比べてアクセス件数が1,208,504件に大幅に減少したものの、2019年度は1,560,639件まで増加している。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、アクセス件数、月平均件数ともに過去最少となり、2021年度のアクセス件数は前年度比で37.6%増加した（図表4-8）。

- 2023年3月31日現在のTwitterのフォロワー数は8,020人で、2022年度の北九州芸術劇場のTwitterのインプレッション数（投稿が他のTwitterのアカウントを持つユーザーに表示された回数）は累計で3,658,499件となっている。1月のインプレッション数が479,061件で最も多く、11月が195,113件で最も少なくなっている。（図表4-9）。月平均では304,871件となっている。

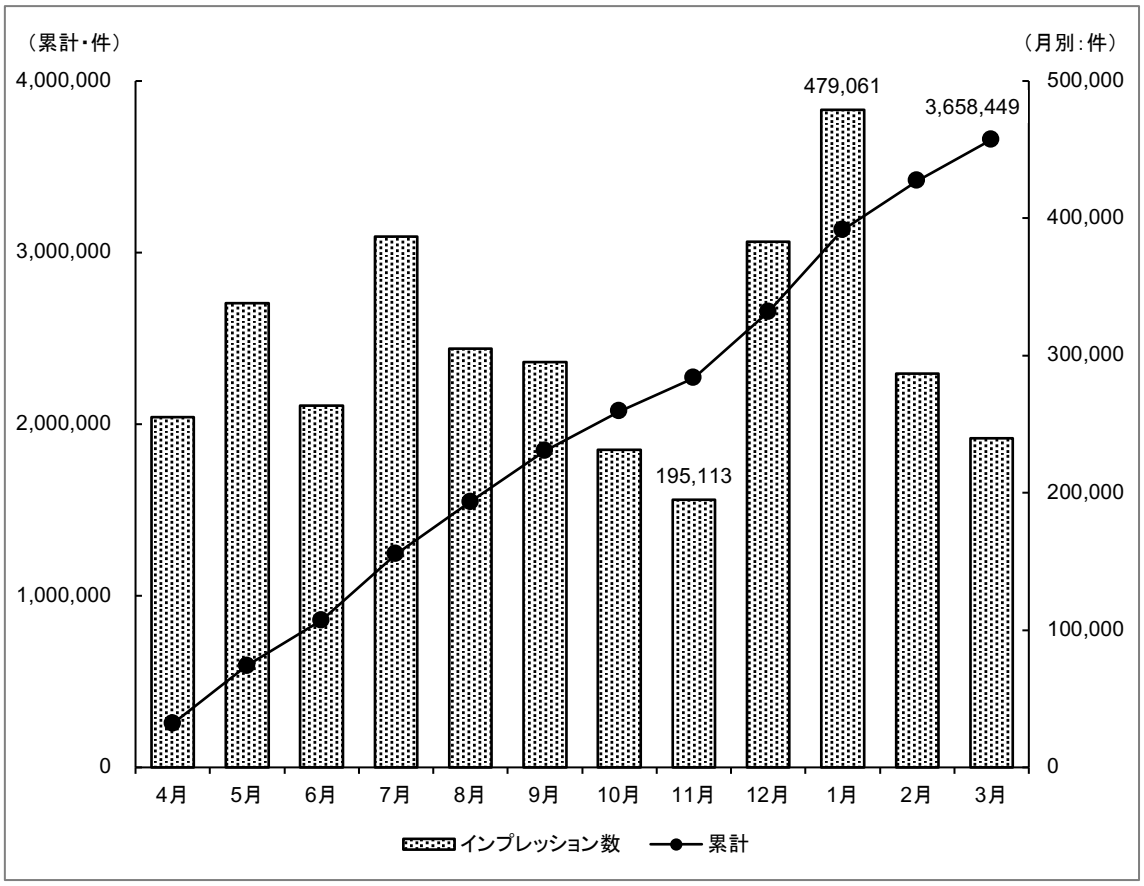
図表4-7 ホームページの月ごとのアクセス件数と累計



図表4-8 年度ごとのホームページアクセス件数の推移



図表4-9 Twitter の月ごとのインプレッション数と累計



第5章　評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、2003年度から2022年度までの20ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。2007年度までは、初年度（2003年度）の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、2008年度に、（一財）地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」（2007年3月）の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

1．評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目（戦略目標）を設定、さらに評価中項目（戦略）とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表5-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表5-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム（評価軸と評価大項目）

戦略・評価軸		No	評価大項目
A	劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
		A-1	鑑賞系事業
		A-2	創造系事業
		A-3	普及系事業①：主に劇場内で実施するワークショップや講座など
		A-4	普及系事業②：アウトリーチ（学校、福祉施設等との連携など）
		A-5	市民文化活動支援（市民参加型事業、アマチュア支援など）
		A-6	地域への貢献①（地域経済への波及効果など）
		A-7	地域への貢献②（地域アピール、ブランド力のアップなど）
		A-8	広域施設としての役割発揮
B	管理運営	B-1	場の提供・支援（貸館）
		B-2	施設のホスピタリティ・サービス
		B-3	施設の維持管理
C	経営	C-1	経営体制
		C-2	リサーチ＆マーケティング
		C-3	経営努力

- 2022年度は、上記図表5-1の基本フレームに基づいて、2003年度から2022年度の20ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

2．評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション　ー「創る」「育つ」「観る」「支える」

①劇場の運営方針（ミッション）の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。開館10周年の節目を経過し、新たな一歩を踏み出すため、4つめのキーワードとして、2014年度から「支える」が加わった。
- 2014年度から、4つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業、市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を展開し、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 2010年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。
- 2016年度に実施したグループインタビューでは「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わり」をテーマに設定したところ、教育や福祉といった分野の団体は、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果であるという見方が多く、地域経済の担い手である企業は、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。

②劇場の運営方針を支持する市民の割合（市民の支持率）

- 観客の運営方針への支持率※は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の2003年度から継続して90%を超えている。

※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

③劇場の来場者（利用者）数

- 北九州芸術劇場への年間来場者（利用者）数は、2005年度以降、毎年27～28万人で推移し、2018年度と2019年度は約26万人となり、2021年度は2020年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により、約13万6千人と、前年度に次いで少ない利用者数となった。この20年間で利用者数は延べ509万人を超えた。2023年3月1日現在の北九州市の人口（推計値）は約92万であり、すでに人口の5.5倍以上の利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇術劇場を地域になくてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

A-1 鑑賞系事業 ［観る］

［観る］：観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテイメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 2022年度も、「観る」（鑑賞事業）では、中劇場を中心として小劇場系現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

②年間延べ観客数

- 2022年度では、新型コロナウイルスの影響で中止になった事業は1件で、その他に台風や大雪の影響で変更になった事業があった。公演事業については、11事業で22回の公演が行われた。入場者数は6,416人、公演事業全体の入場率は87%となっている。
- 2022年度の創造事業、提携・協力事業も含めた鑑賞系事業全体では、25事業、公演回数は86回。入場者数は18,762人、入場率は87%となっている。

③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演（主催／提携・協力事業）に対する観客の満足度をみると、開館年度（2003年度）から継続して「（本日の）公演内容」への満足度の高さが顕著である。2022年度も満足層の割合※は98%で、無回答を除いた「たいへん満足」の割合が78%と、観客からの高い評価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「（本日の）公演のチケット料金」も満足層の割合は98%であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。

④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 2009年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 2009年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

A-2 創造系事業 ［創る］

［創る］：北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 2022年度も、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。入場率では、モノレール公演「きみをさがして」が94%、北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re：北九州の記憶～」北九州公演が89%となっている。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。

②年間延べ観客数

- 2022年度、「創る」では、4事業で25回の公演・ワークショップが行われ、入場者数は1,902人、入場率は平均で75%となっている。

③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 2010年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源の

データベースが必要だとの意見も出された。

- 2009年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

A-3　普及系事業①：主に劇場内で実施するワークショップや講座など

［育つ］：アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワークづくり等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、普及系事業を継続的に実施している。2022年度は、「キタQアーティストふれあいプログラム」として、演劇・ダンス分野から地元や国内外で活躍するアーティストを招いて行うアウトリーチなど、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。
- 「高校生〔的〕シアター」や「子どもの劇場体験2022～職場体験編」など、将来を担う子どもたちを対象にした人材育成・教育普及事業に継続的に取り組んでいる。

②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 2022年度の主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は60回、参加延人数は794人。

③講座・ワークショップ参加者の満足度

- 2015年度に実施したワークショップ参加者を対象としたアンケート調査によると、講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高く、参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度は94%（うち「たいへん満足」は64%）となっている。
- 「たいへん満足」の割合の高い項目は、劇場係員の対応（78%）、講座・ワークショップの講師（74%）、内容（66%）となっている。

④参加者が事業から得たもの（事業の効果）

- 2015年度に実施したワークショップ参加者を対象としたグループインタビュー調査によると、ワークショップに参加したことが、表現の技術や活動をさらに向上させたり、活動の展開を広げたりするきっかけや意欲を持つことにつながっている。
- さらに、自分自身の価値観や生き方が大きく変わったり、参加者相互が家族のようにつながったりするような、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。

A-4　普及系事業②：アウトリーチ（学校、福祉施設等との連携など）

①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 2017年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園！？」等を行った。
- 市内の小・中学校で芸術体験プログラムを実施する「キタQアーティストふれあいプログラム」のほか、「ひとまち＋アーツ協働事業」での留学生・大学生を対象としたクリエイション・ワークショップなど、教育・国際交流関係での活動に2022年度も引き続き取り組んだ。

②学校等と連携したプログラム数と参加人数

2022年度の学校、福祉施設等と連携したアウトリーチなどの回数は40回、参加延人数は772人となっている。

- 2016年度に実施したグループインタビューで、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事をし始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。

A-5 市民文化活動支援（市民参加型事業、アマチュア支援など）

① ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やワークショップを実施しており、2022年度は、「Re：北九州の記憶」、地域のアートレパートリー創造事業、北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!!2022」の3事業が実施された。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」は2004年度から継続実施されている事業で、開始から2021年度までの18年間で延べ1,408名の市民の参加があった。
- 2010年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。

② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価（専門的・技術的なアドバイスやサービスなど）

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「利用問い合わせや予約が円滑」、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの応対がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」については、「はい」という積極的な肯定が95%以上と高い評価となっている。
- 「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「はい」（80%）の回答が少ないが、関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」を見ると、満足層の割合※は99%となっている。これらの項目では、「はい」という積極的な評価も高い。
- 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い（なお、2009年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。）。

A-6 地域への貢献①（地域経済への波及効果など）

① 地域外からの来場者割合

- 観客アンケート結果をみると、2007年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域（福岡市をはじめとする九州各地、山口県など）からの来場者の割合が増加を続け、2022年度は52%となっている。

②公演鑑賞に伴う消費行動

- 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、2022年度の飲食またはショッピングをした人の割合は59%。
- 飲食をしている割合は54%で平均金額は1,819円、ショッピングをしている割合は37%で平均金額は2,760円となっている。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

③経済波及効果

- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた2021年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約6.6億円、主催事業が約1.4億円、主催事業の観客の消費支出が約1.3億円となっている。
- それらの経済波及効果は、約12.9億円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約3.7～4.2億円、経済波及効果が約4.9～5.4億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業（観客消費支出含む）で1.39、貸館を含めると1.36となっている。試算を始めた2004年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45～1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで130～136人、雇用者ベースで116～121人という結果となっている。

A-7　地域への貢献②（地域アピール、ブランド力のアップなど）

①シビックプライドの醸成

- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り（シビックプライド）の一部となっていることは、2010年度の座談会出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。
- 2016年度に実施したグループインタビューで、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ（結節点）、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。

②パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する2022年度の記事掲載件数（記事性が高いもの）は174件。新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、2022年度は約1億4,650万円となる。
- 2022年度では「Re:　北九州の記憶」や「命名権」に関する記事が多い。
- 2022年度の北九州芸術劇場のホームページへのアクセス件数は累計で1,035,429件となっている。
- 2023年3月31日現在のTwitterのフォロワー数は8,020人で、2022年度の北九州芸術劇場のTwitterのインプレッション数（投稿が他のTwitterのアカウントを持つユーザーに表示された回数）は累計で3,658,499件となっている。
- 2022年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約6,200万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模を上回る成果を生み出している。

A-8　広域施設としての役割発揮

①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 2009年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。

- また、「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。
- 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。

②当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。
- 今後の北九州芸術劇場あるいは（公財）北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。
- （公社）日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート（回答32件）によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援（貸館）［支える］

①ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、2014年度から「支える」として地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

②貸館事業における入場者数

- 2022年度の貸館の公演・講演事業数は263事業。計348回の公演・講演が実施され、入場者数は122,797人となっている。

③利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度※は99%で、利用者のほとんど全員が満足している。また、今後の利用意向※も99%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。
- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度※は、すべて95%以上と非常に高く、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
- 2005年度（利用者調査開始年度）以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

①公演や催し物情報に関する満足度

- 観客アンケート調査で開館年度（2003年度）に満足度が65%であった「公演情報の入手のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続いてきたが、2022年度は95％で開館以降最も高い割合となっている。

※ 満足度は「たいへん満足」+「まあ満足」の割合、利用意向は「はい」+「どちらかと言えば『はい』」の割合。無回答は除く。

②ホスピタリティに関する満足度

- 利用者調査で2003年度に満足度が97%であった「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」は、2018年度に90%まで低下したものの、2020年度は100％と開館以降最も高い割合となっている。

③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度

- 2003年度から満足度の高かった「劇場係員の応対」は、継続して高い満足度を保っており、2021年度も98%と満足層の割合は非常に高い。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、2003年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、2004年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、オンラインチケット購入システムを導入した2011年度以降およそ90%の満足度を維持したが、2015年度に79%と10ポイント減少、2016年度に91%に持ち直し、2022年度は95%と開館以降で最高の割合となっている。

④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、2007年度に80%に達し、2018年度は87%となっている。

B-3 施設の維持管理

①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「館内は清潔に保たれていた」については「はい」への回答が99%、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備・機器が充実している」、「劇場の広さ（客席数）がちょうどよい」については、「はい」への回答が95%以上と大変高い評価となっている。また、2005年度（利用者調査開始年度）以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが68%、中劇場が65%、小劇場が66%である。新型コロナウイルスの影響が大きかった2020年度、2021年度に次いで低い稼働率となっている。
- 開館年の2003年度とコロナ禍の影響を受けた2020年度、2021年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、2019年度の（一財）地域創造の悉皆調査結果（2020年5月発行のデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は74%）と比較して同程度の水準にある。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。

C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ＆マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

C-3 経営努力

①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の2022年度の事業費は約1億4千万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の20%、市の補助金が45%、文化庁と（一財）地域創造、その他助成金による外部資金が36%となっている。
- 2020年度では、新型コロナウイルスの影響により、チケット収入の割合が大幅に低く、市補

助金の割合が開館以降で最も高くなっている。

- 開館した2003年度の市の補助金は約1億1,200万円で、2022年度の補助金は、開館年度の補助金の55%の水準となっている。北九州市の市税収を見ると、2003年度は1,504億円、2022年度は1,780億円（いずれも当初予算）で開館年度の118%の水準となっている。

②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減（団体割引の適用等）の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 2022年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約3,286万円の減収、補助金等収入は約46万円の減収となっている。2022年度は事業収入と補助金等収入がともに減少した形になった。

3. 事業評価の結果から－今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、2003年度の開館年度から図表5-2のとおりの調査を行ってきた。

図表5-2 北九州芸術劇場における実施調査

年度	継続調査	テーマ調査
2003	劇場運営基礎データの収集・分析 パブリシティ効果の把握	
2004	経済波及効果の算出	専門家による座談会（開場から1年間の劇場運営の成果について）、ワークショップ参加者を対象とした学芸調査（アンケート／グループインタビュー）
2005	貸館利用者を対象としたアンケート調査（実施：2005年度～）	市民意識調査（アンケート）
2006		（舞台芸術の公演による）劇場使用者へのグループインタビュー
2007	（整理・分析：2007年度）	学校を対象とした学芸調査（アンケート）
2008		劇場スタッフへのグループインタビュー
2009		北九州芸術劇場の広域的役割と長期的ビジョンに関するグループインタビュー
2010		舞台芸術以外の分野から見た北九州芸術劇場の役割（座談会）
2011		
2012		北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化
2013		北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年
2014		舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場
2015		ワークショップ参加者を対象とした調査
2016		まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査
2017		
2018		北九州市文化振興計画における劇場による取組の検証
2019		
2020		
2021		
2022		

最後に、今後の事業評価を継続する上で、検討・留意すべきだと考えられる事項を、次の6点に整理した。

①継続調査

経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望まれる。

②地域や市民への効果を把握するための定性調査

また、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するため、定性調査の実施も検討したい。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客（あるいは会員）、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域（市民センターなど）でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、成果を把握する機会が必要だと考えられる。また、2005年度の市民意識調査の実施から10年以上経過していることから、今後タイミングを見て、同様の市民調査の実施を検討する必要もある。

③劇場内部での事業評価の活用

2008年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①この事業評価調査の結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的である PDCA サイクル（Plan→Do→Check→Action）をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフのより積極的な関わりを促していくことが重要だと考えられる。

④評価結果の公表と発信

北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書（本編）をホームページで公開するなど、市民へのアカウンタビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目にあたり、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い取り組みだと言える。公共劇場や文化関係者の間でその成果を共有するためにも、より積極的な公表や発信が望まれる。

⑤次の戦略構築への活用

また、次の北九州芸術劇場の戦略構築のために、これまでの事業評価の結果を活用することが望まれる。2009年度のグループインタビュー調査、2010度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけではなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

⑥次期北九州市文化振興計画を見据えた事業評価の再構築

前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築も視野に入れたい。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も再検討する必要がある。この数年間、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な

観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっている点も否めない。また、観客や利用者以外の市民、舞台芸術以外の芸術分野、あるいは劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー（利害関係者）との関係を広げていくことが2010年度の座談会でも期待されている。

また近年、文化政策や文化プログラムなどの事業評価の手法そのものが変化しており、評価の理論的なフレームワークとして用いられることの多いロジック・モデルの手法などを北九州芸術劇場の事業評価にも取り入れることも考えられる。その試行として、2012年度のテーマ調査では、10年間の事業評価の主要な項目を、結果（アウトプット）、短期的・中長期的な成果（アウトカム）、直接的・間接的な影響や効果（インパクト）に分けて整理した。それらも踏まえた上で、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進化させることが望まれる。

図表5-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、（一財）地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」（平成19年3月）の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で2003年度～2021年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

※事業評価の結果を、定量評価（事業実績データ、アンケート調査データ）とともに、定性評価（グループインタビュー等）の結果も含めて総合的に整理した。

※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。

※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価（達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標）項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A：劇場の設置目的

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ　※[　]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0	［ミッション］ 「創る」 「育つ」 「観る」 「支える」	①劇場の運営方針（ミッション）の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	• 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定、2014年度から「支える」が加わった。 • ［専門家との座談会/10年度］では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価している。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。 • ［まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度］では、教育や福祉の団体は、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果だという見方が多く、地域経済の担い手である企業は、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。	• 3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 • 14年度から運営方針に加わった「支える」に対しても支持率は高いが、新たな方針が加わったことによる成果の広がりが望まれる。	• 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。 • 観客調査の継続。 • 長期的な視点（5年ごと、10年ごとなど）での市民調査の検討、実施。 • 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 • 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②劇場の運営方針を支持する市民の割合（市民の支持率）	• 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年（2003年）度から90%以上。 〇2022年度　創る：99%、育つ：99%、観る：99%、支える：99%［観客調査/2022年度］ • 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 〇創る：81%、育つ：90%、観る：90%　［市民調査/2005年度］ ※支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合（%）は小数点以下を四捨五入して掲載。		
		③事業や運営に対する自己評価や振返り、運営データの蓄積	• 業務の振返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。［劇場スタッフへのグルイン/2008年度］	• 事業評価データ等を活用し、係を超えた振返りの機会づくりが必要。	
		④市民の劇場の認知度や劇場への意見	• 市民の劇場の認知度（劇場があることを「知っている」と回答した割合）は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。［市民調査/2005年度］ • 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。［劇場スタッフへのグルイン/2008年度］	• 運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。 • 北九州市の人口（2023年3月1日現在）は約92万人であり、すでに人口の5.5倍以上の利用者が来場。	
		⑤劇場の来場者（利用者）数	• 年間来場者（利用者）数は、2005年度から2009年度まで毎年27～28万人で推移。2010年度は1年間で31万人に増加した。2020年度は新型コロナウイルスの影響により、約6万9千人と開館以降で最も少ない利用者数となった。		
A-1	［鑑賞系事業］ 「観る」 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテイメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	• 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊など幅広いラインナップの公演事業を実施。 • 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 〇年齢層　29歳以下：24%、30歳代：10%、40歳代：18%、50歳代：29%、60歳以上：20%　平均年齢：45歳。［観客調査/2022年度］ 〇北九州芸術劇場での鑑賞経験　今日が初めて：19%、1～2回：11%、3～5回：16%、6回以上：45% • 北九州市域外（北九州市内+北九州近隣地域を除く）からの観客は、2022年度が過去最高の割合（52%）。 〇2006年度：21%⇒07：31%⇒08：31%⇒09：33%⇒10：37%⇒11：34%⇒12：38%⇒13：44%⇒14：35%⇒15：40%⇒16：29%⇒17：40%⇒18:38%⇒19:37%⇒20:40%⇒21:44%⇒22:52%	• 小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。 • 公演事業全体で極めて高い入場率。「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。 • 「観る」という方針では、福岡市と何らかの機能分担をした上で、「創る」、「育つ」、「支える」に重点を置いていくことも、将来のひとつの方向性だと考えられる。 • 公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。 • 北九州市域外からの観客も増加しており、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されている。中長期的な市域内と市域外との集客バランスの検討。 • 観客調査のアンケートにおける無回答の割合が増加している。	• 観客調査の継続。 • 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。 • 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	• 2022年度の公演事業は11事業、公演回数は22回、入場者数は6,416人である。入場率は87%。 • 創造事業、提携・協力事業も含めた鑑賞系事業全体では、25事業、公演回数は86回、入場者数は18,762人である。入場率は87%。		
		③公演に対する観客の満足度	• 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は98%。「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 • 満足層の割合（「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。） 〇公演内容　2003年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97%⇒11:98%⇒12:98%⇒13:97%⇒14:97%⇒15:98%⇒16:98%⇒17:98%⇒18:99%⇒19:98%⇒20:98%⇒21:98%⇒22:98% 〇公演のチケット料金　2003年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91%⇒11:94%⇒12:94%⇒13:93%⇒14:94%⇒15:92%⇒16:94%⇒17:95%⇒18:95%⇒19:95%⇒20:98%⇒21:98%⇒22:99%［観客調査/2022年度］ • 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。［専門家との座談会/2010年度］		
		④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	• 公演事業での劇場使用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。［劇場使用者を対象としたグルイン/2006年度］ • ［九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度］でも、魅力的なものを呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 • ［全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度］では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ　※[　]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-2	［創造系事業］ 「創る」 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます	①ミッションに基づいた創造系事業の実施	• 全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。 • 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。 • 2004年度から2021年度までの18年間で延べ1,408名の市民の参加があった合唱物語「わたしの青い鳥2021」を行った。	• 高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。 • 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 • 九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。 • 今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。 • 美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。	• 観客調査の継続。 • 創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 • 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②年間延べ観客数	• 2022年度は、4事業で25回の公演・ワークショップが行われ、入場者は1,902人。入場率では平均で75%。 • モノレール公演「きみをさがして」が94%、北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re：北九州の記憶～」北九州公演が89%となっている。		
		③創造系事業の公演に対する観客の満足度	• 鑑賞系事業③を参照		
		④創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果	• 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。［劇場使用者を対象としたグルイン/2006年度］ • ［九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度］でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。 • ［専門家との座談会/2010年度］では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。 • ［全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度］では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。		
A-3	「育つ」 アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワークづくり等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します ［普及系事業①］ 主に劇場内で実施するワークショップや講座など	①ミッションに基づいた普及系事業の実施	• 普及系事業を継続的に実施。2022年度も、「キタQアーティストふれあいプログラム」として、演劇・ダンス分野から地元や国内外で活躍するアーティストを招いて行うアウトリーチなどの多様なプログラムを実施。	• 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 • ワークショップや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことで鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生まれている。 • 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 • 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。	• 事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 • 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 • 長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。
		②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数	• 2022年度は、主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は60回、参加延人数は794人。 • 「高校生〔的〕シアター」や「子どもの劇場体験2022～職場体験編」など、地域と劇場との関係を積極的に開拓するような企画内容が多く見られる。		
		③講座・ワークショップ参加者の満足度	• 講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。［学芸調査・アンケート/2015年度］ ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度　満足層：94%、うち「たいへん満足」：64% ○「たいへん満足」の割合が高い項目　劇場係員の対応（78%）、講座・ワークショップの講師（74%）、内容（66%）		
		④参加者が事業から得たもの（事業の効果） ー講座・ワークショップ	• 講座やワークショップに参加したことで、参加者は次のような効果があったと感じている。［学芸調査・アンケート/2015年度］ 「人間関係に広がりが生まれた」（70%）、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」（53%）、 「演劇やダンスに新たな興味がわいた」（53%）、「舞台づくりや劇場について新たな発見があった」（52%）、 「より多くの公演を鑑賞したいと思った」（46%）など。 • グループインタビューでも、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。［学芸調査・グルイン/2015年度］		
A-4	［普及系事業②］ アウトリーチ（学校、福祉施設等との連携など	①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容	• 2017年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第五弾「10万年の寝言」、北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」、到津の森公園と連携で開催したガイドツアーとダンスワークショップ「どっちが動物園！？」等を行った。 • 「キタQアーティストふれあいプログラム」での市内の小学校のほか、「ひとまち＋アーツ協働事業」での留学生・大学生を対象としたクリエイション・ワークショップなど、教育・国際交流関係での活動に2022年度も引き続き取り組んだ。		
		②学校等と連携したプログラム数と参加者数	• 学校との連携事業への評価　［小学校を対象としたアンケート調査/2007年度］ ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、「自分の考えや気持ちを表現する力」（80%）、「豊かな感受性や想像力」（61%）、「人とコミュニケーションする力」（52%）については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」（72%）等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い（連携したいと思う割合：83%）。 • 2022年度の学校、福祉施設等と連携したアウトリーチなどの回数は40回、参加人数は772人となっている。 • ［まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/2016年度］では、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事をし始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ　※[　]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-5	[市民文化活動支援] 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など	①ミッションに基づいた市民活動支援の実施	• 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やワークショップを実施。 • 2022年度は、「Re：北九州の記憶」、地域のアートレパートリー創造事業、北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!!2022」の3事業でワークショップやアウトリーチなどが実施された。 • 合唱物語「わたしの青い鳥」は2004年度から継続実施されている事業で、開始から2021年度までの18年間で延べ1,408名の市民の参加があった。 • [専門家との座談会/2010年度]では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。	• 市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。 • 貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。	• 貸館調査の継続。 • 市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。 • 開館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)	• 貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについて、「利用問い合わせや予約が円滑」、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの応対がよい」、「事故や非常時の対応等に対する説明が適切」は、「はい」という積極的な肯定が95%以上と高い評価となっている。 • 関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」も99%の高い満足度。[貸館調査/2022年度]		
A-6	[地域への貢献①] 地域経済への波及効果など	①地域外からの来場者割合	• 2006年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、2021年度は44%となっている。 ○地域外からの来場者割合　2006年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%⇒17:40%⇒18:38%⇒19:37%⇒20:40%⇒21:44%⇒22:52%[観客調査/2022年度]	• 北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。 • 観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。 • 今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。	• 地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。 • 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 • 所得増、雇用増、税収増の試算。 • 貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。 • 開館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		②公演鑑賞に伴う消費行動	• 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、2022年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は59%。 • 飲食をしている場合の平均金額は1,819円、ショッピングの場合は2,760円。[観客調査/2022年度]		
		③経済波及効果	• 2022年度の経済波及効果を算出すると、 ○最終需要 劇場の管理運営：約6.6億円、主催事業：約1.4億円、主催事業の観客の消費支出：約1.3億円 (参考値)貸館事業に基づいた最終需要：約3.7～4.2億円　※試算 ○経済波及効果　約12.9億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果：約3.5～4.0億円　※試算 • 経済波及効果の誘発係数は、 ○管理運営・主催事業・主催事業観客消費支出：1.39 ○貸館を含めた消費支出：1.36 • 2004年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45～1.50で推移してきたが、産業連関表の更新を受けて誘発係数が低下したものの、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしている。 • 雇用効果は、就業者ベースで130～136人、雇用者ベースで116～121人。		
A-7	[地域への貢献②] 地域アピール、ブランド力のアップなど	①シビックプライドの醸成	• 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、2010年度の座談会出席者の共通認識であった。 • その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/2010年度] • [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/2016年度]では、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。	• 毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がりを評価。 • 2022年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約6,200万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模を上回る成果を生み出している。 • 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。 • 北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。	• より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。 • 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 • 市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。
		②パブリシティ効果	• 北九州芸術劇場や劇場事業に関する2022年度の記事掲載件数(記事性が高いもの)は174件。 • 174件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、2022年度は約1億4,650万円(2020年度：約8,260万円)。 • 2022年度では「Re: 北九州の記憶」や「命名権」に関する記事が多い。		
		③劇場・ホールの存在を肯定的に考えている市民の割合	• 市民調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。 • 劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。 • 一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/2005年度] • 劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのかが、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/2008年度]		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ　※[　]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-8	［広域施設としての役割発揮］ 圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします ＊「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定	①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携	• 舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。 • 「シアターラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。［九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度］ • 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。［舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/2014年度］	• 今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。 • 「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。 • 国や他の地方自治体（とくに九州圏域の県や市）との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。	• 広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		②当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興	• 北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。［九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/2009年度］ • 国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ヴィジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。［全国の劇場関係者へのグルイン/2009年度］ • 2003年に開館して以来、「創る」、「観る」、「育つ」という事業の考え方と、事業評価を行うことの二点において、北九州芸術劇場が公共劇場のスタンダードを形成してきたと言える。［北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年/2013年度］ • （公社）日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート（回答32件）によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。［舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/2014年度］		

B：管理運営

※この評価結果一覧は、（一財）地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」（平成19年3月）の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で2003年度～2021年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ　※[　]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1	「支える」 ［場の提供・支援（貸館事業）］	①ミッションに基づいた貸館事業の実施	• 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。	• 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100％近い割合であることは、利用者からの大きな評価。 • 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	• 貸館調査の継続。 • 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②貸館における入場者数	• 2022年度の貸館公演・講演は261事業。計348回の公演・講演が実施され、入場者数は122,797人。		
		③利用者の満足度	• 劇場利用に関する総合的な満足度は99%。今後の利用意向も99%と満足度はたいへん高い。 • ソフト面に関する11項目のすべての満足層の割合が95%以上。貸館事業におけるスタッフの応対への評価は高い。［貸館調査/2022年度］ • 2005年度（利用者調査開始年度）以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。		
B-2	［施設のホスピタリティ・サービス］	①公演や催し物情報に関する満足度	• 開館年度（2003年度）に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続いてきたが、2022年度は95％で、開館以降最も高い割合となっている。［観客調査/2021年度］ ○公演情報の入手のしやすさ　2003年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:88%⇒14:88%⇒15:83%⇒16:91%⇒17:89%⇒18:89%⇒19:88%⇒20:91%⇒21:92%⇒22:95%	• 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から10年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。 • 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	• 観客調査の継続。 • 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②ホスピタリティに関する満足度	• 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、2018度は93%であった。 • 2003年度に満足度が97%であった「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」は、2018年度に90%まで低下したものの、2020年度は100％と開館以降最も高い割合となっている。		
		③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度	• 「電話予約・チケットカウンターの応対」「劇場係員の応対」への満足度は大変高い。「劇場係員の応対」については、開館年度から90%以上の満足度を維持、2022年度は99%で開館以降最高の割合となっている。［貸館調査/2022年度］ • 開館年度（2003年度）に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、2004年度以降改善傾向が続き、2014年度には89%の満足度となった。2015年度に79%に減少したが、2016年度に91%に持ち直し、2022年度は95%と開館以降で最高の割合となっている［観客調査/2021年度］ ○劇場係員の応対　2003年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98%⇒11:99%⇒12:99%⇒13:98%⇒14:97%⇒15:97%⇒16:98%⇒17:98%⇒18:98%⇒19:98%⇒20:96%⇒21:98%⇒22:99% ○チケットの予約購入　2003年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:89%⇒15:79%⇒16:91%⇒17:90%⇒18:90%⇒19:87%⇒20:91%⇒21:93%⇒22:95%		
		④飲食に関する満足度	• 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、2007年度に80%に達し、2018年度は87%となっている。［観客調査/2018年度］ ○飲食サービス　2003年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86%⇒11:88%⇒12:86%⇒13:85%⇒14:87%⇒15:87%⇒16:87%⇒17:86%⇒18:87%　※2019年度以降は観客調査の簡略化により設問から除外		
B-3	［施設の維持管理］	①施設の維持管理	• 貸館調査でも、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。満足層の割合は次のとおり。［貸館調査/2022年度］ ○館内は清潔に保たれていた：99% ○劇場の広さ（客席数）がちょうどよい：95% ○舞台設備・機器は充実している：94% ○設備・機器などを安全に使用できた：96% ○ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい：97% ○搬入・搬出がやりやすい：85% ○楽屋など舞台裏の施設が使いやすい：89%	• 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。 • スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。	• 貸館調査の継続。 • 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 • 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。
		②稼働率	• 施設稼働率は、大ホールが68%、中劇場が65%、小劇場が66%である。新型コロナウイルスの影響が大きかった2020年度、2021年度に次いで低い稼働率となっている。 • 開館年の2003年度とコロナ禍の影響を受けた2020年度、2021年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均（専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は74%）と同程度の水準。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。		

C：経営

※この評価結果一覧は、（一財）地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」（平成19年3月）の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で2003年度～2021年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ　※[　]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
C-3	［経営努力］	①外部資金、チケット収入の割合	• 2022年度事業費は約1億3,908万円。財源内訳は、チケット収入：約が2,741万円（20%）、外部資金：約4,947万円（36%）、市の補助金：約6,220万円（48%）。 • 2019年度は、財団として初めて市の補助金を財源としない「完全主催事業」として実施した公演事業（NODA・MAP公演）の収入が支出を上回った。公益性の高い事業を収益性の高い事業とのバランスを図ることで、経済的な劇場文化の好循環が現れた結果となっている。 • 2020年度では、新型コロナウイルスの影響により、チケット収入の割合が大幅に低く、市補助金の割合が開館以降で最も高くなっている。 • チケット収入と外部資金の2003年度からの比率をみると次のとおり。 ○チケット収入　2003年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68%⇒11:53%⇒12:47%⇒13:52%⇒14:39%⇒15:59%⇒16:57%⇒17:39%⇒18:49%⇒19:61%⇒20:6%⇒21:19%⇒22:20% ○外部資金　2003年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15%⇒11:12%⇒12:13%⇒13:19%⇒14:22%⇒15:18%⇒16:14%⇒17:35%⇒18:20%⇒19:17%⇒20:27%⇒21:37%⇒22:36%	• チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。 • 開館した2003年度の市の補助金は約1億1,200万円で、2022年度の補助金は、開館年度の補助金の55%の水準となっている。北九州市の市税収を見ると、2003年度は1,504億円、2022年度は1,780億円で開館年度の118%の水準となっている。	• 継続したデータ収集・分析の実施。 • 詳細調査の必要性の検討、実施。
		②事業収支からみた経営努力	• 2022度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約3,286万円の減収、補助金等収入は約46万円の減収となっている。2022年度は事業収入と補助金等収入がともに減少した形になった。		

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ＆マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

北九州芸術劇場

事業評価調査

［資料編］

Ⅰ

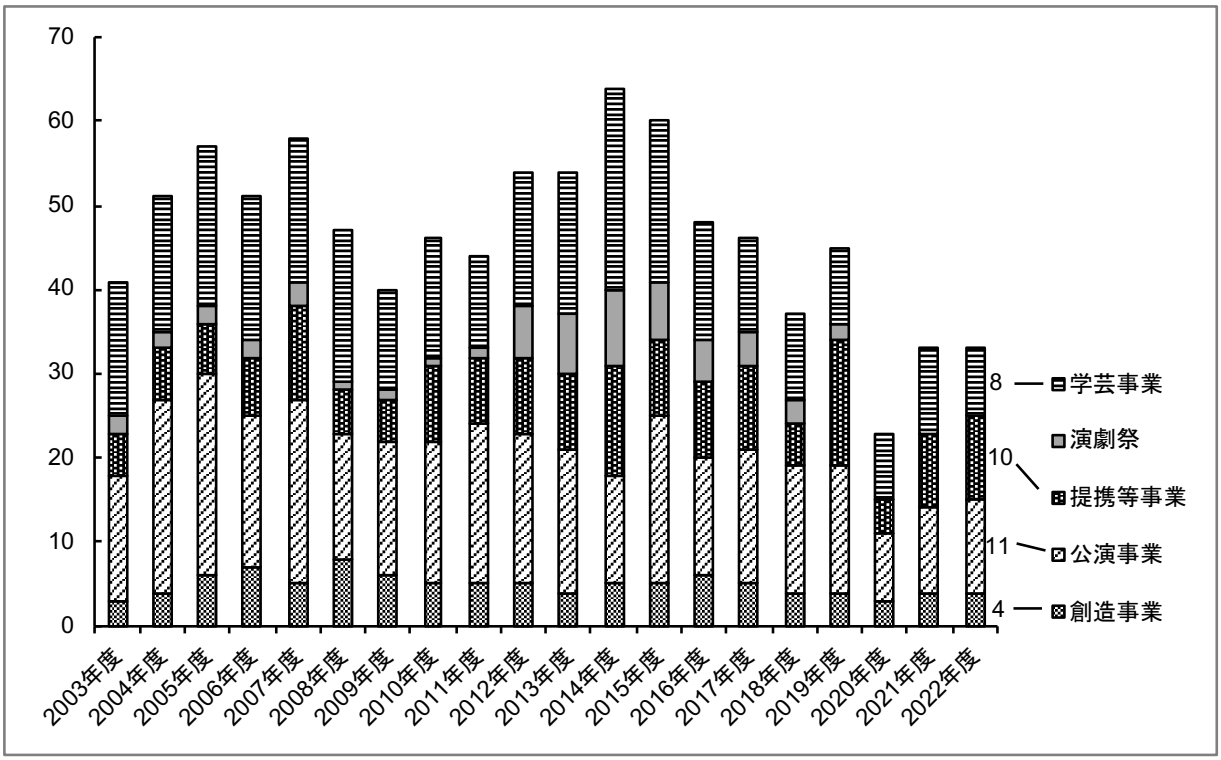
実績調査結果

(1) 事業数

2022年度の自主事業の事業数は、鑑賞事業が25事業、学芸事業が8事業、支援事業が6事業となっている。2020年度、2021年度には新型コロナウイルスによる感染症の拡大防止のために中止となった事業があったが、2022年度では、台風や大雪の影響で変更になった事業はあるものの、新型コロナウイルスの影響は免れた。

	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング企画	演劇祭	計			
2003年度	3	15	5	2	2	27	16	—	—
2004年度	4	23	6	—	2	35	16	—	—
2005年度	6	24	6	—	2	38	19	—	—
2006年度	7	18	7	—	2	34	17	—	—
2007年度	5	22	11	—	3	41	17	—	—
2008年度	8	15	5	—	1	29	18	—	—
2009年度	6	16	5	—	1	28	12	—	—
2010年度	5	17	9	—	1	32	14	—	—
2011年度	5	19	8	—	1	33	11	—	—
2012年度	5	18	9	—	6	38	16	—	—
2013年度	4	17	9	—	7	37	17	—	—
2014年度	5	13	13	—	9	40	24	—	1
2015年度	5	20	9	—	7	41	19	5	3
2016年度	6	14	9	—	5	34	14	6	3
2017年度	5	16	10	—	4	35	11	4	3
2018年度	4	15	5	—	3	27	10	5	—
2019年度	4	15	15	—	2	36	9	4	—
2020年度	3	8	4	—	—	15	8	2	—
2021年度	4	10	9	—	—	23	10	7	—
2022年度	4	11	10	—	—	25	8	6	—
累計	98	326	164	2	58	648	286	39	10

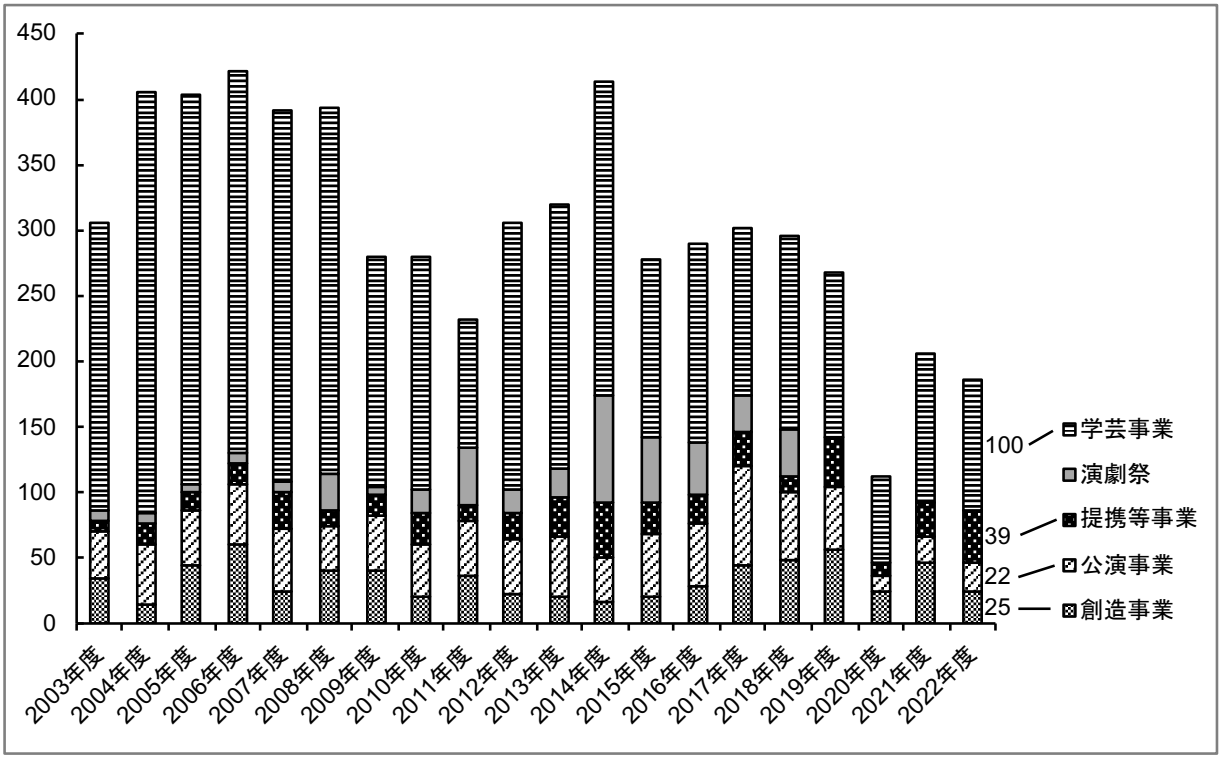
※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として、2014年度より「北九州舞台芸術フェスティバル『北九州芸術工業地帯』」として開催。



(2) 公演（実施）回数

2022年度の鑑賞事業の公演回数は86回、学芸事業の実施回数は100回、支援事業は39回となっている。

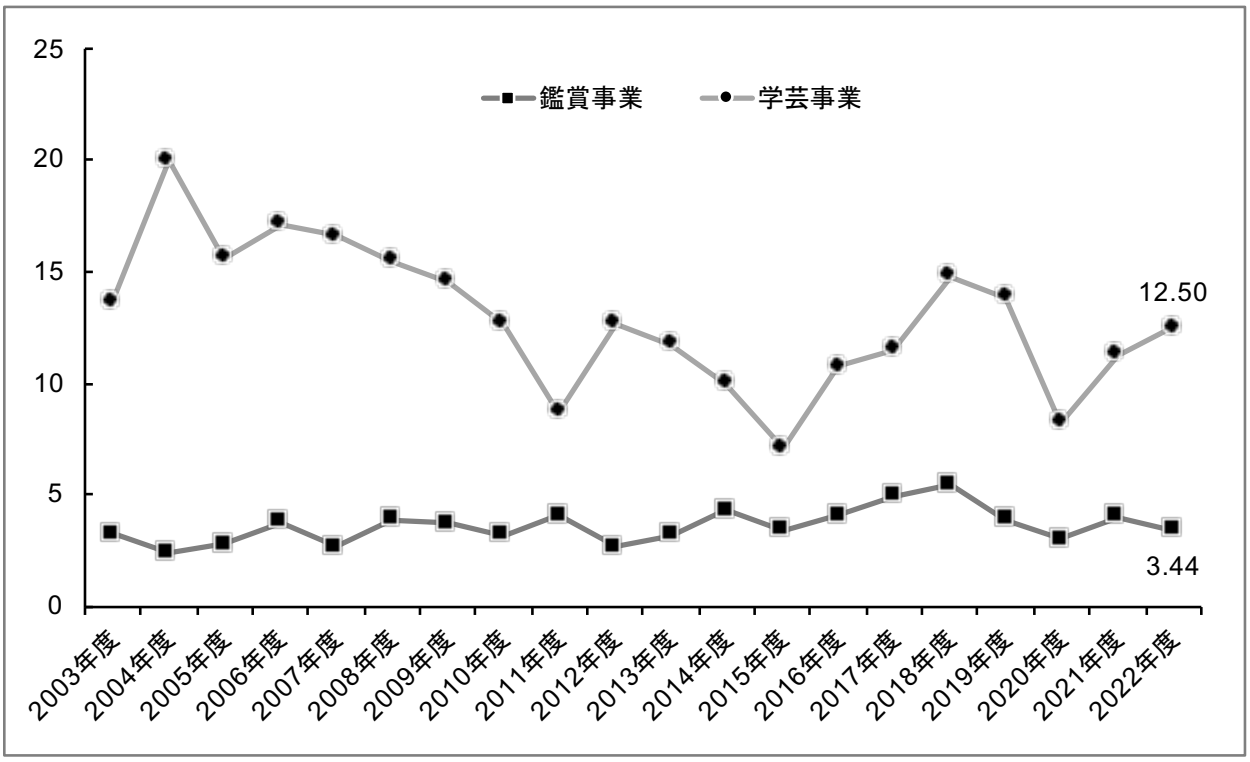
	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング企画	演劇祭	計			
2003年度	35	35	8	2	9	89	219	—	—
2004年度	15	46	15	—	9	85	320	—	—
2005年度	45	42	13	—	7	107	297	—	—
2006年度	61	45	16	—	8	130	291	—	—
2007年度	24	49	28	—	8	109	283	—	—
2008年度	41	33	12	—	28	114	279	—	—
2009年度	40	42	16	—	7	105	175	—	—
2010年度	21	39	25	—	17	102	178	—	—
2011年度	37	42	12	—	44	135	96	—	—
2012年度	22	43	20	—	17	102	203	—	—
2013年度	21	46	30	—	22	119	200	—	—
2014年度	16	34	42	—	82	174	240	—	3
2015年度	20	48	24	—	50	142	135	75	14
2016年度	29	48	21	—	41	139	151	77	16
2017年度	45	75	27	—	27	174	127	90	15
2018年度	49	51	13	—	35	148	148	54	—
2019年度	56	49	37	—	—	142	125	29	—
2020年度	24	12	10	—	—	46	66	24	—
2021年度	47	20	26	—	—	93	113	65	—
2022年度	25	22	39	—	—	86	100	39	—
累計	673	821	434	2	411	2,341	3,746	453	48



(3) １事業あたりの公演（実施）回数

2022年度の鑑賞事業の1事業あたりの公演回数は3.44回、学芸事業の1事業あたりの実施回数は12.50回となっている。

	鑑賞事業	学芸事業
2003年度	3.30	13.69
2004年度	2.43	20.00
2005年度	2.82	15.63
2006年度	3.82	17.12
2007年度	2.66	16.65
2008年度	3.93	15.50
2009年度	3.75	14.58
2010年度	3.19	12.71
2011年度	4.09	8.73
2012年度	2.68	12.69
2013年度	3.22	11.76
2014年度	4.35	10.00
2015年度	3.46	7.11
2016年度	4.09	10.79
2017年度	4.97	11.55
2018年度	5.48	14.80
2019年度	3.94	13.89
2020年度	3.07	8.25
2021年度	4.04	11.30
2022年度	3.44	12.50



(4) 入場者（参加者）数

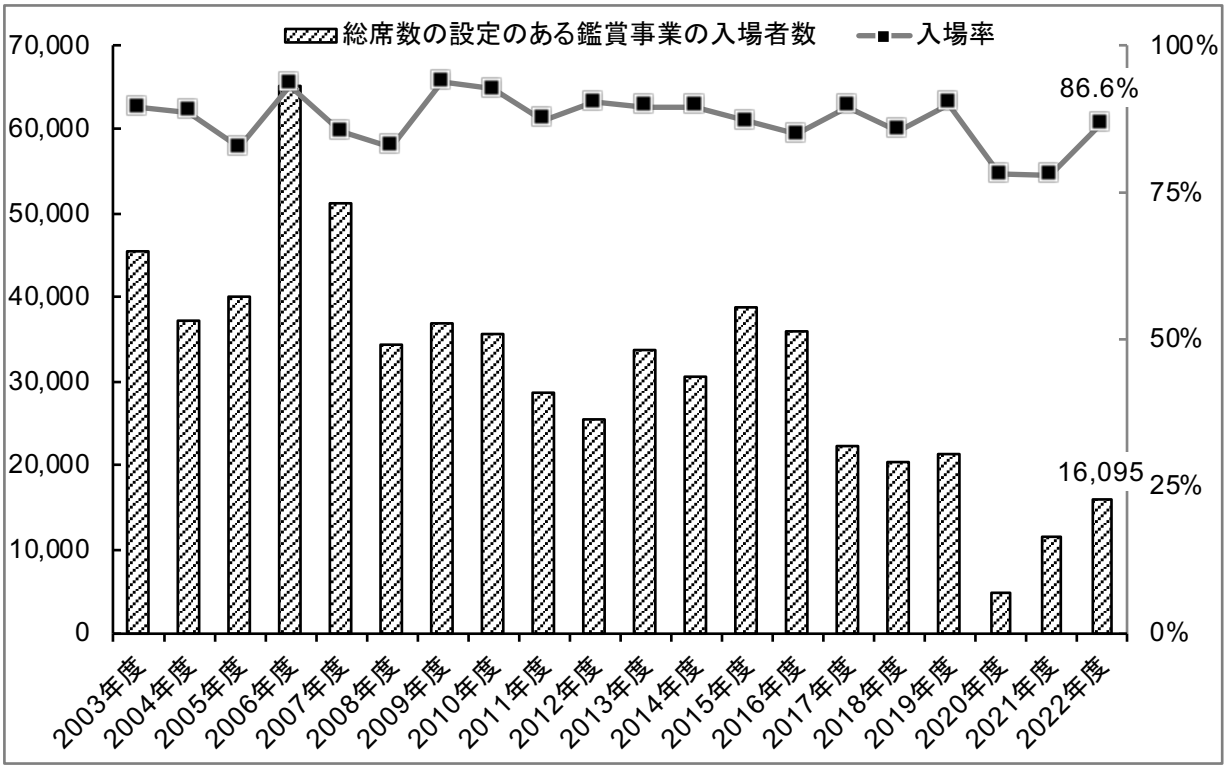
2022年度の鑑賞事業の入場者数は18,762人、学芸事業の参加者数は789人、支援事業の参加者数は1,551人で、年間の入場者（参加者）数の総合計は19,551人となっている。2020年度では新型コロナウイルスの影響により開館以降で最も少なく（7,122人）、2021年度、2022年度と増加はしているものの、コロナ禍以前の水準には回復していない。

	鑑賞事業						学芸事業	支援事業	連携事業	総合計
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング企画	演劇祭	計				
2003年度	13,350	22,079	7,382	1,592	987	45,390	2,404	—	—	47,794
2004年度	3,292	26,361	6,211	—	1,231	37,095	4,734	—	—	41,829
2005年度	9,332	21,294	6,642	—	2,779	40,047	6,327	—	—	46,374
2006年度	27,107	29,813	7,259	—	1,110	65,289	6,758	—	—	72,047
2007年度	5,224	32,378	11,869	—	1,724	51,195	6,200	—	—	57,395
2008年度	12,320	18,164	3,895	—	1,689	36,068	10,577	—	—	46,645
2009年度	12,841	19,439	3,947	—	556	36,783	5,889	—	—	42,672
2010年度	3,124	24,229	6,427	—	1,799	35,579	5,404	—	—	40,983
2011年度	10,846	14,036	2,229	—	1,605	28,716	3,568	—	—	32,284
2012年度	3,847	18,517	2,996	—	4,098	29,458	5,900	—	—	35,358
2013年度	3,208	20,319	11,202	—	3,583	38,312	6,554	—	—	44,866
2014年度	3,974	14,482	13,152	—	4,451	36,059	6,332	—	296	42,687
2015年度	2,723	26,296	9,918	—	6,459	45,396	6,377	9,774	1,463	49,162
2016年度	3,128	23,970	8,117	—	1,530	36,745	5,496	3,113	2,385	40,989
2017年度	3,641	14,447	10,585	—	998	29,671	2,988	2,560	1,255	32,416
2018年度	2,528	15,704	2,633	—	1,210	22,075	1,800	2,438	—	23,875
2019年度	1,893	17,657	10,375	—	—	29,925	3,039	767	—	32,964
2020年度	474	3,762	2,438	—	—	6,674	448	151	—	7,122
2021年度	1,149	5,595	9,696	—	—	16,440	678	3,950	—	17,118
2022年度	1,902	6,416	10,444	—	—	18,762	789	1,551	—	19,551
累計	125,903	374,958	147,417	1,592	35,809	685,679	92,262	24,304	5,399	774,131

(5) 入場者数と入場率

2022年度の鑑賞事業で、総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数は16,095人で、総席数は18,584席となっており、入場率は86.6%となっている。入場率はコロナ禍前の2019年度（90.0%）の水準に近づいた。

	鑑賞事業の入場者数の計（再掲含む）	総席数の設定のある鑑賞事業の入場者数（実数：再掲除く）	総席数	入場率
2003年度	45,390	45,390	50,756	89.4%
2004年度	37,095	37,095	41,808	88.7%
2005年度	40,047	40,047	48,575	82.4%
2006年度	65,289	65,289	70,065	93.2%
2007年度	51,195	51,195	60,036	85.3%
2008年度	36,068	34,379	41,580	82.7%
2009年度	36,783	36,783	39,225	93.8%
2010年度	35,579	35,579	38,447	92.5%
2011年度	28,716	28,716	32,885	87.3%
2012年度	29,458	25,537	28,316	90.2%
2013年度	38,312	33,657	37,585	89.5%
2014年度	36,059	30,678	34,225	89.6%
2015年度	45,396	38,781	44,494	87.2%
2016年度	36,745	35,866	42,333	84.7%
2017年度	29,671	22,301	24,886	89.6%
2018年度	22,075	20,473	23,961	85.4%
2019年度	29,925	21,243	23,602	90.0%
2020年度	6,674	4,730	6,063	78.0%
2021年度	16,440	11,382	14,613	77.9%
2022年度	18,762	16,095	18,584	86.6%
累計	685,679	635,216	722,039	88.0%



(6) 5カ年毎の事業数、公演（実施）回数、入場者（参加者）数

2003年度から2022年度までの20年間を5カ年毎で4期に区分して事業数、公演（実施）回数、入場（参加）者数の平均を算出した。第4期はコロナ禍の影響を大きく受けたため、5ヵ年毎の事業数、公演（実施）回数、入場者・参加者数の平均は第3期を大きく下回った。その中で、5カ年毎の公演（実施）回数で、鑑賞事業1事業あたりの公演数が、第1期で2.97回だったのが回数は伸び続けており、第4期は4.09回となった。

5カ年毎の事業数の平均

	鑑賞事業					学芸事業
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計	
第1期（2003～07年度）	5	20	7	2	35	17
第2期（2008～12年度）	6	17	7	2	32	14
第3期（2013～17年度）	5	16	10	6	37	17
第4期（2018～22年度）	4	12	9	3	25	9

5カ年毎の公演数・実施回数の平均

	鑑賞事業					学芸事業	鑑賞事業1事業あたりの公演数	学芸事業1事業あたりの回数
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計			
第1期（2003～07年度）	36	43	16	8	104	282	2.97	16.59
第2期（2008～12年度）	32	40	17	23	112	186	3.49	13.11
第3期（2013～17年度）	26	50	29	44	150	171	4.00	10.04
第4期（2018～22年度）	40	31	25	35	103	110	4.09	12.27

5カ年毎の入場者・参加者数の平均

	鑑賞事業					学芸事業	総合計
	創造事業	公演事業	提携等事業	演劇祭	計		
第1期（2003～07年度）	11,661	26,385	7,873	1,566	47,803	5,285	53,088
第2期（2008～12年度）	8,596	18,877	3,899	1,949	33,321	6,268	39,588
第3期（2013～17年度）	3,335	19,903	10,595	3,404	37,237	5,549	42,024
第4期（2018～22年度）	1,589	9,827	7,117	1,210	18,775	1,351	20,126

	公演事業の入場者数の計（再掲含む）	総席数の設定のある公演事業の入場者数（実数：再掲除く）	総席数	入場率
第1期（2003～07年度）	47,803	47,803	54,248	88.1%
第2期（2008～12年度）	33,321	32,199	36,091	89.2%
第3期（2013～17年度）	37,237	32,257	36,705	87.9%
第4期（2018～22年度）	18,775	14,785	17,365	85.1%

(7) 2022年度自主事業一覧

1 創造事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ 松井周ワークショップ『いつの間にか「演劇」になっている』	小劇場・稽古場	9/17, 11/26	4	—	69	—
2	モノレール公演「きみをさがして」	北九州モノレール車内	9/2~3	2	144	136	94.4%
3	北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re：北九州の記憶～」						
	北九州公演	小劇場	2/23~26	5	571	507	88.8%
	東京公演	東京芸術劇場シアターイースト	3/3~5	3	528	396	75.0%
	［関連企画］戯曲講座「戯曲をよむ、記憶をよむ」	北九州市立八幡図書館	11/6, 20, 27, 12/4	8	—	39	—
	［関連企画］八幡図書館×響ホール×北九州芸術劇場 3館連携企画 北九州市立八幡図書館文化講演会「忘れじの花～少女歌劇団の話@北九州」	響ホール	9/4	1	130	132	101.5%
	北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re：北九州の記憶～」 小計			17	1,229	1,035	84.2%
4	北九州芸術劇場×山海塾共同プロデュース 山海塾「TOTEM 真空と高み」世界初演	中劇場	3/18~19	2	1,022	623	61.0%
創造事業 小計（※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出）				**25**	**2,395**	**1,902** **1,794**	**74.9%**

2 学芸事業

	事 業 名		会 場	実施月	回数	対象	受講（入場）者数	参加延人数・入場者数
1	ひとまち＋アーツ協働事業							
	田村一行ワークショップ		稽古場・セミナールーム・北九州YMCA学院	8/6, 9/10, 10/26, 11/2, 3	5	外国人留学生	9	36
	YELL 芸術体験プログラム		稽古場	8/17, 9/7, 14, 10/5, 19, 28	6	YELL利用者（若者世代）	16	74
	ひとまち＋アーツ協働事業 小計				11		25	110
2	高校生〔的〕シアター							
	戯曲講座		セミナールーム・稽古場	6/11, 18, 7/9, 23	4	高校生	6	23
	高校生のための演劇塾「夏期ゼミ」		大ホール・小劇場・稽古場	8/8~10	3		44	132
	高校生のための演劇塾「モギテク」		小劇場・セミナールーム・稽古場	8/20,21	2		14	27
	演劇〔的〕ワークショップ		稽古場	1/8,9	2		11	21
	高校生〔的〕シアター 小計				11		75	203
3	キタQ アーティスト ふれあいプログラム							
	講師：太めパフォーマンス	「ギラダンス」学校ワークショップ	井堀小学校	5/26	1	小学生	32	32
		「ギラダンス」学校ワークショップ	南小倉小学校	6/15	2	小学生	88	88
		「ギラダンス」学校ワークショップ	合馬小学校	9/13	1	小学生	30	30
	講師：セレノグラフィカ	ダンスアウトリーチ	香月小学校	10/6,7	2	小学生	16	31
		ダンスアウトリーチ	八幡西特別支援学校	11/7,8	2	中学生	14	27
		ダンスアウトリーチ	門司総合特別支援学校	11/9,11	2	小学生	27	54

	事　業　名		会　場	実施月	回数	対象	受講（入場）者数	参加延人数・入場者数
3	講師：守田慎之介	演劇アウトリーチ	牧山小学校	10/25,26	4	小学生	39	76
		演劇アウトリーチ	到津小学校	10/31,11/1	4	小学生	56	111
	講師：松岡大	ダンスアウトリーチ	高須中学校	12/7,8	2	中学生	11	21
		ダンスアウトリーチ	大谷小学校	12/13,14	2	小学生	5	10
		ダンスアウトリーチ	高槻小学校	1/17,18	4	小学生	37	73
	講師：有門正太郎	演劇アウトリーチ	子どもの村小・中学校	2/8,9	3	小・中学生	35	58
		演劇アウトリーチ	二島小学校	1/30,31	4	小学生	44	88
		演劇アウトリーチ	小森江西小学校	2/1,2	2	小学生	19	37
	キタQ アーティスト　ふれあいプログラム　小計				35		453	736
4	人×劇場「キタキューブ」							
	ノゾエ征爾演劇ワークショップ		小劇場	9/26~27	2	65歳以上	19	37
	島津保武ダンスワークショップ		稽古場	10/29	1	一般(高校生以上)	14	14
			稽古場	10/30	1	若手ダンサー	8	8
	人×劇場「キタキューブ」 小計				4		41	59
5	地域のアートレパートリー創造事業							
	中村蓉ダンスインリーチ（財団職員研修）		小劇場	8/23,24	2	財団職員	33	33
	中村蓉ダンス振付ワークショップ		大ホール	1/26	1		32	32
	そらダン		稽古場	8/7	1	SFJ社員	56	56
	地域のアートレパートリー創造事業　小計				4		121	121
6	子どもの劇場体験2022～職場体験編		小劇場・創造工房・稽古場	12/24~28	5	小学生	18	90
7	北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!! 2022」							
	どんどはれ		稽古場	6/19, 25, 26, 10/15, 11/5	5	地元劇団、アーティスト等	25	92
	マルレーベル			7/13, 20, 8/16, 9/28	4		4	16
	太めパフォーマンス			9/12, 20, 26, 27, 12/1, 12, 13, 19, 20	9		2	18
	オトリヨセ企画			1/11~15	5		3	15
	北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!! 2022」 小計				23		34	141
8	市民劇場文化サポーター育成事業							
	第10期サポーターミーティング		会議室・セミナールーム・稽古場・小劇場　他	5/14, 6/11, 7/16, 10/1, 11/12, 1/21,	7	劇場文化サポーター	22	106
学芸事業（創造・公演（アウトリーチ＆ワークショップ等）を除く）					**100**		**789**	**1,566**

3　公演事業

	公　演　名	会　場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	東京成人演劇部vol.2「命、ギガ長スW（ダブル）」	中劇場	4/15~17	4	1,644	1,381	84.0%
2	北九州芸術劇場×三重県文化会館×長久手市文化の家　東京デスロック「再生」	小劇場	7/9,10	4	446	312	70.0%
	地域交流プログラム　多田淳之介コミュニケーションワークショップ	小倉井筒屋	10/20	1	—	13	—
3	「劇トツ×20分」2022	小劇場	7/17	1	136	121	89.0%
4	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2022－海外編「Ode to Life～幸せなおじぃとおばぁ～」	小劇場	7/31	2	170	143	84.1%
5	マームとジプシー「cocoon」	中劇場	8/14	1	381	331	86.9%
6	「気づかいルーシー」	中劇場	8/28	1	504	447	88.7%
7	ミュージカル「夜の女たち」	中劇場	9/24,25	2	1,058	1,017	96.1%
8	「スカパン」	中劇場	10/23	1	362	268	74.0%
9	マギー・マラン「May B」	中劇場	11/23	1	365	364	99.7%

	公　演　名	会　場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
10	KERA・MAP「しびれ雲」	中劇場	12/17,18	3	1,650	1,450	87.9%
11	二兎社「歌わせたい男たち」	中劇場	1/29	1	644	569	88.4%
公演事業 小計				**22**	**7,360**	**6,416** **6,403**	**87.0%**

4　提携等事業

	公　演　名	会　場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	「劇トツ×20分」2021優勝公演/万能グローブ ガラパゴスダイナモス 第29回公演「甘い手」	小劇場	4/23, 24	4	464	400	86.2%
	ワークショップ	稽古場	4/6	1	—	10	—
2	ゴジゲン　第18回公演「かえりにち」	小劇場	5/2~4	4	402	359	89.3%
3	【協力公演】パルコ・プロデュース2022 「セールスマンの死」	大ホール	5/27~29	3	—	2,421	—
4	大体2mm 10周年記念公演「水曜日の男」	小劇場	5/28, 29	3	224	186	83.0%
5	to R mansion「にんぎょひめ」	小劇場	6/25, 26	4	544	508	93.4%
6	ブルーエゴナク10周年記念公演 「バスはどこにも行かないで」	小劇場	10/7~9	4	380	303	79.7%
	関連企画ワークショップ	稽古場	9/11	1	—	15	—
7	彩の国シェイクスピア・シリーズ 「ヘンリー八世」	大ホール	10/14~16	4	4,708	4,223	89.7%
8	飛ぶ劇場Vol.44「死者そ会ギ」	小劇場	11/4~6	4	457	400	87.5%
9	【協力】月灯りの移動劇場「Silence」	小劇場	11/25~27	4	—	100	—
10	凍える	中劇場	12/3, 4	3	1,650	1,519	92.1%
提携事業　小計				**39**	**8,829**	**10,444** **7,898**	**89.5%**

小計（創造・公演・提携等事業）（※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出）	**86**	**18,584**	**18,762** **16,095**	**86.6%**

5　支援事業

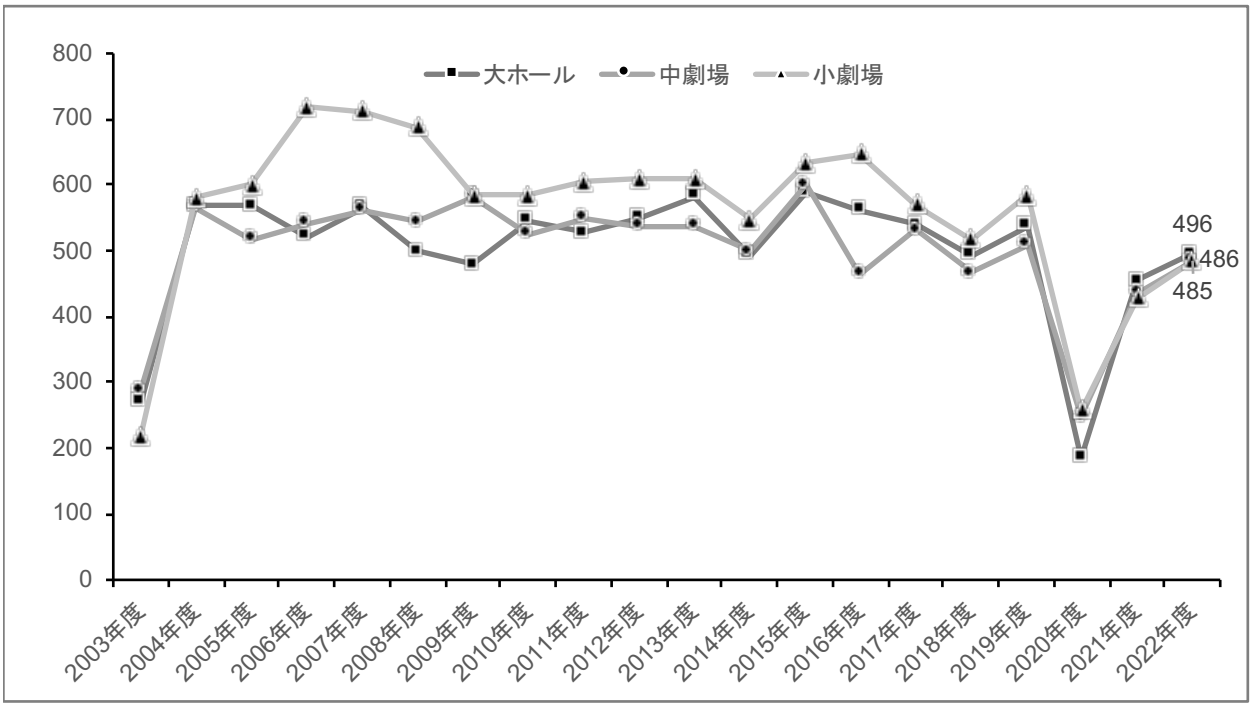
	公　演　名	会　場	公演日	回数	対象	参加者数 入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場創造支援事業「演カツ!!2022」 ＜再掲：2学芸事業(7)参照＞	稽古場	6/19~	23	地元劇団、アーティスト等	141	—
2	「劇トツ×20分」2022 ＜再掲：3公演事業(3)参照＞	小劇場	7/17	1	一般	121	89.7%
3	「劇トツ×20分」2021優勝公演/万能グローブ ガラパゴスダイナモス 第29回公演「甘い手」 ＜再掲：4 提携事業等 (1)参照＞	小劇場	4/23, 24	4	一般	400	89.7%
4	大体2mm 10周年記念公演「水曜日の男」 ＜再掲：4 提携事業等 (4)参照＞	小劇場	5/28, 29	3	一般	186	89.7%
5	ブルーエゴナク10周年記念公演 「バスはどこにも行かないで」 ＜再掲：4 提携事業等 (6)参照＞	小劇場	10/7~9	4	一般	303	89.7%
6	飛ぶ劇場Vol.44「死者そ会ギ」 ＜再掲：4 提携事業等 (8)参照＞	小劇場	11/4~6	4	一般	400	89.7%
支援事業　小計				**39**	**-**	**1,551**	**-**

総　合　計　※再掲の事業（支援事業は全て）は総計には含まず ※学芸事業は延人数ではなく参加者・入場者実数で計上 ※入場率は設定席数のない事業を除いて算出	**186**	**18,584**	**19,551**	**86.6%**

(8) 施設の利用件数

2022年度の施設利用の件数を見ると、大ホールは496件、中劇場は485件、小劇場は486件で、合計1,467件の利用となっている。3つのホールの合計のうち、貸館事業での利用が1,034件、自主事業での利用は433件となっている。通年開館の2004年度以降では、新型コロナウイルスの影響が大きかった2020年度、2021年度に次いで少ない利用件数となっている。

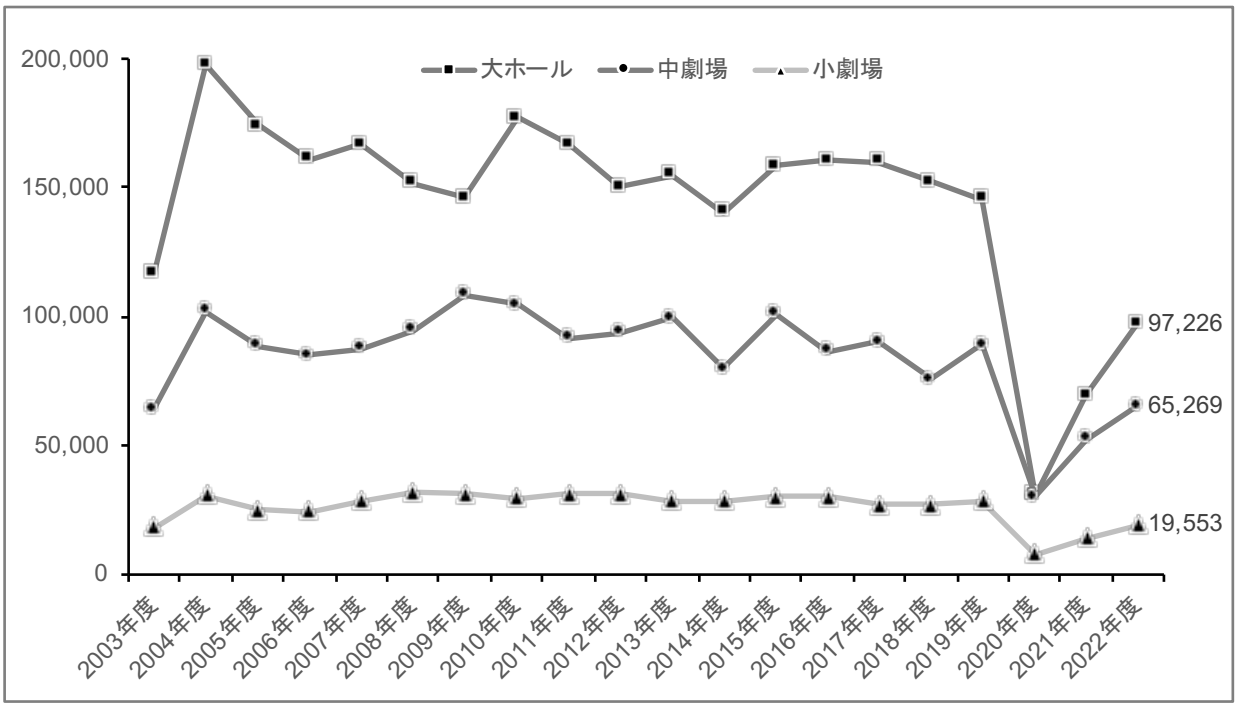
	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	66	205	271	143	145	288	121	99	220	330	449	779
2004年度	87	482	569	242	325	567	404	176	580	733	983	1,716
2005年度	102	467	569	289	229	518	471	130	601	862	826	1,688
2006年度	139	382	521	298	244	542	573	146	719	1,010	772	1,782
2007年度	186	381	567	325	237	562	564	148	712	1,075	766	1,841
2008年度	134	365	499	217	327	544	462	226	688	813	918	1,731
2009年度	64	415	479	213	369	582	318	267	585	595	1,051	1,646
2010年度	104	441	545	159	367	526	316	269	585	579	1,077	1,656
2011年度	25	503	528	230	319	549	337	268	605	592	1,090	1,682
2012年度	80	470	550	197	340	537	368	241	609	645	1,051	1,696
2013年度	131	452	583	158	379	537	399	210	609	688	1,041	1,729
2014年度	110	383	493	175	325	500	359	189	548	644	897	1,541
2015年度	139	450	589	177	424	601	324	310	634	640	1,184	1,824
2016年度	120	443	563	99	366	465	359	289	648	578	1,098	1,676
2017年度	69	470	539	135	397	532	341	229	570	545	1,096	1,641
2018年度	59	435	494	159	307	466	259	258	517	477	1,000	1,477
2019年度	56	482	538	105	405	510	333	252	585	494	1,139	1,633
2020年度	35	150	185	74	174	248	131	127	258	240	451	691
2021年度	110	345	455	111	326	437	232	196	428	453	867	1,320
2022年度	51	445	496	137	348	485	245	241	486	433	1,034	1,467
累計	1,867	8,166	10,033	3,643	6,353	9,996	6,916	4,271	11,187	12,426	18,790	31,216



(9) 施設の利用者数

2022年度の施設の利用者数を見ると、大ホールは97,226人、中劇場は65,269人、小劇場は19,553人で、合計182,048人となっている。3つのホールの合計のうち、貸館事業での利用者数は156,206人、自主事業での利用者数は25,842人となっている。

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計	自主事業	貸館事業	合計
2003年度	23,937	93,100	117,037	22,890	41,524	64,414	7,402	10,769	18,171	54,229	145,393	199,622
2004年度	22,445	175,273	197,718	29,970	71,901	101,871	16,996	13,626	30,622	69,411	260,800	330,211
2005年度	13,034	160,673	173,707	33,153	55,644	88,797	14,592	10,478	25,070	60,779	226,795	287,574
2006年度	26,027	134,966	160,993	29,814	55,050	84,864	15,651	8,853	24,504	71,492	198,869	270,361
2007年度	34,015	132,444	166,459	29,182	58,491	87,673	17,837	10,772	28,609	81,034	201,707	282,741
2008年度	17,877	133,686	151,563	17,699	77,324	95,023	14,661	17,281	31,942	50,237	228,291	278,528
2009年度	7,625	138,611	146,236	22,087	86,166	108,253	12,873	18,186	31,059	42,585	242,963	285,548
2010年度	21,429	155,767	177,196	16,140	88,614	104,754	12,457	16,967	29,424	50,026	261,348	311,374
2011年度	2,979	163,922	166,901	20,838	70,958	91,796	11,947	19,011	30,958	35,764	253,891	289,655
2012年度	10,696	139,621	150,317	18,158	75,782	93,940	12,954	18,014	30,968	41,808	233,417	275,225
2013年度	23,017	131,814	154,831	15,696	83,956	99,652	15,563	13,088	28,651	54,276	228,858	283,134
2014年度	19,526	121,017	140,543	10,645	69,397	80,042	12,726	16,140	28,866	42,897	206,554	249,451
2015年度	25,106	133,240	158,346	19,581	81,557	101,138	10,555	19,839	30,394	55,242	234,636	289,878
2016年度	30,999	129,465	160,464	10,753	75,534	86,287	12,419	17,893	30,312	54,171	222,892	277,063
2017年度	11,962	148,154	160,116	11,455	78,566	90,021	11,128	15,770	26,898	34,545	242,490	277,035
2018年度	12,757	139,469	152,226	12,676	63,035	75,711	7,958	19,216	27,174	33,391	221,720	255,111
2019年度	13,460	132,085	145,545	10,422	78,458	88,880	12,378	16,372	28,750	36,260	226,915	263,175
2020年度	3,536	27,117	30,653	4,382	25,953	30,335	3,104	4,569	7,673	11,022	57,639	68,661
2021年度	7,665	61,581	69,246	8,500	44,017	52,517	6,144	8,158	14,302	22,309	113,756	136,065
2022年度	7,136	90,090	97,226	11,648	53,621	65,269	7,058	12,495	19,553	25,842	156,206	182,048
累計	335,228	2,542,095	2,877,323	355,689	1,335,548	1,691,237	236,403	287,497	523,900	927,320	4,165,140	5,092,460

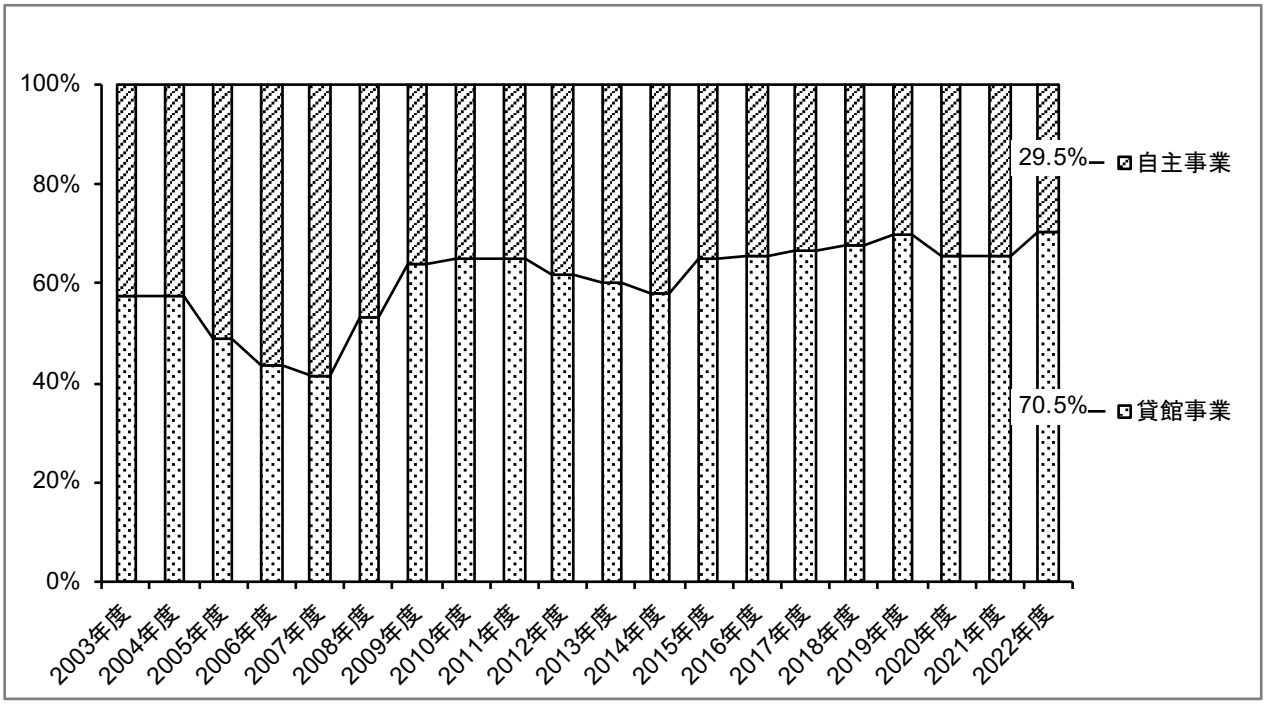


(10) 自主事業・貸館事業比率

2022年度の施設の利用件数で、自主事業と貸館事業の比率は、貸館事業が70.5%、自主事業は29.5%となっている。開館から2007年度までは自主事業の利用の比率が増加傾向にあったが、2008年度以降は貸館事業の比率が増加傾向にある。2022年度は開館以降で最も貸館事業の比率が高い。

自主事業と貸館事業の比率
［件数ベース］

	貸館事業	自主事業
2003年度	57.6%	42.4%
2004年度	57.3%	42.7%
2005年度	48.9%	51.1%
2006年度	43.3%	56.7%
2007年度	41.6%	58.4%
2008年度	53.0%	47.0%
2009年度	63.9%	36.1%
2010年度	65.0%	35.0%
2011年度	64.8%	35.2%
2012年度	62.0%	38.0%
2013年度	60.2%	39.8%
2014年度	58.2%	41.8%
2015年度	64.9%	35.1%
2016年度	65.5%	34.5%
2017年度	66.8%	33.2%
2018年度	67.7%	32.3%
2019年度	69.7%	30.3%
2020年度	65.3%	34.7%
2021年度	65.3%	34.7%
2022年度	70.5%	29.5%

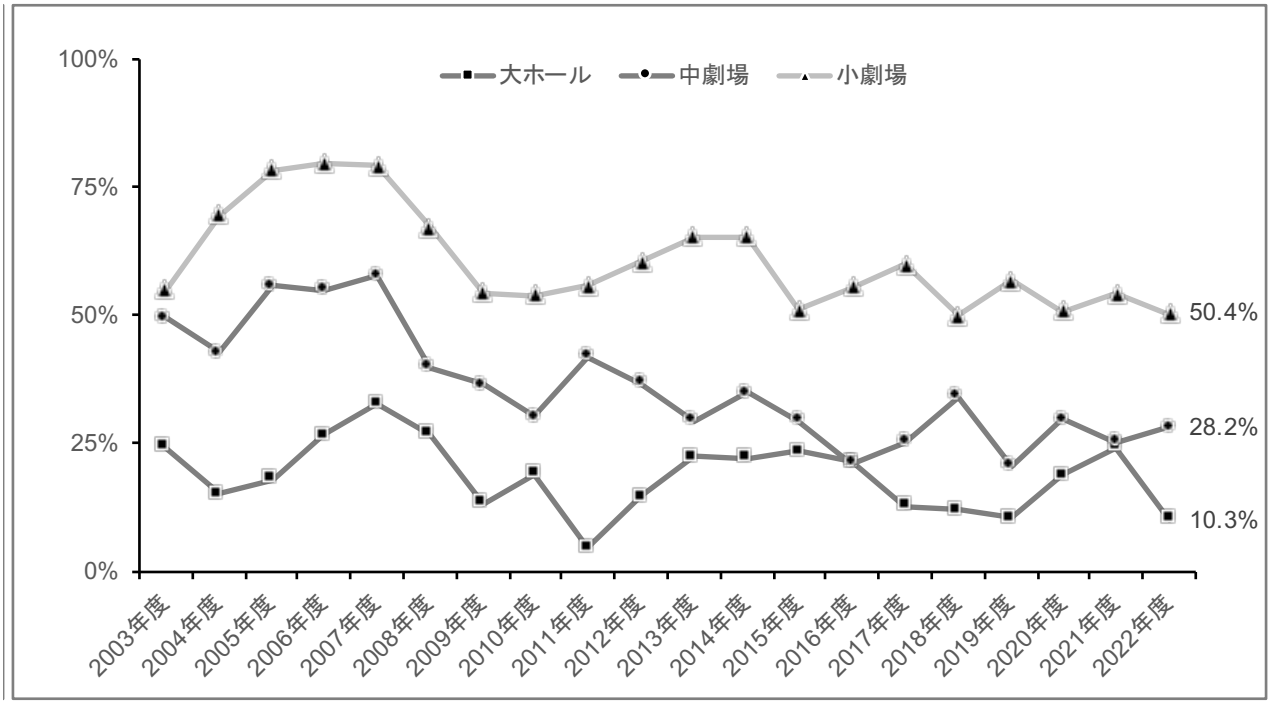


(11) ホール別の自主事業比率

ホール別の自主事業の利用件数の比率は、2022年度は大ホールが10.3%、中劇場が28.2%、小劇場が50.4%となっている。

ホール別の自主事業比率
［件数ベース］

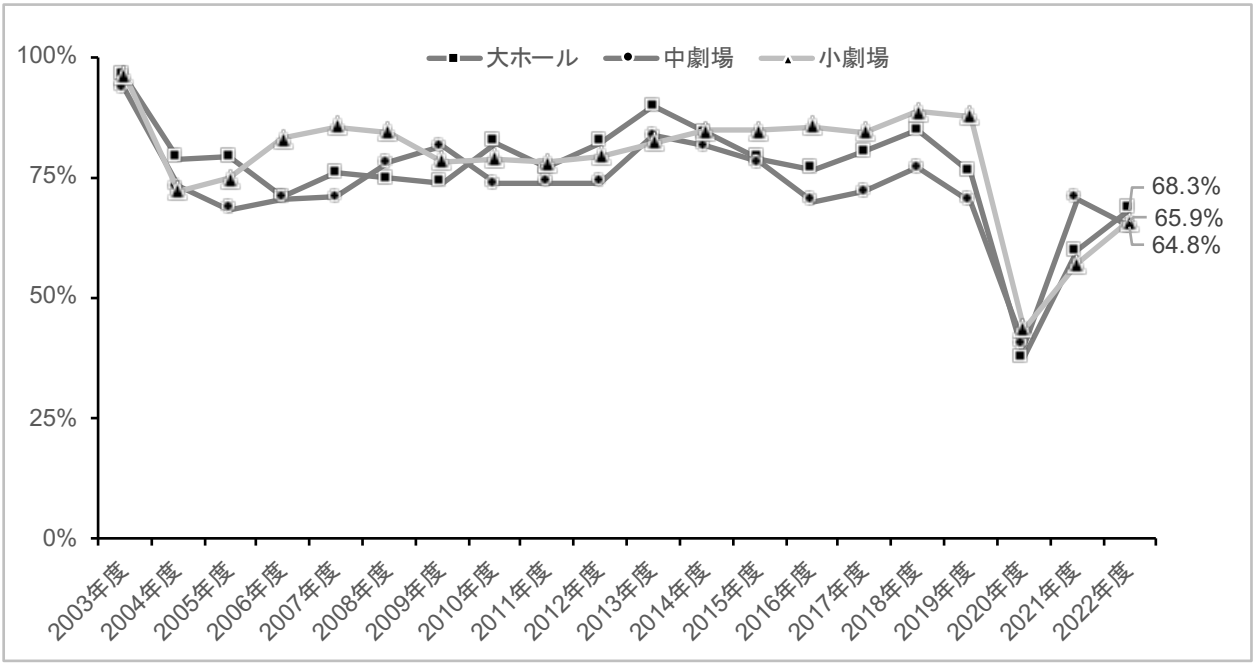
	大ホール	中劇場	小劇場
2003年度	24.4%	49.7%	55.0%
2004年度	15.3%	42.7%	69.7%
2005年度	17.9%	55.8%	78.4%
2006年度	26.7%	55.0%	79.7%
2007年度	32.8%	57.8%	79.2%
2008年度	26.9%	39.9%	67.2%
2009年度	13.4%	36.6%	54.4%
2010年度	19.1%	30.2%	54.0%
2011年度	4.7%	41.9%	55.7%
2012年度	14.5%	36.7%	60.4%
2013年度	22.5%	29.4%	65.5%
2014年度	22.3%	35.0%	65.5%
2015年度	23.6%	29.5%	51.1%
2016年度	21.3%	21.3%	55.4%
2017年度	12.8%	25.4%	59.8%
2018年度	11.9%	34.1%	50.1%
2019年度	10.4%	20.6%	56.9%
2020年度	18.9%	29.8%	50.8%
2021年度	24.2%	25.4%	54.2%
2022年度	10.3%	28.2%	50.4%



(12) 稼働率

2022年度の施設稼働率（利用対象日数に対する公演日数の割合）は、大ホールが68.3%、中劇場は64.8%、小劇場は65.9%となっており、3ホール合計では65.9%となっている。新型コロナウイルスの影響が大きかった2020年度、2021年度に次いで少ない稼働率となっている。

	大ホール			中劇場			小劇場			計		
	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率
2003年度	99	103	96.1%	100	107	93.5%	83	86	96.5%	282	296	95.3%
2004年度	219	277	79.1%	207	283	73.1%	220	304	72.4%	646	864	74.8%
2005年度	223	281	79.4%	189	276	68.5%	222	297	74.7%	634	854	74.2%
2006年度	202	285	70.9%	199	282	70.6%	254	306	83.0%	655	873	75.0%
2007年度	220	290	75.9%	205	289	70.9%	257	300	85.7%	682	879	77.6%
2008年度	192	257	74.7%	203	260	78.1%	249	295	84.4%	644	812	79.3%
2009年度	194	262	74.0%	212	260	81.5%	221	282	78.4%	627	804	78.0%
2010年度	215	261	82.4%	197	267	73.8%	225	285	78.9%	637	813	78.4%
2011年度	211	274	77.0%	202	273	74.0%	234	299	78.3%	647	846	76.5%
2012年度	217	264	82.2%	204	276	73.9%	237	298	79.5%	658	838	78.5%
2013年度	226	252	89.7%	204	244	83.6%	229	278	82.4%	659	774	85.1%
2014年度	192	228	84.2%	188	231	81.4%	208	245	84.9%	588	704	83.5%
2015年度	228	289	78.9%	225	288	78.1%	244	288	84.7%	697	865	80.6%
2016年度	218	284	76.8%	177	253	70.0%	246	287	85.7%	641	824	77.8%
2017年度	206	256	80.5%	206	286	72.0%	217	257	84.4%	629	799	78.7%
2018年度	190	224	84.8%	173	225	76.9%	198	223	88.8%	561	672	83.5%
2019年度	209	274	76.3%	198	283	70.0%	217	247	87.9%	624	804	77.6%
2020年度	69	183	37.7%	93	232	40.1%	100	230	43.5%	262	645	40.6%
2021年度	172	287	59.9%	166	235	70.6%	165	289	57.1%	503	811	62.0%
2022年度	196	287	68.3%	186	287	64.8%	189	287	65.9%	189	287	65.9%
累計	3,898	5,118	76.2%	3,734	5,137	72.7%	4,215	5,383	78.3%	11,465	15,064	76.1%



(13) ５か年毎の利用件数、利用者数、稼働率

2003年度から2022年度までの20年間を5カ年毎で4期に区分して利用件数、利用者数、稼働率の平均を算出した。第4期はコロナ禍の影響を大きく受けたため、5ヵ年毎の利用件数、利用者数、稼働率の平均は第３期を大きく下回った。

5カ年毎の平均利用件数

	大ホール	中劇場	小劇場	計※
第1期 (2003～07年度)	499	495	566	1,561
第2期 (2008～12年度)	520	548	614	1,682
第3期 (2013～17年度)	553	527	602	1,682
第4期 (2018～22年度)	434	429	455	1,318

※5カ年毎の平均利用件数は小数点以下を四捨五入しているため、計の数値が各データの計と合わない箇所がある。

5カ年毎の平均利用者数

	大ホール	中劇場	小劇場	計
第1期 (2003～07年度)	163,183	85,524	25,395	274,102
第2期 (2008～12年度)	158,443	98,753	30,870	288,066
第3期 (2013～17年度)	154,860	91,428	29,024	275,312
第4期 (2018～22年度)	98,979	62,542	19,490	181,012

５カ年毎の平均稼働率※

	大ホール	中劇場	小劇場	計
第1期 (2003～07年度)	77.9%	72.8%	80.1%	77.0%
第2期 (2008～12年度)	78.1%	76.2%	79.9%	78.1%
第3期 (2013～17年度)	81.7%	76.8%	84.4%	81.0%
第4期 (2018～22年度)	66.6%	64.7%	68.1%	66.4%

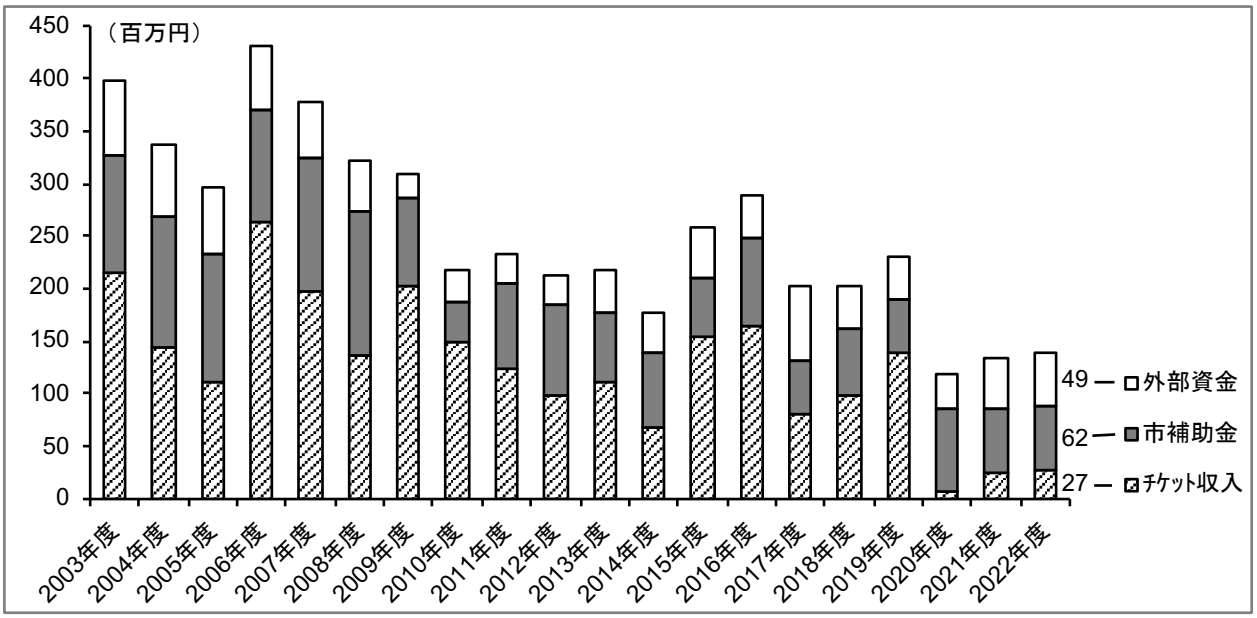
※平均稼働率は加重平均（5年間ごとの公演日数の合計を利用可能日数の合計で割った数値）となっている。

(14) 事業費の財源内訳

2022年度の事業費は、1億3,907万6千円となっている。その内訳を見ると、チケット収入が2,740万5千円、市補助金が6,220万1千円、外部資金が4,947万円となっている。

（単位：千円）

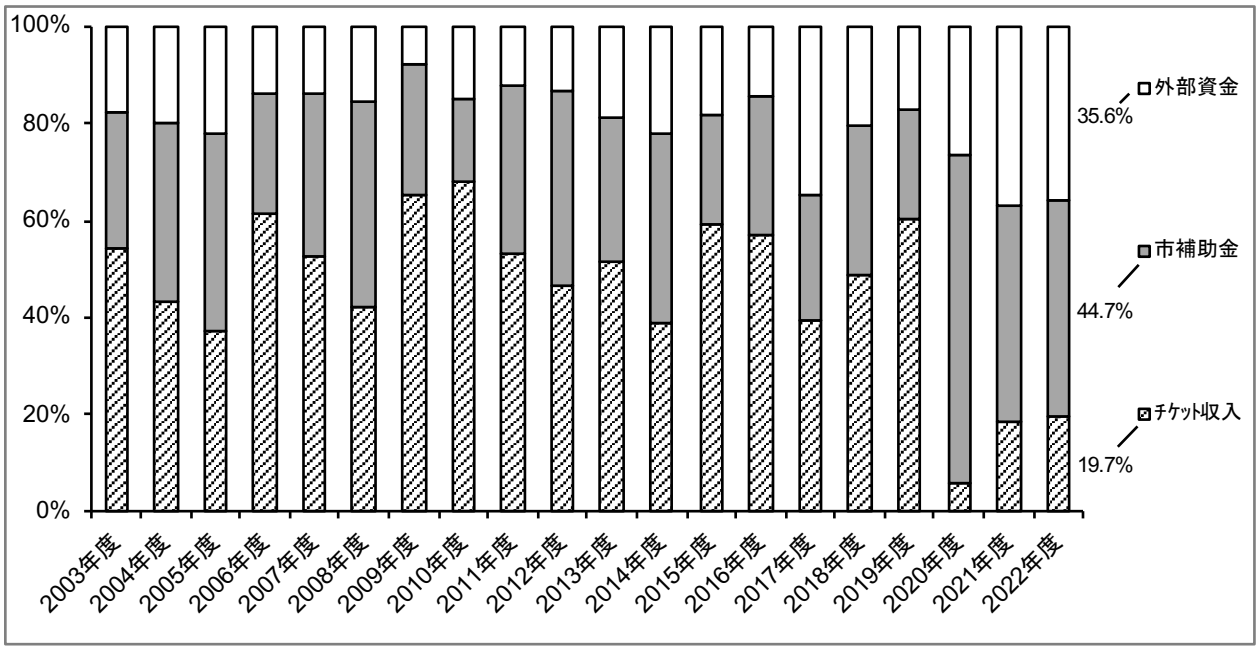
	チケット収入	市補助金	外部資金	（内訳）				計
				文化庁	地域創造	その他助成金	協賛金	
2003年度	215,389	112,225	70,700	49,000	10,000	11,700	0	398,314
2004年度	145,429	124,198	67,000	49,000	18,000	0	0	336,627
2005年度	110,060	121,965	65,295	45,795	19,500	0	0	297,320
2006年度	263,901	106,363	59,517	45,800	13,717	0	0	429,781
2007年度	197,355	127,456	52,051	36,600	15,451	0	0	376,862
2008年度	135,979	136,854	49,579	27,400	22,179	0	0	322,412
2009年度	202,004	83,331	24,432	18,000	6,432	0	0	309,767
2010年度	149,051	37,726	32,072	11,000	10,572	0	10,500	218,849
2011年度	123,355	81,302	28,509	26,902	1,607	0	0	233,166
2012年度	99,616	85,741	28,262	25,349	2,165	748	0	213,619
2013年度	111,886	64,354	40,693	33,965	6,728	0	0	216,933
2014年度	68,803	70,401	39,222	30,552	8,670	0	0	178,426
2015年度	153,107	58,001	47,376	36,236	7,707	3,433	0	258,484
2016年度	164,939	83,014	41,384	37,012	3,651	721	0	289,337
2017年度	80,032	52,420	70,786	62,534	6,851	1,401	0	203,238
2018年度	98,486	62,745	41,385	36,731	3,500	1,154	0	202,616
2019年度	139,510	51,489	39,746	34,703	3,914	1,129	0	230,745
2020年度	7,072	79,606	31,238	25,998	4,435	805	0	117,916
2021年度	24,822	60,090	49,169	48,934	130	105	0	134,081
2022年度	27,405	62,201	49,470	43,351	5,984	135	0	139,076
累計	2,518,201	1,661,482	927,886	724,862	171,193	21,331	10,500	5,107,569



(15) 事業費の財源比率

2022年度の事業費の財源比率を見ると、チケット収入が19.7%、市の補助金が44.7%、外部資金が35.6%となっている。2022年度では、新型コロナウイルスの影響が大きかった2021年度、2020年度に引き続き、チケット収入の割合が低く、市補助金と外部資金の割合が高くなっている。

	ﾁｹｯﾄ収入	市補助金	外部資金
2003年度	54.1%	28.2%	17.7%
2004年度	43.2%	36.9%	19.9%
2005年度	37.0%	41.0%	22.0%
2006年度	61.4%	24.7%	13.8%
2007年度	52.4%	33.8%	13.8%
2008年度	42.2%	42.4%	15.4%
2009年度	65.2%	26.9%	7.9%
2010年度	68.1%	17.2%	14.7%
2011年度	52.9%	34.9%	12.2%
2012年度	46.6%	40.1%	13.2%
2013年度	51.6%	29.7%	18.8%
2014年度	38.6%	39.5%	22.0%
2015年度	59.2%	22.4%	18.3%
2016年度	57.0%	28.7%	14.3%
2017年度	39.4%	25.8%	34.8%
2018年度	48.6%	31.0%	20.4%
2019年度	60.5%	22.3%	17.2%
2020年度	6.0%	67.5%	26.5%
2021年度	18.5%	44.8%	36.7%
2022年度	19.7%	44.7%	35.6%
累計	49.3%	32.5%	18.2%



(16) 5か年毎の事業費の財源内訳

2003年度から2022年度までの20年間を5カ年毎で4期に区分して財源の内訳の比率の平均を算出した。第３期までは5カ年毎の財源内訳の比率は増減しながら、チケット収入5割、市の補助金3割、外部資金2割の前後を推移してきたが、第4期はコロナ禍の影響を大きく受けたため、市の補助金とチケット収入がほぼ同じ割合となった。

5カ年毎の事業費の財源内訳の平均割合※1

	ﾁｹｯﾄ収入	市補助金	外部資金
第1期（2003～07年度）	50.7%	32.2%	17.1%
第2期 (2008～12年度)	54.7%	32.7%	12.5%
第3期（2013～17年度）	50.5%	28.6%	20.9%
第4期 (2018～22年度)	36.1%	38.3%	25.6%
参考：全国平均試算値※2	46.4%	40.8%	12.9%

※1　平均割合は加重平均（5年間ごとに各収入の累計を収入全体の累計で割った数値）となっている。

※2　(一財) 地域創造「2019年度地域の公立文化施設実態調査」報告書から施設運営費（指定管理）の「2018年度決算金額」の内訳から事業に係る財源を抽出、算出した（コロナ禍以前のデータであることに留意が必要）。

(17) 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額

2022年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約3,286万円の減収、補助金等収入は約46万円の減収となっている。2022年度は事業収入と補助金等収入がともに減少した形になった。

（単位：千円）

	事業収入			補助金等収入		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	194,300 48.6%	215,389 54.1%	△ 21,089	205,700 51.4%	182,925 45.9%	22,775
2004年度	146,346 41.1%	145,429 43.2%	917	209,300 58.9%	191,198 56.8%	18,102
2005年度	130,500 37.3%	110,060 37.0%	20,440	219,500 62.7%	187,260 63.0%	32,240
2006年度	265,709 53.9%	263,901 61.4%	1,808	227,531 46.1%	165,880 38.6%	61,651
2007年度	212,173 50.2%	197,355 52.4%	14,818	210,800 49.8%	179,507 47.6%	31,293
2008年度	269,172 54.1%	135,979 42.2%	133,193	228,412 45.9%	186,433 57.8%	41,979
2009年度	157,949 44.7%	202,004 65.2%	△ 44,055	195,470 55.3%	107,763 34.8%	87,707
2010年度	110,503 43.9%	149,051 68.1%	△ 38,548	141,200 56.1%	69,798 31.9%	71,402
2011年度	140,284 45.8%	123,355 52.9%	16,929	166,136 54.2%	109,811 47.1%	56,325
2012年度	101,983 38.6%	99,616 46.6%	2,367	162,000 61.4%	114,003 53.4%	47,997
2013年度	84,322 36.7%	111,886 51.6%	△ 27,564	145,632 63.3%	105,047 48.4%	40,585
2014年度	46,545 27.2%	68,803 43.5%	△ 22,258	124,423 72.8%	89,336 56.5%	35,087
2015年度	155,232 56.2%	153,107 59.2%	2,125	120,780 43.8%	105,377 40.8%	15,403
2016年度	225,012 60.5%	164,939 57.0%	60,073	147,154 39.5%	124,398 43.0%	22,756
2017年度	90,332 36.0%	80,032 39.4%	10,300	160,689 64.0%	123,206 60.6%	37,483
2018年度	116,546 49.5%	98,486 48.6%	18,060	118,836 50.5%	104,130 51.4%	14,706
2019年度	127,701 51.6%	139,510 60.5%	△ 11,809	119,833 48.4%	91,235 39.5%	28,598
2020年度	39,250 23.6%	7,072 6.0%	32,178	127,247 76.4%	110,844 94.0%	16,403
2021年度	52,799 31.3%	24,822 18.5%	27,977	116,146 68.7%	109,259 81.5%	6,887
2022年度	60,264 35.0%	27,405 19.7%	32,859	112,126 65.0%	111,671 80.3%	455
累計	2,726,922 45.6%	2,518,201 49.5%	208,721	3,258,915 54.4%	2,569,081 50.5%	689,834

(18) 補助金等収入における市補助金と外部資金の内訳

2022年度の事業費について、補助金等収入の予算額と決算額の差異は市補助金収入で約693万円の増収、外部資金収入は約739万円の減収となっている。

（単位：千円）

	市補助金			外部資金		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	135,000 65.6%	112,225 61.4%	22,775	70,700 34.4%	70,700 38.6%	0
2004年度	135,000 64.5%	124,198 65.0%	10,802	74,300 35.5%	67,000 35.0%	7,300
2005年度	151,000 68.8%	121,965 65.1%	29,035	68,500 31.2%	65,295 34.9%	3,205
2006年度	145,000 63.7%	106,363 64.1%	38,637	82,531 36.3%	59,517 35.9%	23,014
2007年度	149,000 70.7%	127,456 71.0%	21,544	61,800 29.3%	52,051 29.0%	9,749
2008年度	149,000 65.2%	136,854 73.4%	12,146	79,412 34.8%	49,579 26.6%	29,833
2009年度	135,000 69.1%	83,331 77.3%	51,669	60,470 30.9%	24,432 22.7%	36,038
2010年度	108,000 76.5%	37,726 54.1%	70,274	33,200 23.5%	32,072 45.9%	1,128
2011年度	128,000 77.0%	81,302 74.0%	46,698	38,136 23.0%	28,509 26.0%	9,627
2012年度	128,000 79.0%	85,741 75.2%	42,259	34,000 21.0%	28,262 24.8%	5,738
2013年度	111,000 76.2%	64,354 61.3%	46,646	34,632 23.8%	40,693 38.7%	△ 6,061
2014年度	89,284 71.8%	50,114 56.1%	39,170	35,139 28.2%	39,222 43.9%	△ 4,083
2015年度	82,588 68.4%	58,001 55.0%	24,587	38,192 31.6%	47,376 45.0%	△ 9,184
2016年度	99,989 67.9%	83,014 66.7%	16,975	47,165 32.1%	41,384 33.3%	5,781
2017年度	94,576 58.9%	52,420 42.5%	42,156	66,113 41.1%	70,786 57.5%	△ 4,673
2018年度	81,116 68.3%	62,745 60.3%	18,371	37,720 31.7%	41,385 39.7%	△ 3,665
2019年度	71,668 59.8%	51,489 56.4%	20,179	48,165 40.2%	39,746 43.6%	8,419
2020年度	85,011 66.8%	79,606 71.8%	5,405	42,236 33.2%	31,238 28.2%	10,998
2021年度	71,788 61.8%	60,090 55.0%	11,698	44,358 38.2%	49,169 45.0%	△ 4,811
2022年度	55,268 49.3%	62,201 55.7%	△ 6,933	56,858 50.7%	49,470 44.3%	7,388
累計	2,205,288 67.7%	1,641,195 63.9%	564,093	1,053,627 32.3%	927,886 36.1%	125,741

(20) ５か年毎の事業費の財源内訳

2003年度から2022年度までの20年間を5カ年毎で4期に区分して事業収入、補助金等収入の予算額・決算額比率の平均を算出した。第3期までは5カ年毎の事業収入と補助金等収入の比率は、増減はあるが事業収入5割、補助金等収入5割の前後を推移していきたが、第4期はコロナ禍の影響を大きく受けたため、事業収入４割、補助金等収入6割となった。

事業収入、補助金等収入の予算額・決算額のバランス※

	事業収入		補助金等収入	
	予算額	決算額	予算額	決算額
第1期（2003～07年度）	46.9%	50.7%	53.1%	49.3%
第2期 (2008～12年度)	46.6%	54.7%	53.4%	45.3%
第3期（2013～17年度）	46.3%	51.4%	53.7%	48.6%
第4期 (2018～22年度)	40.0%	36.1%	60.0%	63.9%

※平均割合は加重平均（5年間ごとに各収入の累計を収入全体の累計で割った数値）となっている。

Ⅱ

観客調査結果

序　観客調査の実施要領

観客調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象：2022年度に北九州芸術劇場で実施した主催事業および提携・協力事業公演19公演
- 配布・回収方法：各公演の開演時に配布、終演時に回収（後日ファックス、郵送にて回収も受付）
- 実施時期： 2022年4月15日～2023年3月19日
- 有効回答数：995、回収率：10.3%（配布数：9,639件）
- 調査対象の公演名、会場、ジャンル、公演ごとの配布数、回収数等の詳細は、図表-資Ⅰ-1のとおりである。

図表-資Ⅰ-1 アンケート調査実施公演一覧

公 演 名	会 場	公演ジャンル	配布日	配布数	回収数	回収率(%)
東京成人演劇部 vol.2 「命、ギガ長スW（ダブル）」	中劇場	小劇場・現代演劇	4/15~17	1,381	95	6.9%
万能グローブ ガラパゴスダイナモス 第 29 回公演「甘い手」	小劇場	小劇場・現代演劇	4/23~24	400	5	1.3%
ゴジゲン第 18 回公演「かえりにち」	小劇場	小劇場・現代演劇	5/2~4	359	165	46.0%
to R mansion 「にんぎょひめ」	小劇場	パフォーマンス	6/25~26	508	34	6.7%
東京デスロック「再生」劇団 +北九州バージョン	小劇場	小劇場・現代演劇	7/9~10	312	21	6.7%
「劇トツ×20 分」2022	小劇場	小劇場・現代演劇	7/17	121	30	24.8%
Ode to Life ～幸せなおじぃとおばぁ～	小劇場	小劇場・現代演劇	7/31	143	5	3.5%
マームとジプシー「cocoon」	中劇場	小劇場・現代演劇	8/14	331	24	7.3%
気づかいルーシー	中劇場	小劇場・現代演劇	8/28	447	42	9.4%
モノレール公演「きみをさがして」	モノレール	小劇場・現代演劇	9/2~3	136	16	11.8%
「夜の女たち」	中劇場	ミュージカル ・商業演劇	9/24~25	1,017	61	6.0%
ブルーエゴナク 10 周年記念公演 「バスはどこにも行かないで」	小劇場	小劇場・現代演劇	10/7~9	303	97	32.0%
「スカパン」	中劇場	小劇場・現代演劇	10/23	268	26	9.7%
飛ぶ劇場 Vol.44「死者そ会議」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/4~6	400	130	32.5%
マギー・マラン「May B」	中劇場	ダンス・現代舞踊	11/23	364	21	5.8%
KERA・MAP #010「しびれ雲」	中劇場	小劇場・現代演劇	12/17~18	1,450	55	3.8%
二兎社「歌わせたい男たち」	中劇場	小劇場・現代演劇	1/29	569	63	11.1%
北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「君といつまでも～Re:北九州の記憶～」	小劇場	小劇場・現代演劇	2/23~26	507	54	10.7%
山海塾「TOTEM 真空と高み」世界初演	中劇場	ダンス・現代舞踊	3/18~19	623	51	8.2%
計	―	―	―	9,639	995	10.3%

（注）配布数は、アンケートを配布する公演初日の入場者数と設定している。

(2) 調査項目

- 来場公演名、ジャンル（調査票の右肩に記載されている公演名から分類）
- 情報入手経路、公演に来た理由
- 公演内容や劇場サービスに対する満足度、総合満足度
- 運営方針に対する賛同
- 公演鑑賞前後の飲食やショッピング
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験
- 来場の妨げになっていること
- 基本属性（性別、年齢層、居住エリア）

(3) 来場公演のジャンル、年齢の分類

①来場公演のジャンル

- 調査結果の集計にあたっては、ジャンルごとの傾向を把握するため、公演を「小劇場・現代演劇」、「ミュージカル・商業演劇」、「ダンス・現代舞踊」、「パフォーマンス」の4つのジャンルに分類した（例年では「音楽劇」、「古典芸能（歌舞伎・能等）」を加えて集計しているが、2022年度は当該分野の事業が行われなかった）。
- 調査対象19公演のジャンル分類は図表-資Ⅰ-1にも記しているとおり、
  - 小劇場・現代演劇： 15公演　※下記他ジャンルの3公演以外
  - ミュージカル・商業演劇：1公演…「夜の女たち」
  - ダンス・現代舞踊：2公演…マギー・マラン「May B」／山海塾「TOTEM 真空と高み」世界初演
  - パフォーマンス：1公演…to R mansion 「にんぎょひめ」

となっている。

※22年度のアンケート結果は、「小劇場・現代演劇」の観客が多いことに留意が必要であるが、劇場全体の公演プログラムとして「小劇場・現代演劇」が例年多いことを考えると、22年度の観客全体と回答者像に大きな乖離はないと考えられる。

②年齢層

- 実数で記載されている年齢については、年齢ごとの傾向を把握するため、「18歳未満」、「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の6つの年齢層に分類した。

(4) 基本分析軸の設定

- アンケート調査結果の集計・分析にあたっては、鑑賞活動や満足度に関する傾向に顕著な差が出ると考えられる、「来場公演のジャンル」、「性別」、「年齢層」、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」の4つを集計・分析の柱（基本分析軸）として設定した。
- なお、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」は、08年度までは「今日が初めて」「1～5回」「6回以上」の3分類としていたが、鑑賞経験の多い来場者が増えてきたことに伴い、09年度からは、「今日が初めて」「1～2回」「3～5回」「6～10回」「11回以上」の5分類としている。
- 基本分析軸の詳細は図表-資Ⅰ-2のとおりである。

図表-資Ⅰ-2 基本分析軸

基本分析軸	項目	回収数	占有率
全　　体		995	－
来場公演の	小劇場・現代演劇	828	83.2 %

ジャンル n=995	音楽劇	0	0.0%
	ミュージカル・商業演劇	61	6.1%
	古典芸能（歌舞伎・能等）	0	0.0%
	ダンス・現代舞踊	72	7.2%
	パフォーマンス	34	3.4%
性別 n=884	男性	235	26.6%
	女性	649	73.4%
年齢層 n=790	18歳未満	57	7.2%
	18～29歳	129	16.3%
	30歳代	80	10.1%
	40歳代	141	17.8%
	50歳代	228	28.9%
	60歳以上	155	19.6%
北九州芸術劇場での鑑賞経験 n=896	今日が初めて	187	20.9%
	1～2回	105	11.7%
	3～5回	158	17.6%
	6～10回	117	13.1%
	11回以上	329	36.7%

（注1）　基本分析軸に無回答は含まない。

（注2）　無回答の件数は、性別：111件、年齢層：205件、北九州芸術劇場での鑑賞経験：99件である。

1 属性

(1) 性別　Q12

回答者の性別は、「男性」が26.6%、「女性」が73.4%と、「女性」の割合が高い。

		全体	Q12性別【除無回答、単一回答】	
			男性	女性
全体		884	26.6	**73.4**
ジャンル	小劇場・現代演劇	726	28.8	**71.2**
	音楽劇	0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	60	10.0	**90.0**
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	68	22.1	**77.9**
	パフォーマンス	30	16.7	**83.3**
性別	男性	235	100.0	0.0
	女性	649	0.0	100.0
年齢層	18歳未満	57	17.5	**82.5**
	18～29歳	127	28.3	**71.7**
	30歳代	79	20.3	**79.7**
	40歳代	140	30.0	**70.0**
	50歳代	228	26.3	**73.7**
	60歳以上	153	34.6	**65.4**
鑑賞経験	今日が初めて	183	30.6	**69.4**
	1～2回	104	28.8	**71.2**
	3～5回	154	29.2	**70.8**
	6～10回	114	21.1	**78.9**
	11回以上	321	24.9	**75.1**

※n=884は、無回答(111件)を除く。
※表中の網掛け部分は、各属性のうち無回答以外の最高の占率を表す(以下、いずれの表についても同様)。

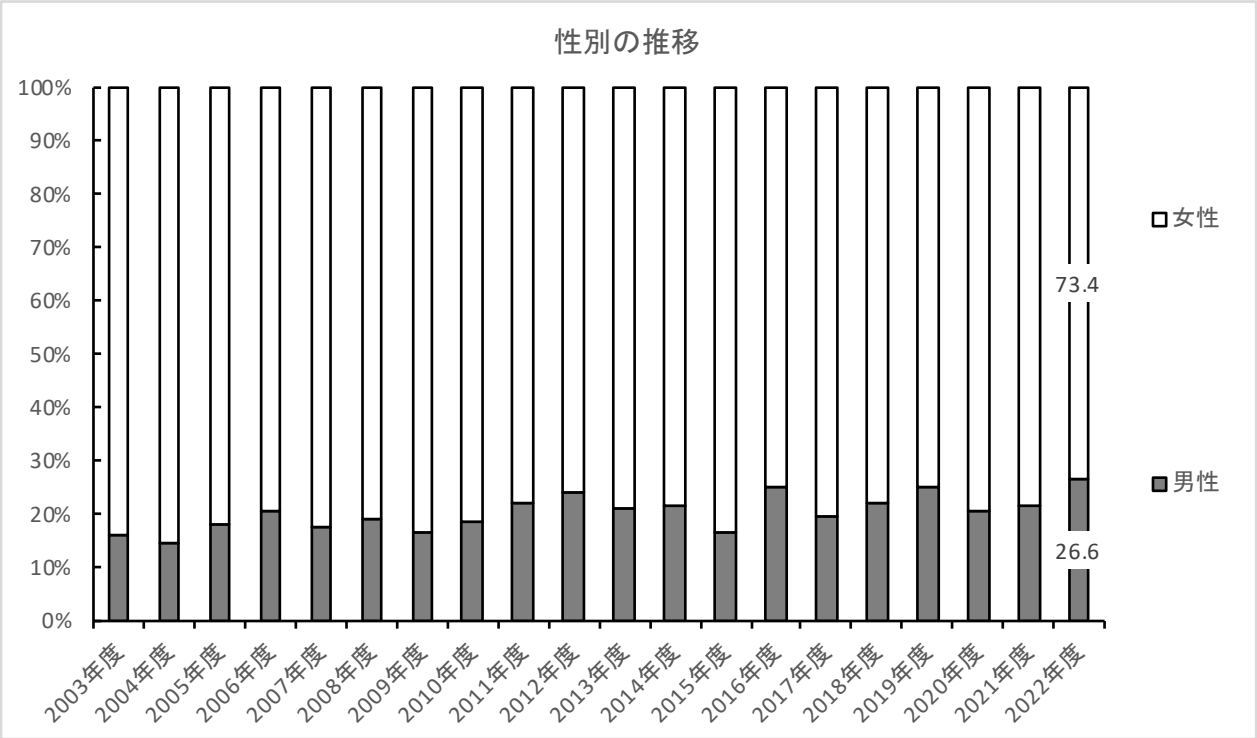
［来場公演のジャンル別］
- いずれのジャンルでも「女性」の割合が高い。

［年齢別］
- いずれの年齢層でも「女性」の割合が高い。「60歳以上」で「男性」の割合が34.6%と他の年齢層に比べて高い。

［北九州芸術劇場での鑑賞経験別］
- 鑑賞経験を問わず「女性」の割合が高い。「今回が初めて」では「男性」の割合が30.6%と他の鑑賞経験に比べて高い。

(1) 性別　Q12

性別の割合の推移を見ると、「女性」は7割から8割、「男性」は2割から3割のあいだを増減している。2022年度は開館以降で最も男性の割合が高くなっている。



(2) 年齢　Q13

回答者の平均年齢は44.8歳。「50歳代」が28.9%と最も割合が高い。次いで「60歳以上」が19.6%、「40歳代」が17.8%、「18～29歳」が16.3%、「30歳代」が10.1%、「18歳未満」が7.2%と、幅広い年齢層の観客が来場している。

		全体	Q13-1年齢階層 【除無回答、単一回答】						平均年齢
			18歳未満	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
全体		790	7.2	16.3	10.1	17.8	**28.9**	19.6	44.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	649	8.0	18.3	9.1	17.1	**29.3**	18.2	43.9
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ミュージカル・商業演劇	52	0.0	9.6	13.5	13.5	**40.4**	23.1	50.4
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	60	0.0	8.3	10.0	18.3	23.3	**40.0**	53.2
	パフォーマンス	29	17.2	0.0	27.6	**41.4**	10.3	3.4	37.4
性別	男性	217	4.6	16.6	7.4	19.4	**27.6**	24.4	46.4
	女性	567	8.3	16.0	11.1	17.3	**29.6**	17.6	44.2
年齢層	18歳未満	57	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4
	18～29歳	129	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.4
	30歳代	80	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	34.7
	40歳代	141	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	44.6
	50歳代	228	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	54.0
	60歳以上	155	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	65.4
鑑賞経験	今日が初めて	171	12.3	**28.7**	10.5	14.0	20.5	14.0	38.6
	1～2回	98	16.3	**23.5**	12.2	11.2	22.4	14.3	38.9
	3～5回	138	10.9	19.6	14.5	20.3	**21.0**	13.8	40.7
	6～10回	97	2.1	11.3	15.5	18.6	**30.9**	21.6	46.8
	11回以上	279	1.1	6.8	5.4	20.8	**39.4**	26.5	51.8

※n=790は、無回答（205件）を除く。

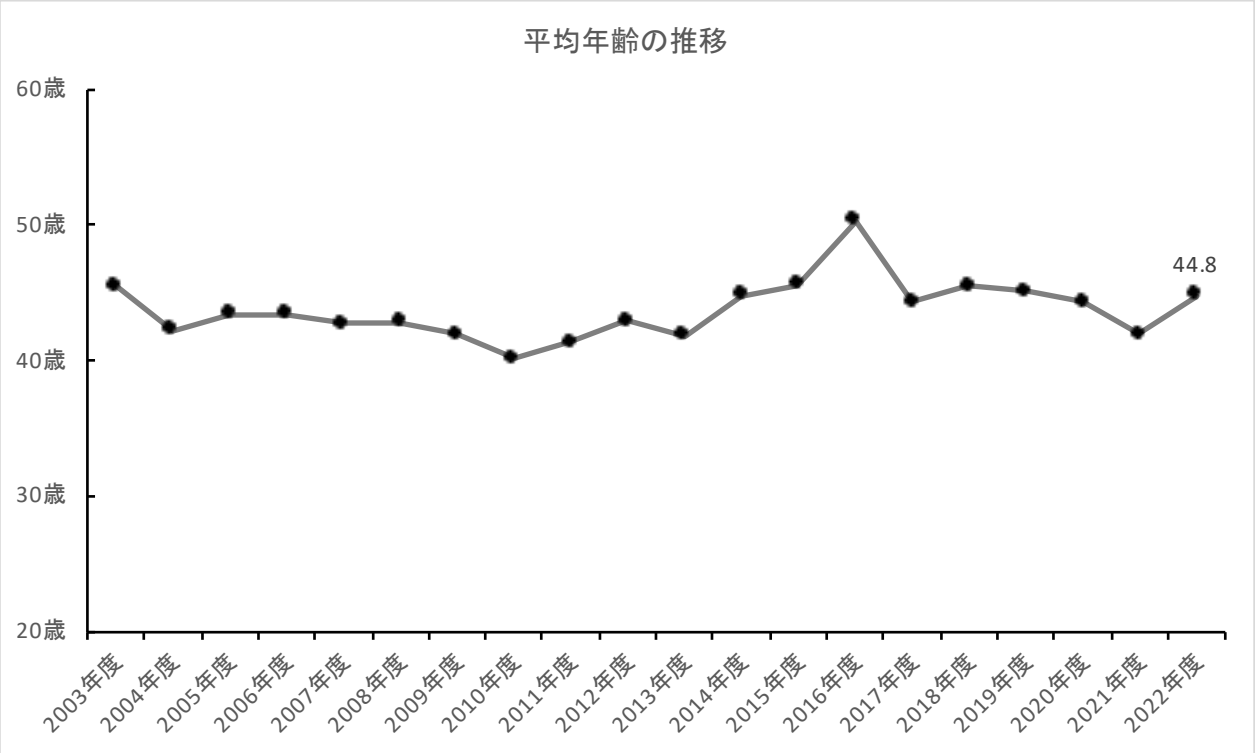
［来場公演のジャンル別］
- 平均年齢は「パフォーマンス」が37.4歳で、他のジャンルに比べて平均年齢が低い。

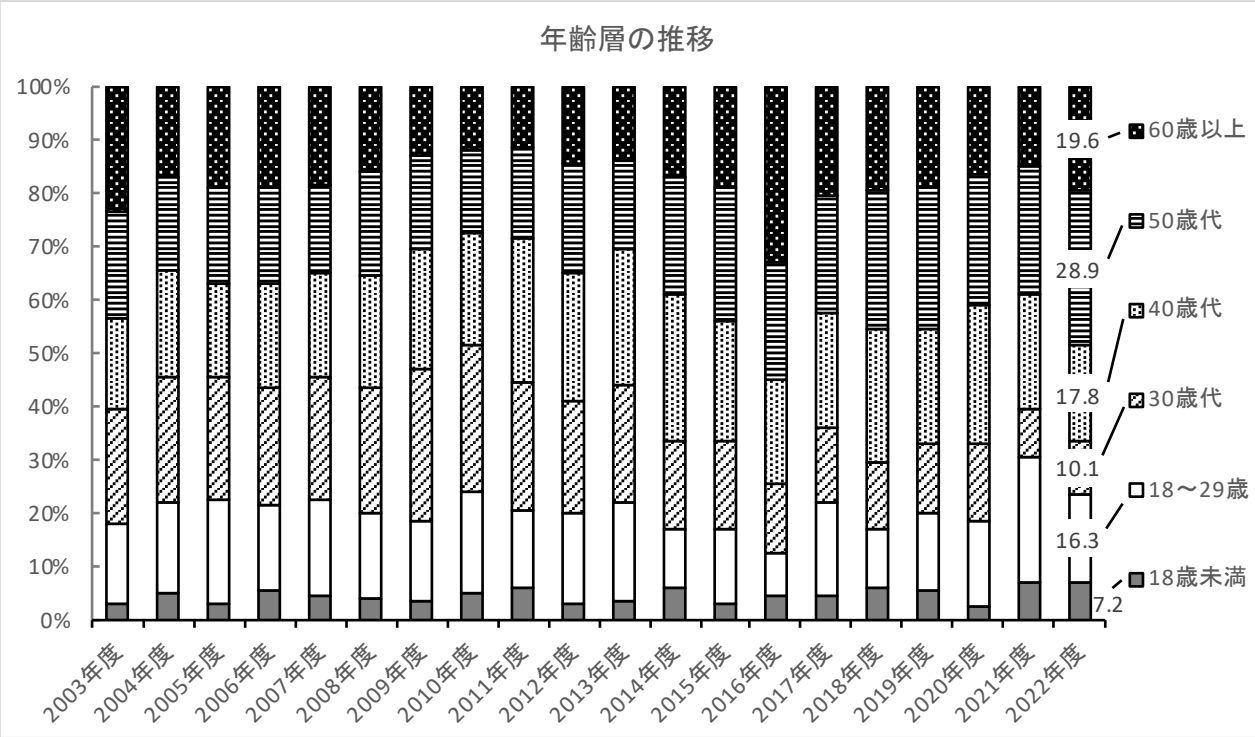
［性別］
- 平均年齢は、「男性」が46.4歳、「女性」が44.2歳と、男性の平均年齢が女性に比べて高い。
- 「男性」では「60歳以上」の割合が女性に比べて高い。

［北九州芸術劇場での鑑賞経験別］
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど平均年齢が高い。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が2回以下の回答者では、「18～29歳」の割合が高い。

(2) 年齢　Q13

年齢層の割合の推移を見ると、2016年度が最も平均年齢が高く50.3歳となったが、それ以外は40歳代で推移している。年齢層の推移を見ると、2004年度から2010年度までは「30歳代」が最も高い割合だったのが、2011年度以降は最も割合の高い年齢層が「40歳代」から「50歳代」へと移行している。2022年度は「50歳代」の割合が前年度までの割合に比べて最も高い割合（28.9%）となっている。





(3) 居住エリア　Q11

回答者の居住エリアは、北九州市及び周辺地域が45.6%(「北九州市」: 37.9%、北九州市周辺: 7.7%)を占めるが、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は51.8%となっている。福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県(23件)、熊本県(13件)、佐賀県(8件)、鹿児島県(4件)長崎県(4件)、宮崎県(3件)等の記載がある。九州・山口以外では、広島県(15件)、東京都(5件)、兵庫県(5件)、島根県(4件)、大阪府(3件)、千葉県(2件)、神奈川県(2件)、京都府(2件)、北海道、埼玉県、長野県、香川県、沖縄県の回答もある。

		全体	Q11居住エリア【単一回答】							北九州市+周辺	北九州市＋周辺以外のエリア
			北九州市	北九州市周辺	福岡市+周辺	北九州・福岡周辺以外の九州	山口県	その他	無回答		
	全体	995	**37.9**	7.7	17.3	10.9	11.5	4.4	10.4	45.6	51.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**37.7**	8.1	17.1	10.4	11.2	4.0	11.5	45.8	50.8
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**39.3**	8.2	19.7	13.1	14.8	0.0	4.9	47.5	55.7
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**30.6**	2.8	19.4	16.7	12.5	15.3	2.8	33.3	66.7
	パフォーマンス	34	**55.9**	8.8	11.8	5.9	8.8	0.0	8.8	64.7	35.3
性別	男性	235	**38.7**	10.6	20.9	12.8	10.6	5.5	0.9	49.4	60.4
	女性	649	**43.1**	7.6	18.3	12.0	12.9	4.6	1.4	50.7	55.5
年齢層	18歳未満	57	33.3	3.5	5.3	14.0	**43.9**	0.0	0.0	36.8	66.7
	18～29歳	129	**42.6**	4.7	27.9	13.2	3.9	4.7	3.1	47.3	54.3
	30歳代	80	**46.3**	11.3	22.5	11.3	3.8	5.0	0.0	57.5	53.8
	40歳代	141	**43.3**	7.1	18.4	14.9	13.5	2.8	0.0	50.4	56.7
	50歳代	228	**39.9**	7.5	18.9	10.5	14.5	6.6	2.2	47.4	57.9
	60歳以上	155	**49.7**	11.0	14.2	10.3	9.0	5.2	0.6	60.6	49.7
鑑賞経験	今日が初めて	187	24.1	8.0	**24.6**	24.1	10.2	7.0	2.1	32.1	73.8
	1～2回	105	**32.4**	7.6	23.8	8.6	16.2	9.5	1.9	40.0	65.7
	3～5回	158	**43.0**	7.0	19.6	13.3	12.0	3.8	1.3	50.0	55.7
	6～10回	117	**44.4**	12.0	19.7	3.4	12.0	7.7	0.9	56.4	54.7
	11回以上	329	**53.5**	8.8	14.0	8.5	13.1	1.5	0.6	62.3	45.9

※小数点第2位以下を四捨五入しているため、「北九州市＋周辺」、「北九州市＋周辺以外のエリア」の数値が各データの計と合わない箇所がある。次頁以降の計の数値でも同様である。

[来場公演のジャンル別]
- 「パフォーマンス」では「北九州市」の割合が高く、「ダンス・現代舞踊」では低くなっている。

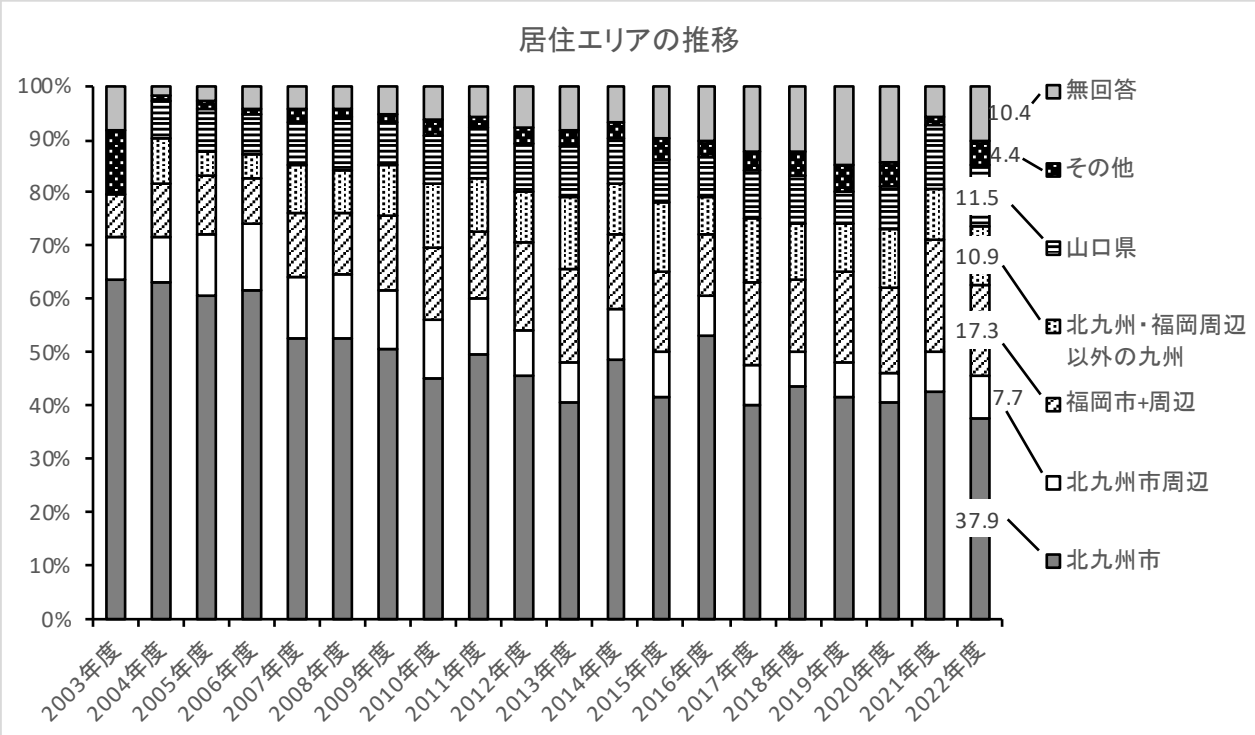
[性別]
- 性別では、男女ともに「北九州市」の割合が高いものの、性別で大きな差はない。

[年齢別]
- 「北九州市」の割合は、「60歳以上」で高く、49.7%となっている。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]
- 鑑賞経験が多くなるほど「北九州市」の割合は高くなっている。

(3) 居住エリア　Q11

居住エリアの推移を見ると、北九州市及び周辺の来場者は開館当初は7割から8割だったが、徐々に北九州市及び周辺以外からの来場者の割合の割合が伸びており、2014年度以降は北九州市及び周辺地域が5割から6割を推移している。2022年度は開館以降で最も北九州市及び周辺地域の割合が低い。



(4) 来場公演のジャンル

回答者が鑑賞した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が83.2%である。そのほかのジャンルについては、「ダンス・現代舞踊」が7.2%、「ミュージカル・商業演劇」が6.1%、「パフォーマンス」が3.4%となっている。

※ 2022年度のアンケート配布19公演のうち、「小劇場・現代演劇」が15公演を占めていることから、全体の数字は、「小劇場・現代演劇」の影響が大きいことに留意が必要である。

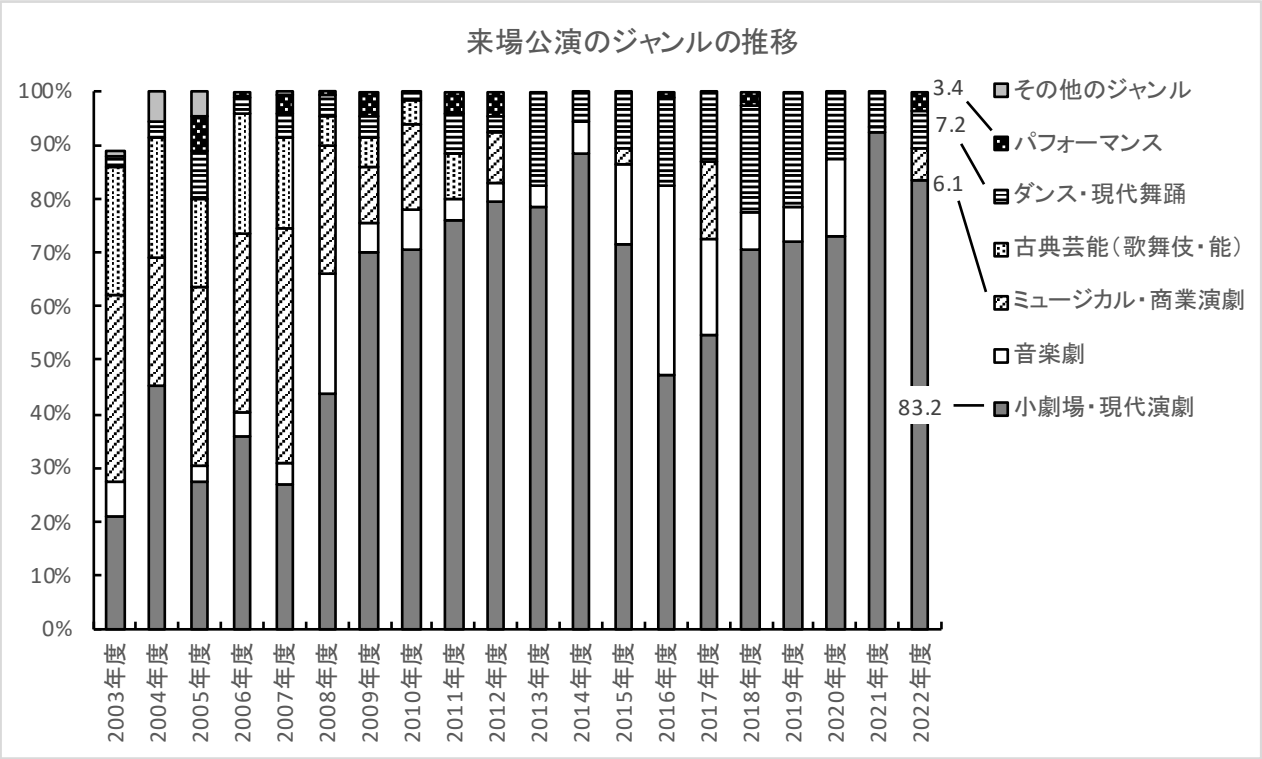
		調査数（n）	ジャンル【単一選択】					（単位：%）
			小劇場・現代演劇	音楽劇	ミュージカル・商業演劇	古典芸能（歌舞伎・能）	ダンス・現代舞踊	パフォーマンス
全体		995	**83.2**	0.0	6.1	0.0	7.2	3.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	34	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
性別	男性	235	**88.9**	0.0	2.6	0.0	6.4	2.1
	女性	649	**79.7**	0.0	8.3	0.0	8.2	3.9
年齢層	18歳未満	57	**91.2**	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8
	18～29歳	129	**92.2**	0.0	3.9	0.0	3.9	0.0
	30歳代	80	**73.8**	0.0	8.8	0.0	7.5	10.0
	40歳代	141	**78.7**	0.0	5.0	0.0	7.8	8.5
	50歳代	228	**83.3**	0.0	9.2	0.0	6.1	1.3
	60歳以上	155	**76.1**	0.0	7.7	0.0	15.5	0.6
鑑賞経験	今日が初めて	187	**83.4**	0.0	5.9	0.0	5.3	5.3
	1～2回	105	**86.7**	0.0	5.7	0.0	4.8	2.9
	3～5回	158	**75.9**	0.0	7.0	0.0	12.7	4.4
	6～10回	117	**79.5**	0.0	4.3	0.0	12.8	3.4
	11回以上	329	**83.6**	0.0	8.2	0.0	6.1	2.1

［性別］
- 性別で顕著な差は見当たらない。

［年齢別］
- すべての年代で「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、「18歳未満」の回答は全て「小劇場・現代演劇」となっている。
- 「60歳以上」では「ダンス・現代舞踊」の割合が15.5%と他の年齢層に比べて高い。

［北九州芸術芸場での鑑賞経験別］
- すべて鑑賞経験の頻度で「小劇場・現代演劇」の割合が最も高くなっている。

(4) 来場公演のジャンル


来場公演のジャンルの推移
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
2003年度
2004年度
2005年度
2006年度
2007年度
2008年度
2009年度
2010年度
2011年度
2012年度
2013年度
2014年度
2015年度
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
3.4
7.2
6.1
83.2
その他のジャンル
パフォーマンス
ダンス・現代舞踊
古典芸能（歌舞伎・能）
ミュージカル・商業演劇
音楽劇
小劇場・現代演劇

(5) 北九州芸術劇場での鑑賞経験　Q8

北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「11回以上」が33.1%と最も高い。次いで、「今日が初めて」（18.8%）、「3～5回」（15.9%）、「6～10回」（11.8%）、「1～2回」（10.6%）となっており、「11回以上」がおよそ3分の1の割合となっている。

		調査数（n）	Q8北九州芸術劇場での鑑賞経験【単一回答】（単位：%）						6回以上の割合
			今日が初めて	1～2回	3～5回	6～10回	11回以上	無回答	
全体		995	18.8	10.6	15.9	11.8	**33.1**	9.9	44.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	18.8	11.0	14.5	11.2	**33.2**	11.2	44.4
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	18.0	9.8	18.0	8.2	**44.3**	1.6	52.5
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	13.9	6.9	**27.8**	20.8	**27.8**	2.8	48.6
	パフォーマンス	34	**29.4**	8.8	20.6	11.8	20.6	8.8	32.4
性別	男性	235	23.8	12.8	19.1	10.2	**34.0**	0.0	44.3
	女性	649	19.6	11.4	16.8	13.9	**37.1**	1.2	51.0
年齢層	18歳未満	57	**36.8**	28.1	26.3	3.5	5.3	0.0	8.8
	18～29歳	129	**38.0**	17.8	20.9	8.5	14.7	0.0	23.3
	30歳代	80	22.5	15.0	**25.0**	18.8	18.8	0.0	37.5
	40歳代	141	17.0	7.8	19.9	12.8	**41.1**	1.4	53.9
	50歳代	228	15.4	9.6	12.7	13.2	**48.2**	0.9	61.4
	60歳以上	155	15.5	9.0	12.3	13.5	**47.7**	1.9	61.3
鑑賞経験	今日が初めて	187	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1～2回	105	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5回	158	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6～10回	117	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	11回以上	329	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0

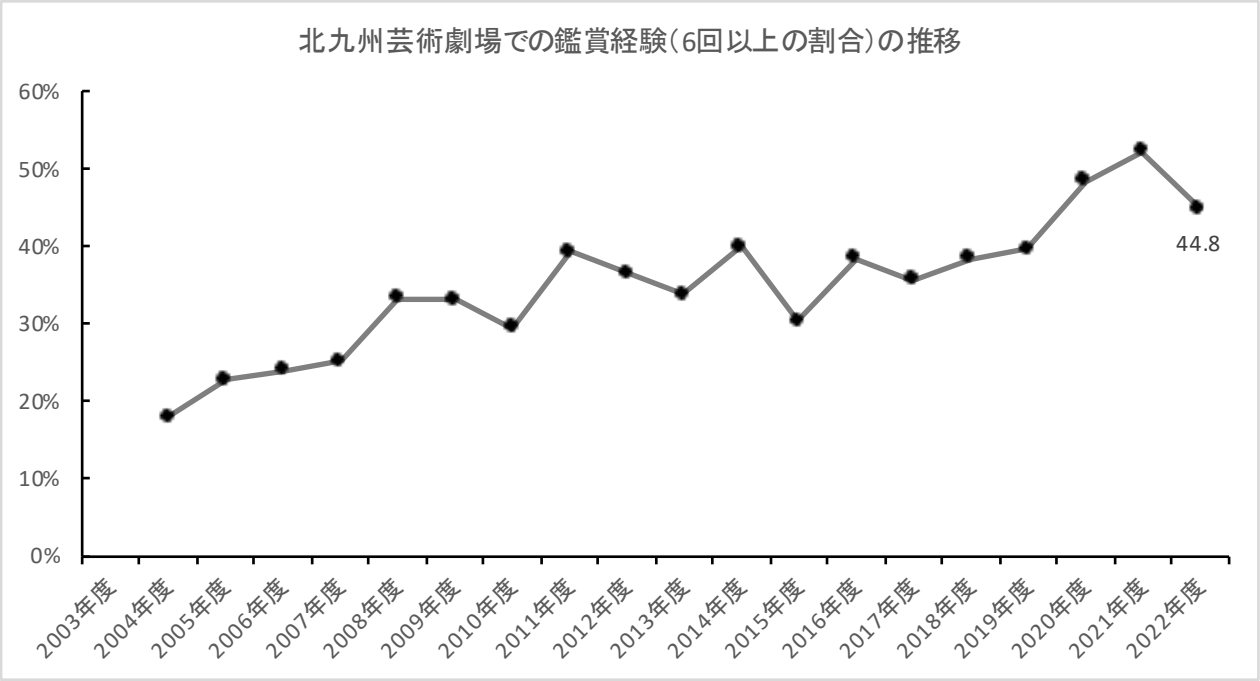
［来場公演のジャンル別］
- 「パフォーマンス」では「今日が初めて」が29.4%、「ダンス・現代舞踊」では「3～5回」が27.8%と「小劇場・現代演劇」や「ミュージカル・商業現激」に比べて鑑賞経験の少ない層の割合が高い。

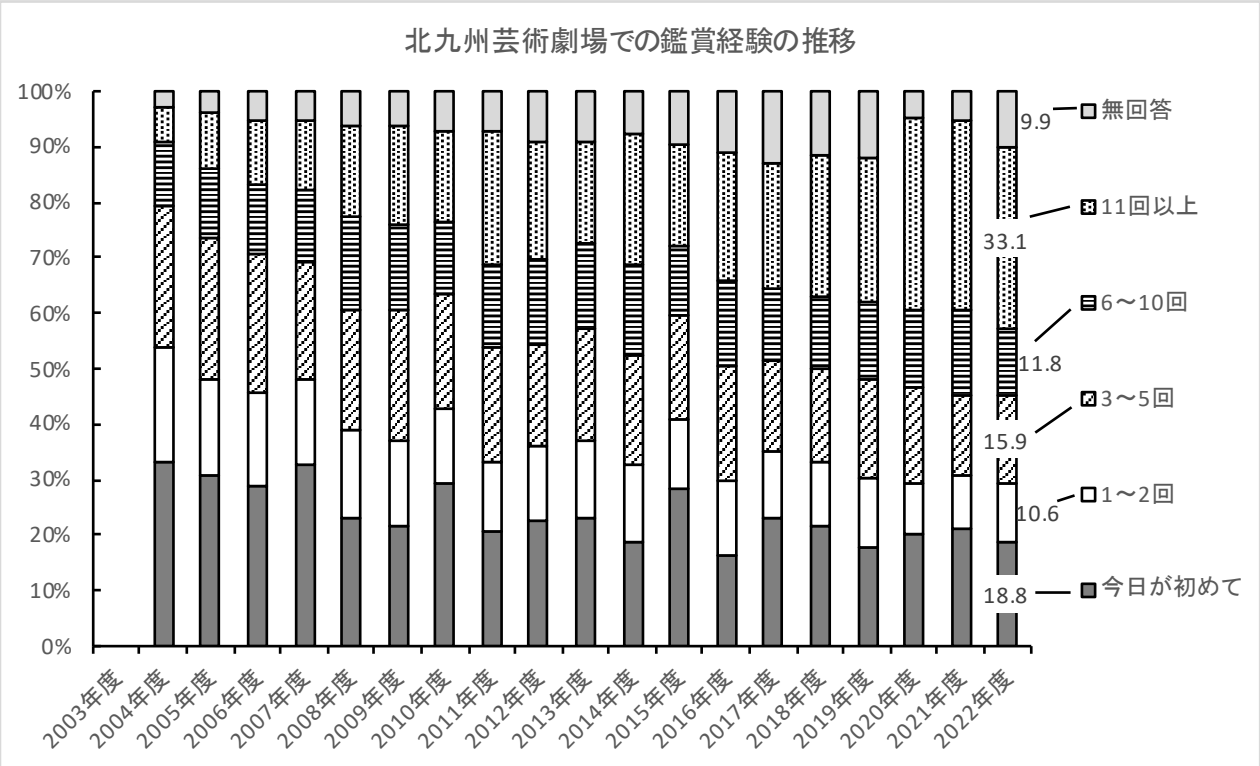
［性別］
- 性別で顕著な傾向はみられない。

［年齢別］
- 「18歳未満」「18～29歳」では「今日が初めて」の割合が最も高く、「40歳代」以上のグループは「11回以上」の割合が最も高い。
- 年齢層が高くなるほど「6回以上の割合」が概ね高くなっている。

(5) 北九州芸術劇場での鑑賞経験　Q8

北九州芸術劇場の鑑賞経験が6回以上の割合の推移を見ると、08年度までの調査では増加傾向で08～09年度は30%を超えていたものの、10年度は29.4%と減少し、11年度以降は、6回以上の割合が30%から40%の間を増減している。2021年度の6回以上の割合は52.1%と過去最高となっている。





2　本日の公演や劇場に関する意見

(1) 公演情報の入手経路　Q1

公演情報の入手経路については、「ホームページ、情報誌Q」が25.5%、続いて「友人・知人から聞いた」（23.0%）、「その他」（18.1%）、「出演者、公演関係者から聞いた」が17.0%、「他の公演会場で配布されたチラシ」が14.9%となっている。「その他」（18.1%）の具体的な書き込みをみると、ファンクラブが多い。

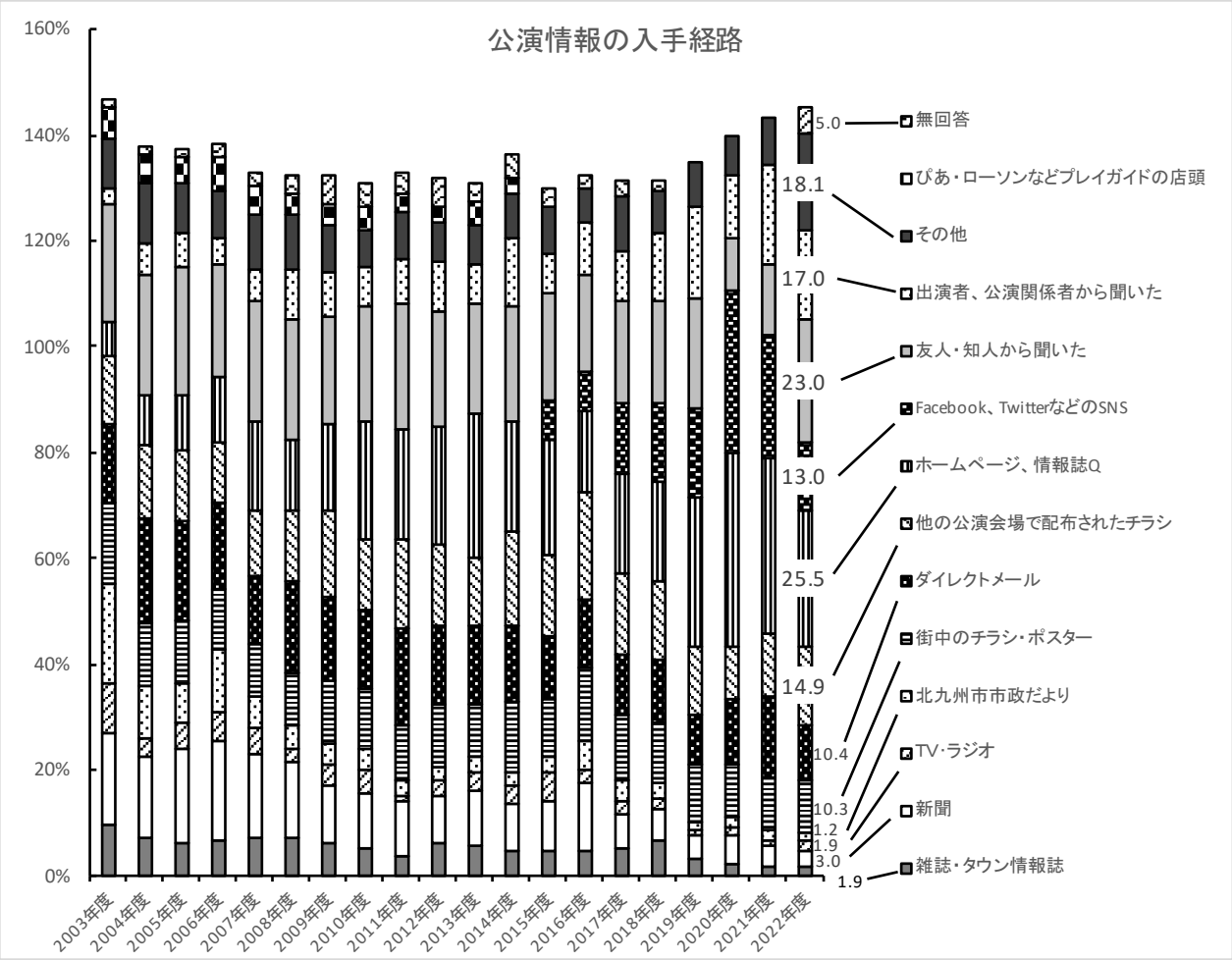
※15年度から、14年度以前の調査で使用していた選択肢「インターネット・ホームページ」を「ホームページ・ブログ」と「Facebook、TwitterなどのSNS」の2つに分け、「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」を削除した。
※19年度は、18年度以前の調査で使用していた選択肢「ホームページ・ブログ」を「ホームページ、情報誌Q」に変更した。

Q1公演情報の入手経路【複数回答】　（単位：%）

		調査数（n）	雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	ホームページ、情報誌Q	Facebook、TwitterなどのSNS	友人・知人から聞いた	出演者、公演関係者から聞いた	その他	無回答
全体		995	1.9	3.0	1.9	1.2	10.3	10.4	14.9	**25.5**	13.0	23.0	17.0	18.1	5.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	2.2	2.8	1.6	1.3	9.5	9.9	15.5	23.4	12.2	**23.6**	18.6	20.7	4.7
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	0.0	8.2	8.2	0.0	4.9	9.8	13.1	**50.8**	31.1	16.4	8.2	4.9	6.6
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	0.0	2.8	1.4	0.0	11.1	20.8	12.5	**31.9**	8.3	23.6	8.3	4.2	9.7
	パフォーマンス	34	2.9	0.0	0.0	2.9	**35.3**	0.0	8.8	17.6	8.8	20.6	11.8	8.8	0.0
性別	男性	235	2.1	3.0	1.7	3.0	9.8	13.6	18.3	**23.8**	12.8	20.9	17.4	16.6	3.8
	女性	649	2.2	3.2	2.3	0.6	11.1	10.5	13.9	**27.7**	14.6	23.1	16.5	18.5	5.1
年齢層	18歳未満	57	3.5	0.0	0.0	0.0	3.5	1.8	5.3	1.8	0.0	19.3	**70.2**	22.8	3.5
	18～29歳	129	0.8	0.0	1.6	0.0	7.0	3.9	14.0	10.1	0.0	**31.0**	26.4	**31.0**	3.1
	30歳代	80	0.0	3.8	0.0	0.0	16.3	6.3	8.8	25.0	2.5	**31.3**	18.8	21.3	1.3
	40歳代	141	3.5	0.0	1.4	0.0	13.5	13.5	9.2	**34.0**	11.3	26.2	7.8	9.9	7.1
	50歳代	228	2.2	3.1	3.1	1.3	11.8	16.7	19.7	**34.6**	28.5	20.6	10.5	14.5	6.1
	60歳以上	155	2.6	9.0	3.2	3.9	14.2	12.9	19.4	**32.3**	20.0	8.4	5.8	12.3	3.9
鑑賞経験	今日が初めて	187	1.1	3.7	3.7	0.5	7.0	2.1	5.9	10.7	1.1	19.8	**29.4**	26.2	5.9
	1～2回	105	2.9	2.9	3.8	0.0	6.7	1.9	8.6	13.3	6.7	22.9	**26.7**	**26.7**	4.8
	3～5回	158	2.5	4.4	1.9	1.9	11.4	7.6	7.0	19.0	2.5	**27.2**	22.8	18.4	5.7
	6～10回	117	0.9	0.9	1.7	0.0	9.4	16.2	12.8	**27.4**	8.5	**27.4**	9.4	18.8	4.3
	11回以上	329	2.7	2.4	0.9	2.1	14.3	19.5	27.1	**43.8**	31.0	20.7	6.7	9.4	3.3

(1) 公演情報の入手経路　Q1

2011年度以降は「ホームページ、ブログ」と「友人・知人から聞いた」と最上位が年によって入れ替わっている。16年度は初めて「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い割合となった。一方、年度によって増減はあるが、「新聞」の割合が06年度をピーク（18.7%）として減少、19年度はこれまでで最も低くなった（4.4%）。2020年度は「ホームページ、情報誌Q」と「Facebook、TwitterなどのSNS」が前年度に比べて大幅に増加している。



［来場公演のジャンル別］

- 公演情報の入手経路は、「パフォーマンス」では「街中のチラシ・ポスター」が35.3%と最も高い割合となっている。「ダンス・現代舞踊」では他のジャンルに比べて「ダイレクトメール」の割合も高い。

［性別］

- 性別で顕著な傾向はみられない。

［年齢別］

- 公演情報の入手経路は、年齢による特徴も顕著で、「18歳未満」では「出演者、公演関係者から聞いた」、「18～29歳」と「30歳代」では「友人・知人から聞いた」、それ以外の年齢層では「ホームページ、情報誌Q」が最も高い。

［北九州芸術劇場での鑑賞経験別］

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験が「11回以上」では「ホームページ、情報誌Q」の割合が43.8%と非常に高い割合となっている。

(2) 公演に来た理由 Q2

公演に来た理由については、「公演内容が面白そうだったから」が56.5%、「出演者が好きだから」が56.0%となっている。

		調査数（n）	Q2公演に来た理由【複数回答】（単位：%）									
			出演者等が好きだから	出演者等が有名だから	公演内容が面白そうだったから	劇場に来てみたかったから	劇場が近くだったから	出演者や関係者が知り合いだから	人に誘われたから	北九州芸術劇場の催しものだから	その他	無回答
全体		995	56.0	9.0	**56.5**	8.6	14.0	14.3	11.4	14.2	5.4	0.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	55.3	8.6	**55.7**	9.2	13.5	16.5	12.4	12.7	5.4	0.0
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**80.3**	9.8	55.7	3.3	24.6	0.0	6.6	29.5	1.6	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	54.2	18.1	**59.7**	11.1	8.3	5.6	2.8	22.2	4.2	0.0
	パフォーマンス	34	32.4	0.0	**70.6**	0.0	17.6	2.9	11.8	5.9	14.7	0.0
性別	男性	235	52.3	8.9	**55.3**	11.1	13.6	15.7	12.3	11.9	6.8	0.0
	女性	649	59.3	8.6	**59.8**	7.1	14.6	13.6	11.2	15.6	4.9	0.0
年齢層	18歳未満	57	29.8	7.0	45.6	19.3	14.0	19.3	**66.7**	3.5	5.3	0.0
	18～29歳	129	38.0	6.2	**48.1**	17.1	11.6	26.4	17.8	7.8	3.1	0.0
	30歳代	80	**57.5**	11.3	53.8	5.0	17.5	13.8	13.8	12.5	8.8	0.0
	40歳代	141	**63.8**	5.0	63.1	2.8	21.3	9.2	5.7	12.1	6.4	0.0
	50歳代	228	**69.7**	10.1	64.0	7.0	16.2	8.3	5.7	19.3	7.0	0.0
	60歳以上	155	57.4	12.9	**61.9**	7.1	11.6	12.9	2.6	21.9	4.5	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	187	40.1	7.5	**48.7**	20.9	12.3	15.5	22.5	3.7	7.0	0.0
	1～2回	105	**49.5**	9.5	45.7	12.4	8.6	24.8	16.2	5.7	6.7	0.0
	3～5回	158	**57.0**	8.2	**57.0**	3.8	12.0	13.3	17.1	10.8	3.8	0.0
	6～10回	117	65.8	9.4	**68.4**	4.3	16.2	12.0	6.8	13.7	4.3	0.0
	11回以上	329	**67.5**	9.7	66.3	3.6	17.3	11.2	2.7	26.4	5.5	0.0

［来場公演のジャンル別］
- 公演に来た理由は、「ミュージカル・商業演劇」と「ダンス・現代舞踊」では「北九州芸術劇場の催しものだから」の割合が「小劇場・現代演劇」に比べて高い。また「パフォーマンス」では「公演内容が面白そうだったから」の割合が他のジャンルに比べて高い。

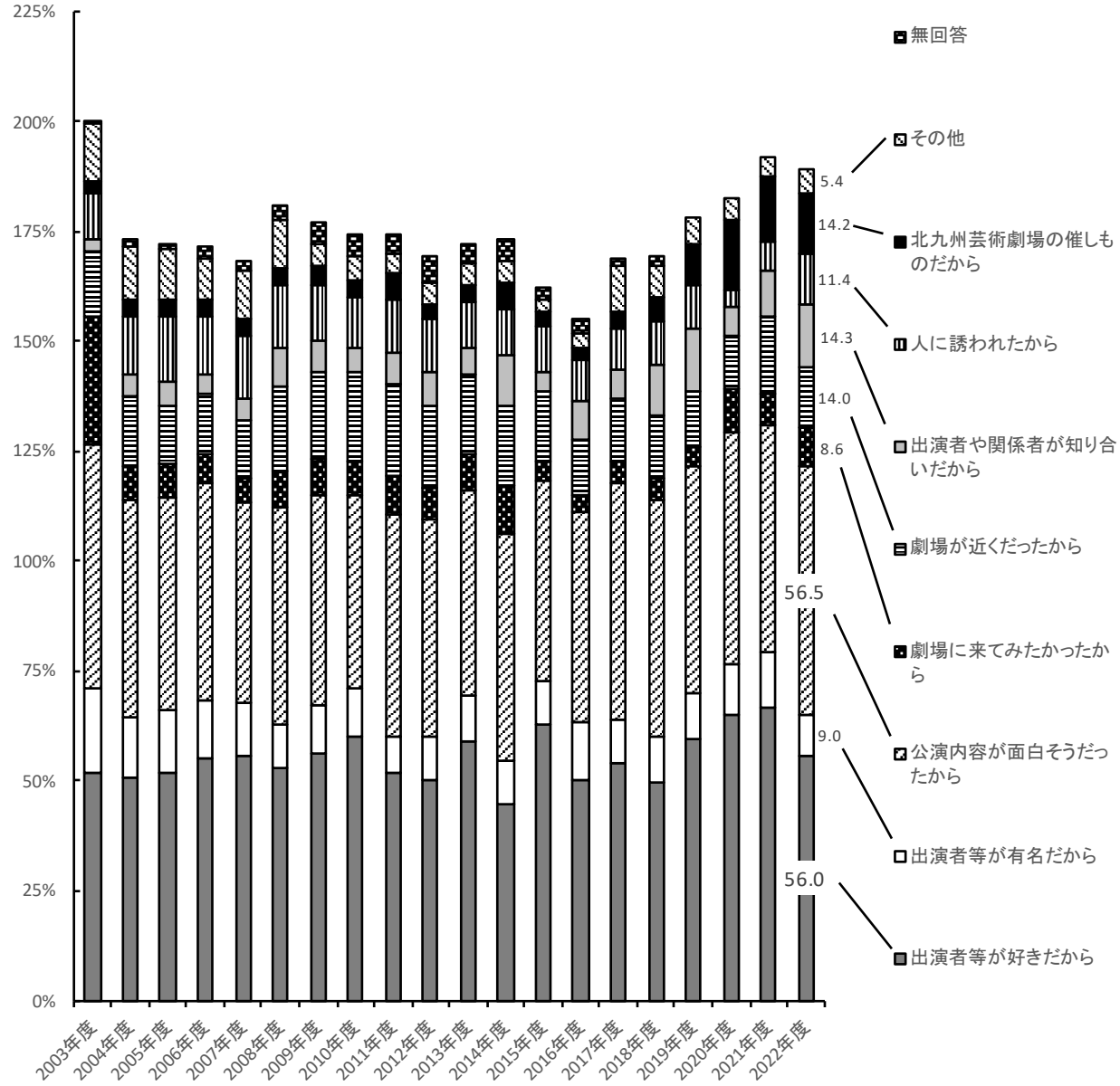
［性別］
- 性別で顕著な傾向はみられない。

［年齢別］
- 「18歳未満」では「人に誘われたから」の割合が非常に高くなっている。

［北九州芸術劇場での鑑賞経験別］
- 「今日が初めて」では「出演者等が好きだから」の割合が他の項目よりも低くなっている。
- 鑑賞経験が多いほど「北九州芸術劇場の催しものだから」の割合が高く、鑑賞経験が少ないほど「劇場に来てみたかったから」と「人に誘われたから」の割合はおおむね高くなっている。

(2) 公演に来た理由 Q2

「公演内容が面白そうだったから」が「出演者が好きだから」を上回ったのは03年度、14年度、18年度、22年度の4回となっている。過去調査と比較して、21年度は「出演者等が好きだから」が過去最高の割合となった(20年度は65.2%、21年度は66.9%)。また、例年は「北九州芸術劇場の催しものだから」の割合は1割を下回っていたが、コロナ禍の1年目だった20年度は15.8%となっているのが特徴的である。



(3) 公演前後の飲食やショッピング　Q6

公演前後に飲食やショッピングをしている割合は58.9%である。飲食をしている場合の平均金額は1,818.6円、ショッピングをしている場合の平均金額は2,760.3円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額、ショッピング平均額はともに増加している。

（単位：%）

		調査数（n）	Q6公演前後の飲食・ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞ【単一回答】		
			はい	いいえ	無回答
全体		995	**58.9**	25.0	16.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**57.2**	24.5	18.2
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**68.9**	29.5	1.6
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**68.1**	26.4	5.6
	パフォーマンス	34	**61.8**	26.5	11.8
性別	男性	235	**61.3**	28.9	9.8
	女性	649	**65.2**	26.5	8.3
年齢層	18歳未満	57	**68.4**	24.6	7.0
	18～29歳	129	**57.4**	28.7	14.0
	30歳代	80	**71.3**	21.3	7.5
	40歳代	141	**61.7**	29.1	9.2
	50歳代	228	**64.5**	27.2	8.3
	60歳以上	155	**61.9**	31.0	7.1
鑑賞経験	今日が初めて	187	**57.2**	28.3	14.4
	1～2回	105	**64.8**	24.8	10.5
	3～5回	158	**63.9**	29.7	6.3
	6～10回	117	**65.8**	25.6	8.5
	11回以上	329	**67.5**	27.4	5.2

（単位：円）

		飲食をしている場合の平均金額（n=535）	ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞをしている場合の平均金額（n=365）
全体		1818.6	2760.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	1791.1	2460.4
	音楽劇	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	1352.8	2250.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	2367.9	5617.0
	パフォーマンス	2100.0	2823.1
性別	男性	2070.0	2785.3
	女性	1725.9	2754.0
年齢層	18歳未満	1052.3	521.4
	18～29歳	1323.2	2074.4
	30歳代	1648.1	1440.5
	40歳代	1739.3	2783.3
	50歳代	2065.8	3250.8
	60歳以上	2330.2	3861.7
鑑賞経験	今日が初めて	1928.7	3012.1
	1～2回	1722.6	2186.2
	3～5回	1972.1	2868.8
	6～10回	1745.8	3365.4
	11回以上	1760.7	2576.6

［来場公演のジャンル別］
- 飲食・ショッピングの割合、飲食やショッピングをしている場合の平均金額では「ダンス・現代演劇」が他のジャンルに比べて高い。

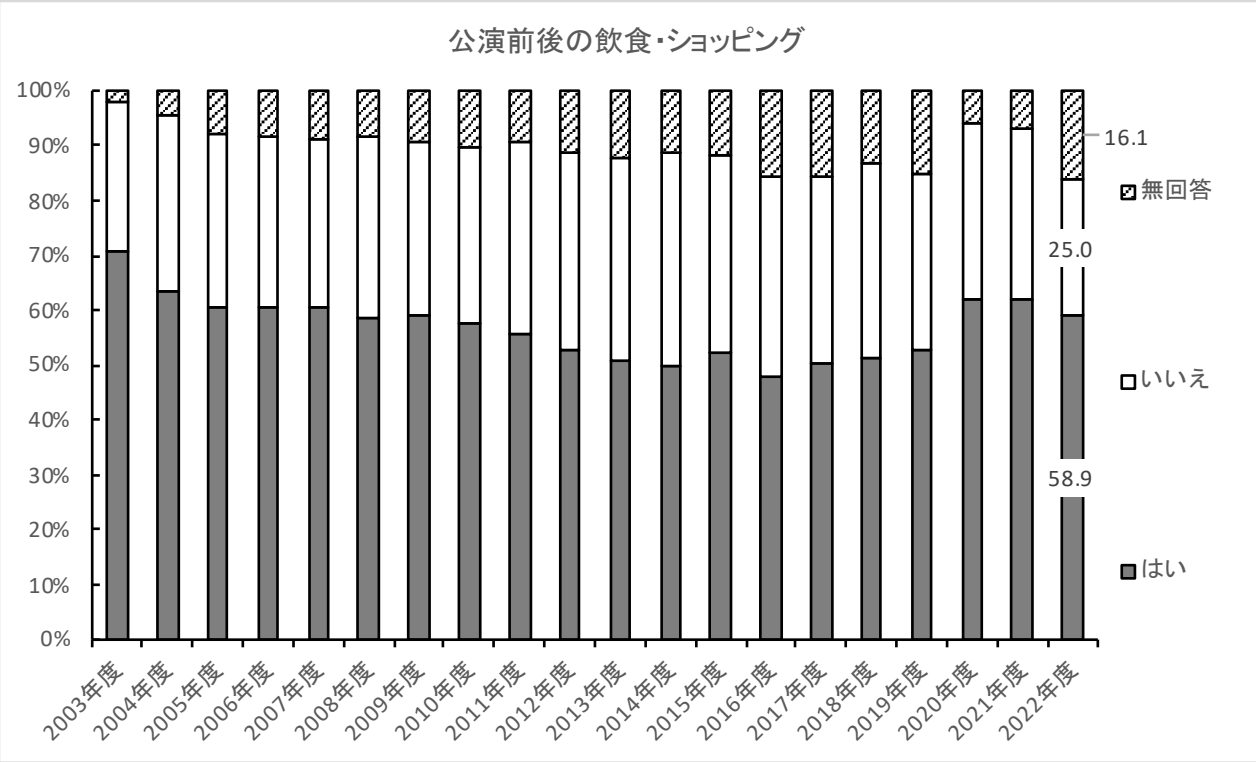
［性別］
- 飲食やショッピングをしている割合は、「男性」が61.3%、「女性」が65.2%と「女性」の方が高い。平均金額では飲食、ショッピングともに「男性」が「女性」を上回っている。

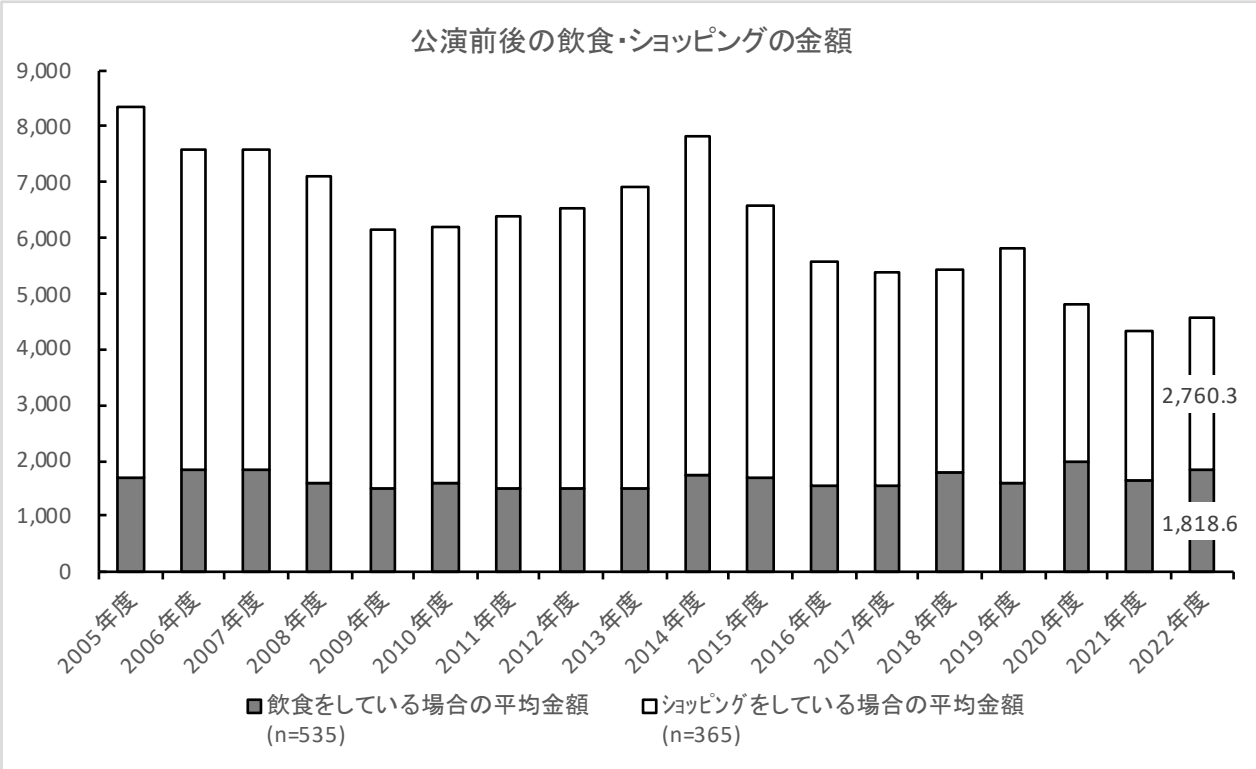
［年齢別］
- 飲食やショッピングをしている割合では「30歳代」が高く、飲食とショッピングの平均金額では「60歳以上」が最も高い。

［北九州芸術劇場での鑑賞経験別］
- 飲食やショッピングをしている割合は、「11回以上」が最も高く、飲食をしている場合の平均額では「3～5回」、ショッピングをしている場合の平均額では「6～10回」が最も高い。

(3) 公演前後の飲食やショッピング　Q6

過去調査と比較して、年によって増減はあるものの、飲食やショッピングをしている割合は概ね減少傾向にあり、16年度の割合は過去最低となっている。飲食の平均金額に顕著な傾向は見られないが、ショッピングの平均金額は年度によってかなりの増減が見られ、平均金額が21年度はこれまでで最も低くなった（2,682.3円）。





(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度　Q3

公演や劇場に対する5項目の満足度を満足層（※）の割合でみると、全項目で満足層の割合が90%以上を占めており、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「劇場係員の応対」の3項目は95%を超えている。
※「たいへん満足」＋「まあ満足」の割合。無回答を除く。
「たいへん満足」と回答した割合が高い（5割以上）のは、「本日の公演内容」（78.2%）、「劇場係員の応対」（71.8%）、「本日の公演のチケット料金」（66.5%）、「チケットの予約・購入のしやすさ」（54.6%）の4項目である。
「本日の公演内容」については、ジャンル、性別、年齢層、鑑賞経験を問わず、満足層の割合と「たいへん満足」の割合はいずれも高い。

［来場公演のジャンル別］
- 「パフォーマンス」では「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「劇場係員の応対」の4項目で他のジャンルに比べて高い割合となっている。

［性別］
- 性別で顕著な差は見られない。

［年齢別］
- 「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」の3項目で、「たいへん満足」の割合が、おおむね年齢層が高いほど低くなっている。

［北九州芸術劇場での鑑賞経験別］
- 鑑賞頻度で、満足度に顕著な差はみられない。

本日の公演内容

		全体	Q3-1本日の公演内容【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	995	**78.2**	13.5	1.3	0.2	6.8	98.4	1.6
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**77.8**	13.4	1.4	0.2	7.1	98.2	1.8
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**75.4**	21.3	0.0	0.0	3.3	100.0	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**77.8**	12.5	1.4	0.0	8.3	98.5	1.5
	パフォーマンス	34	**94.1**	2.9	0.0	0.0	2.9	100.0	0.0
性別	男性	235	**77.0**	15.3	2.6	0.4	4.7	96.9	3.1
	女性	649	**81.4**	12.2	0.9	0.0	5.5	99.0	1.0
年齢層	18歳未満	57	**93.0**	1.8	0.0	0.0	5.3	100.0	0.0
	18～29歳	129	**80.6**	13.2	1.6	0.0	4.7	98.4	1.6
	30歳代	80	**76.3**	17.5	1.3	0.0	5.0	98.7	1.3
	40歳代	141	**84.4**	11.3	1.4	0.0	2.8	98.5	1.5
	50歳代	228	**83.3**	13.2	0.0	0.4	3.1	99.5	0.5
	60歳以上	155	**74.8**	11.6	1.9	0.0	11.6	97.8	2.2
鑑賞経験	今日が初めて	187	**85.6**	11.2	0.5	0.0	2.7	99.5	0.5
	1～2回	105	**81.0**	13.3	0.0	1.0	4.8	99.0	1.0
	3～5回	158	**74.7**	14.6	1.3	0.0	9.5	98.6	1.4
	6～10回	117	**82.1**	12.8	0.0	0.0	5.1	100.0	0.0
	11回以上	329	**78.7**	14.0	2.7	0.3	4.3	96.8	3.2

(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度 Q3

本日の公演のチケット料金 （単位：%）

		全体	Q3-2本日の公演のチケット料金【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	995	**66.5**	27.3	1.0	0.0	5.1	98.9	1.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**66.3**	27.2	1.0	0.0	5.6	99.0	1.0
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**60.7**	39.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**66.7**	26.4	1.4	0.0	5.6	98.5	1.5
	パフォーマンス	34	**82.4**	11.8	2.9	0.0	2.9	97.0	3.0
性別	男性	235	**62.6**	32.3	1.3	0.0	3.8	98.7	1.3
	女性	649	**69.6**	26.0	0.9	0.0	3.4	99.0	1.0
年齢層	18歳未満	57	**89.5**	7.0	0.0	0.0	3.5	100.0	0.0
	18～29歳	129	**75.2**	20.2	0.8	0.0	3.9	99.2	0.8
	30歳代	80	**67.5**	30.0	0.0	0.0	2.5	100.0	0.0
	40歳代	141	**76.6**	21.3	0.0	0.0	2.1	100.0	0.0
	50歳代	228	**64.5**	32.9	0.9	0.0	1.8	99.1	0.9
	60歳以上	155	**54.2**	38.1	1.3	0.0	6.5	98.6	1.4
鑑賞経験	今日が初めて	187	**73.3**	23.5	1.1	0.0	2.1	98.9	1.1
	1～2回	105	**69.5**	26.7	1.0	0.0	2.9	99.0	1.0
	3～5回	158	**65.2**	27.8	1.3	0.0	5.7	98.7	1.3
	6～10回	117	**68.4**	27.4	0.0	0.0	4.3	100.0	0.0
	11回以上	329	**64.7**	31.6	1.2	0.0	2.4	98.8	1.2

公演情報の入手のしやすさ

		全体	Q3-3公演情報の入手のしやすさ【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	995	**49.7**	39.6	4.8	0.2	5.6	94.7	5.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**49.6**	39.5	4.8	0.1	5.9	94.7	5.3
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	44.3	**47.5**	8.2	0.0	0.0	91.8	8.2
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**52.8**	36.1	1.4	1.4	8.3	97.0	3.0
	パフォーマンス	34	**55.9**	35.3	5.9	0.0	2.9	93.9	6.1
性別	男性	235	43.4	**45.1**	6.0	0.9	4.7	92.9	7.1
	女性	649	**52.9**	38.8	4.8	0.0	3.5	95.0	5.0
年齢層	18歳未満	57	**66.7**	26.3	5.3	0.0	1.8	94.6	5.4
	18～29歳	129	**60.5**	31.8	3.9	0.0	3.9	96.0	4.0
	30歳代	80	45.0	**48.8**	3.8	1.3	1.3	94.9	5.1
	40歳代	141	**61.7**	31.2	6.4	0.0	0.7	93.6	6.4
	50歳代	228	**47.4**	44.3	5.7	0.0	2.6	94.1	5.9
	60歳以上	155	35.5	**49.0**	5.8	0.0	9.7	93.6	6.4
鑑賞経験	今日が初めて	187	**50.3**	39.0	5.9	0.0	4.8	93.8	6.2
	1～2回	105	**46.7**	43.8	6.7	1.0	1.9	92.2	7.8
	3～5回	158	**46.8**	40.5	7.0	0.0	5.7	92.6	7.4
	6～10回	117	**54.7**	38.5	3.4	0.0	3.4	96.5	3.5
	11回以上	329	**51.7**	42.2	3.3	0.3	2.4	96.3	3.7

(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度 Q3

チケットの予約・購入のしやすさ （単位：%）

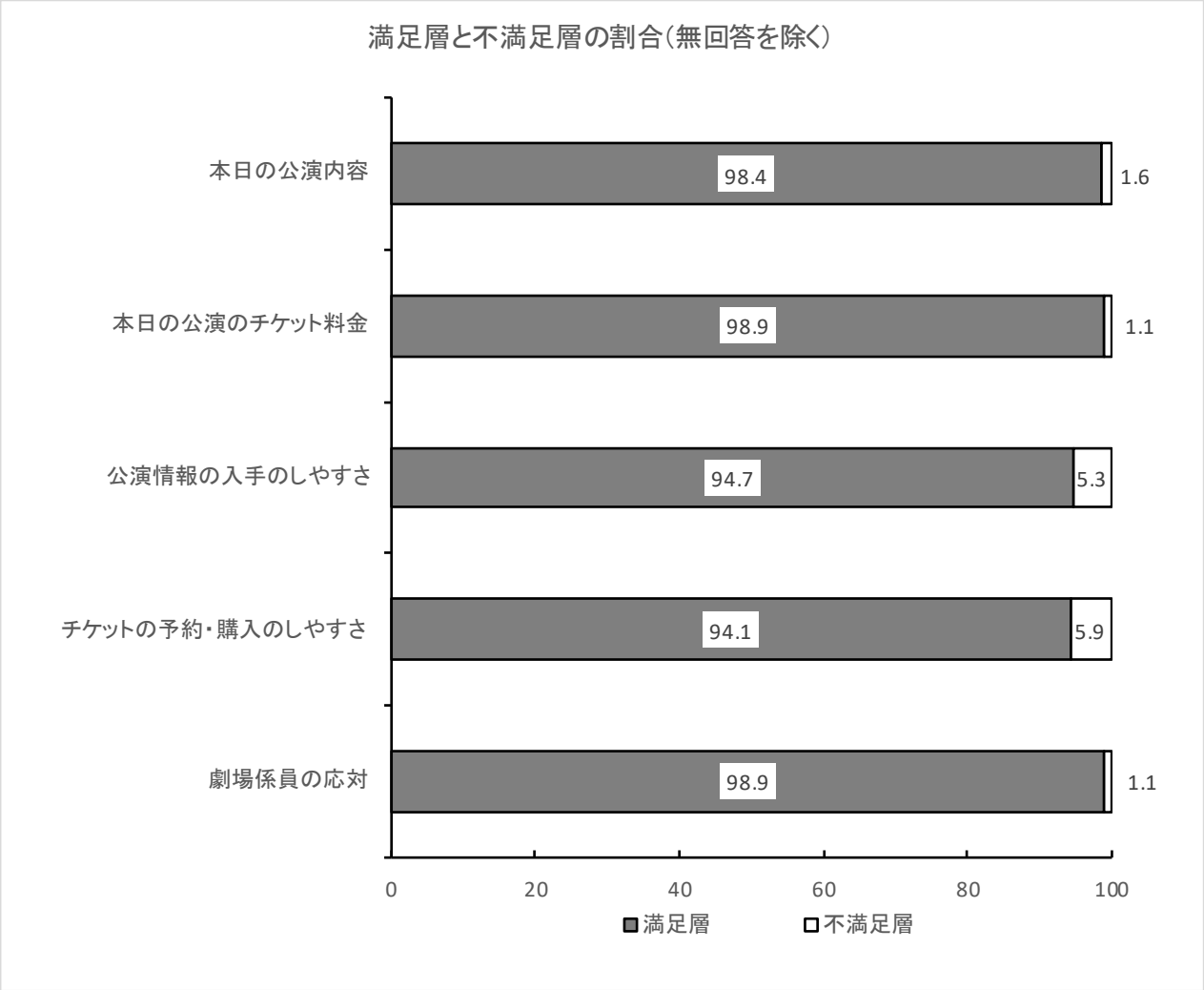
		全体	Q3-4チケットの予約・購入のしやすさ【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	995	**54.6**	34.3	5.1	0.4	5.6	94.1	5.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**54.1**	34.9	4.6	0.4	6.0	94.7	5.3
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**50.8**	41.0	6.6	1.6	0.0	91.8	8.2
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**56.9**	29.2	6.9	0.0	6.9	92.5	7.5
	パフォーマンス	34	**67.6**	17.6	11.8	0.0	2.9	87.9	12.1
性別	男性	235	**49.4**	38.7	6.4	0.9	4.7	92.4	7.6
	女性	649	**56.9**	34.5	4.8	0.2	3.7	94.9	5.1
年齢層	18歳未満	57	**71.9**	24.6	1.8	0.0	1.8	98.2	1.8
	18～29歳	129	**65.1**	23.3	7.8	0.0	3.9	91.9	8.1
	30歳代	80	**56.3**	38.8	2.5	1.3	1.3	96.2	3.8
	40歳代	141	**70.2**	22.0	6.4	0.0	1.4	93.5	6.5
	50歳代	228	**49.6**	43.4	4.4	0.4	2.2	95.1	4.9
	60歳以上	155	38.7	**47.1**	3.9	0.6	9.7	95.0	5.0
鑑賞経験	今日が初めて	187	**61.5**	29.4	5.9	0.0	3.2	93.9	6.1
	1～2回	105	**55.2**	35.2	5.7	1.0	2.9	93.1	6.9
	3～5回	158	**53.8**	29.7	10.1	0.0	6.3	89.2	10.8
	6～10回	117	**52.1**	39.3	4.3	0.9	3.4	94.7	5.3
	11回以上	329	**52.3**	40.7	3.6	0.6	2.7	95.6	4.4

劇場係員の応対

		全体	Q3-5劇場係員の対応【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	995	**71.8**	22.5	0.9	0.1	4.7	98.9	1.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**71.3**	22.8	0.8	0.1	5.0	99.0	1.0
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**75.4**	23.0	1.6	0.0	0.0	98.4	1.6
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**70.8**	22.2	0.0	0.0	6.9	100.0	0.0
	パフォーマンス	34	**79.4**	14.7	2.9	0.0	2.9	97.0	3.0
性別	男性	235	**68.9**	26.0	1.3	0.0	3.8	98.7	1.3
	女性	649	**74.4**	22.0	0.8	0.2	2.6	99.1	0.9
年齢層	18歳未満	57	**94.7**	5.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～29歳	129	**86.8**	10.1	0.0	0.0	3.1	100.0	0.0
	30歳代	80	**77.5**	20.0	0.0	0.0	2.5	100.0	0.0
	40歳代	141	**80.9**	17.0	0.7	0.0	1.4	99.3	0.7
	50歳代	228	**67.5**	28.1	1.8	0.4	2.2	97.8	2.2
	60歳以上	155	**57.4**	36.8	0.0	0.0	5.8	100.0	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	187	**79.7**	17.1	0.5	0.0	2.7	99.5	0.5
	1～2回	105	**74.3**	23.8	0.0	0.0	1.9	100.0	0.0
	3～5回	158	**75.3**	20.9	0.6	0.0	3.2	99.3	0.7
	6～10回	117	**70.1**	25.6	0.9	0.0	3.4	99.1	0.9
	11回以上	329	**67.5**	28.3	1.8	0.3	2.1	97.8	2.2

(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度　Q3

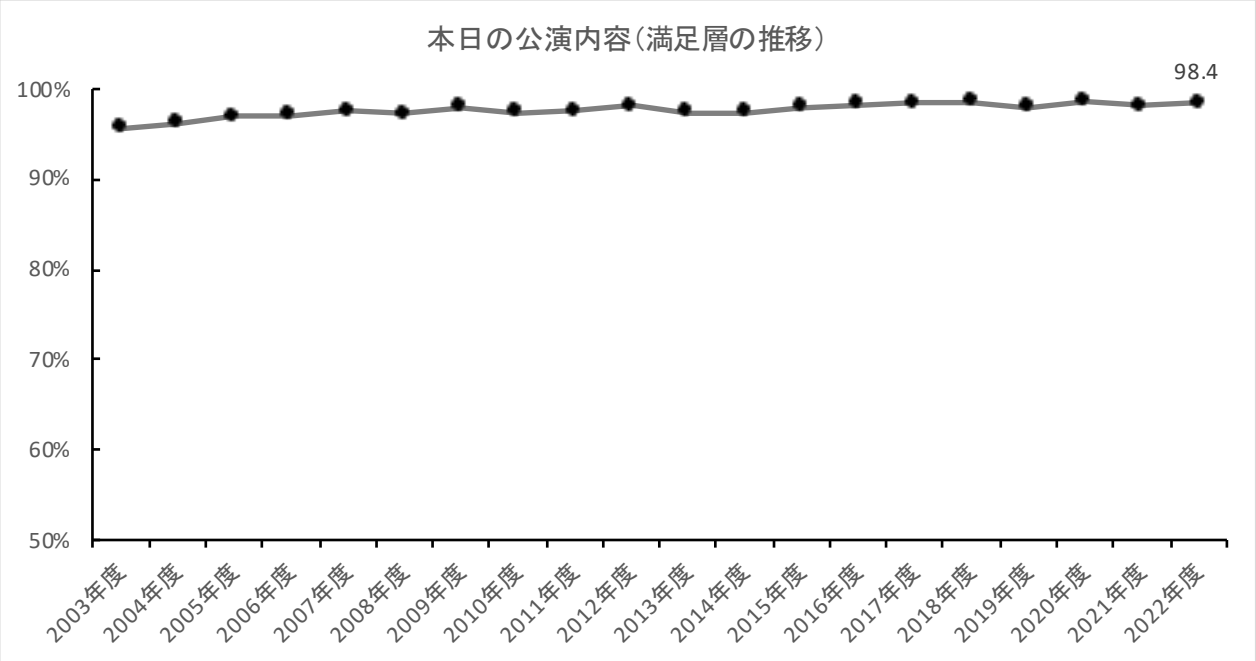
すべての項目で満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めている。

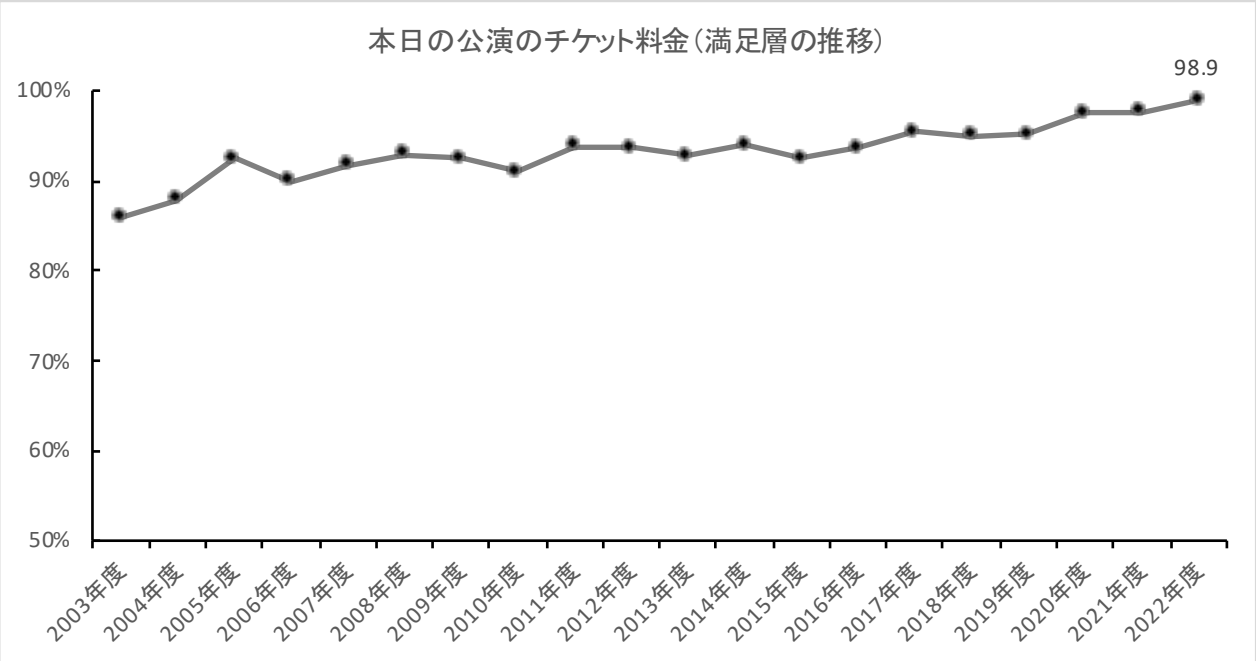


	満足層	不満足層
本日の公演内容	98.4	1.6
本日の公演のチケット料金	98.9	1.1
公演情報の入手のしやすさ	94.7	5.3
チケットの予約・購入のしやすさ	94.1	5.9
劇場係員の応対	98.9	1.1

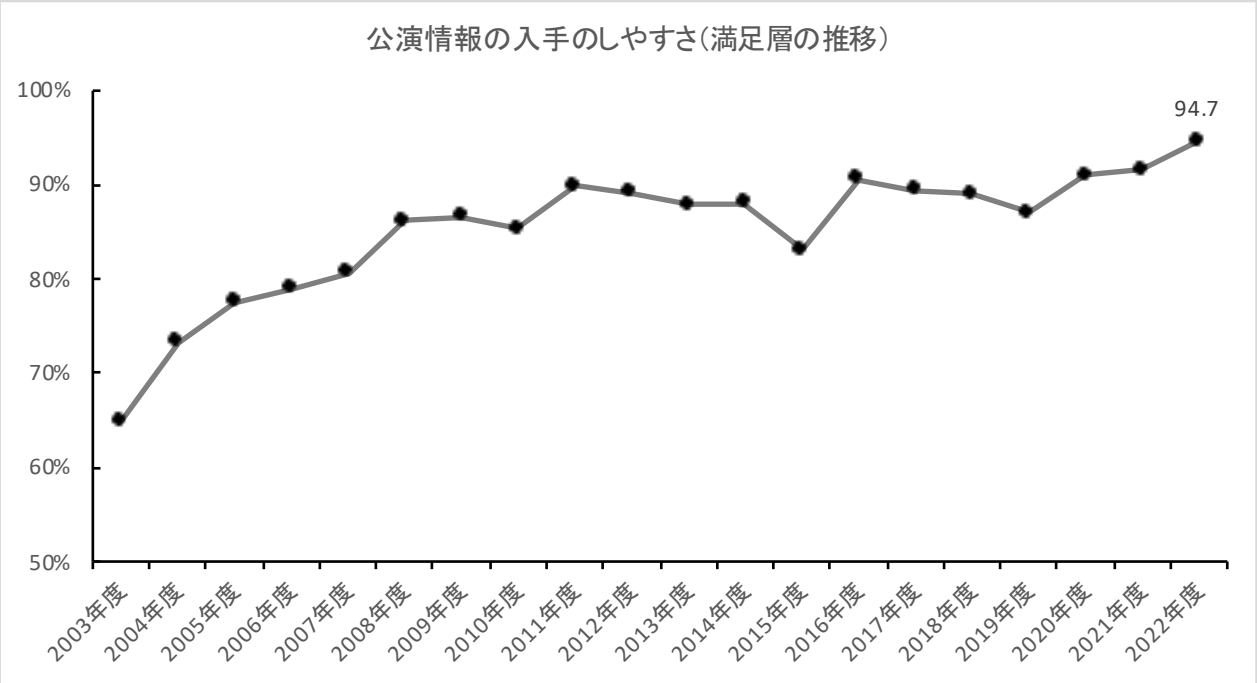
(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度　Q3

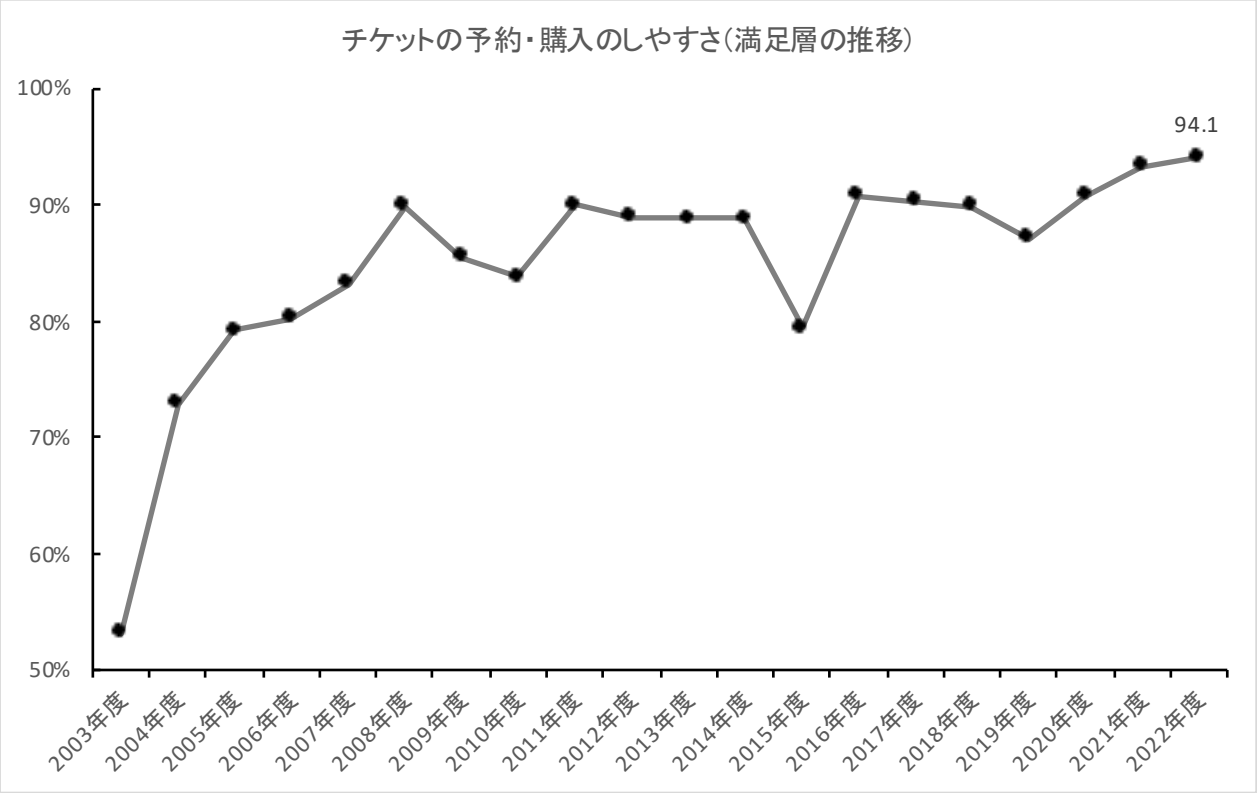
過去調査結果の満足層（※）の推移を見ると、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」は安定して高い評価を得ており、それ以外の項目でも、おおむね増加傾向となっている。2022年度は、「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「劇場係員の応対」の4項目で、開館以降で最高の割合となっている。
※「たいへん満足」＋「まあ満足」の割合。無回答を除く。



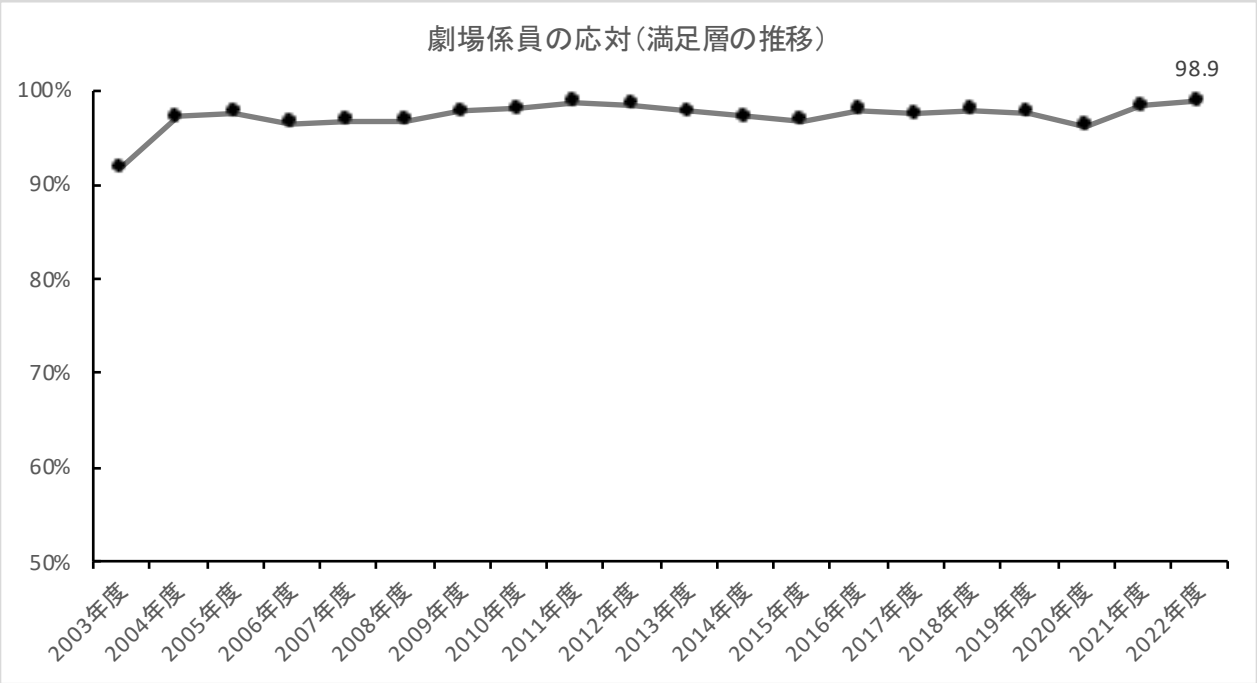


(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度　Q3





(4) 本日の公演や北九州芸術劇場についての満足度　Q3



(5) 総合的な満足度 Q4

劇場に対する総合的な意見（満足度）については、満足層が98.3%（「たいへん満足」＋「まあ満足」の割合。無回答は除く）である。

総合的な満足度 （単位：%）

		全体	Q4総合的な満足度【単一回答】					「無回答」を除く	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	満足層	不満足層
	全体	995	**64.4**	28.4	1.5	0.1	5.5	98.3	1.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**64.5**	28.5	1.3	0.0	5.7	98.6	1.4
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**54.1**	41.0	3.3	0.0	1.6	96.7	3.3
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**63.9**	25.0	1.4	1.4	8.3	97.0	3.0
	パフォーマンス	34	**82.4**	11.8	2.9	0.0	2.9	97.0	3.0
性別	男性	235	**60.4**	34.0	0.9	0.4	4.3	98.7	1.3
	女性	649	**67.6**	27.3	1.7	0.0	3.4	98.2	1.8
年齢層	18歳未満	57	**94.7**	3.5	0.0	0.0	1.8	100.0	0.0
	18～29歳	129	**85.3**	11.6	0.0	0.0	3.1	100.0	0.0
	30歳代	80	**67.5**	30.0	1.3	0.0	1.3	98.7	1.3
	40歳代	141	**72.3**	22.0	2.1	0.0	3.5	97.8	2.2
	50歳代	228	**58.3**	35.5	2.6	0.4	3.1	96.8	3.2
	60歳以上	155	**50.3**	43.2	0.6	0.0	5.8	99.3	0.7
鑑賞経験	今日が初めて	187	**69.5**	27.3	1.1	0.0	2.1	98.9	1.1
	1～2回	105	**65.7**	29.5	1.9	0.0	2.9	98.0	2.0
	3～5回	158	**67.1**	25.9	1.9	0.6	4.4	97.4	2.6
	6～10回	117	**70.1**	23.1	2.6	0.0	4.3	97.3	2.7
	11回以上	329	**60.8**	35.0	1.2	0.0	3.0	98.7	1.3

［来場公演のジャンル別］
- 「パフォーマンス」では「たいへん満足」の割合が他のジャンルに比べて高い割合となっている。

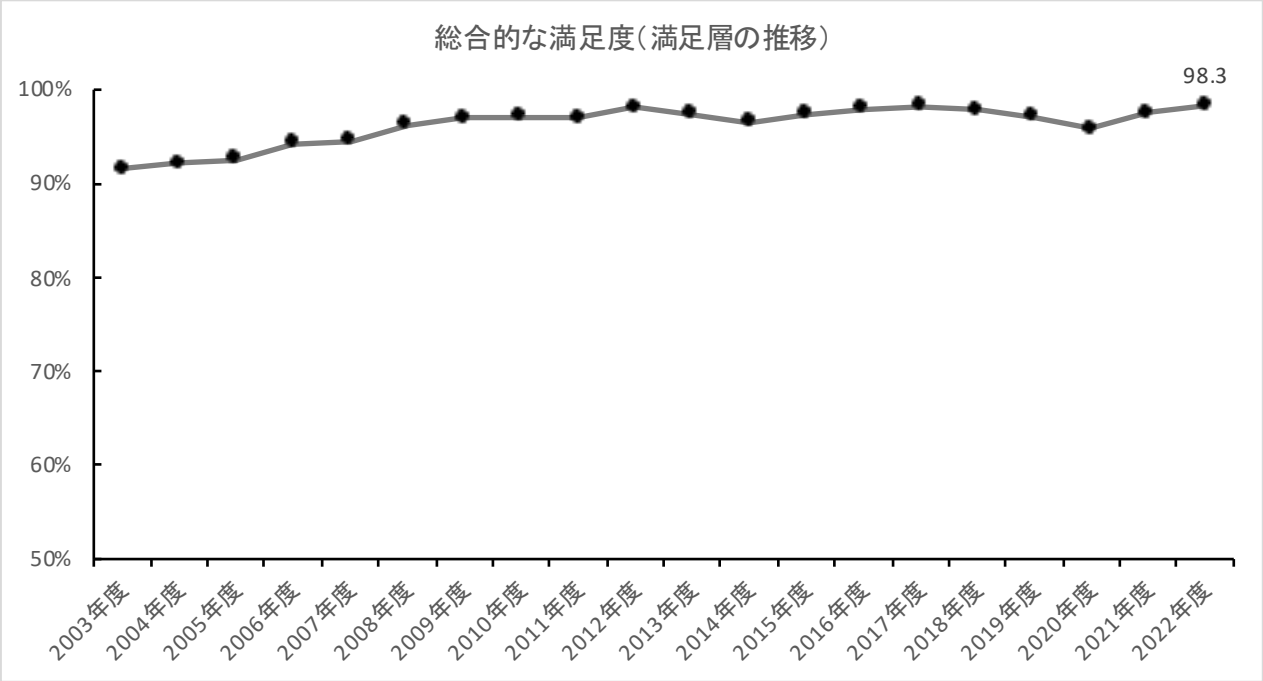
［性別］
- 総合的な満足度では、性別で顕著な差はない。

［年齢別］
- 「18歳未満」と「18～29歳」の年齢層で「たいへん満足」の割合が高い。年齢層が高くなると「たいへん満足」の割合がやや低くなる傾向がある。

［北九州芸術劇場での鑑賞経験別］
- 「11回以上」で「たいへん満足」の割合が、他よりも低くなっている。

(5) 総合的な満足度　Q4

過去調査結果の満足層の推移を見ると、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、22年度は開館以降で最高の割合となっている。



(6) 劇場の運営方針について　Q5

「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」(※)については、いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は98%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は99.0%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も79.6%と高い割合を占める。
※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わった。

[来場公演のジャンル別]
- 「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が最も高い割合となっている。ただし「パフォーマンス」では「無回答」の割合も他のジャンルに比べて高い。

[性別]
- 賛同する割合では、性別で顕著な差はない。

[年齢別]
- 「創る」、「育つ」:「18歳未満」が他の年代に比べて最も「ぜひやってほしい」への割合が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]
- 鑑賞頻度で顕著な傾向はみられない。

運営方針:観る　(単位:%)

		全体	Q5-1運営方針:観る【単一回答】					「無回答」を除く	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する割合	賛同しない割合
	全体	995	79.6	11.3	0.8	0.1	8.2	99.0	1.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	78.5	12.1	0.8	0.1	8.5	98.9	1.1
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	88.5	8.2	1.6	0.0	1.6	98.3	1.7
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	84.7	8.3	0.0	0.0	6.9	100.0	0.0
	パフォーマンス	34	79.4	2.9	0.0	0.0	17.6	100.0	0.0
性別	男性	235	81.3	16.2	0.9	0.4	1.3	98.7	1.3
	女性	649	85.2	10.9	0.9	0.0	2.9	99.0	1.0
年齢層	18歳未満	57	82.5	10.5	1.8	0.0	5.3	98.1	1.9
	18～29歳	129	82.9	14.7	0.8	0.0	1.6	99.2	0.8
	30歳代	80	85.0	13.8	1.3	0.0	0.0	98.8	1.3
	40歳代	141	89.4	9.2	0.7	0.0	0.7	99.3	0.7
	50歳代	228	84.2	12.3	0.4	0.0	3.1	99.5	0.5
	60歳以上	155	79.4	14.8	0.6	0.6	4.5	98.6	1.4
鑑賞経験	今日が初めて	187	90.9	6.4	0.5	0.0	2.1	99.5	0.5
	1～2回	105	81.0	13.3	1.0	0.0	4.8	99.0	1.0
	3～5回	158	83.5	12.7	1.9	0.0	1.9	98.1	1.9
	6～10回	117	85.5	12.0	0.0	0.0	2.6	100.0	0.0
	11回以上	329	82.7	15.8	0.9	0.3	0.3	98.8	1.2

(6) 劇場の運営方針について　Q5

運営方針：創る　（単位：%）

		全体	Q5-2運営方針：創る【単一回答】					「無回答」を除く	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する割合	賛同しない割合
	全体	995	**70.6**	20.4	0.8	0.0	8.2	99.1	0.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**72.1**	18.7	0.7	0.0	8.5	99.2	0.8
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**62.3**	36.1	0.0	0.0	1.6	100.0	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**66.7**	23.6	2.8	0.0	6.9	97.0	3.0
	パフォーマンス	34	**55.9**	26.5	0.0	0.0	17.6	100.0	0.0
性別	男性	235	**74.5**	23.8	0.4	0.0	1.3	99.6	0.4
	女性	649	**74.0**	22.0	1.1	0.0	2.9	98.9	1.1
年齢層	18歳未満	57	**86.0**	8.8	0.0	0.0	5.3	100.0	0.0
	18～29歳	129	**82.2**	15.5	0.0	0.0	2.3	100.0	0.0
	30歳代	80	**78.8**	20.0	1.3	0.0	0.0	98.8	1.3
	40歳代	141	**79.4**	19.1	0.7	0.0	0.7	99.3	0.7
	50歳代	228	**68.4**	27.2	1.3	0.0	3.1	98.6	1.4
	60歳以上	155	**66.5**	29.7	0.6	0.0	3.2	99.3	0.7
鑑賞経験	今日が初めて	187	**80.7**	15.5	1.6	0.0	2.1	98.4	1.6
	1～2回	105	**68.6**	27.6	0.0	0.0	3.8	100.0	0.0
	3～5回	158	**75.3**	21.5	1.3	0.0	1.9	98.7	1.3
	6～10回	117	**65.8**	29.9	1.7	0.0	2.6	98.2	1.8
	11回以上	329	**76.0**	22.8	0.3	0.0	0.9	99.7	0.3

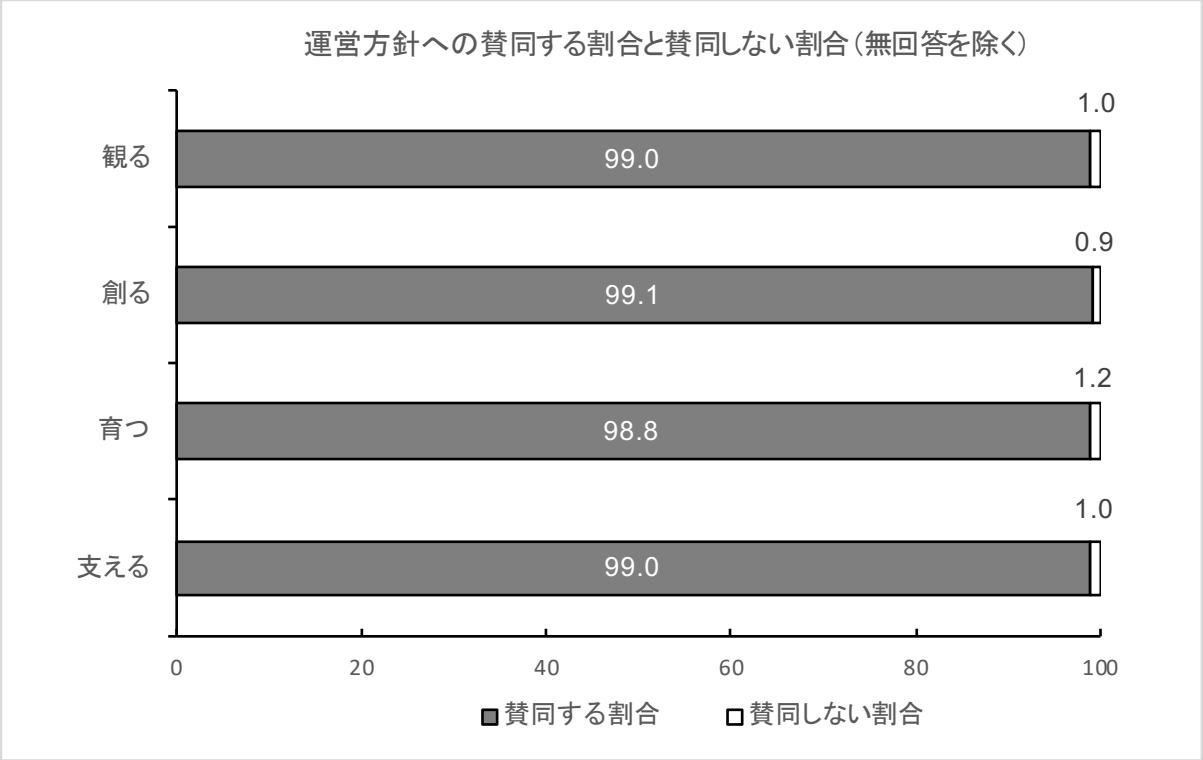
運営方針：育つ

		全体	Q5-3運営方針：育つ【単一回答】					「無回答」を除く	
			同上					同上	
	全体	995	**71.0**	19.3	1.1	0.0	8.6	98.8	1.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**72.3**	17.9	1.0	0.0	8.8	98.9	1.1
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**62.3**	36.1	0.0	0.0	1.6	100.0	0.0
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**68.1**	20.8	2.8	0.0	8.3	97.0	3.0
	パフォーマンス	34	**58.8**	20.6	2.9	0.0	17.6	96.4	3.6
性別	男性	235	**73.2**	24.3	0.9	0.0	1.7	99.1	0.9
	女性	649	**75.0**	20.0	1.4	0.0	3.5	98.6	1.4
年齢層	18歳未満	57	**86.0**	8.8	0.0	0.0	5.3	100.0	0.0
	18～29歳	129	**80.6**	15.5	0.8	0.0	3.1	99.2	0.8
	30歳代	80	**80.0**	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳代	141	**81.6**	16.3	1.4	0.0	0.7	98.6	1.4
	50歳代	228	**68.9**	25.0	2.6	0.0	3.5	97.3	2.7
	60歳以上	155	**65.8**	27.7	0.6	0.0	5.8	99.3	0.7
鑑賞経験	今日が初めて	187	**84.5**	11.8	1.1	0.0	2.7	98.9	1.1
	1～2回	105	**71.4**	22.9	1.0	0.0	4.8	99.0	1.0
	3～5回	158	**74.7**	21.5	1.3	0.0	2.5	98.7	1.3
	6～10回	117	**67.5**	28.2	1.7	0.0	2.6	98.2	1.8
	11回以上	329	**73.6**	24.0	1.2	0.0	1.2	98.8	1.2

(6) 劇場の運営方針について　Q5

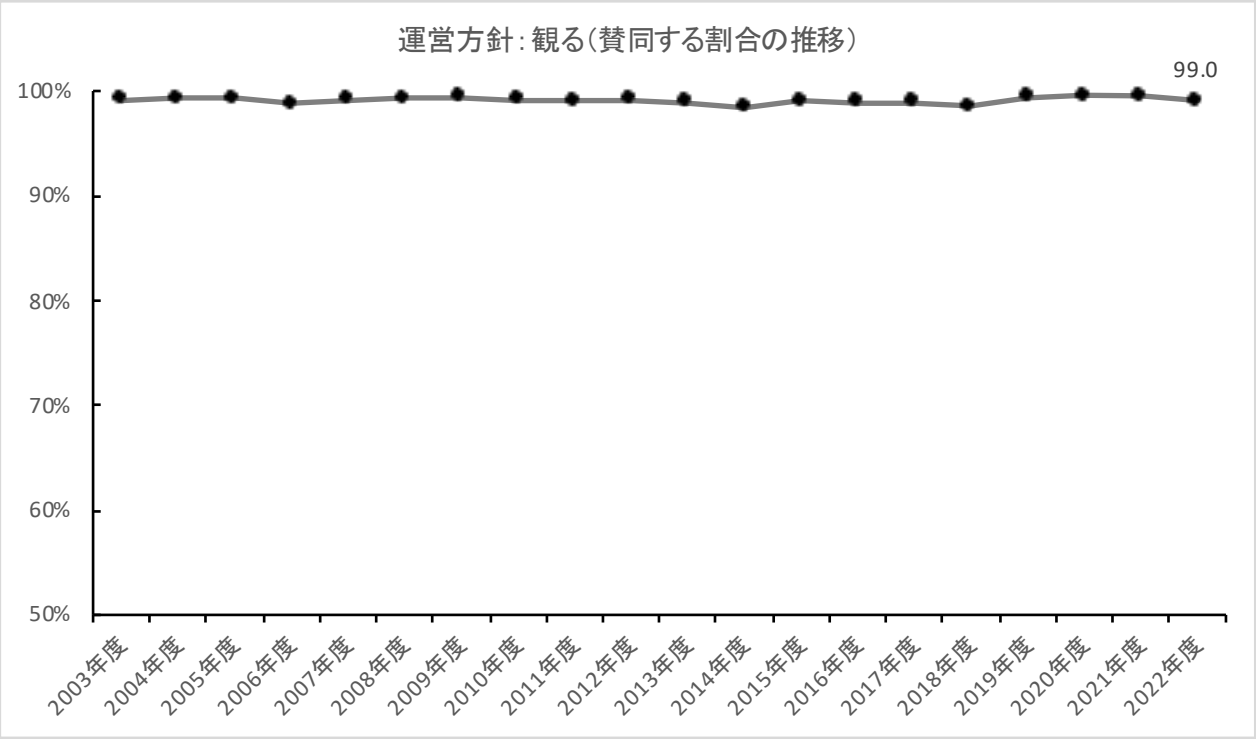
運営方針：支える　（単位：%）

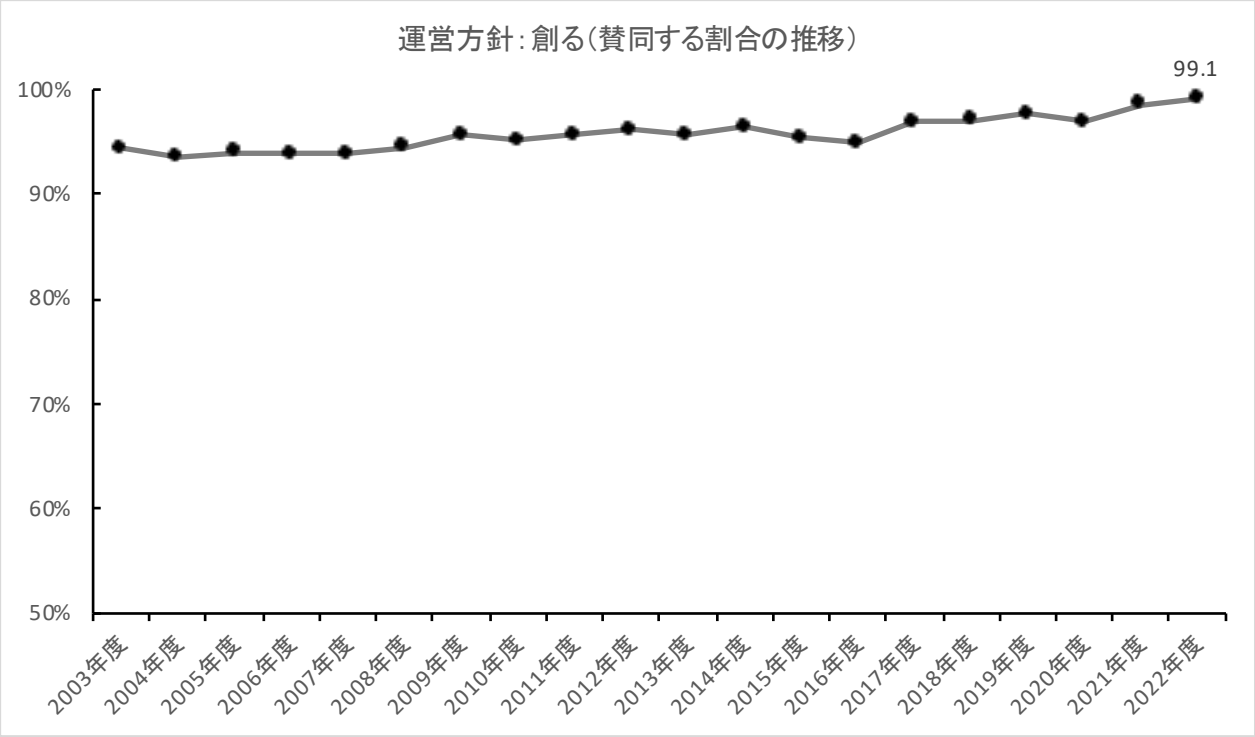
		全体	Q5-4運営方針：支える【単一回答】					「無回答」を除く	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する割合	賛同しない割合
	全体	995	**73.5**	16.9	0.8	0.1	8.7	99.0	1.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	**74.9**	15.9	0.2	0.1	8.8	99.6	0.4
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	**65.6**	31.1	1.6	0.0	1.6	98.3	1.7
	古典芸能（歌舞伎・能）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	**69.4**	15.3	5.6	0.0	9.7	93.8	6.2
	パフォーマンス	34	**61.8**	17.6	2.9	0.0	17.6	96.4	3.6
性別	男性	235	**76.6**	20.9	0.4	0.0	2.1	99.6	0.4
	女性	649	**77.3**	17.9	1.1	0.2	3.5	98.7	1.3
年齢層	18歳未満	57	**86.0**	8.8	0.0	0.0	5.3	100.0	0.0
	18～29歳	129	**86.8**	10.9	0.0	0.0	2.3	100.0	0.0
	30歳代	80	**82.5**	15.0	1.3	0.0	1.3	98.7	1.3
	40歳代	141	**78.7**	19.1	0.7	0.0	1.4	99.3	0.7
	50歳代	228	**71.5**	23.7	1.3	0.4	3.1	98.2	1.8
	60歳以上	155	**71.6**	21.9	0.6	0.0	5.8	99.3	0.7
鑑賞経験	今日が初めて	187	**85.0**	12.3	0.5	0.0	2.1	99.5	0.5
	1～2回	105	**75.2**	19.0	1.0	0.0	4.8	99.0	1.0
	3～5回	158	**78.5**	15.8	2.5	0.0	3.2	97.4	2.6
	6～10回	117	**68.4**	28.2	0.0	0.9	2.6	99.1	0.9
	11回以上	329	**77.5**	20.4	0.6	0.0	1.5	99.4	0.6



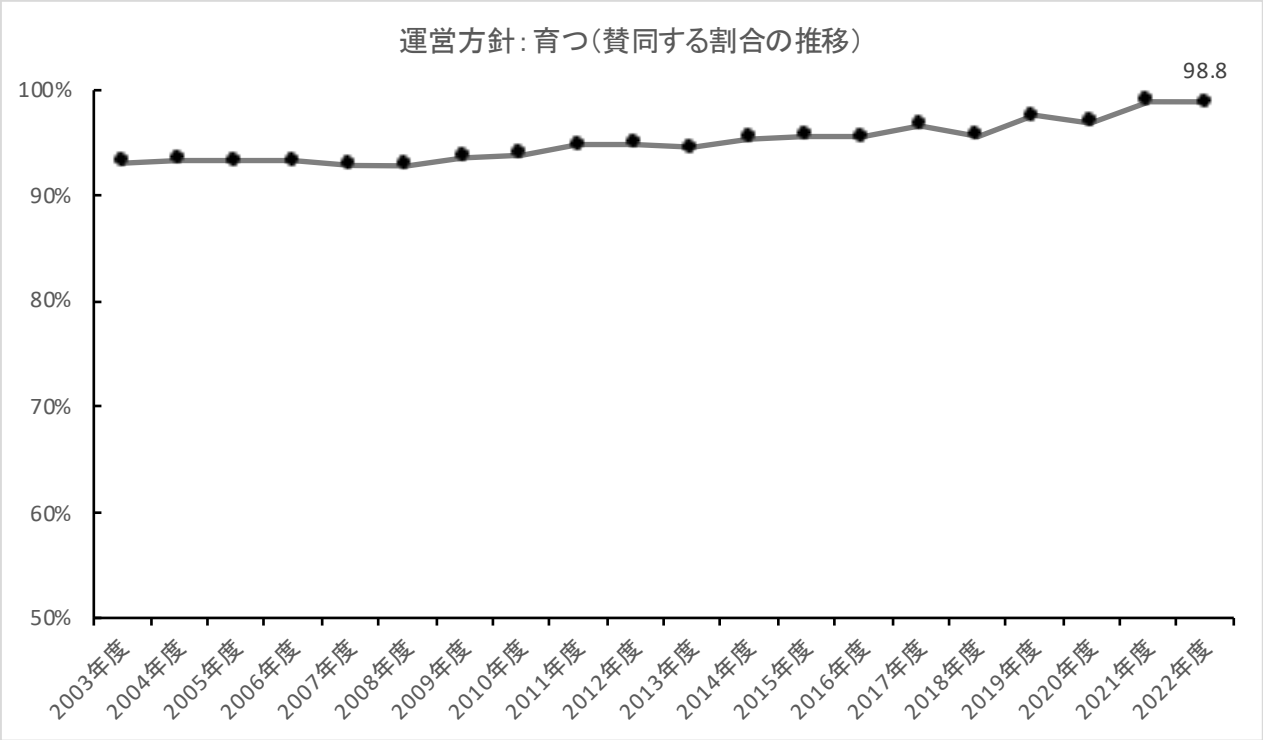
(6) 劇場の運営方針について　Q5

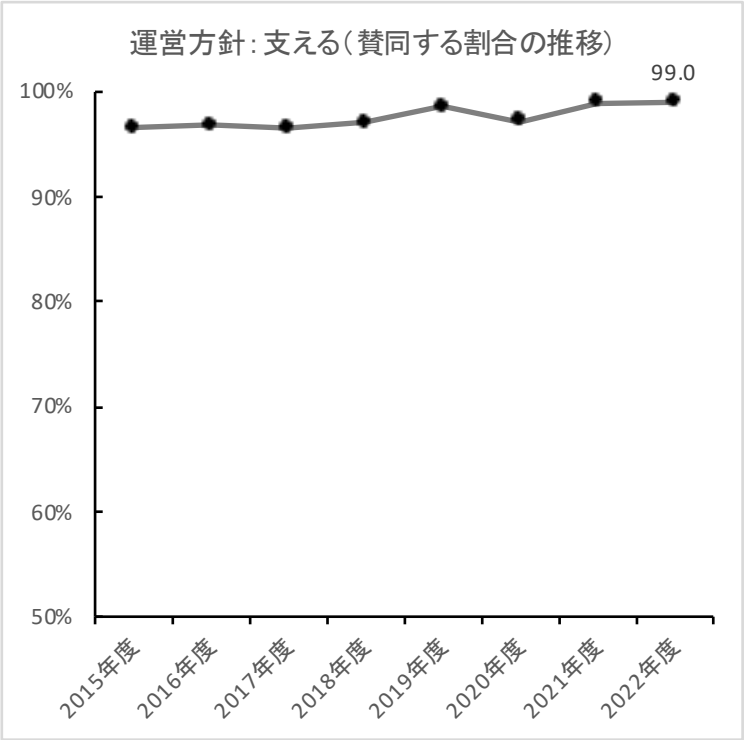
過去調査結果を通じて、「観る」への賛同は極めて高い割合を維持している。一方、「創る」と「育つ」は、「観る」に比べて賛同の割合は低いものの、一定の割合を維持している。2022年度は「創る」と「支える」の賛同の割合が過去最高となっている。





(6) 劇場の運営方針について　Q5





(7) 来場の妨げになっていること　Q10

来場の妨げになっていること(※)は、「会場が遠い」(29.3%)、「チケット代金が高い」(23.4%)、「仕事や勉強で忙しい」(21.0%)、「その他(17.6%)、「いつ何をやっているか情報がない」(16.2%)となっている。「その他」の自由記述では「新型コロナウイルスの感染不安」という意見が多数となっている。
※2015年度から設問を加えた。
※『Re: 北九州の記憶』(回答数23件)では設問を変更し、本項目を削除したためにn=704となっている。

		調査数(n)	Q10来場の妨げになっていること (単位:%) 見たい作品が少ない	いつ何をやっているか情報がない	チケット代金が高い	会場が遠い	開催時間が間に合わない	周りに一緒に見に行く人がいない	仕事や勉強で忙しい	子どもや家族がいて出かけられない	その他	特に妨げは感じない	無回答
全体		995	14.2	16.2	23.4	**29.3**	13.0	5.2	21.0	3.8	17.6	6.5	0.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	828	12.7	14.9	22.8	**28.4**	12.6	4.8	21.0	3.1	17.6	6.8	0.0
	音楽劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	61	21.3	29.5	34.4	**45.9**	18.0	9.8	21.3	3.3	16.4	6.6	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	72	23.6	12.5	25.0	**36.1**	16.7	4.2	22.2	2.8	16.7	2.8	0.0
	パフォーマンス	34	17.6	**32.4**	14.7	8.8	5.9	8.8	17.6	23.5	20.6	8.8	0.0
性別	男性	235	15.3	16.2	20.9	**24.7**	15.3	6.4	20.4	3.4	21.7	7.7	0.0
	女性	649	15.4	18.6	27.6	**35.3**	14.2	5.5	24.0	4.5	19.0	6.9	0.0
年齢層	18歳未満	57	1.8	15.8	10.5	33.3	8.8	7.0	**54.4**	1.8	19.3	0.0	0.0
	18～29歳	129	7.0	15.5	27.9	**28.7**	12.4	10.9	27.9	0.0	24.8	2.3	0.0
	30歳代	80	18.8	**37.5**	17.5	30.0	12.5	8.8	16.3	16.3	21.3	3.8	0.0
	40歳代	141	16.3	15.6	33.3	**38.3**	17.0	4.3	22.0	7.8	14.2	12.8	0.0
	50歳代	228	17.5	18.0	28.1	**34.2**	18.9	4.4	25.4	2.2	14.0	11.4	0.0
	60歳以上	155	21.3	14.2	21.3	28.4	10.3	3.2	11.0	1.9	**29.7**	4.5	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	187	9.1	29.9	18.7	**33.7**	7.5	9.1	25.7	4.8	18.7	4.8	0.0
	1～2回	105	14.3	23.8	20.0	**37.1**	11.4	6.7	23.8	2.9	16.2	3.8	0.0
	3～5回	158	17.1	13.9	22.2	**34.2**	13.3	6.3	24.7	5.7	19.0	3.2	0.0
	6～10回	117	17.9	16.2	24.8	**35.9**	13.7	5.1	21.4	3.4	17.9	11.1	0.0
	11回以上	329	18.5	11.6	**34.3**	28.0	20.1	3.6	21.6	4.0	21.9	10.0	0.0

[来場公演のジャンル別]
- 「パフォーマンス」では「いつ何をやっているか情報がない」が最も高く、次いで「子どもや家族がいて出かけられない」が高い割合となっている。

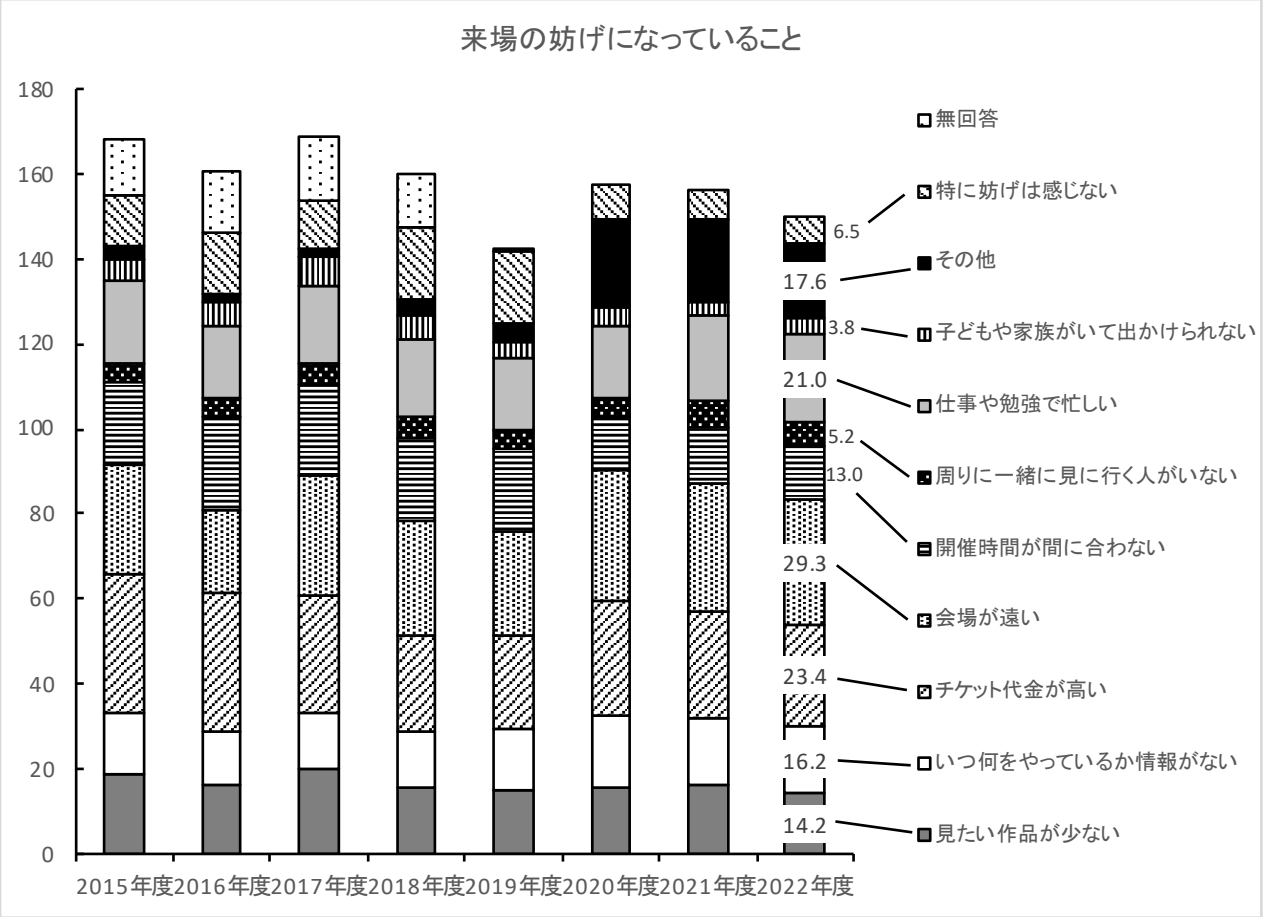
[性別]
- 来場の妨げになっていることでは、性別で顕著な差はない。

[年齢別]
- 「50歳代」と「40歳代」では「会場が遠い」の割合が他の世代よりも高い。
- 「60歳以上」では「その他」の割合が他の世代よりも高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験の「11回以上」では「チケット代金が高い」の割合が最も高い。

(7) 来場の妨げになっていること　Q10

来場の妨げになっていることの割合の推移を見ると、17年度以降は5カ年続けて「会場が遠い」の割合が最も高くなっている。2020年度と2021年度では、以前と比較して「その他」が急激に増加しているが、自由記述の内容からも新型コロナウイルスの感染拡大が原因であることは明らかである。



参考｜調査票

「公演名〇〇〇〇」公演アンケート **北九州芸術劇場**

本日は北九州芸術劇場の公演にご来場いただき誠にありがとうございます。皆様の声を今後の事業及び運営に活かすため、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

全ての設問にご回答いただいた方の中から抽選で5組の方へ、「公演名△△△」(〇月実施)のペア招待券を差し上げます。なお、当選者の発表は当選通知の発送にかえさせていただきます。

アンケートの回答は下記にて承っております。

① この用紙にご記入の上、会場内の回収箱へ投函

② 〃 後程 FAX により送信(093-562-2633)

③ WEB アンケートフォームより回答(右の QR コードを読み取り下さい)

WEB回答は こちらから➡

ご来場日時: 〇月 〇日(〇) 〇時公演

Q1 今日の公演は何でお知りになりましたか。(〇はいくつでも)

1 雑誌・フリーペーパー(誌名:)　2 新聞(紙名:)　3 TV・ラジオ

4 北九州市 市政だより　5 街中のチラシ・ポスター　6 郵送や E メールでのダイレクトメール

7 他の公演会場で配布されたチラシ　8 劇場ホームページ　9 情報誌Q

10 Twitter、LINE、Instagram、youtube などSNS　11 友人・知人から聞いた　12 出演者、公演関係者から聞いた

13 その他(具体的に)

Q2 今日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

1 出演者、出演団体が好きだから　2 出演者、出演団体が有名だから　3 公演内容が面白そうだったから

4 劇場に来てみたかったから　5 劇場が近くだったから　6 出演者や関係者が知り合いだから

7 人に誘われたから　8 北九州芸術劇場の催しだから

9 その他(具体的に)

Q3 今日の公演や北九州芸術劇場についてあなたのご意見をお聞かせください。(〇は各項目ひとつずつ)

	1 たいへん満足	2 まあ満足	3 少し不満足	4 まったく不満足
本日 の公演内容	1	2	3	4
本日 の公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
劇場係員の応対	1	2	3	4
北九州芸術劇場に対する総合的な満足度	1	2	3	4

Q4 今日の公演をご覧になっての感想をお聞かせください。

ご記入いただいた感想を一部抜粋し、劇場ツイッター・HP などで匿名で紹介する場合があります。使用を許可しない場合はチェックをお願いします。

☐ 使用許可しない

Q5　北九州芸術劇場は次のような方針で運営しています。あなたのご意見をお聞かせください。（○は各項目ひとつだけ）

		1ぜひやってほしい	2まあやってほしい	3あまりやる必要はない	4全くやる必要がない
観る	国内外の舞台芸術の先進都市からエンターテイメント性や芸術性の高い‘旬’の舞台作品を招きます	1	2	3	4
創る	劇場のオリジナル・プロデュースで本格的な舞台作品を創ります	1	2	3	4
育つ	アーティストを劇場の外に派遣するなどの活動を通じて地域に舞台芸術を愛する人が根づく土壌を作ります	1	2	3	4
支える	市民の文化活動の支援や、地元劇団等の創作活動の支援を行います	1	2	3	4

Q6　今日の公演前に飲食やショッピングをされましたか。また公演後される予定ですか。（○はひとつ）

1　はい　　2　いいえ

→「 1　はい 」とお答えになった方へ
だいたいいくらぐらいお使いになりましたか。あるいはお使いになる予定ですか。飲食とショッピングの別にご記入ください。

飲食	円ぐらい
ショッピング	円ぐらい

Q7　今までに北九州芸術劇場で何回ぐらい公演をご覧になりましたか。（○はひとつ）

1　今日が初めて　　2　1～2回　　3　3～5回　　4　6～10回　　5　11回以上

Q8　コンサートや演劇などの公演に出かけるのに、何が妨げになっていますか。（○はいくつでも）

1　見たい作品が少ない　　2　いつ何をやっているか情報がない　　3　チケット代金が高い　　4　会場が遠い
5　開催時間が合わない　　6　まわりに一緒に見に行く人がいない　　7　仕事や勉強で忙しい
8　子どもや家族がいて出かけられない　　9　その他（具体的に　　）　　10　特に妨げは感じない

Q9　お住まいのエリアをお答えください。（○はひとつだけ）

1　北九州市　　2　北九州市周辺（直方市、田川市、行橋市、中間市、宗像市、福津市、宮若市、遠賀郡等）
3　福岡市　　4　福岡市周辺（筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、糸島市、糟屋郡等）
5　上記以外の福岡県内（具体的に　　）　　6　福岡県以外の九州（具体的に　　）
7　下関市　　8　下関市以外の山口県（具体的に　　）　　9　その他（具体的に　　）

Q10　ご性別をお答えください。　　1　男性　　2　女性

Q11　ご年齢をお答えください。　　ご年齢　　歳

Q12　今後、観てみたい劇団、アーティスト、作品などについてご自由にご記入ください。

（　　）

お名前とご連絡先のご記入をお願いします。（招待券の抽選への参加にはご記入が必要です。）

ご記入頂いた情報は、招待券の抽選・発送及び劇場・演劇関係者からのご案内の目的以外には一切使用いたしません。

フリガナ

■お名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿　　■TEL ＿＿＿＿＿＿＿＿

〒　　＊アパート・マンション名までご記入ください

■ご住所 ＿＿＿＿＿＿＿＿

今後、演劇等公演のご案内をお送りする場合があります。DMを希望しますか。　1　はい　　2　いいえ

◎北九州芸術劇場 LINE＠におともだち登録をしていただくと不定期で情報を配信しています。この機会にぜひご利用ください！

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同、またのご来場を心よりお待ちいたしております。

Ⅲ

貸館利用者
調査結果

序　利用者調査の実施要領

貸館利用者調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象：2022年度の貸館利用者（大ホール、中劇場、小劇場）
- 配布・回収方法：利用当日に配布、回収（後日ファックス、郵送での回収も受付）
- 配布件数：260件
- 有効回答数（回収率）：194件（74.6%）

(2) 集計・分析にあたっての留意事項

- 貸館利用者調査（「施設利用に関するアンケート調査」）は、2005年度から北九州芸術劇場が独自に開始し、2006年度からは北九州市の方針により、北九州芸術劇場、響ホール、門司市民会館、若松市民会館、八幡市民会館の5館で共通の調査票を用いた調査を実施することとなった。
- 調査票は、2005年度に北九州芸術劇場で実施した調査票に基づき、2006年度から5館共通の調査票を再設計している。そのため、共通の項目が多い一方、統合できない項目もある。
- 2009年度から、満足度項目のうち、運営・応対面に関する項目を若干変更している。また、「Q4：劇場を利用したきっかけ」を新たに設けている。

(3) 調査項目

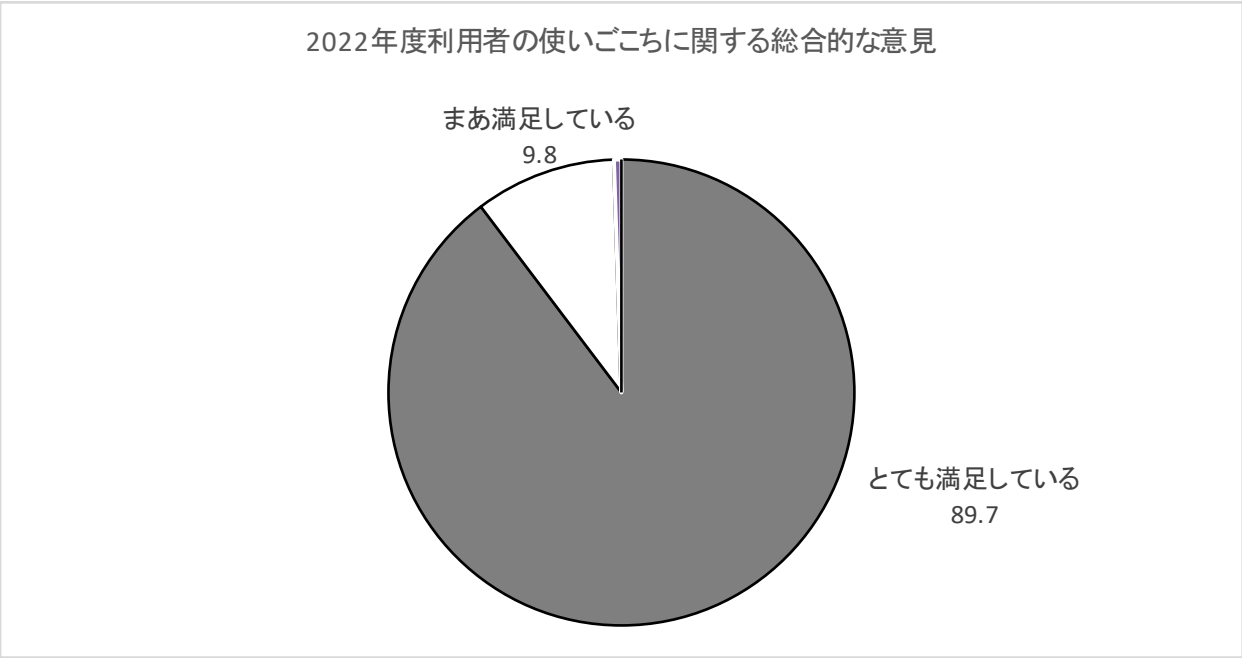
- 劇場の使いごこちに対する総合的な満足度
- 劇場の施設に関する意見（「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答）
- 劇場の運営や応対に関する意見（「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答）
- 施設を利用する際重視すること
- うち最も重視すること、2番目に重視すること
- 劇場を利用したきっかけ
- その他自由回答

利用者調査結果

(1) 使いごこちに関する総合的な意見　Q1

北九州芸術劇場の使いごこちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が89.7%、「まあ満足している」が9.8%となっている。劇場利用者の満足度は大変高い。

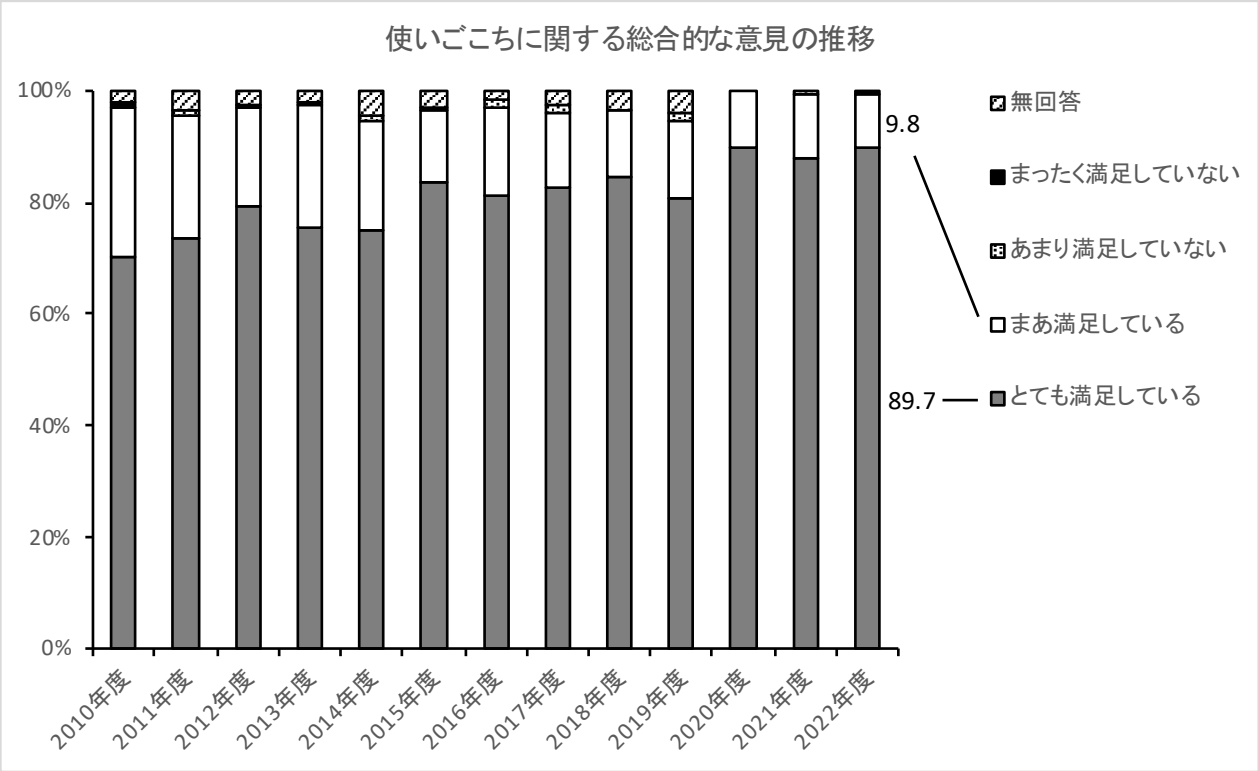
	調査数（n）	Q1　使いごこちに関する総合的な意見【単一回答】				（単位：%）
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答
2010年度	145	**70.3**	26.9	0.0	0.7	2.1
2011年度	163	**73.6**	22.1	0.6	0.0	3.7
2012年度	165	**79.4**	17.6	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	**75.7**	21.7	0.7	0.0	2.0
2014年度	135	**74.8**	20.0	0.7	0.0	4.4
2015年度	170	**83.5**	12.9	0.6	0.0	2.9
2016年度	171	**81.3**	15.8	1.2	0.0	1.8
2017年度	155	**82.6**	13.5	1.3	0.0	2.6
2018年度	147	**84.4**	12.2	0.0	0.0	3.4
2019年度	155	**80.6**	14.2	1.3	0.0	3.9
2020年度	68	**89.7**	10.3	0.0	0.0	0.0
2021年度	147	**87.8**	11.6	0.7	0.0	0.0
2022年度	194	**89.7**	9.8	0.0	0.5	0.0

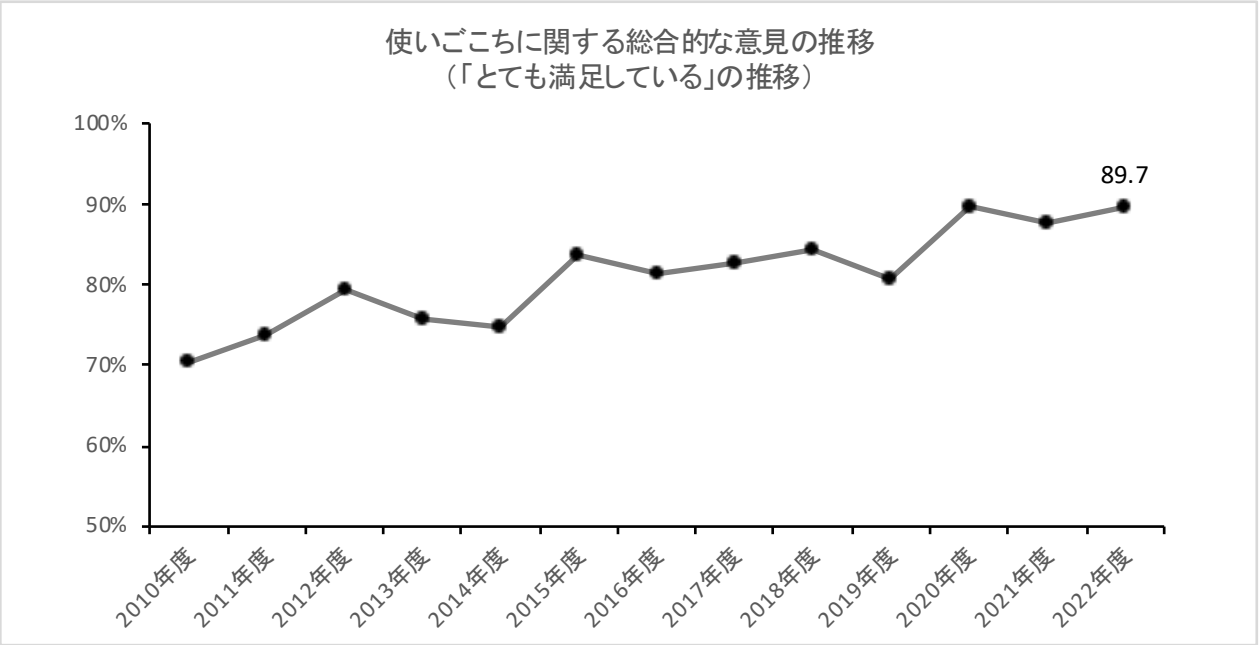


集計表には、参考として2010年度～2022年度の各年度の数字を掲載している。

(1) 使いごこちに関する総合的な意見　Q1

経年変化でみると、2022年度は貸館の利用者調査を開始した2010年度以降で、「とても満足している」回答が2020年度と同率で最も高い割合となっている。



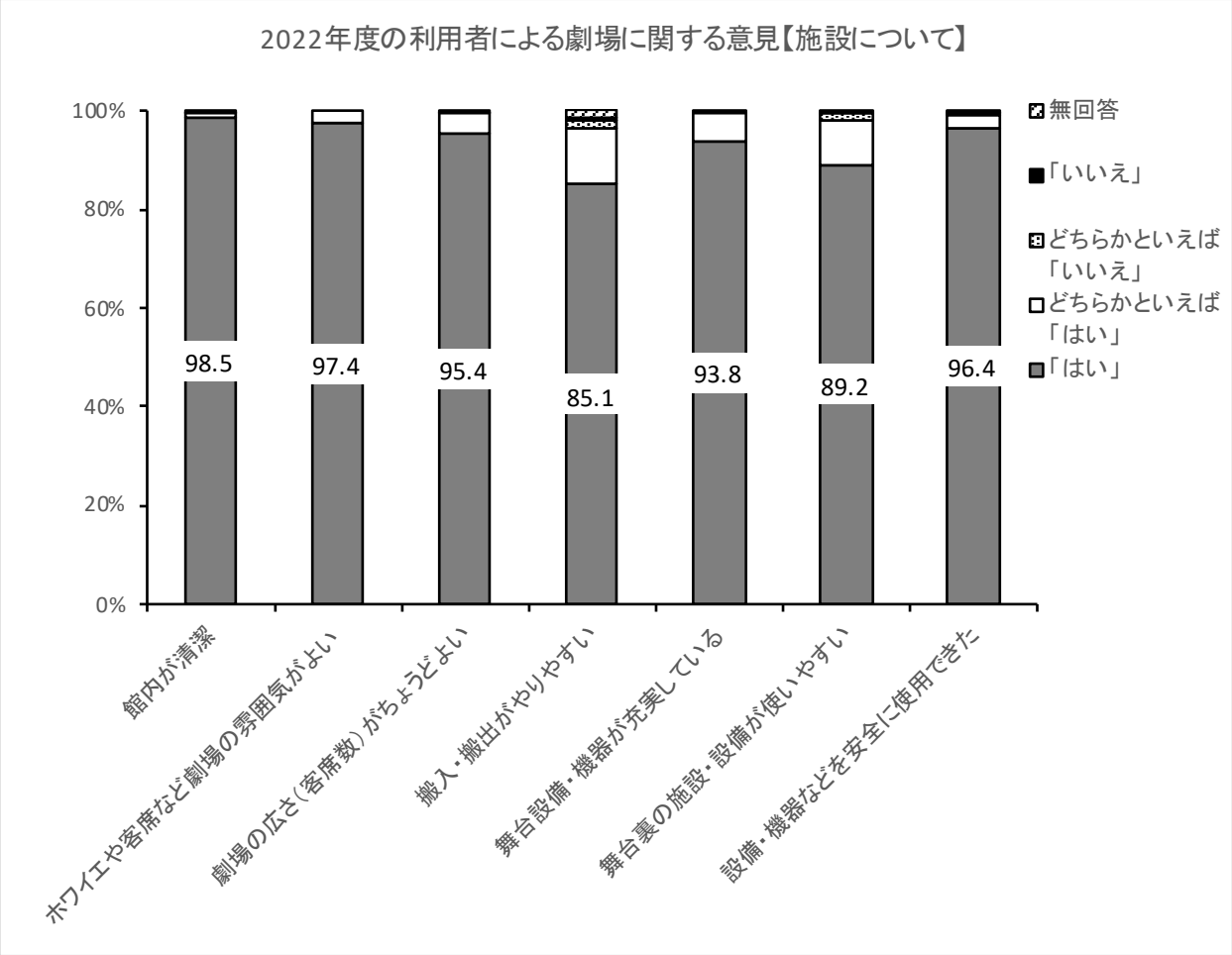


(2) 劇場に関する意見 【施設について】 Q2

劇場の施設に関する7項目についての意見をみると、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」と「搬入・搬出がやりやすい」、「舞台設備・機器が充実している」以外の項目では「はい」という積極的な評価が95%以上で、すべての項目で肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合が95%以上となっている。

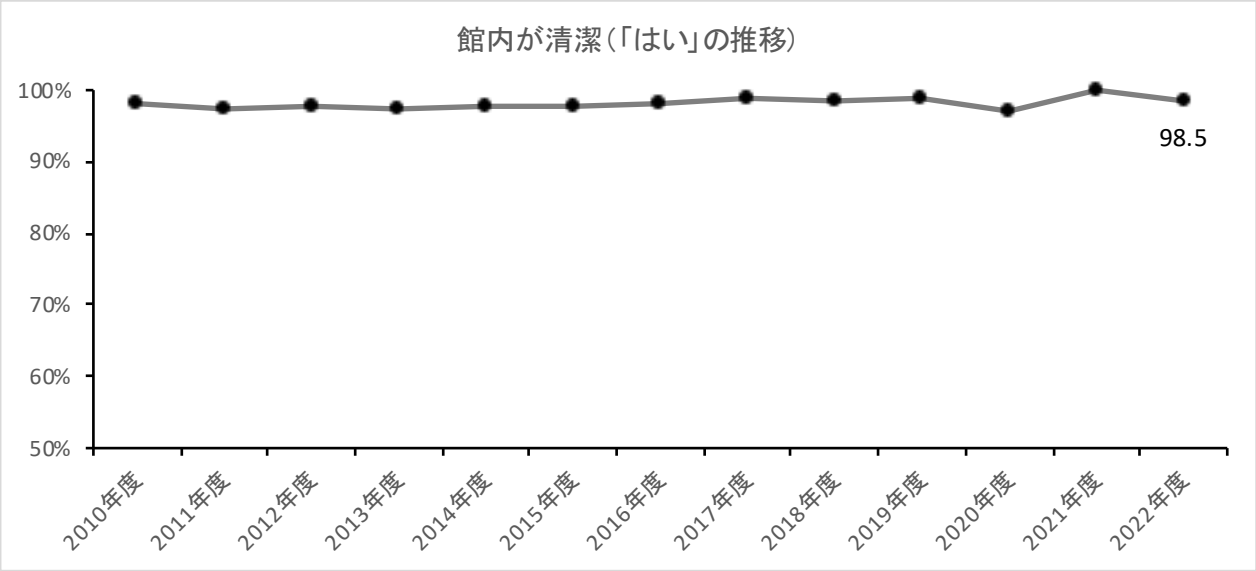
（単位：%）

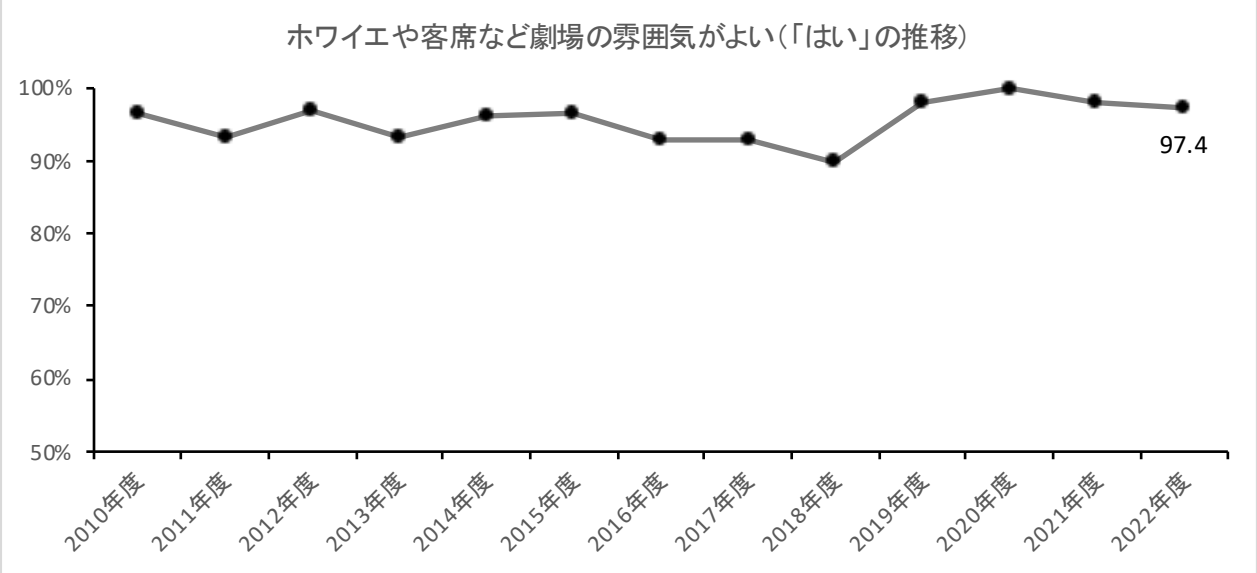
【各項目で単一回答】	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
館内が清潔	**98.5**	1.0	0.5	0.0	0.0
ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい	**97.4**	2.6	0.0	0.0	0.0
劇場の広さ（客席数）がちょうどよい	**95.4**	4.1	0.0	0.5	0.0
搬入・搬出がやりやすい	**85.1**	11.3	1.5	0.5	1.5
舞台設備・機器が充実している	**93.8**	5.7	0.5	0.0	0.0
舞台裏の施設・設備が使いやすい	**89.2**	8.8	1.5	0.0	0.5
設備・機器などを安全に使用できた	**96.4**	2.6	0.0	0.5	0.5



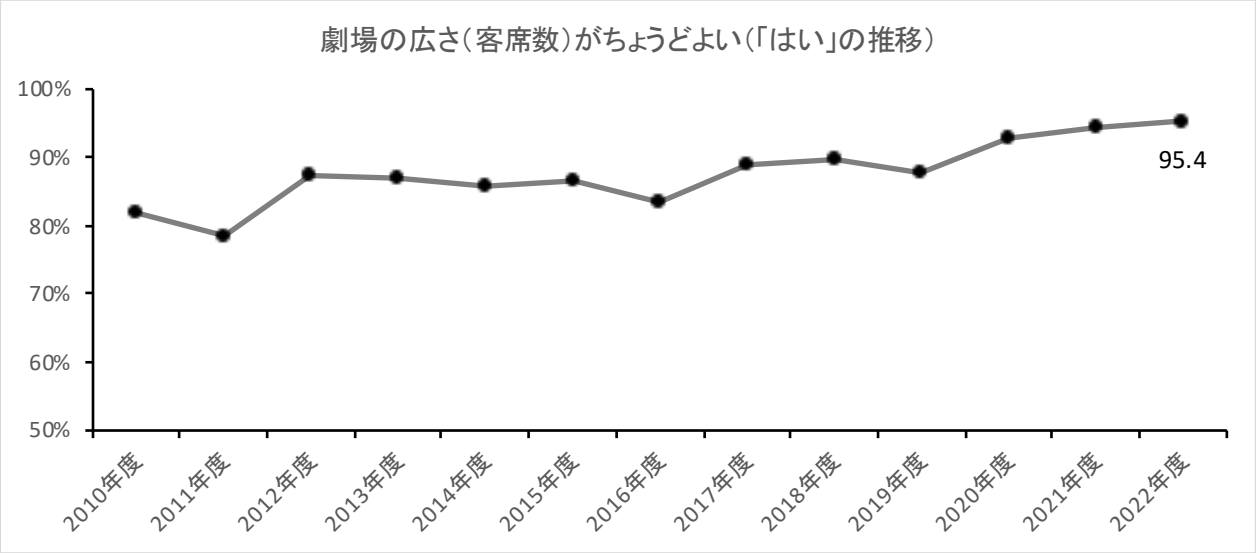
(2) 劇場に関する意見 【施設について】 Q2

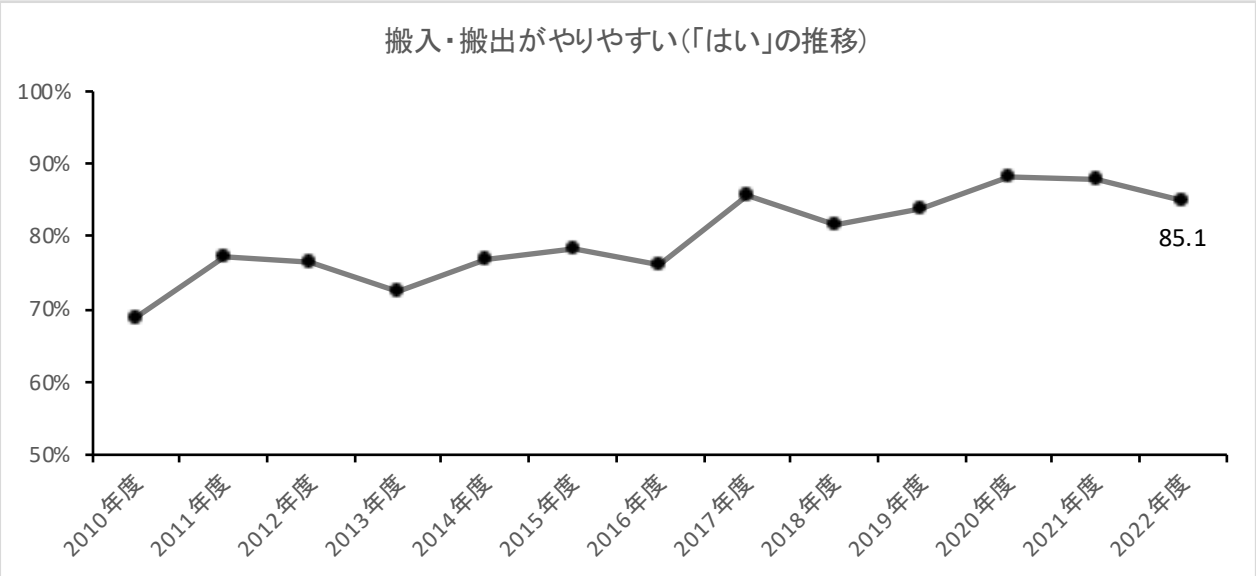
経年変化を見ると、「館内が清潔」は「はい」の回答が2010年度以降97%を超えており常に高い割合を維持している。他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「舞台設備・機器が充実している」だが、３項目に共通して2020年度以降の「はい」の回答割合が減少している。

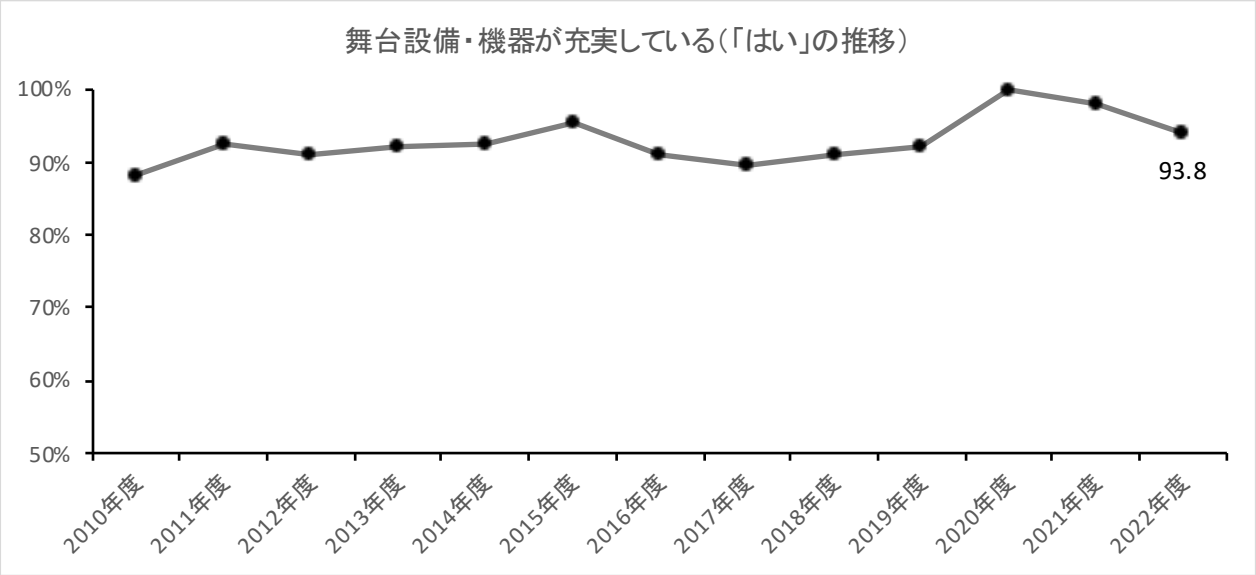




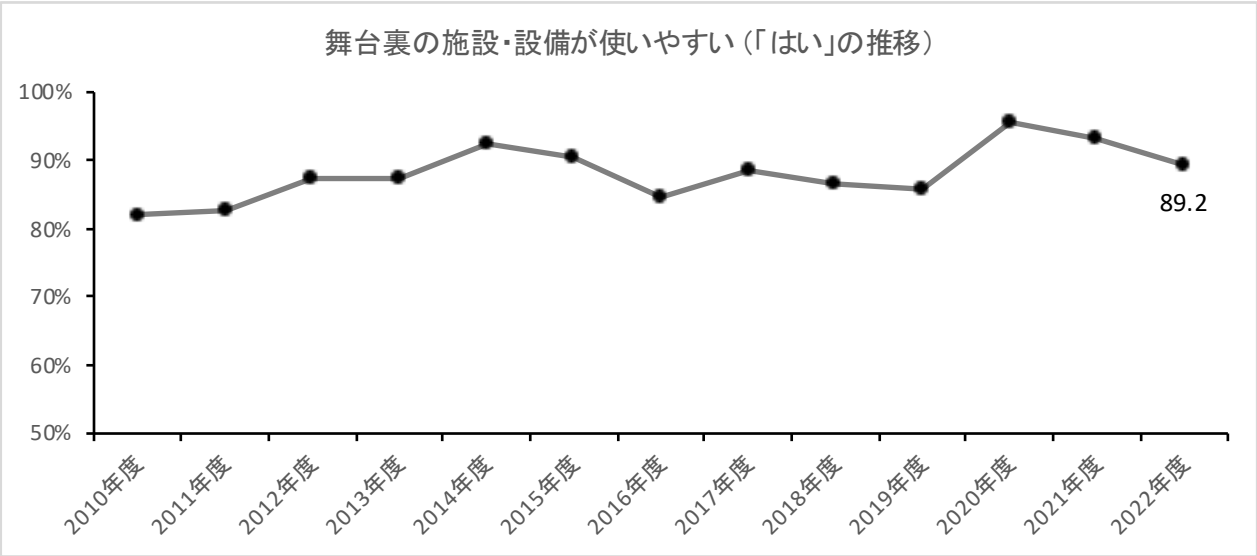
(2) 劇場に関する意見 【施設について】 Q2

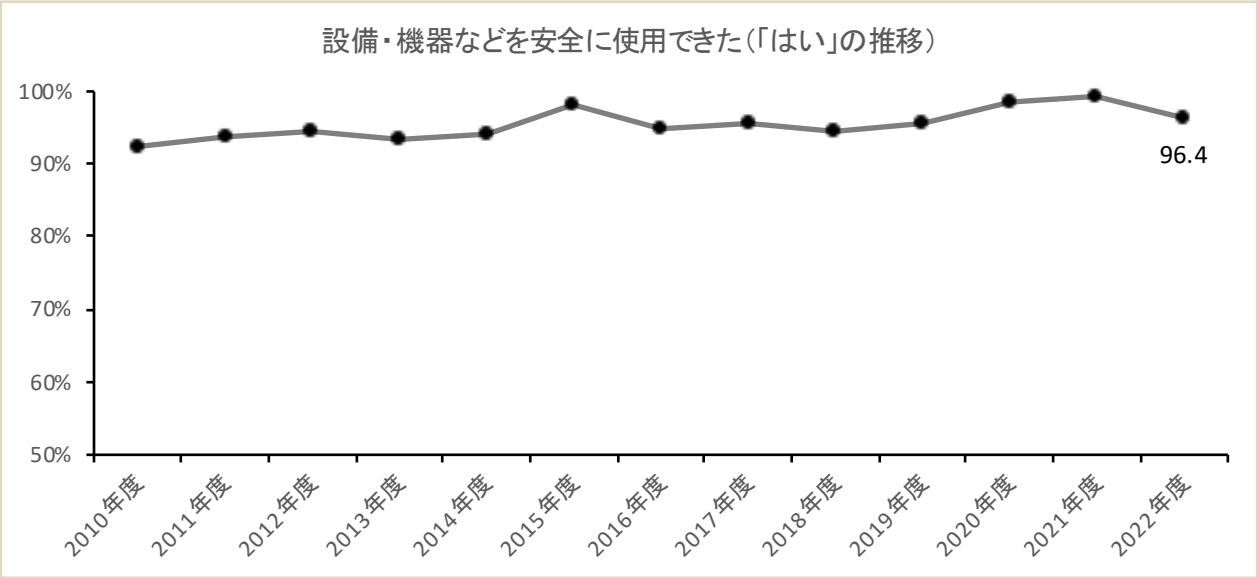






(2) 劇場に関する意見 【施設について】 Q2





(2) 劇場に関する意見 【施設について】 Q2

（単位：%）

	調査数（n）	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-施設① 館内が清潔						
2010年度	145	**97.9**	2.1	0.0	0.0	0.0
2011年度	163	**97.5**	2.5	0.0	0.0	0.0
2012年度	165	**97.6**	2.4	0.0	0.0	0.0
2013年度	152	**97.4**	2.6	0.0	0.0	0.0
2014年度	135	**97.8**	2.2	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	**97.6**	1.8	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	**98.2**	1.8	0.0	0.0	0.0
2017年度	155	**98.7**	1.3	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	**98.6**	1.4	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	**98.7**	1.3	0.0	0.0	0.0
2020年度	68	**97.1**	2.9	0.0	0.0	0.0
2021年度	147	**100.0**	0.0	0.0	0.0	0.0
2022年度	194	**98.5**	1.0	0.5	0.0	0.0
Q2-施設② ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい						
2010年度	145	**96.6**	3.4	0.0	0.0	0.0
2011年度	163	**93.3**	6.7	0.0	0.0	0.0
2012年度	165	**97.0**	3.0	0.0	0.0	0.0
2013年度	152	**93.4**	5.9	0.7	0.0	0.0
2014年度	135	**96.3**	3.0	0.7	0.0	0.0
2015年度	170	**96.5**	2.9	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	**93.0**	5.8	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	**92.9**	7.1	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	**89.8**	8.8	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	**98.1**	1.9	0.0	0.0	0.0
2020年度	68	**100.0**	0.0	0.0	0.0	0.0
2021年度	147	**98.0**	2.0	0.0	0.0	0.0
2022年度	194	**97.4**	2.6	0.0	0.0	0.0
Q2-施設③ 劇場の広さ（客席数）がちょうどよい						
2010年度	145	**82.1**	12.4	2.1	2.8	0.7
2011年度	163	**78.5**	16.0	3.7	1.8	0.0
2012年度	165	**87.3**	10.3	1.2	0.6	0.6
2013年度	152	**86.8**	9.2	3.3	0.7	0.0
2014年度	135	**85.9**	9.6	0.7	3.0	0.7
2015年度	170	**86.5**	10.6	1.8	0.6	0.6
2016年度	171	**83.6**	14.6	1.8	0.0	0.0
2017年度	155	**89.0**	7.7	1.9	1.3	0.0
2018年度	147	**89.8**	8.8	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	**87.7**	9.7	1.9	0.6	0.0
2020年度	68	**92.6**	7.4	0.0	0.0	0.0
2021年度	147	**94.6**	5.4	0.0	0.0	0.0
2022年度	194	**95.4**	4.1	0.0	0.5	0.0

(2) 劇場に関する意見 【施設について】 Q2

（単位：%）

	調査数（n）	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-施設④ 搬入・搬出がやりやすい						
2010年度	145	**69.0**	22.1	6.2	1.4	1.4
2011年度	163	**77.3**	14.7	4.9	1.2	1.8
2012年度	165	**76.4**	17.6	3.6	0.6	1.8
2013年度	152	**72.4**	24.3	2.6	0.0	0.7
2014年度	135	**77.0**	14.8	5.2	0.7	2.2
2015年度	170	**78.2**	17.6	2.9	1.2	0.0
2016年度	171	**76.0**	18.7	4.1	0.0	1.2
2017年度	155	**85.8**	12.3	0.6	0.6	0.6
2018年度	147	**81.6**	14.3	1.4	0.7	2.0
2019年度	154	**83.8**	13.0	2.6	0.0	0.6
2020年度	68	**88.2**	10.3	1.5	0.0	0.0
2021年度	147	**87.8**	10.2	1.4	0.7	0.0
2022年度	194	**85.1**	11.3	1.5	0.5	1.5
Q2-施設⑤ 舞台設備・機器が充実している						
2010年度	145	**88.3**	10.3	0.0	0.0	1.4
2011年度	163	**92.6**	6.7	0.0	0.0	0.6
2012年度	165	**90.9**	7.9	0.0	0.0	1.2
2013年度	152	**92.1**	7.2	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	**92.6**	4.4	1.5	0.0	1.5
2015年度	170	**95.3**	4.7	0.0	0.0	0.0
2016年度	171	**91.2**	7.0	1.2	0.0	0.6
2017年度	155	**89.7**	9.7	0.6	0.0	0.0
2018年度	147	**91.2**	7.5	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	**92.2**	6.5	0.6	0.0	0.6
2020年度	68	**100.0**	0.0	0.0	0.0	0.0
2021年度	147	**98.0**	1.4	0.0	0.7	0.0
2022年度	194	**93.8**	5.7	0.5	0.0	0.0
Q2-施設⑥ 舞台裏の施設・設備が使いやすい						
2010年度	145	**82.1**	15.2	0.0	1.4	1.4
2011年度	165	**82.8**	12.9	2.5	0.6	1.2
2012年度	165	**87.3**	9.1	3.0	0.0	0.6
2013年度	152	**87.5**	10.5	1.3	0.0	0.7
2014年度	135	**92.6**	5.2	1.5	0.7	0.0
2015年度	170	**90.6**	7.6	0.6	0.6	0.6
2016年度	171	**84.8**	12.3	2.3	0.6	0.0
2017年度	155	**88.4**	11.6	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	**86.4**	12.2	0.7	0.0	0.7
2019年度	154	**85.7**	11.7	1.9	0.0	0.6
2020年度	68	**95.6**	4.4	0.0	0.0	0.0
2021年度	147	**93.2**	6.1	0.7	0.0	0.0
2022年度	194	**89.2**	8.8	1.5	0.0	0.5

(2) 劇場に関する意見 【施設について】 Q2

（単位：%）

	調査数（n）	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-施設⑦ 設備・機器などを安全に使用できた						
2010年度	145	**92.4**	6.2	0.0	0.0	1.4
2011年度	163	**93.9**	4.9	0.6	0.0	0.6
2012年度	165	**94.5**	3.6	0.0	0.0	1.8
2013年度	152	**93.4**	5.3	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	**94.1**	5.2	0.0	0.0	0.7
2015年度	170	**98.2**	1.2	0.0	0.6	0.0
2016年度	171	**94.7**	4.1	0.0	0.0	1.2
2017年度	155	**95.5**	3.9	0.0	0.6	0.0
2018年度	147	**94.6**	4.1	0.0	0.0	1.4
2019年度	154	**95.5**	1.9	1.3	0.6	0.6
2020年度	68	**98.5**	1.5	0.0	0.0	0.0
2021年度	147	**99.3**	0.7	0.0	0.0	0.0
2022年度	194	**96.4**	2.6	0.0	0.5	0.5

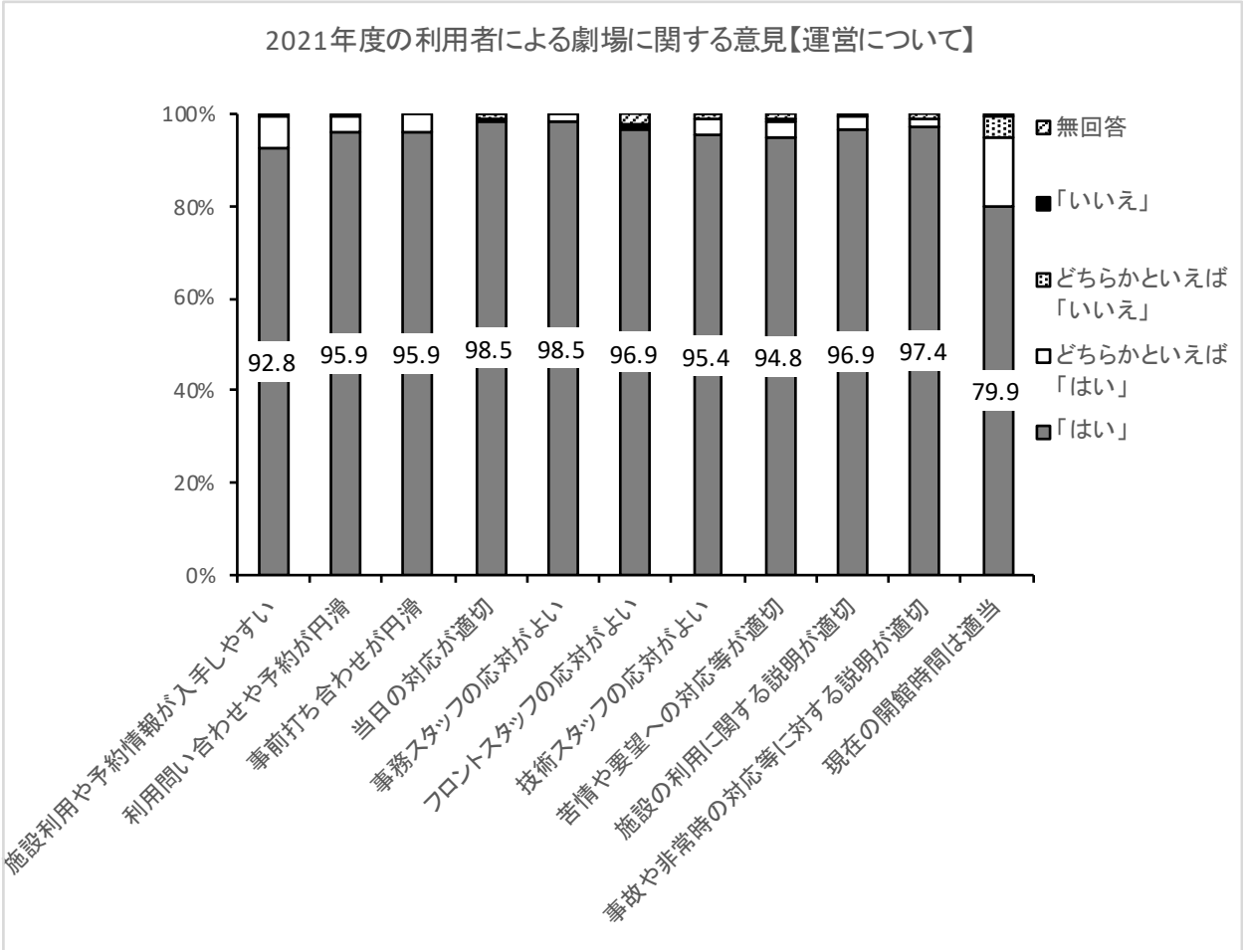
(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

劇場の運営や応対に関する11項目についての意見をみると、肯定的な評価（「はい」+「どちらかといえば『はい』」）の割合は、「事前打ち合わせが円滑」、「事務スタッフの応対がよい」、「施設の利用に関する説明が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」の項目で100.0%となっている。

「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「はい」（79.9%）の回答が少なくなっている。

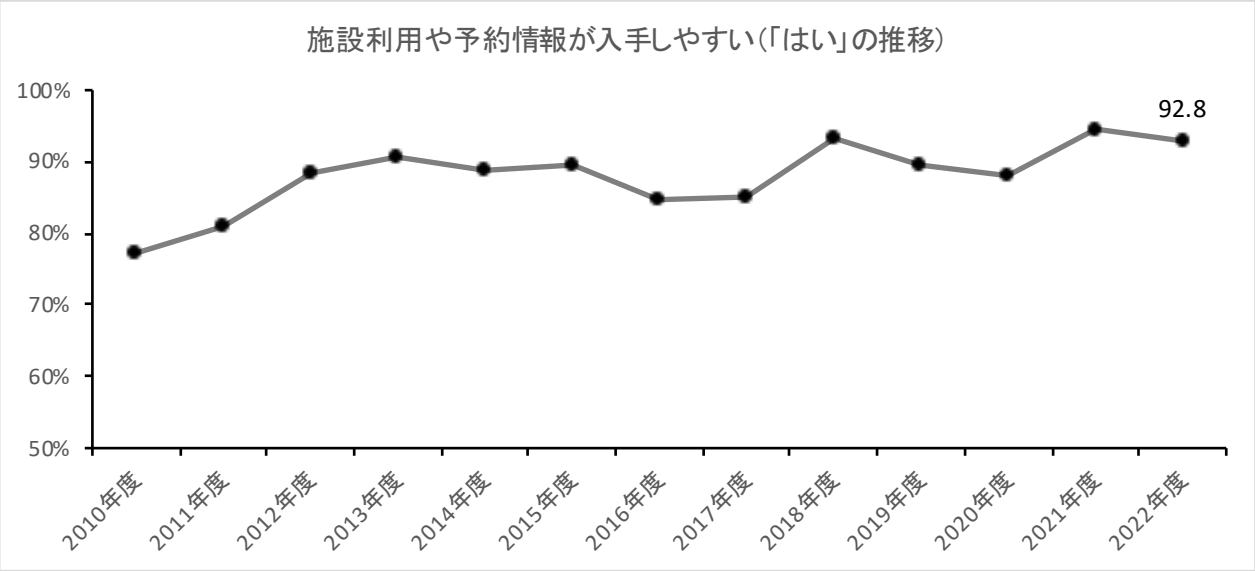
（単位：%）

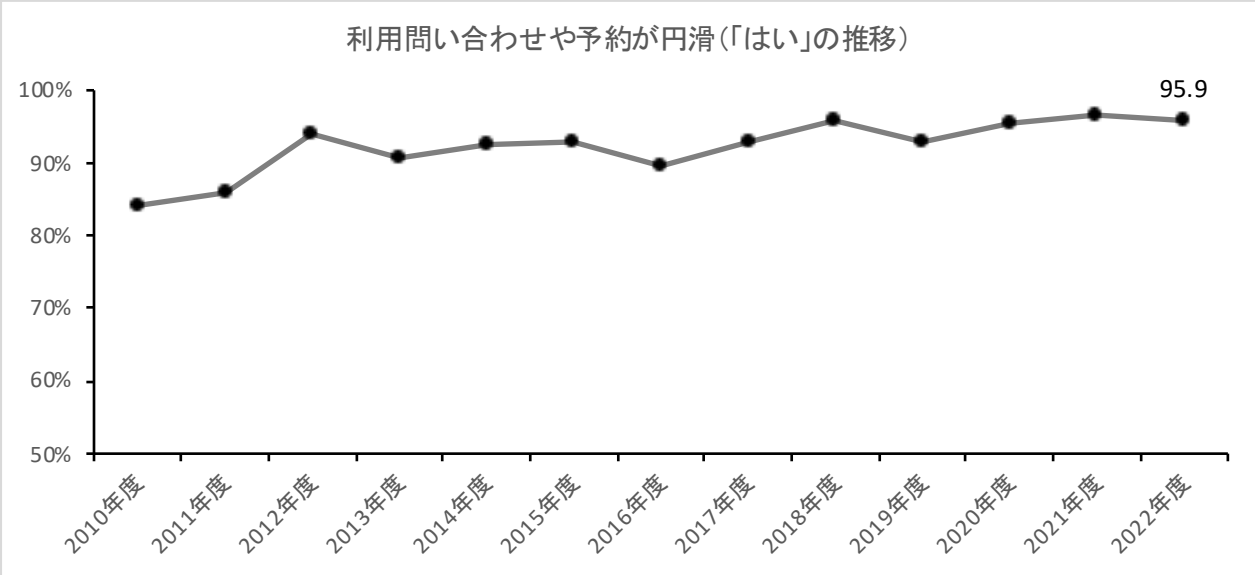
【各項目で単一回答】	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
施設利用や予約情報が入手しやすい	**92.8**	6.7	0.0	0.5	0.0
利用問い合わせや予約が円滑	**95.9**	3.6	0.0	0.5	0.0
事前打ち合わせが円滑	**95.9**	4.1	0.0	0.0	0.0
当日の対応が適切	**98.5**	0.5	1.0	0.0	0.0
事務スタッフの応対がよい	**98.5**	1.5	0.0	0.0	0.0
フロントスタッフの応対がよい	**96.9**	0.5	0.0	0.5	2.1
技術スタッフの応対がよい	**95.4**	3.6	1.0	0.0	0.0
苦情や要望への対応等が適切	**94.8**	3.6	0.0	0.5	1.0
施設の利用に関する説明が適切	**96.9**	2.6	0.0	0.0	0.5
事故や非常時の対応等に対する説明が適切	**97.4**	1.5	0.0	0.0	1.0
現在の開館時間は適当	**79.9**	14.9	4.6	0.5	0.0



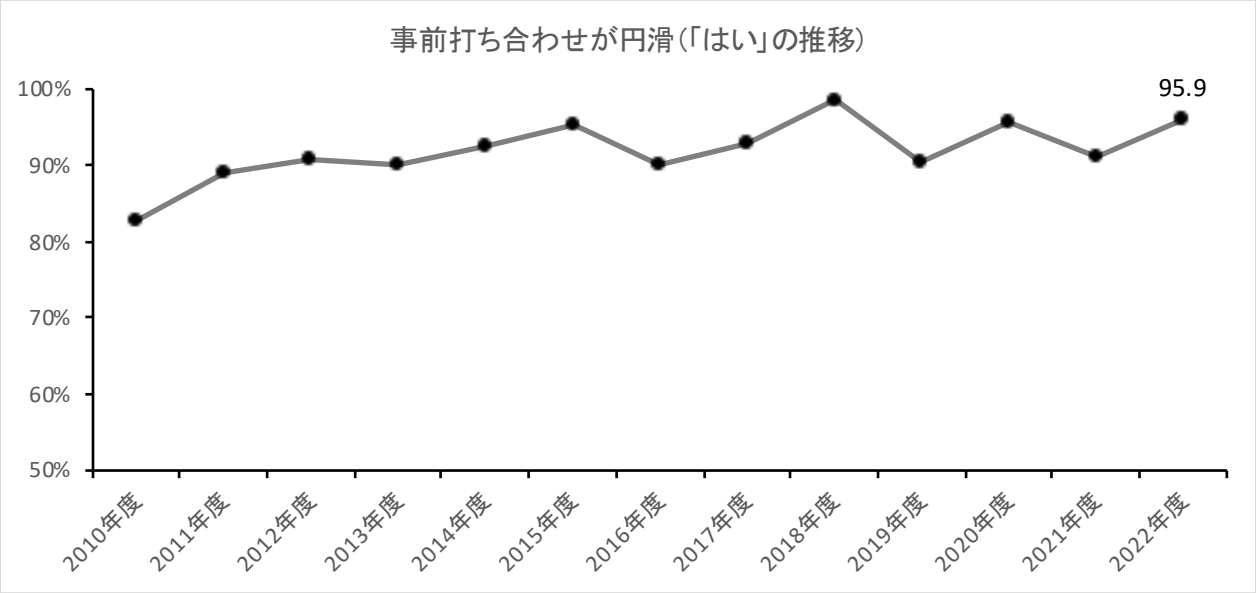
(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

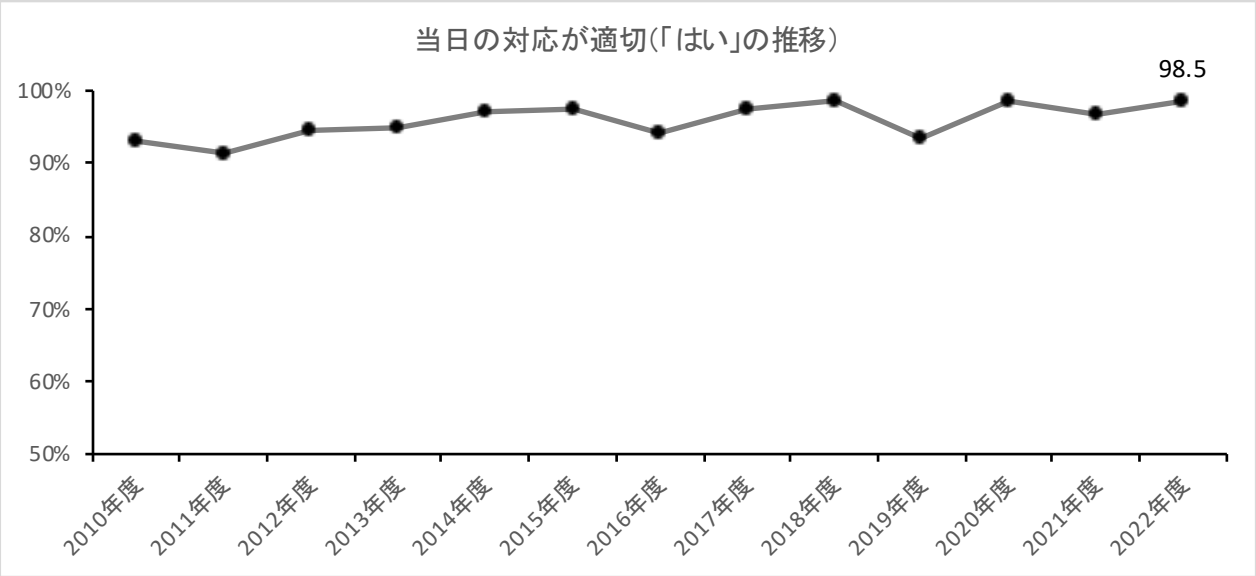
経年変化を見ると、「事務スタッフの応対がよい」、「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの応対がよい」は「はい」の回答が2010年度以降90%を超えており常に高い割合を維持している。「現在の開館時間は適当」は、2010年度から2019年度までは「はい」の割合が75%を下回り続けていたが、2020年度以降は3年間連続で75%を上回っている。

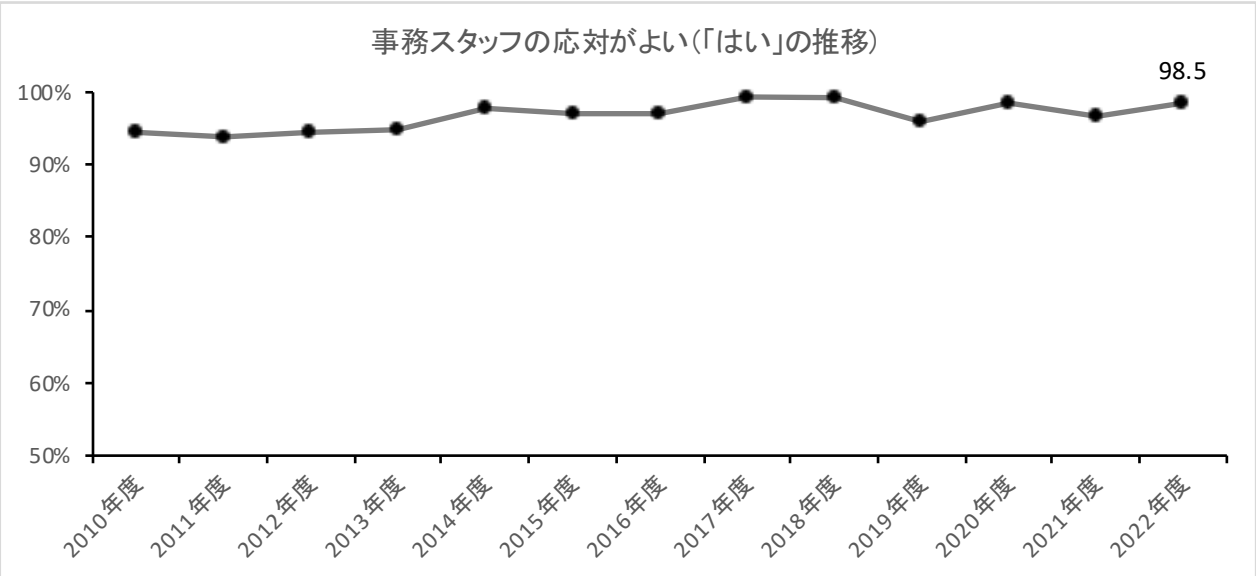




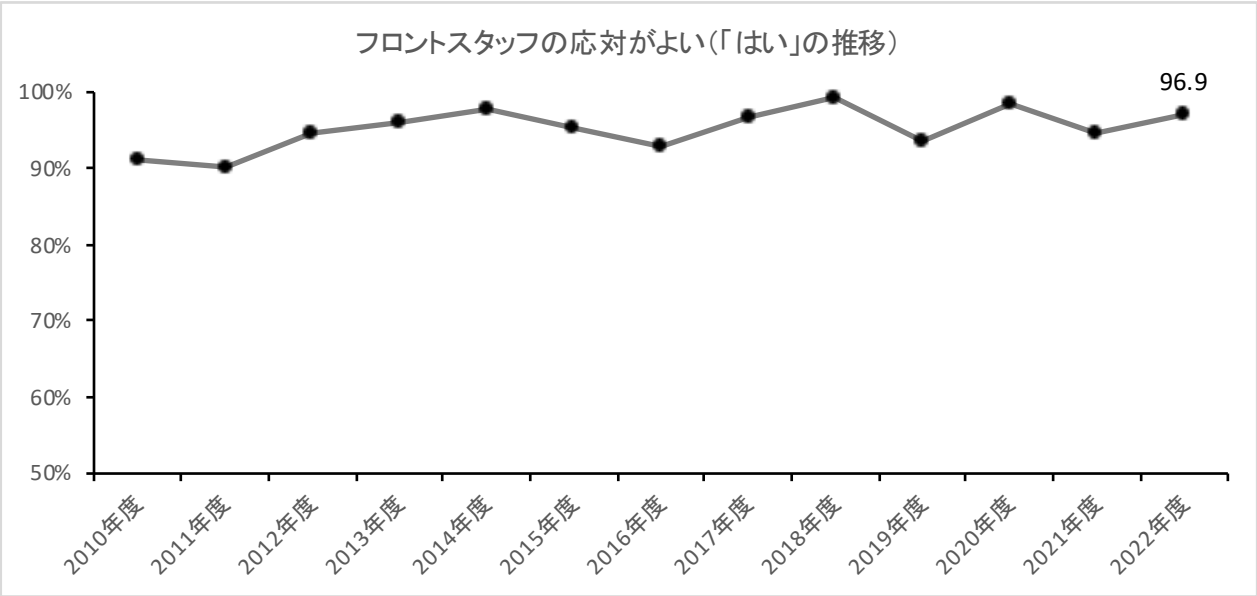
(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

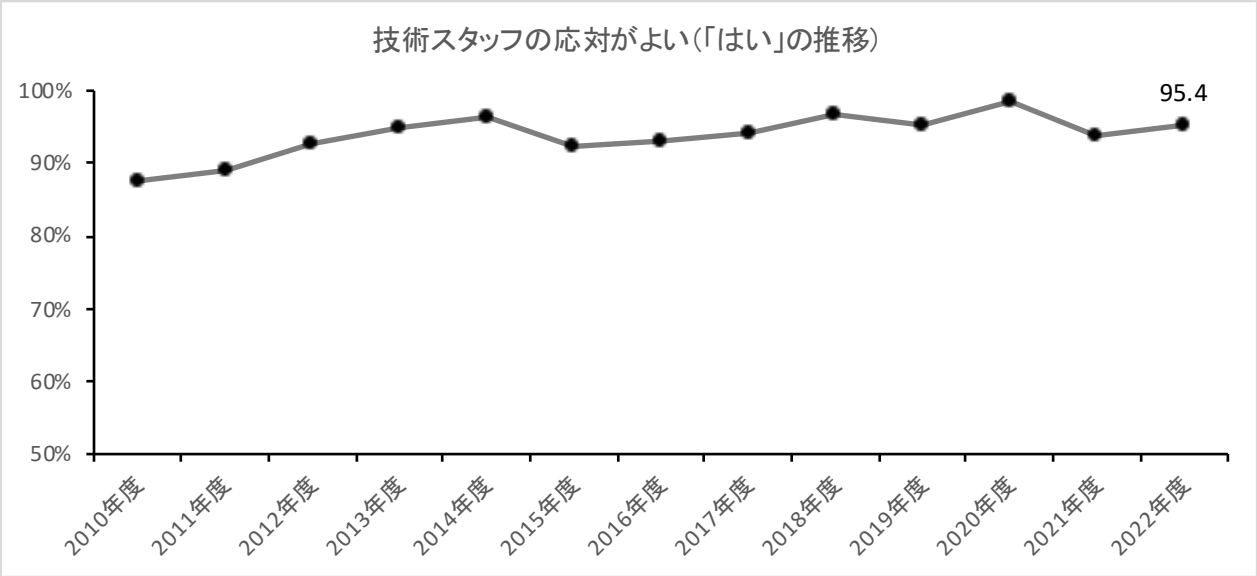


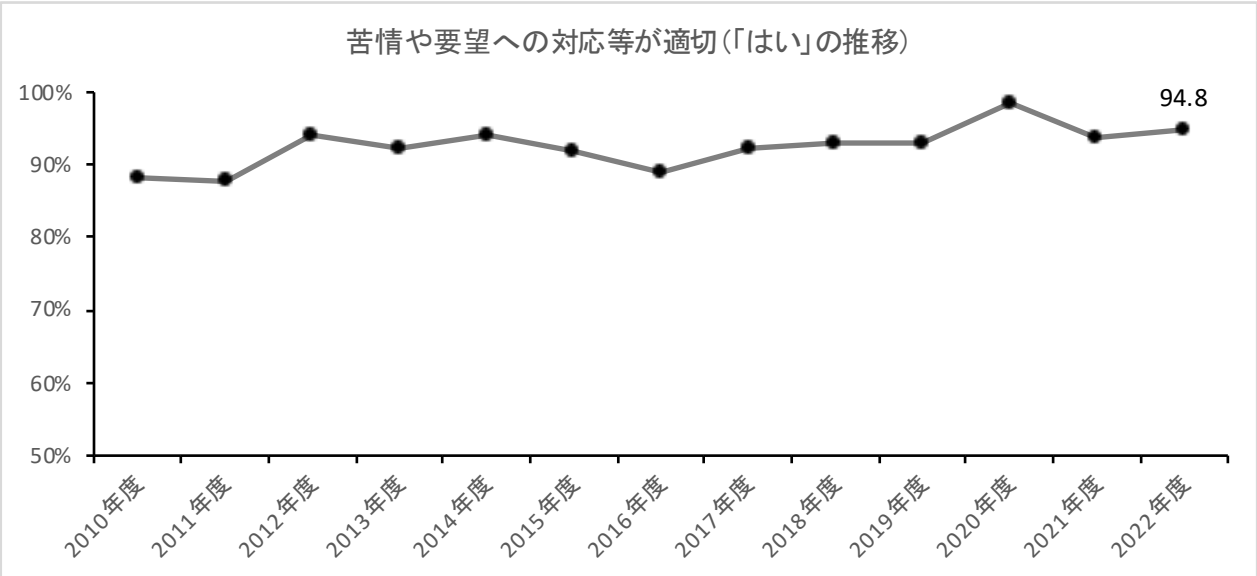




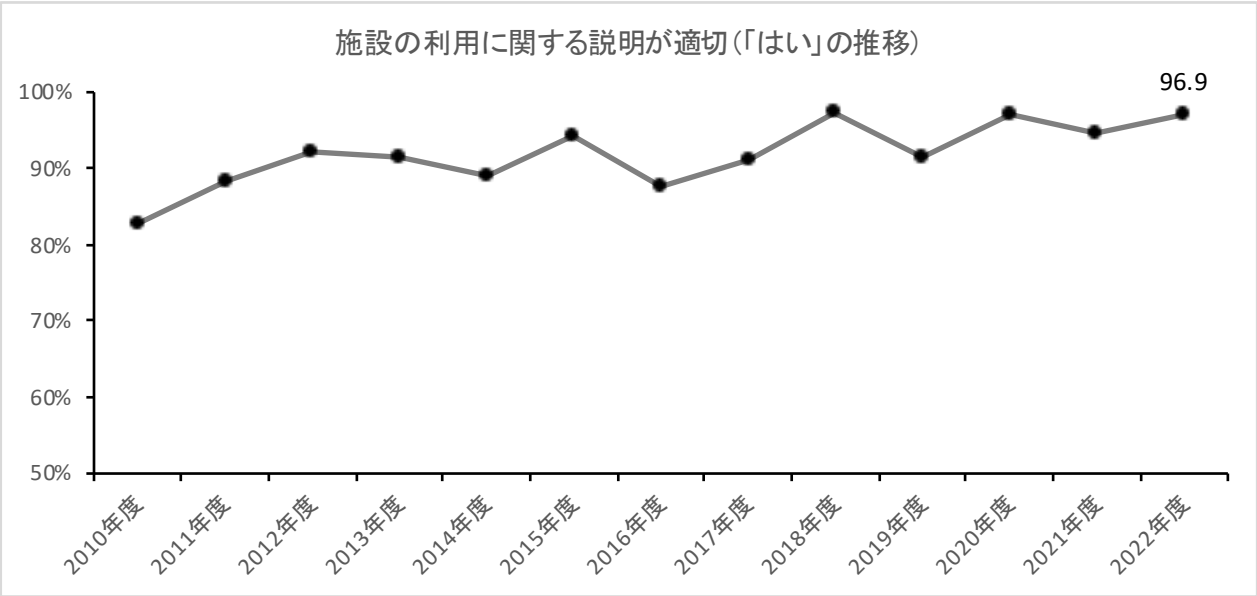
(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

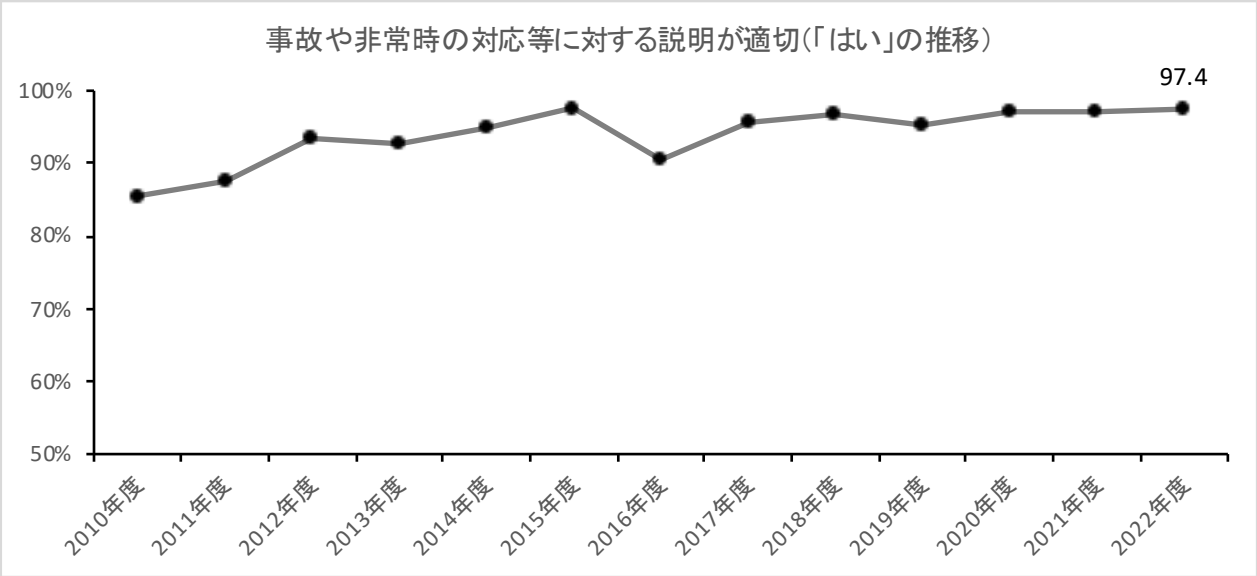


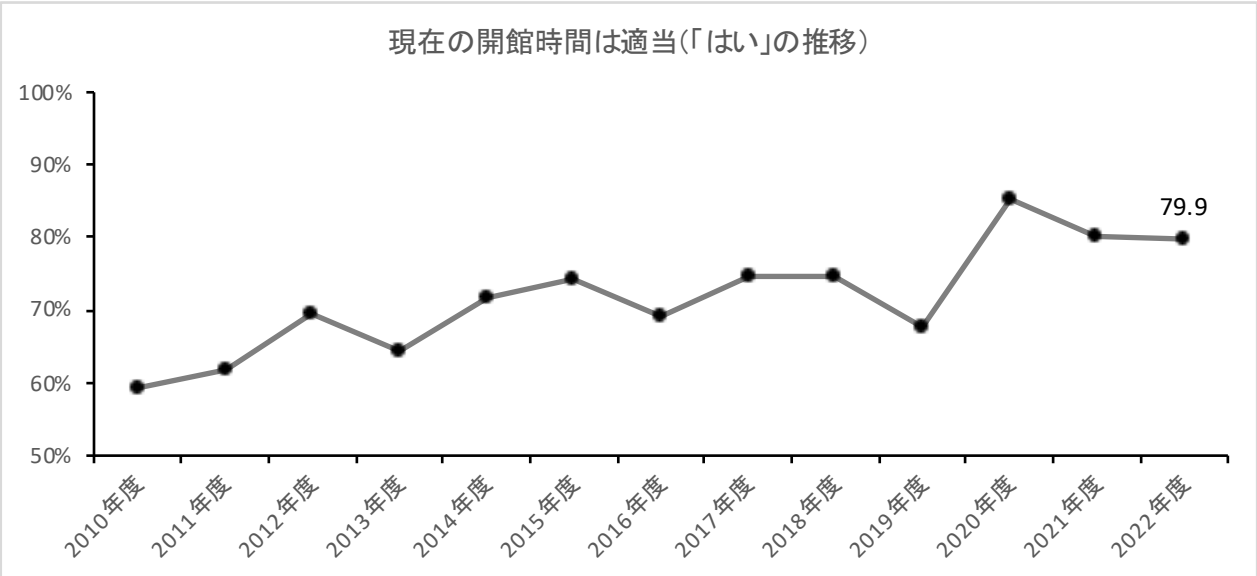




(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2







(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

（単位：%）

	調査数（n）	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・応対① 施設利用や予約情報が入手しやすい						
2010年度	145	**77.2**	17.9	0.0	0.7	4.1
2011年度	163	**81.0**	14.1	1.8	0.0	3.1
2012年度	165	**88.5**	9.1	0.6	0.0	1.8
2013年度	152	**90.8**	7.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	**88.9**	6.7	0.0	0.0	4.4
2015年度	170	**89.4**	8.2	0.6	0.0	1.8
2016年度	171	**84.8**	11.1	1.8	0.0	2.3
2017年度	155	**85.2**	11.6	0.6	0.0	2.6
2018年度	147	**93.2**	6.1	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	**89.6**	7.1	1.3	0.0	1.9
2020年度	68	**88.2**	7.4	1.5	0.0	2.9
2021年度	147	**94.6**	4.8	0.0	0.0	0.7
2022年度	194	**92.8**	6.7	0.0	0.5	0.0
Q2-施設② 利用問い合わせや予約が円滑						
2010年度	145	**84.1**	9.0	0.7	1.4	4.8
2011年度	163	**85.9**	8.0	2.5	0.0	3.7
2012年度	165	**93.9**	2.4	0.6	0.0	3.0
2013年度	152	**90.8**	7.2	0.0	0.0	2.0
2014年度	135	**92.6**	3.7	0.0	0.0	3.7
2015年度	170	**92.9**	4.7	0.0	0.0	2.4
2016年度	171	**89.5**	7.0	0.0	0.0	3.5
2017年度	155	**92.9**	3.2	0.6	0.0	3.2
2018年度	100	**95.9**	3.4	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	**92.9**	5.2	0.0	0.0	1.9
2020年度	68	**95.6**	1.5	0.0	0.0	2.9
2021年度	147	**96.6**	2.0	0.0	0.0	1.4
2022年度	194	**95.9**	3.6	0.0	0.5	0.0
Q2-運営・応対③ 事前打ち合わせが円滑						
2010年度	145	**82.8**	12.4	1.4	2.1	1.4
2011年度	163	**89.0**	6.7	1.2	0.6	2.5
2012年度	165	**90.9**	5.5	0.6	0.6	2.4
2013年度	152	**90.1**	5.3	2.0	0.7	2.0
2014年度	135	**92.6**	1.5	2.2	0.0	3.7
2015年度	170	**95.3**	3.5	0.0	0.6	0.6
2016年度	171	**90.1**	5.8	1.8	0.0	2.3
2017年度	155	**92.9**	3.2	1.3	0.0	2.6
2018年度	147	**98.6**	0.7	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	**90.3**	6.5	0.6	0.6	1.9
2020年度	68	**95.6**	2.9	0.0	0.0	1.5
2021年度	147	**91.2**	5.4	0.7	0.7	2.0
2022年度	194	**95.9**	4.1	0.0	0.0	0.0

(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

（単位：%）

	調査数（n）	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・応対④　当日の対応が適切						
2010年度	145	**93.1**	4.8	0.0	1.4	0.7
2011年度	163	**91.4**	5.5	1.2	0.0	1.8
2012年度	165	**94.5**	3.6	0.0	0.6	1.2
2013年度	152	**94.7**	3.3	0.7	0.0	1.3
2014年度	135	**97.0**	3.0	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	**97.6**	1.8	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	**94.2**	4.1	0.0	0.0	1.8
2017年度	155	**97.4**	0.6	0.6	0.0	1.3
2018年度	147	**98.6**	0.7	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	**93.5**	4.5	0.6	0.6	0.6
2020年度	68	**98.5**	0.0	0.0	0.0	1.5
2021年度	147	**96.6**	3.4	0.0	0.0	0.0
2022年度	194	**98.5**	0.5	1.0	0.0	0.0
Q2-運営・応対⑤　事務スタッフの応対がよい						
2010年度	145	**94.5**	4.1	0.0	1.4	0.0
2011年度	163	**93.9**	4.3	0.6	0.0	1.2
2012年度	165	**94.5**	4.2	0.0	0.0	1.2
2013年度	152	**94.7**	3.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	**97.8**	2.2	0.0	0.0	0.0
2015年度	170	**97.1**	2.4	0.0	0.0	0.6
2016年度	171	**97.1**	2.3	0.0	0.0	0.6
2017年度	155	**99.4**	0.6	0.0	0.0	0.0
2018年度	147	**99.3**	0.7	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	**96.1**	1.9	0.6	0.0	1.3
2020年度	68	**98.5**	0.0	0.0	0.0	1.5
2021年度	147	**96.6**	2.7	0.0	0.0	0.7
2022年度	194	**98.5**	1.5	0.0	0.0	0.0
Q2-運営・応対⑥　フロントスタッフの応対がよい						
2010年度	145	**91.0**	7.6	0.0	1.4	0.0
2011年度	163	**90.2**	6.7	0.0	0.0	3.1
2012年度	165	**94.5**	3.6	0.0	0.0	1.8
2013年度	152	**96.1**	3.3	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	**97.8**	1.5	0.7	0.0	0.0
2015年度	170	**95.3**	3.5	0.0	0.0	1.2
2016年度	171	**93.0**	5.8	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	**96.8**	1.9	0.6	0.0	0.6
2018年度	147	**99.3**	0.7	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	**93.5**	4.5	0.0	0.0	1.9
2020年度	68	**98.5**	0.0	0.0	0.0	1.5
2021年度	147	**94.6**	4.8	0.0	0.0	0.7
2022年度	194	**96.9**	0.5	0.0	0.5	2.1

(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

（単位：%）

	調査数（n）	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・応対⑦　技術スタッフの応対がよい						
2010年度	145	**87.6**	6.9	0.7	1.4	3.4
2011年度	163	**89.0**	8.0	0.6	0.0	2.5
2012年度	165	**92.7**	4.8	0.0	0.6	1.8
2013年度	152	**94.7**	3.9	0.0	0.7	0.7
2014年度	135	**96.3**	2.2	0.0	0.0	1.5
2015年度	170	**92.4**	4.7	1.2	0.0	1.8
2016年度	171	**93.0**	4.7	0.0	1.2	1.2
2017年度	155	**94.2**	5.2	0.6	0.0	0.0
2018年度	147	**96.6**	3.4	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	**95.5**	1.9	0.6	0.6	1.3
2020年度	68	**98.5**	0.0	0.0	0.0	1.5
2021年度	147	**93.9**	4.8	0.7	0.0	0.7
2022年度	194	**95.4**	3.6	1.0	0.0	0.0
Q2-運営・応対⑧　苦情や要望への対応等が適切						
2010年度	145	**88.3**	9.0	0.0	1.4	1.4
2011年度	163	**87.7**	8.0	0.6	0.0	3.7
2012年度	165	**93.9**	3.0	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	**92.1**	5.3	0.7	0.0	2.0
2014年度	135	**94.1**	2.2	0.7	0.0	3.0
2015年度	170	**91.8**	6.5	0.0	0.0	1.8
2016年度	171	**88.9**	9.4	1.2	0.0	0.6
2017年度	155	**92.3**	3.9	0.6	0.0	3.2
2018年度	147	**93.2**	6.1	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	**92.9**	3.9	0.6	0.0	2.6
2020年度	68	**98.5**	0.0	0.0	0.0	1.5
2021年度	147	**93.9**	4.1	0.0	0.7	1.4
2022年度	194	**94.8**	3.6	0.0	0.5	1.0
Q2-運営・応対⑨　施設の利用に関する説明が適切						
2010年度	145	**82.8**	11.0	2.8	0.0	3.4
2011年度	163	**88.3**	6.1	1.2	0.0	4.3
2012年度	165	**92.1**	4.2	0.0	0.0	3.6
2013年度	152	**91.4**	5.9	0.0	0.0	2.6
2014年度	135	**88.9**	4.4	0.7	0.7	5.2
2015年度	170	**94.1**	2.9	0.0	0.0	2.9
2016年度	171	**87.7**	8.8	1.2	0.0	2.3
2017年度	155	**91.0**	5.8	0.0	0.0	3.2
2018年度	147	**97.3**	2.0	0.0	0.0	0.7
2019年度	154	**91.6**	5.8	0.6	0.0	1.9
2020年度	68	**97.1**	0.0	0.0	0.0	2.9
2021年度	147	**94.6**	4.1	0.0	0.0	1.4
2022年度	194	**96.9**	2.6	0.0	0.0	0.5

(2) 劇場に関する意見 【運営について】 Q2

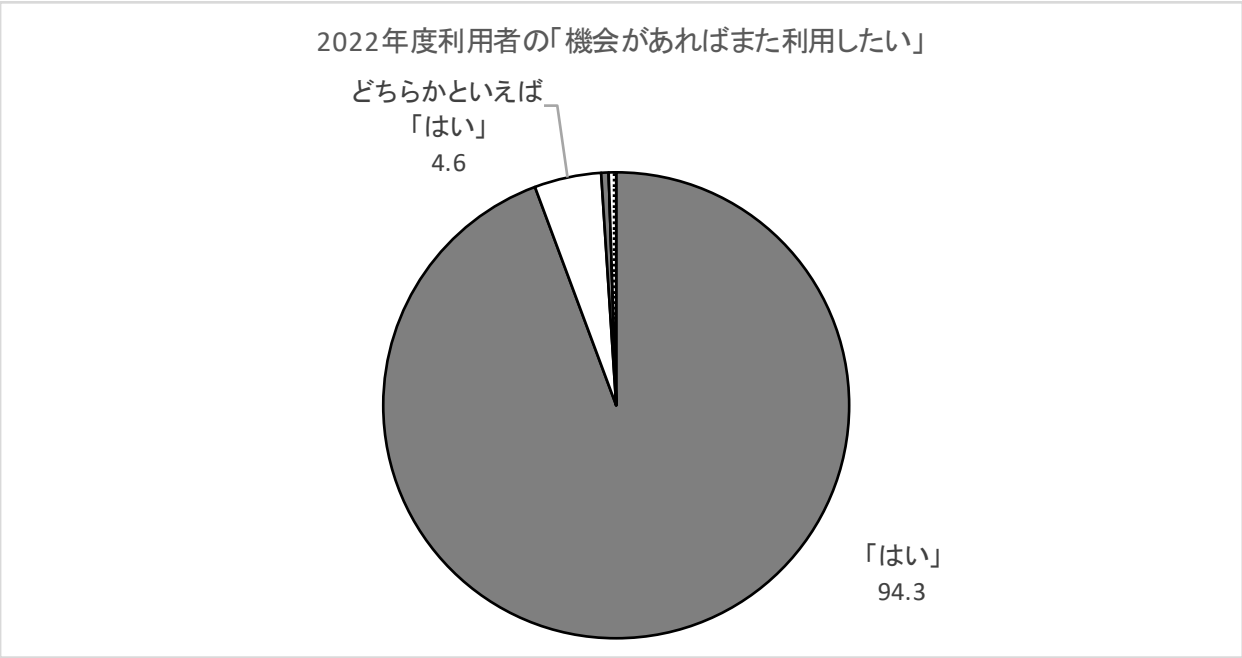
（単位：%）

	調査数（n）	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
Q2-運営・応対⑩ 事故や非常時の対応等に対する説明が適切						
2010年度	145	**85.5**	11.0	0.7	0.0	2.8
2011年度	163	**87.7**	8.0	2.5	0.0	1.8
2012年度	165	**93.3**	3.6	0.6	0.0	2.4
2013年度	152	**92.8**	5.9	0.0	0.0	1.3
2014年度	135	**94.8**	3.7	0.0	0.0	1.5
2015年度	170	**97.6**	1.2	0.0	0.0	1.2
2016年度	171	**90.6**	8.2	0.0	0.0	1.2
2017年度	155	**95.5**	3.2	0.0	0.0	1.3
2018年度	100	**96.6**	3.4	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	**95.5**	3.2	0.0	0.0	1.3
2020年度	68	**97.1**	0.0	1.5	0.0	1.5
2021年度	147	**97.3**	1.4	0.0	0.0	1.4
2022年度	194	**97.4**	1.5	0.0	0.0	1.0
Q2-運営・応対⑪ 現在の開館時間は適当						
2010年度	145	**59.3**	19.3	14.5	4.8	2.1
2011年度	163	**62.0**	19.6	12.9	3.7	1.8
2012年度	165	**69.7**	17.6	5.5	3.0	4.2
2013年度	152	**64.5**	22.4	8.6	3.3	1.3
2014年度	135	**71.9**	17.8	5.9	3.7	0.7
2015年度	170	**74.1**	16.5	6.5	1.8	1.2
2016年度	171	**69.0**	21.6	5.3	2.9	1.2
2017年度	155	**74.8**	15.5	5.2	3.9	0.6
2018年度	147	**74.8**	18.4	4.1	2.7	0.0
2019年度	154	**67.5**	21.4	6.5	3.2	1.3
2020年度	68	**85.3**	11.8	0.0	0.0	2.9
2021年度	147	**80.3**	15.0	2.7	1.4	0.7
2022年度	194	**79.9**	14.9	4.6	0.5	0.0

(3) 劇場に関する意見【今後の利用の意向】 Q2

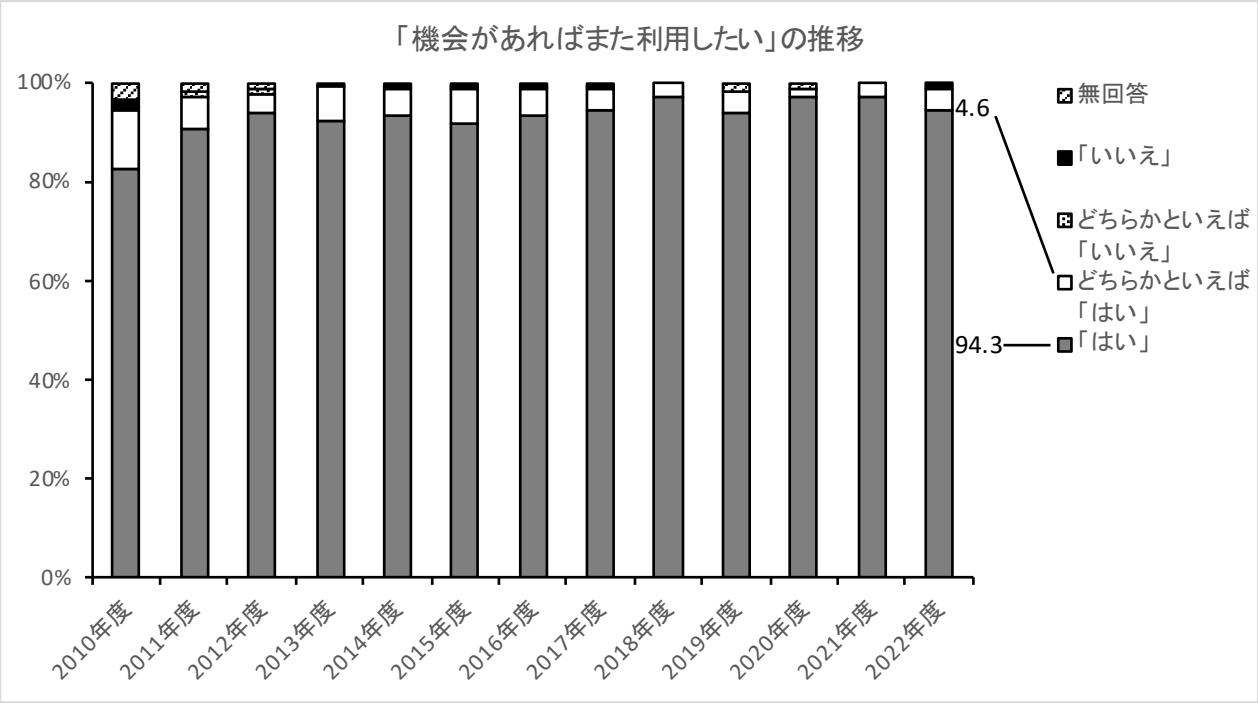
今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が94.3%となっている。

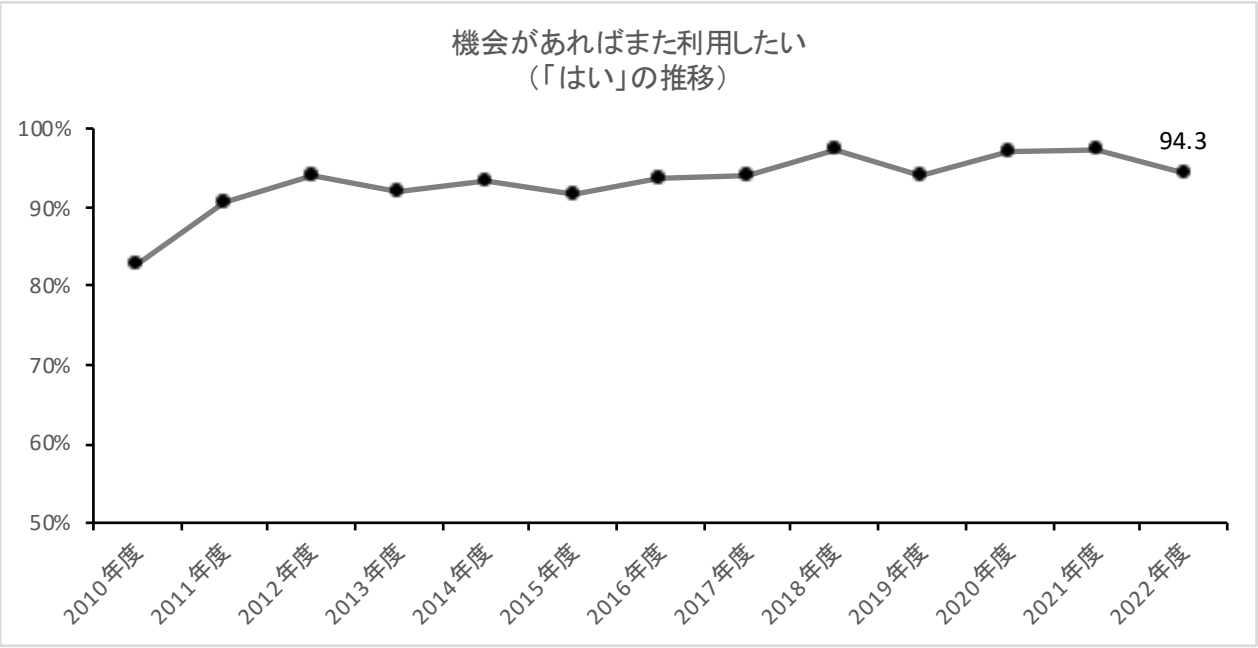
	調査数（n）	Q2 機会があればまた利用したい【単一回答】				（単位：%）
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
2010年度	145	**82.8**	11.7	0.7	1.4	3.4
2011年度	163	**90.8**	6.1	1.2	0.0	1.8
2012年度	165	**93.9**	3.6	1.2	0.0	1.2
2013年度	152	**92.1**	7.2	0.0	0.0	0.7
2014年度	135	**93.3**	5.2	0.7	0.0	0.7
2015年度	170	**91.8**	7.1	0.6	0.0	0.6
2016年度	171	**93.6**	5.3	0.6	0.0	0.6
2017年度	155	**94.2**	4.5	0.6	0.0	0.6
2018年度	147	**97.3**	2.7	0.0	0.0	0.0
2019年度	154	**94.2**	3.9	0.0	0.0	1.9
2020年度	68	**97.1**	1.5	0.0	0.0	1.5
2021年度	147	**97.3**	2.7	0.0	0.0	0.0
2022年度	194	**94.3**	4.6	0.5	0.0	0.5



(3) 劇場に関する意見【今後の利用の意向】 Q2

経年変化でみると、2015年度から2018年度までは「はい」の回答が増加してきたが、2019年度にやや減少した後は再び増加し、2022年度は前年度からやや減少している。

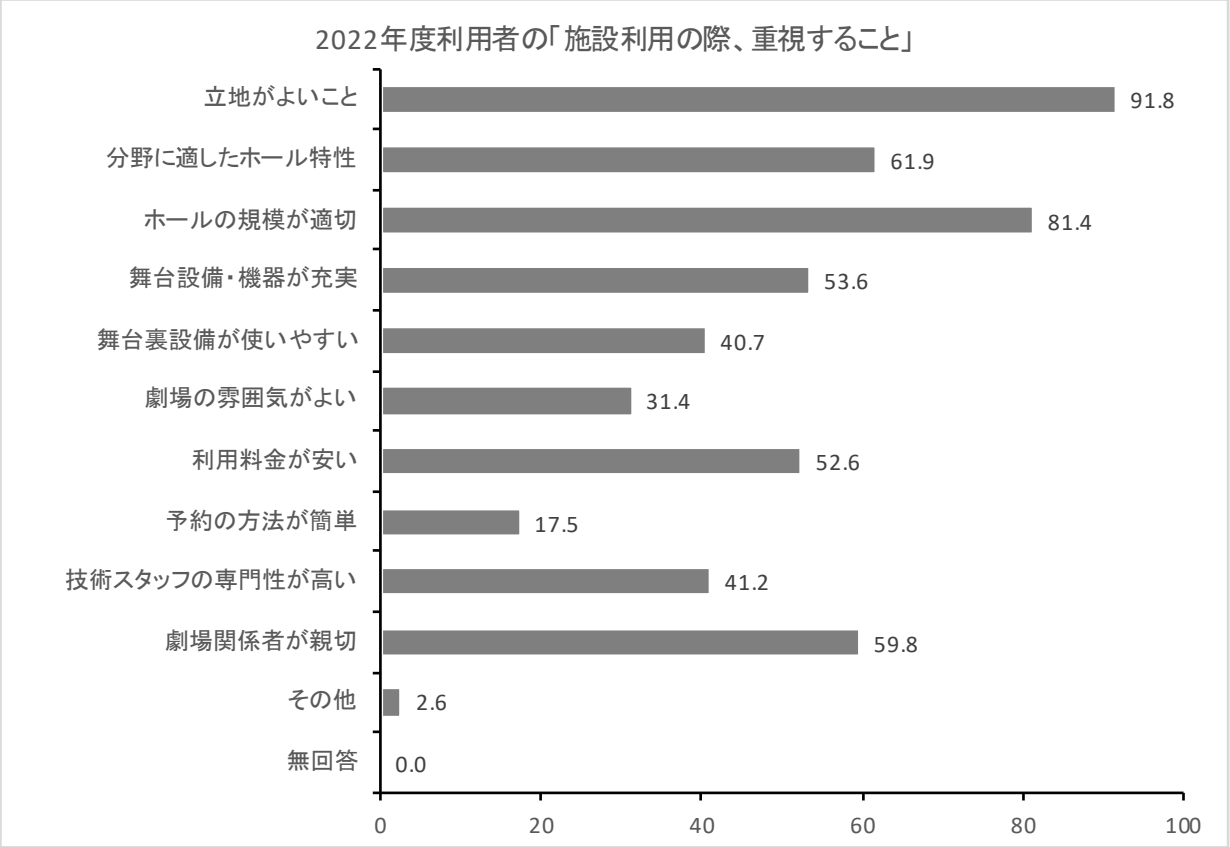




(4) 施設を利用する際、重視すること　Q3

施設を利用する際重視することとして回答が多いのは、「立地がよいこと」(91.8%)、「ホールの規模が適切」(81.4%)となっている。次いで、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「舞台設備・機器が充実」、「利用料金が安い」が50%以上の割合となっている。

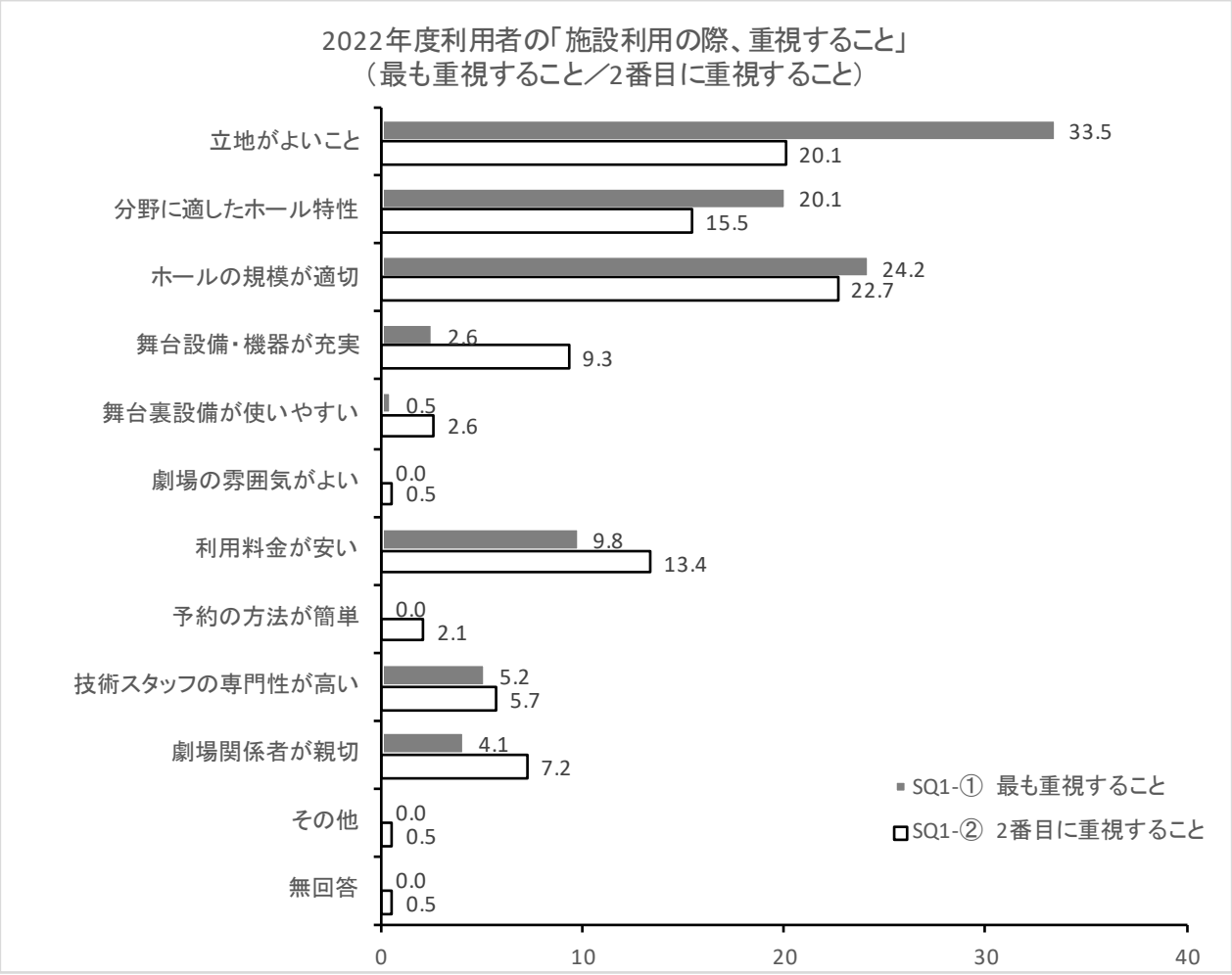
	調査数(n)	Q3 施設利用の際、重視すること【複数回答】											（単位：%）
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	舞台裏設備が使いやすい	劇場の雰囲気がよい	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	無回答
2010年度	145	**82.8**	49.0	75.9	52.4	33.1	29.0	53.8	17.9	35.9	46.9	1.4	2.1
2011年度	163	**85.3**	58.3	79.8	55.8	41.7	44.8	48.5	17.2	33.7	52.1	3.7	1.2
2012年度	165	**84.8**	69.7	83.6	60.0	44.8	42.4	52.7	16.4	38.8	59.4	3.6	0.6
2013年度	152	**86.8**	54.6	77.0	50.0	42.1	30.9	55.9	20.4	39.5	57.9	5.3	0.7
2014年度	135	**85.2**	60.0	77.8	56.3	39.3	38.5	54.8	22.2	41.5	63.0	1.5	1.5
2015年度	170	**84.1**	64.7	80.6	51.8	38.2	30.6	53.5	17.6	40.0	52.9	2.4	2.4
2016年度	171	84.2	63.7	**84.8**	50.3	40.9	36.3	47.4	15.2	36.3	54.4	4.1	0.6
2017年度	155	**85.8**	73.5	76.1	66.5	52.3	41.3	56.1	29.7	50.3	69.0	0.6	0.6
2018年度	147	**87.1**	59.2	85.0	52.4	42.2	34.7	57.1	25.2	43.5	57.8	1.4	1.4
2019年度	154	**88.3**	66.9	83.1	57.8	46.1	37.0	53.9	26.0	37.0	54.5	3.2	0.6
2020年度	68	**92.6**	63.2	80.9	61.8	47.1	45.6	55.9	29.4	51.5	63.2	2.9	0.0
2021年度	147	**82.3**	70.1	78.2	58.5	42.9	41.5	53.1	21.8	47.6	62.6	2.7	0.0
2022年度	194	**91.8**	61.9	81.4	53.6	40.7	31.4	52.6	17.5	41.2	59.8	2.6	0.0



(4) 施設を利用する際、重視すること　Q3

施設を利用する際に最も重視することは「立地が良いこと」が33.5%で最も高く、次いで「ホールの規模が適切」（24.2%）、「分野に適したホール特性」（20.1%）と続いている。
２番目に重視することは、「ホールの規模が適切」（22.7%）が最も多く、次いで「立地がよいこと」（20.1%）となっている。

	Q3 施設利用の際、重視すること【単一回答】（単位：%）	
	SQ1-① 最も重視すること	SQ1-② 2番目に重視すること
立地がよいこと	33.5	20.1
分野に適したホール特性	20.1	15.5
ホールの規模が適切	24.2	22.7
舞台設備・機器が充実	2.6	9.3
舞台裏設備が使いやすい	0.5	2.6
劇場の雰囲気がよい	0.0	0.5
利用料金が安い	9.8	13.4
予約の方法が簡単	0.0	2.1
技術スタッフの専門性が高い	5.2	5.7
劇場関係者が親切	4.1	7.2
その他	0.0	0.5
無回答	0.0	0.5



(4) 施設を利用する際、重視すること　Q3

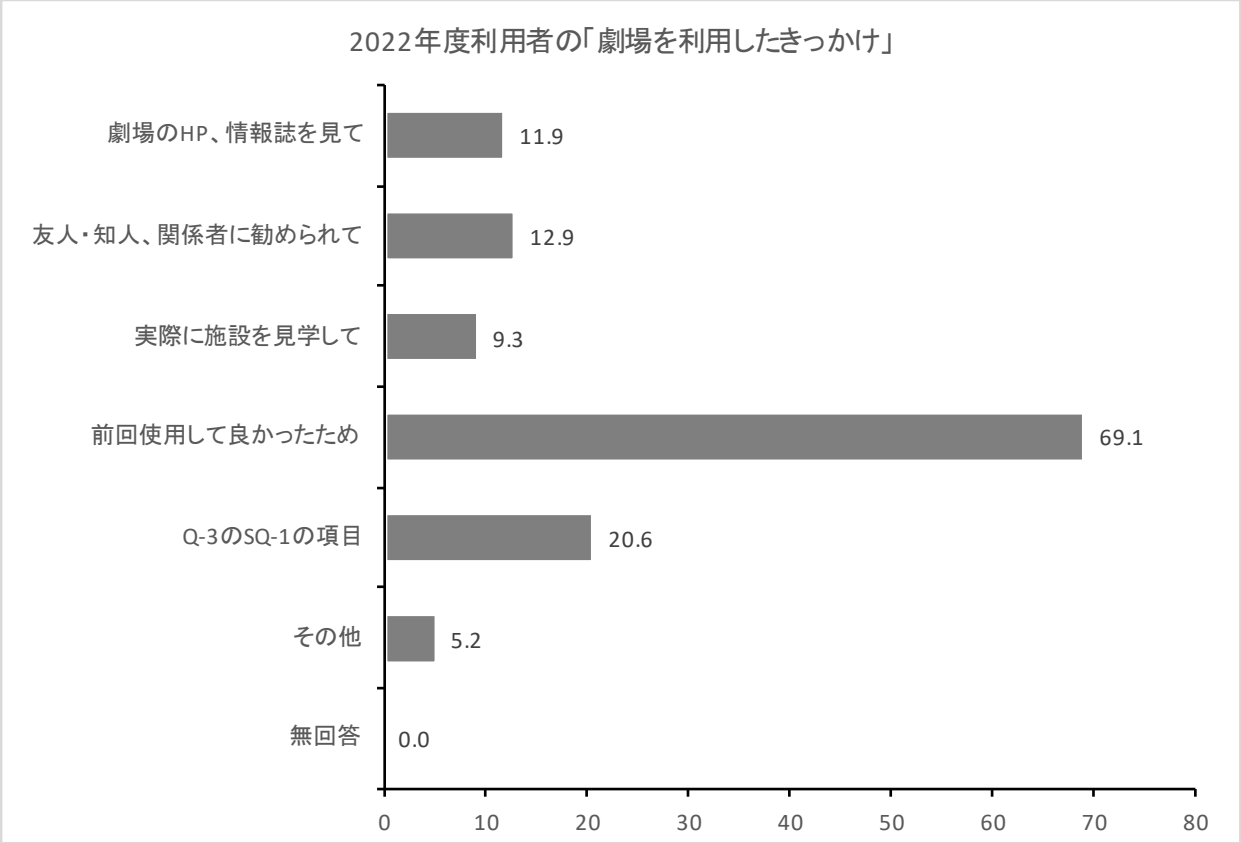
	調査数(n)	SQ1-① 最も重視すること											（単位：%）
		立地がよいこと	分野に適したホー	ホールの規模が適	舞台設備・機器	舞台裏設備が使い	劇場の雰囲気がよ	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性	劇場関係者が親切	その他	無回答
2010年度	145	**31.7**	20.7	29.0	4.8	0.7	0.7	6.9	0.0	0.0	2.8	0.7	2.1
2011年度	163	**28.2**	22.7	27.0	4.9	0.6	0.6	7.4	0.0	1.2	4.3	1.2	1.8
2012年度	165	**29.7**	29.1	25.5	3.6	0.0	0.6	4.8	0.0	1.8	3.6	0.0	1.2
2013年度	152	**29.6**	26.3	27.0	1.3	0.7	0.7	6.6	0.0	0.7	3.3	2.6	1.3
2014年度	135	**31.9**	25.9	23.0	4.4	0.0	1.5	6.7	0.0	0.7	4.4	0.0	1.5
2015年度	170	24.7	**26.5**	**26.5**	2.9	0.0	1.2	10.6	0.0	0.6	2.9	1.2	2.9
2016年度	171	25.7	24.0	**28.7**	4.7	1.8	1.2	8.8	0.0	0.6	2.3	1.8	0.6
2017年度	155	**30.3**	26.5	21.9	6.5	0.6	0.0	10.3	0.6	0.0	3.2	0.0	0.0
2018年度	147	**34.0**	21.8	24.5	3.4	0.7	0.7	8.8	0.7	0.7	2.0	0.0	2.7
2019年度	154	**42.2**	18.8	20.8	3.2	0.0	0.0	7.1	0.6	1.3	4.5	0.6	0.6
2020年度	68	**30.9**	23.5	**30.9**	2.9	0.0	1.5	7.4	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0
2021年度	147	**28.6**	27.9	25.9	3.4	1.4	0.0	2.7	0.0	4.1	5.4	0.7	0.0
2022年度	194	**33.5**	20.1	24.2	2.6	0.5	0.0	9.8	0.0	5.2	4.1	0.0	0.0

	調査数(n)	SQ1-② 2番目に重視すること											（単位：%）
		立地がよいこと	分野に適したホー	ホールの規模が適	舞台設備・機器	舞台裏設備が使い	劇場の雰囲気がよ	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性	劇場関係者が親切	その他	無回答
2010年度	145	**21.4**	9.0	19.3	8.3	3.4	3.4	15.9	0.7	3.4	9.7	0.7	4.8
2011年度	163	**23.9**	9.8	20.2	10.4	3.7	4.9	18.4	0.0	2.5	3.7	0.0	2.5
2012年度	165	18.8	9.7	**23.6**	9.7	5.5	5.5	14.5	0.0	4.2	6.1	0.0	2.4
2013年度	152	19.1	11.2	**22.4**	10.5	1.3	3.3	19.7	0.7	3.3	5.3	1.3	2.0
2014年度	135	17.0	14.1	**25.9**	6.7	4.4	2.2	15.6	0.0	5.2	5.2	0.0	3.7
2015年度	170	20.0	11.2	**23.5**	11.2	1.8	2.9	15.3	0.0	5.3	4.7	0.0	4.1
2016年度	171	21.6	12.3	**25.7**	7.0	2.9	1.2	12.3	0.0	5.8	9.4	0.6	1.2
2017年度	155	16.8	14.8	**23.2**	8.4	7.1	1.9	14.8	0.6	5.2	6.5	0.0	0.6
2018年度	147	17.0	14.3	**23.8**	8.2	2.0	0.7	17.0	0.7	5.4	8.2	0.7	2.0
2019年度	154	16.9	16.9	**25.3**	7.8	4.5	3.9	11.7	0.6	5.8	5.8	0.0	0.6
2020年度	68	**27.9**	22.1	14.7	7.4	2.9	1.5	5.9	2.9	7.4	4.4	0.0	2.9
2021年度	147	14.3	16.3	**22.4**	11.6	2.7	0.7	12.9	0.0	7.5	11.6	0.0	0.0
2022年度	194	20.1	15.5	**22.7**	9.3	2.6	0.5	13.4	2.1	5.7	7.2	0.5	0.5

(5) 劇場を利用したきっかけ　Q4

劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、69.1%を占めている。劇場への満足度が高くリピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」（20.6%）となっており、「立地がよいこと」や「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっている。

	調査数（n）	Q4 劇場を利用したきっかけ【複数回答】						（単位：%）
		劇場のHP、情報誌を見て	友人・知人、関係者に勧められて	実際に施設を見学して	前回使用して良かったため	Q-3のSQ-1の項目	その他	無回答
2010年度	145	15.9	11.7	12.4	**58.6**	19.3	5.5	6.2
2011年度	163	12.9	12.3	12.3	**61.3**	22.7	6.1	5.5
2012年度	165	14.5	8.5	14.5	**70.3**	26.1	3.6	2.4
2013年度	152	10.5	14.5	11.2	**71.7**	23.0	9.9	1.3
2014年度	135	7.4	9.6	7.4	**73.3**	23.7	7.4	3.7
2015年度	170	10.6	8.2	7.6	**71.2**	18.2	5.3	5.9
2016年度	171	12.3	8.2	12.9	**67.8**	17.0	7.0	2.9
2017年度	155	7.7	6.5	8.4	**72.9**	20.6	11.0	2.6
2018年度	147	11.6	8.2	9.5	**70.1**	14.3	8.8	4.1
2019年度	154	11.7	11.0	6.5	**67.5**	14.9	9.1	3.2
2020年度	68	14.7	7.4	8.8	**67.6**	13.2	11.8	0.0
2021年度	147	9.5	10.2	6.8	**71.4**	23.1	5.4	2.7
2022年度	194	11.9	12.9	9.3	**69.1**	20.6	5.2	0.0



参考｜利用者調査　調査票

施設利用に関するアンケート調査（ホール用）

このたびは、北九州芸術劇場をご利用いただきありがとうございます。皆様の声を今後の運営に活かしていきたいと思いますので、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本アンケートへの個別のご回答内容が公表されることはありませんので、忌憚ないご意見をお聞かせください。
ご回答は後日ファックスでも受け付けております。

（北九州芸術劇場）　TEL093-562-8436/ FAX 093-562-2588

Q－１　今回ご利用されて、北九州芸術劇場の使いごこちに関する総合的なご意見はいかがですか。
（○は１つ）

1．とても満足している　2．まあ満足している　3．あまり満足していない　4．まったく満足してない

（「まったく満足してない」とご回答された方へ）　具体的なご意見をお聞かせください

Q－２　本日ご利用されての北九州芸術劇場に関するご意見をお聞かせください。それぞれの項目について、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の４つの回答から、あなたのお考えに一番近いものに○をつけてください。（○は各項目１つずつ）

（施設について）

項　目	はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、その理由をご記入ください
1　館内は清潔に保たれていましたか。	1	2	3	4	
2　ホワイエや客席など雰囲気がよかったですか。	1	2	3	4	
3　広さ（客席数等）はちょうどよかったですか。	1	2	3	4	
4　搬入・搬出がやりやすかったですか。	1	2	3	4	

項　目	はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、その理由をご記入ください
５　舞台設備・機器は充実していましたか。	１	２	３	４	
６　楽屋、休憩室など舞台裏の施設・設備が使いやすかったですか。	１	２	３	４	
７　設備・機器を使用する際、安全に使用できましたか。	１	２	３	４	

（運営・対応について）

項　目	はい	どちらかといえば、はい	どちらかといえば、いいえ	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、その理由をご記入ください
１　施設利用や予約に関する情報は入手しやすかったですか。	１	２	３	４	
２　利用問い合わせや予約・受付は円滑でしたか。	１	２	３	４	
３　事前打ち合わせは円滑でしたか。	１	２	３	４	
４　当日の対応は適切でしたか。	１	２	３	４	
５　事務スタッフの応対はよかったですか。	１	２	３	４	
６　フロントスタッフの応対はよかったですか。	１	２	３	４	
７　技術スタッフの応対はよかったですか（技術的な助言や援助は適切でしたか）。	１	２	３	４	
８　苦情や要望への対応は適切でしたか。	１	２	３	４	
９　設備、料金、使用時間等施設の利用に関する説明は適切でしたか。	１	２	３	４	
10　事故防止や非常時の対応等に関する説明は適切でしたか。	１	２	３	４	
11　現在の開館時間（午前１０時～午後１０時）は適当であると思いますか。	１	２	３	４	
12　次回利用する機会があれば、また利用したいと思いますか。	１	２	３	４	

Q－３　施設を利用する際、重視することは何ですか。（○はいくつでも）

1. 立地がよいこと　　2. 公演分野に適したホール特性（残響、舞台の広さ等）をもっていること
3. ホールの規模（客席数）が適切であること　　4. 舞台設備・機器が充実していること
5. 楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと　　6. ホワイエや客席などの雰囲気がよいこと
7. 利用料金が安いこと　　8. 予約の方法が簡単なこと
9. 技術スタッフの専門性が高いこと　　10. スタッフが親切なこと
11. その他（具体的に：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

SQ-1　上記１０項目の中で、最も重視すること、２番目に重視することは何ですか。

最も重視すること　□　　２番目に重視すること　□

Q－４　北九州芸術劇場をご利用していただいたきっかけ及び理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. 劇場のホームページ、情報誌（チラシなどを含む）を見て
2. 友人・知人、その他関係者に勧められて
3. 実際に施設を見学して
4. 前回使用して良かったため
5. 上記Q－３のＳＱ－１の項目が備わっているため
6. その他（具体的に：　　）

Q－５　北九州芸術劇場を利用するに当たって、良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、ご意見をお聞かせください。
また、ご利用回数が２回以上の方で前回のご利用と比べ良くなったと感じた点、改善されていないと感じた点についても、ご意見をお聞かせください。

◎　差し支えなければ、ご記入ください。

①貴団体名（個人の場合はお名前）	
②ご記入者の所属・ご担当業務	
③ご利用日時	年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）
④ご利用施設	大ホール・中劇場・小劇場
④北九州芸術劇場の利用回数	1．初めて　　2．2回目　　3．3回以上　　（いずれか１つに○）

ご協力ありがとうございました。

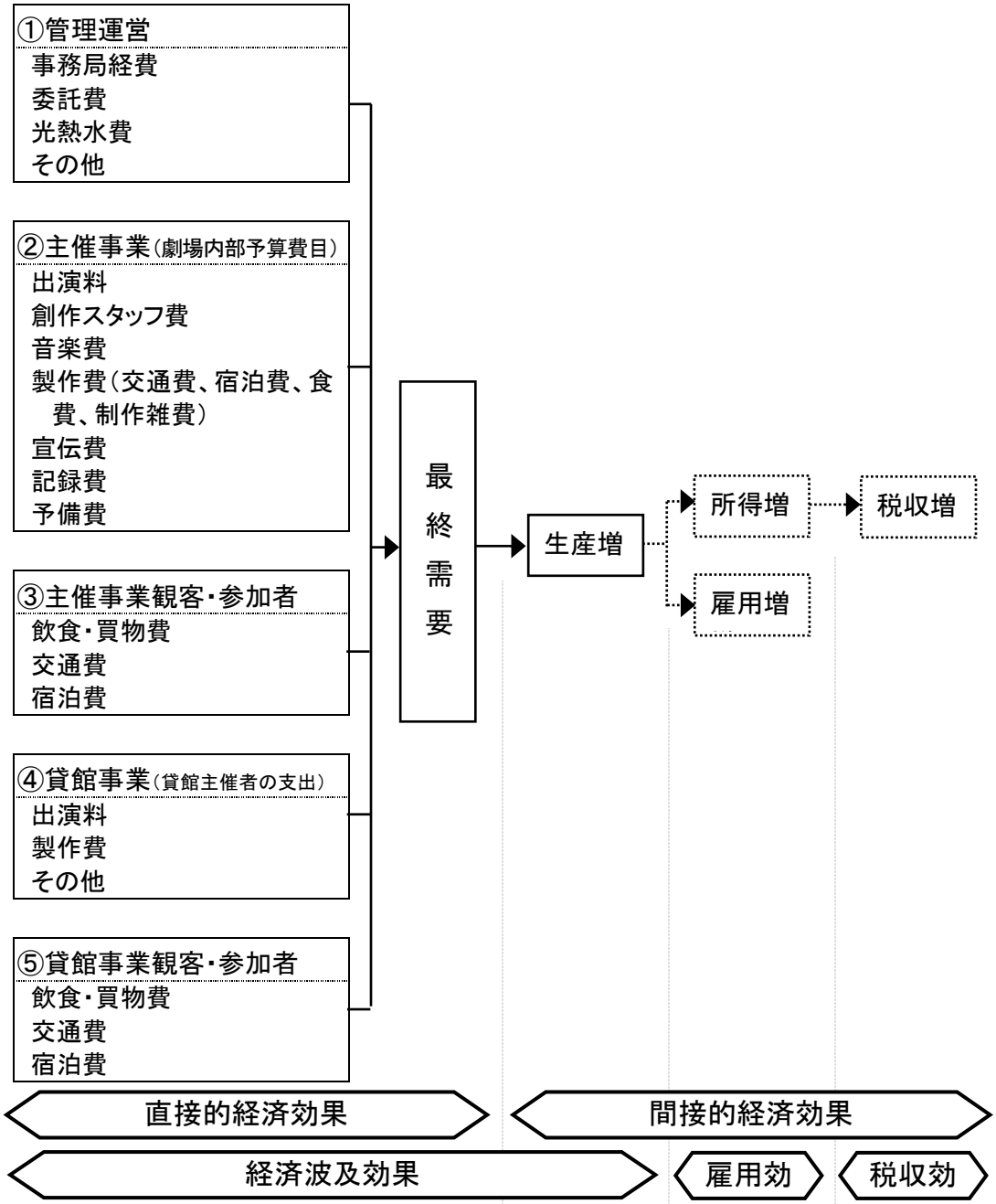
Ⅳ

経済波及効果

1. 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果の基本構造

- 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果としては、図表-資Ⅳ-1に整理したように5種類の支出からなる最終需要（直接的経済効果）、それに伴う生産増、そしてそれらからもたらされる所得増、雇用増、税収増などが考えられる。
- 経済波及効果としてどこまでを含めるかについては、ケースバイケースであるが、今回の調査でも、基礎的な経済波及効果として、産業連関表に基づいた生産増に加え、福岡県の雇用表を用いて雇用効果まで試算することとした。

図表-資Ⅳ-1 北九州芸術劇場における経済波及効果の基本構造



- 前記の5種類の支出は、劇場の運営や事業に伴うもの（①、②、④）と、観客の消費支出に伴うもの（③、⑤）に分けられるが、経済波及効果も、それぞれ、劇場の運営や事業の実施に伴う波及効果、観客の消費支出に伴う波及効果、に分けられる。

- 産業連関表に基づいて、経済波及効果を把握するためには、運営や事業に伴う支出、観客の消費支出を、産業連関表の産業分類に分類し直す必要がある。
- 産業連関表の部門別の定義や範囲と、劇場の支出内容、観客の消費支出の内容を照らし合わせて、図表-資Ⅳ-2の対応表を作成した。

図表-資Ⅳ-2 産業連関表（平成23年度・37部門）と劇場における支出費目の関係

産業部門名		劇場運営・事業に伴う最終需要				
		管理運営	主催事業	主催事業観客	貸館事業	貸館事業観客
1	農林水産業					
2	鉱業					
3	飲食料品					
4	繊維製品					
5	パルプ・紙・木製品					
6	化学製品					
7	石油・石炭製品					
8	プラスチック・ゴム					
9	窯業・土石製品					
10	鉄鋼					
11	非鉄金属					
12	金属製品					
13	はん用機械					
14	生産用機械					
15	業務用機械					
16	電子部品					
17	電気機械					
18	情報・通信機器					
19	輸送機械					
20	その他の製造工業製品	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷
21	建設					
22	電力・ガス・熱供給	光熱費 （電力・ガス）				
23	水道	上下水道費				
24	廃棄物処理		廃棄物処理		廃棄物処理	
25	商業	消耗品費 （小売）		ショッピング （小売）		ショッピング （小売）
26	金融・保険	保険料	保険料		保険料	
27	不動産					
28	運輸・郵便	旅費交通費 輸送費	旅費交通費 輸送費	旅費交通費	旅費交通費 輸送費	旅費交通費
29	情報通信	郵便・電話	郵便・電話		通信費	
30	公務					
31	教育・研究					
32	医療・福祉					
33	その他の非営利団体サービス					
34	対事業所サービス	広告（TV・ラジオ、新聞・雑誌等）、事務用品賃貸、委託（清掃・警備、舞台技術ｽﾀｯﾌ）	広告（TV・ラジオ、新聞・雑誌等）、委託（公演、舞台技術ｽﾀｯﾌ・ﾌﾛﾝﾄｽﾀｯﾌ）		広告（TV・ラジオ、新聞・雑誌等）	
35	対個人サービス	ケータリング費 宿泊費	ケータリング費 出演委託費 諸謝金、宿泊費	飲食（飲食店） 宿泊費（旅館）	劇団等（興行団） 飲食（飲食店） 宿泊費（旅館）	飲食（飲食店） 宿泊費（旅館）
36	事務用品	消耗品費他			消耗品費他	
37	分類不明					

注）括弧内は産業連関表における産業分類名

2. 劇場運営に伴う最終需要と観客の消費支出

(1) 管理運営に伴う最終需要

- まず、北九州芸術劇場の管理運営に伴う支出を、費目別に整理したものが下表である。舞台技術スタッフの委託料など、対事業所サービス部門への支出が最も大きく、次いで、電力・ガス・熱供給部門への支出が大きいことがわかる。

図表-資Ⅳ-3 管理運営に伴う支出額

産業分類項目		財団支出費目	金額(千円)			備考
			北九州市内	市外	合計	
20	その他の製造工業製品	印刷製本費	1,655	88	1,743	
22	電力・ガス・熱供給	光熱水量費	192,687	0	192,687	電気・ガス
23	水道	光熱水量費	7,567	0	7,567	
25	商業	消耗品費	1,555	0	1,555	
26	金融・保険	保険料	6,046	645	6,691	
28	運輸・郵便	招聘旅費交通費・旅費交通費	1,208	473	1,681	交通費
		宅急便	87	0	87	宅配便
29	情報通信	郵便・電話	127	1,743	1,870	電話等
34	対事業所サービス	広告宣伝費	5,141	859	6,000	
		委託費(舞台技術)	95,497	0	95,497	
		支払負担金(警備)	21,250	0	21,250	
		支払負担金(清掃)	37,245	0	37,245	
		その他	213,702	69,517	283,218	
35	対個人サービス	ケータリング費	0	0	0	
		宿泊費	0	0	0	宿泊費
36	事務用品	消耗品費他	1,918	102	2,020	
計			585,682	73,427	659,109	

- なお、北九州市外への支出については、北九州市の産業連関表を活用することは不適切であるため、支出額は北九州市内と市外に分けて算出した(以降の項目も同様)。
- 北九州芸術劇場の管理運営に伴う最終需要は約6億5,911万円で、うち88.9%(約5億8,568万円)が市内への支出となっている。

(2) 主催事業における最終需要

- 同様に、北九州芸術劇場の主催事業の実施に伴う支出を費目別に整理したものが、図表-資Ⅳ-4である。
- 主催事業では、スタッフ経費などの対事業所サービス、北九州までの交通費などの運輸、出演料などの対個人サービスへの支出が大きい。対個人サービスでは、講師・スタッフの諸謝金(約905万円)が最も大きく、次いで、招聘旅費交通費(約840万円)、出演委託費(約599万円)などとあわせると、約2,642万円が使われた計算となる。
- 主催事業の実施に伴う最終需要額は、約1億3,929万円、うち44.4%(約6,184万円)が市内への支出となっている。

図表-資Ⅳ-4 主催事業の実施に伴う支出額

産業分類項目		財団支出費目	金額（千円）			備考
			北九州市内	市外	合計	
20	その他の製造工業製品	印刷製本費	3,300	627	3,926	チラシ・ポスター
22	電力・ガス・熱供給	光熱水量費	0	0	0	
24	廃棄物処理	廃棄物処理	0	0	0	
26	金融・保険	保険料	545	327	872	
28	運輸・郵便	招聘旅費交通費・旅費交通費	15,430	75	15,505	交通費
		委託・道具運搬	0	3,755	3,755	運搬
		宅急便	249	0	249	宅配便
29	情報通信	郵便・電話	875	2	877	電話等
34	対事業所サービス	委託費(舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)	10,664	392	11,056	
		委託費(公演料・出演料・講師料)	8,665	52,793	61,458	
		委託費(調律費)	0	0	0	ピアノ調律
		委託費(広告宣伝)	2,242	409	2,651	
		委託費(デザイン費)	393	0	393	
		その他	2,748	9,383	12,131	
35	対個人サービス	委託費(委託・出演料)	2,809	3,183	5,992	
		諸謝金(諸謝金・講師スタッフ謝金)	6,735	2,310	9,046	
		委託費(撮影・映像編集)	22	298	320	
		宿泊・招聘旅費交通費・旅費交通費	5,872	2,532	8,404	宿泊費
		ケータリング費	767	751	1,518	食費
		その他	528	608	1,136	
37	事務用品	消耗品費他	0	0	0	
計			61,844	77,445	139,289	

(3) 主催事業の観客の消費支出

- 次に、主催事業の観客の消費支出の試算を行った（図表-資Ⅳ-5）。
- 2022年度の観客アンケートの調査結果を見ると、回答者数全体の995人のうち、58.9%の人が公演の前後に飲食もしくはショッピングをしたと回答しており、これを飲食、ショッピングの別に整理すると、飲食金額の回答者数535人から、飲食をした人の割合は53.8%、一人あたりの平均金額は1,818.6円となっている。また、ショッピング金額の回答者数365人から、ショッピングした人の割合は36.7%、一人あたりの平均金額は2,760.3円となっている。観劇前後の消費行動としては、飲食をする人の割合の方が高いが、消費単価はショッピングが飲食の約1.5倍となっている。
- 主催事業のうち、創造事業、公演事業、提携事業などの北九州市内（北九州芸術劇場）での公演の入場者は18,366人であることから、観劇に伴う飲食の支出額は約1,796万円、ショッピングの支出額は約1,860万円、計約3,656万円と推計される。なお、22年度は前年度に比べると飲食、ショッピングの平均単価は減少し、北九州市内での観客消費支出は増加している（21年度は約3,261万円で前年度比10.8%のマイナス）。

図表-資Ⅳ-5 観劇前後の消費行動と消費支出

	飲食	ショッピング
アンケートでの金額の回答者数（人）	535	365
消費行動の割合	53.8%	36.7%
一人あたりの平均金額（円）	1,818.6	2,760.3

	観客数（人）	合計支出額（千円）		
		飲食	ショッピング	合計
北九州市内での公演	18,366	17,959	18,597	36,556
北九州市外での公演	396	387	401	788
合計	18,762	18,346	18,998	37,344

注）上記の表中の数値は、実数に基づく計算結果を転載したものである。消費行動の割合と一人あたりの平均金額は小数点第2位以下を四捨五入しているため、表中の数値を再計算したものと、合計支出額が異なる箇所がある（以下、いずれの表にも共通）。

- 交通費については、同じく観客アンケート調査の居住地のデータから、平均的な往復の交通費を設定し、推計を行った。その際の前提条件は昨年度調査と同様、以下のとおりとした。
  - 北九州市内の居住者の交通費については、バス・JR とも片道300円と想定し、九州内の居住者の交通費については、居住地別に最寄り駅から小倉駅までの JR 運賃（特急利用、新幹線利用なし）で試算した。
  - その他の地域には、広島、東京・千葉・神奈川、大阪・兵庫・神戸（03年度調査）などの回答があったため、大阪から新幹線利用と想定した。
  - 片道が2時間を超える場合は、宿泊を伴うこととし、一人当たり、宿泊費6,000円、宿泊に伴う飲食費3,000円を支出したものと想定した。
  - 劇場までの交通手段として、相当数の観客が自家用車を利用していると思われる（03年度調査では約33%）が、すべて JR・バス利用と想定した。
- 北九州芸術劇場以外で開催した公演の観客の交通費については、往復1,000円と想定した。
- なお、学芸事業の参加者の消費行動は、観劇客とは異なると思われるため、この分析には含めなかった。
- 以上の結果、主催事業の観客の消費支出額は、図表-資Ⅳ-6のとおり、合計で約1億3,275万円と推計される。

図表-資Ⅳ-6 主催事業の観客の消費支出額

	産業分類項目	消費支出費目	金額（千円）			備考
			北九州市内	市外	合計	
25	商業	ショッピング（公演前後）	18,597	401	18,998	
28	運輸・郵便	旅費・交通費	7,514	61,646	69,160	
35	対個人サービス	食費（公演前後）	17,959	387	18,346	
		宿泊費	17,498	0	17,498	
		食費（宿泊に伴う）	8,749	0	8,749	
合計			70,318	62,434	132,752	

(4) 貸館事業（市主催・共催含む）に伴う最終需要（参考値）

- 貸館事業の場合も、劇場の主催事業と同様、主催者の様々な支出が経済波及効果を生み出すものと考えられる。貸館事業の事業主催者の支出額については、アンケート調査等で把握する必要があるが、該当する調査を実施していないため、便宜的に、貸館事業の1公

演（講演含む）当たりの支出額について、主催公演の20%、30%という二つのケースを想定し、それらがすべて北九州市内での支出だったと仮定して、参考値を試算することとした。

- 22年度の貸館事業の公演等の年間延べ回数348件から、同一主催者・同一内容の利用で複数回の公演等を行ったものを1回として計上すると、261回の利用があった。そこから試算した結果は、下表のとおりであり、貸館事業の1公演当たりの支出額が主催公演の20%のケースで約8,455万円、30%のケースで約1億2,682万円となった。
- この試算は、貸館事業の実際の支出額に基づいていないため、最終需要額はあくまでも参考値である点に留意が必要である。

図表-資Ⅳ-7 貸館事業に伴う最終需要（参考値）

	金額（千円）			備考
	北九州市	市外	合計	
1公演あたりの支出が主催公演の 20%の場合	84,545	0	84,545	
1公演あたりの支出が主催公演の 30%の場合	126,818	0	126,818	

(5) 貸館事業（市主催・共催含む）の観客の消費支出

- 貸館事業の観客についてはアンケート調査の対象外だったため、主催事業の観客のデータを援用して、消費支出を試算した。試算の結果、貸館事業における観客の消費支出の金額は、約2億9,246万円であった（図表-資Ⅳ-8）。試算の前提条件は以下のとおりである。
  - 主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくいため、貸館入場者の消費支出については、飲食、ショッピングをした割合、一人当たりの単価とも、主催公演の80%と仮定した。
  - 貸館入場者の交通費については、80%が北九州市内、20%が北九州市周辺に居住しているものと想定した。
  - 22年度の貸館（市主催・共催含む）の総入場者数は、122,797人とした。

図表-資Ⅳ-8 貸館事業の観客の消費支出額（参考値）

産業分類項目		消費支出費目	金額（千円）			備考
			北九州市	市外	合計	
25	商業	ショッピング（公演	99,473	0	99,473	
28	運輸	旅費・交通費	96,928	0	96,928	
35	対個人サービス	食費（公演前後）	96,061	0	96,061	
合計			292,461	0	292,461	

3. 経済波及効果の計算結果

- 以上の最終需要および消費支出に基づき、北九州市内の支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度北九州市産業連関表」を使って、北九州市外への支出に伴う経済波及効果は、「平成23年度全国産業連関表」を使って計算した。
- なお支出額は2022年度の金額であるが、物価変動にともなうデフレート計算は行っていない。

(1) 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

- まず、管理運営に伴う経済波及効果（図表-資Ⅳ-9）は、北九州市内が約7億5,771万円、北九州市外が約1億2,268万円、合計が約8億8,039万円で、それぞれ最終需要に対する生産

誘発係数は1.29、1.67、1.34である。

- また、主催事業に伴う経済波及効果は、北九州市内が約8,029万円、北九州市外が約1億3,014万円、合計が約2億1,044万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.30、1.68、1.51である。
- 劇場の管理運営や主催事業に伴う経済波及効果の合計は約10億9,083万円で、生産誘発係数は1.37である。

図表-資Ⅳ-9 管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

（千円）

	管理運営			主催事業			合計
	北九州市内	北九州市外	計	北九州市内	北九州市外	計	
最終需要（支出額）	585,682	73,427	659,109	61,844	77,445	139,289	798,398
農林水産業	23	79	103	63	511	574	677
鉱業	1,357	32	1,389	7	46	52	1,441
飲食料品	25	53	77	471	1,290	1,761	1,838
繊維製品	76	125	201	12	139	151	352
パルプ・紙・木製品	1,213	908	2,122	214	978	1,192	3,313
化学製品	21	1,004	1,025	3	1,101	1,104	2,129
石油・石炭製品	-164	808	644	-19	1,305	1,287	1,930
プラスチック・ゴム	1,962	1,410	3,372	230	1,408	1,638	5,010
窯業・土石製品	436	279	715	42	287	330	1,044
鉄鋼	348	1,350	1,699	35	1,309	1,344	3,042
非鉄金属	162	345	507	22	338	360	866
金属製品	651	379	1,030	90	423	513	1,543
はん用機械	135	714	849	9	652	661	1,510
生産用機械	856	936	1,791	60	850	911	2,702
業務用機械	174	459	633	13	423	436	1,069
電子部品	-103	1,122	1,020	-7	1,022	1,015	2,035
電気機械	680	675	1,356	50	620	670	2,026
情報・通信機器	3	77	81	0	72	73	153
輸送機械	1,648	3,706	5,354	147	3,473	3,619	8,974
その他の製造工業製品	6,383	1,183	7,566	3,763	1,704	5,467	13,033
建設	7,338	598	7,935	398	708	1,106	9,041
電力・ガス・熱供給	217,441	1,161	218,602	1,064	1,506	2,570	221,172
水道	8,390	167	8,556	179	290	469	9,025
廃棄物処理	877	99	976	125	231	356	1,332
商業	11,412	3,174	14,586	1,792	3,989	5,781	20,368
金融・保険	14,757	2,093	16,850	1,421	1,857	3,279	20,128
不動産	4,386	1,279	5,665	901	1,438	2,339	8,004
運輸・郵便	14,409	3,011	17,420	18,394	7,072	25,465	42,885
情報通信	17,072	9,530	26,602	2,399	7,174	9,574	36,176
公務	1,196	205	1,401	117	203	319	1,720
教育・研究	2,906	987	3,893	233	941	1,173	5,066
医療・福祉	34	12	46	9	15	23	70
その他の非営利団体サービス	1,030	228	1,259	122	251	374	1,632
対事業所サービス	431,986	83,054	515,040	30,272	75,392	105,665	620,705
対個人サービス	656	251	906	17,015	10,042	27,057	27,964
事務用品	2,984	280	3,264	161	190	350	3,614
分類不明	4,955	905	5,859	483	894	1,377	7,236
合計	**757,714**	**122,680**	**880,393**	**80,292**	**130,143**	**210,435**	**1,090,828**
生産誘発係数	**1.29**	**1.67**	**1.34**	**1.30**	**1.68**	**1.51**	**1.37**

注）各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と一致しない箇所がある。

(2) 主催事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果

- 次に、主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果（図表-資Ⅳ-10）をみると、北九州市内が約9,076万円、北九州市外が約10,906万円、合計が約1億9,982万円である。それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.29、1.75、1.51となっている。

図表-資Ⅳ-10 主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果

（千円）

	主催公演の観客		
	北九州市内	北九州市外	計
最終需要（支出額）	70,318	62,434	132,752
農林水産業	162	66	227
鉱業	14	158	172
飲食料品	1,239	87	1,326
繊維製品	18	89	107
パルプ・紙・木製品	188	738	926
化学製品	3	400	403
石油・石炭製品	-14	7,224	7,210
プラスチック・ゴム	145	587	733
窯業・土石製品	44	141	185
鉄鋼	29	697	726
非鉄金属	12	132	143
金属製品	128	305	433
はん用機械	2	124	126
生産用機械	9	129	138
業務用機械	7	70	77
電子部品	-1	175	174
電気機械	12	155	167
情報・通信機器	0	25	25
輸送機械	34	2,135	2,169
その他の製造工業製品	424	408	833
建設	505	1,288	1,793
電力・ガス・熱供給	2,175	1,220	3,394
水道	347	387	733
廃棄物処理	267	264	531
商業	21,302	3,317	24,619
金融・保険	894	1,967	2,861
不動産	1,367	1,888	3,255
運輸・郵便	10,149	69,480	79,629
情報通信	1,240	2,284	3,524
公務	100	167	268
教育・研究	175	495	670
医療・福祉	7	65	72
その他の非営利団体サービス	158	141	299
対事業所サービス	4,175	10,858	15,033
対個人サービス	44,826	495	45,321
事務用品	205	161	366
分類不明	416	738	1,155
合計	**90,761**	**109,061**	**199,821**
生産誘発係数	**1.29**	**1.75**	**1.51**

注）各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と一致しない箇所がある。

(3) 貸館事業（市主催・共催含む）に伴う経済波及効果（参考値）

- 次に、貸館主催者の最終需要（事業支出）、ならびに貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果は図表-資料Ⅳ-11のとおりで、1公演・講演当たりの事業費が主催公演の20%の場合、経済波及効果は約1億862万円、30%の場合は約1億6,296万円で、生産誘発係数はともに1.28である。
- また、貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果は、約3億8,061万円、生産誘発係数は1.30である。
- なお、貸館事業の場合は、公演や講演の事業支出、観客の消費支出とも、全額が北九州市内への支出と想定した。

図表-資Ⅳ-11 貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出に伴う経済波及効果（参考値）

（千円）

	貸館公演・講演事業		観客の消費支出
	ケース①	ケース②	
最終需要（支出額）	84,545	126,818	292,461
農林水産業	62	93	356
鉱業	8	12	45
飲食料品	453	679	2,701
繊維製品	16	24	68
パルプ・紙・木製品	227	340	764
化学製品	4	6	8
石油・石炭製品	-16	-24	-113
プラスチック・ゴム	330	495	631
窯業・土石製品	58	86	149
鉄鋼	47	71	134
非鉄金属	27	41	43
金属製品	104	155	503
はん用機械	19	28	9
生産用機械	122	183	46
業務用機械	25	38	27
電子部品	-15	-22	-6
電気機械	98	146	60
情報・通信機器	0	1	1
輸送機械	257	386	285
その他の製造工業製品	3,033	4,550	1,543
建設	439	658	2,478
電力・ガス・熱供給	1,235	1,853	7,334
水道	187	280	1,100
廃棄物処理	122	184	750
商業	2,099	3,149	108,051
金融・保険	1,634	2,451	4,826
不動産	989	1,483	6,547
運輸・郵便	14,467	21,701	112,656
情報通信	3,050	4,574	5,244
公務	177	265	523
教育・研究	326	489	867
医療・福祉	9	13	45
その他の非営利団体サービス	165	248	496
対事業所サービス	61,566	92,350	21,880
対個人サービス	16,346	24,520	97,529
事務用品	215	322	864
分類不明	732	1,098	2,169
合計	**108,617**	**162,925**	**380,611**
生産誘発係数	**1.28**	**1.28**	**1.30**

注）ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

注）各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致していない。

(4) 雇用効果

- ここまでの計算結果に基づき、福岡県産業連関表の雇用表を用いて、北九州市内の雇用効果を試算した。
- 具体的には、先に計算した北九州芸術劇場の管理運営、主催事業、主催公演の観客の消費支出、貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出、それぞれに伴う北九州市内の生産額と、福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて雇用効果を計算した。その結果は、図表-資Ⅳ-12に示したとおりである。
- 貸館の事業費が主催公演の20%と想定した場合（①）、就業者数（労働量）で約130人、雇用者数（有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む）で116人、同じく30%と想定した場合（②）、就業者数（労働量）で約136人、雇用者数（有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む）で121人の労働誘発効果、雇用効果があったという結果となった。
- 分野別にみると、対事業所サービス、対個人サービス、商業、運輸・郵便の分野での雇用効果が大きい。

図表-資Ⅳ-12 北九州芸術劇場の雇用効果（人）

	ケース①		ケース②	
	就業者数	雇用者数	就業者数	雇用者数
その他の製造工業製品	1	1	1	1
建設	1	1	1	1
電力・ガス・熱供給	3	3	3	3
商業	15	14	16	14
金融・保険	1	1	1	1
運輸・郵便	13	12	13	13
情報通信	1	1	1	1
対事業所サービス	64	57	67	60
対個人サービス	31	26	33	27
合計	130	116	136	121

注）ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) まとめ

- ここまでの経済波及効果の分析結果を整理すると、図表-資Ⅳ-13のとおりとなる。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、観客の消費支出によるものも含め、約9億3,100万円で、そのうち、77.1%にあたる約7億1,800万円が、北九州市内での最終需要となっている。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、観客の消費支出によるものも含め、約12億9,100万円で、そのうち72.0%にあたる約9億2,900万円が北九州市内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.39、北九州市内で1.29である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果（北九州市内のみと想定）は、約4億8,900万円～5億4,400万円で、生産誘発係数は1.30である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約17億8,000万円～18億3,400万円で、北九州市内に限ってみると、約14億1,800万円～14億7,200万円となっている。これは、21年度に比べて総合計と北九州市内の両方で増加している（21年度は、総合計：約15億5,000万円～15億9,200万円、北九州市内：約12億300万円～12億4,600万円）。誘発係数は21年度と同じく1.36となっている。
- また、北九州市内の雇用効果は、就業者ベースで約130～136人、雇用者ベースで約116～121人である。

注）上記数字は、試算結果の計算値を転載したものである。図表-資Ⅳ-13の各データは百万円未満を四捨五入しているため、表中に掲載している数値を再計算したものと、合計値やパーセンテージが一致しない場合がある。

図表-資Ⅳ-13 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果（22年度）

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億5,900万円 （5億8,600万円）	8億8,000万円 （7億5,800万円）	1.34 （1.29）
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費（交通費、宿泊費、食費、制作雑費）、宣伝費、記録費、予備費	1億3,900万円 （6,200万円）	2億1,000万円 （8,000万円）	1.51 （1.30）
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億3,300万円 （7,000万円）	2億円 （9,100万円）	1.51 （1.29）
	小計	9億3,100万円 （7億1,800万円）	12億9,100万円 （9億2,900万円）	1.39 （1.29）
貸館事業（参考値）	④貸館事業（貸館主催者の支出） 出演料、製作費、その他	8,500万円 ～1億2,700万円	1億900万円 ～1億6,300万円	1.28
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	2億9,200万円	3億8,100万円	1.30
	小計（参考値）	3億7,700万円 ～4億1,900万円	4億8,900万円 ～5億4,400万円	1.30
	合計（参考値）	13億800万円 ～13億5,000万円 （10億9,500万円 ～11億3,700万円）	17億8,000万円 ～18億3,400万円 （14億1,800万円 ～14億7,200万円）	1.36 （1.30）
		雇用効果 （北九州市内）	130～136人（就業者ベース） 116～121人（雇用者ベース）	

注）下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの小計、合計と合わない箇所がある。

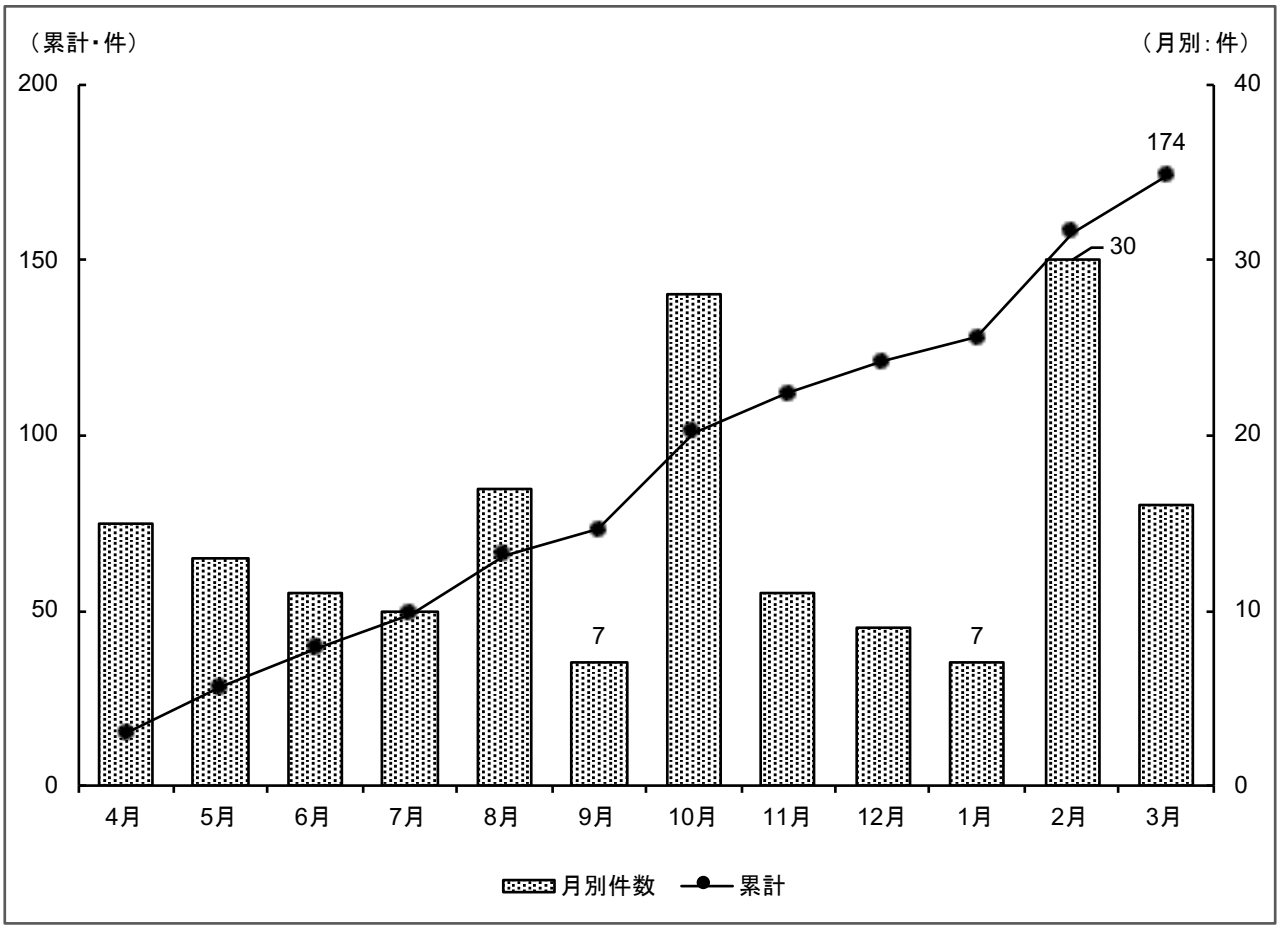
V

パブリシティ効果

(1) 月ごとの掲載件数と累計

2022年度のパブリシティ効果について、「日経テレコン」記事検索に基づき、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は174件となっている。２月の掲載件数が30件で最も多く、９月と1月が7件で最も少なくなっている。

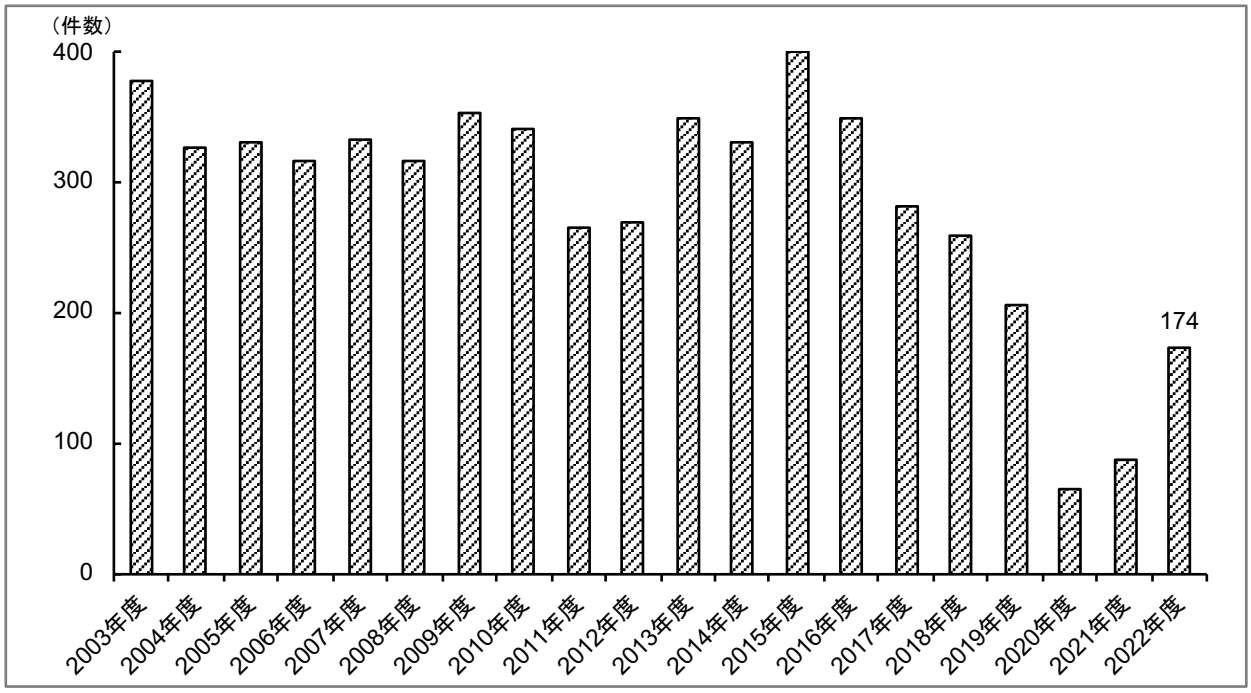
年	月	月別件数	累計
2022年度	4月	15	15
	5月	13	28
	6月	11	39
	7月	10	49
	8月	17	66
	9月	7	73
	10月	28	101
	11月	11	112
	12月	9	121
	1月	7	128
	2月	30	158
	3月	16	174



(2) 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移

2003年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。11年度は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられるが、20年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、掲載件数は開館以降で最も少ない件数となっている。21年度、22年度ともに掲載件数はコロナ禍以前の水準に達していない。

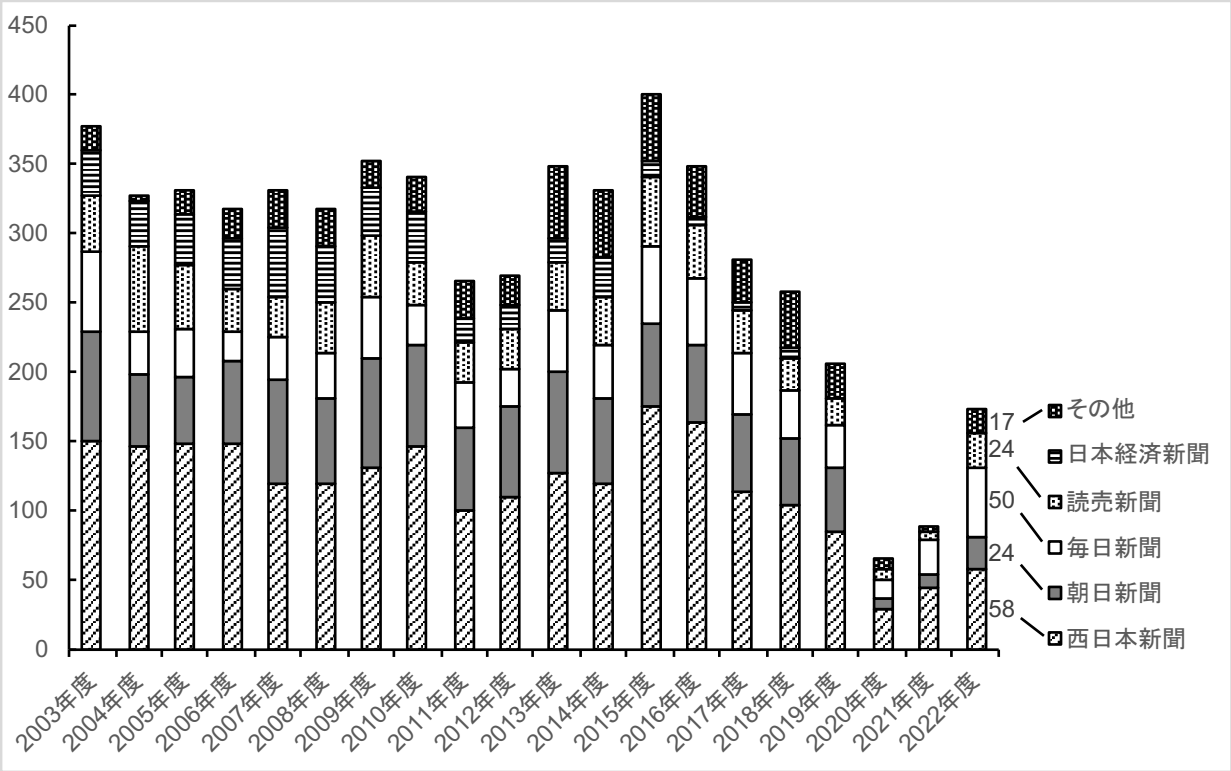
年度	掲載件数
2003年度	378
2004年度	327
2005年度	331
2006年度	317
2007年度	332
2008年度	317
2009年度	353
2010年度	340
2011年度	265
2012年度	270
2013年度	349
2014年度	331
2015年度	400
2016年度	348
2017年度	281
2018年度	259
2019年度	206
2020年度	65
2021年度	88
2022年度	174



(3) 新聞別件数一覧

新聞別に見ると、2022年度で掲載が最も多いのは西日本新聞（58件）、次いで、毎日新聞（50件）、朝日新聞と読売新聞（24件）となっている。その他、地方新聞は17件となっている。

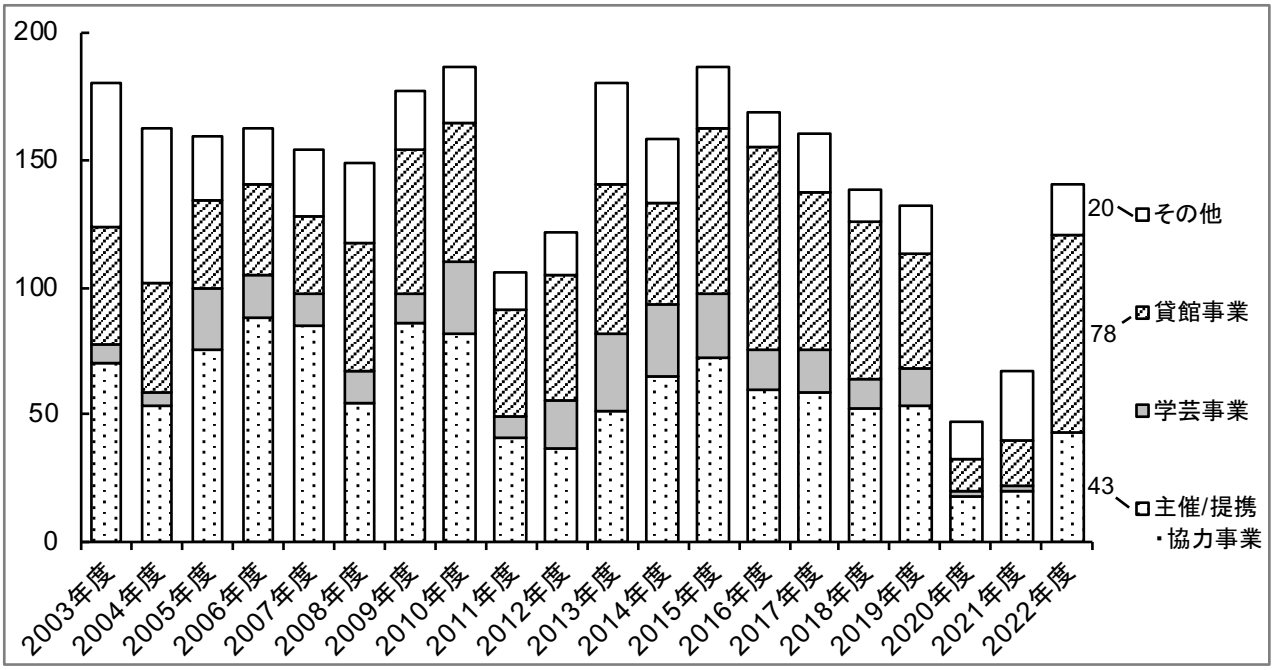
	西日本新聞	毎日新聞	朝日新聞	読売新聞	日本経済新聞	その他	計
2003年度	151	58	78	40	34	17	378
2004年度	147	31	52	61	32	4	327
2005年度	149	34	48	46	37	17	331
2006年度	149	20	60	31	37	20	317
2007年度	120	32	74	28	50	28	332
2008年度	119	33	62	36	41	26	317
2009年度	131	43	80	45	34	20	353
2010年度	146	30	73	31	35	25	340
2011年度	101	33	59	28	18	26	265
2012年度	111	27	64	30	17	21	270
2013年度	128	43	73	36	17	52	349
2014年度	120	38	61	35	30	47	331
2015年度	175	55	61	50	12	47	400
2016年度	163	47	57	39	6	36	348
2017年度	114	45	55	31	5	31	281
2018年度	105	34	48	24	7	41	259
2019年度	85	31	46	19	0	25	206
2020年度	30	15	6	7	0	7	65
2021年度	45	25	9	7	0	2	88
2022年度	58	50	24	24	0	17	173



(4) 新聞掲載記事の内容と件数

北九州芸術劇場として記事性が高く、公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、2022年度は141件であった(21年度:67件)。 その内容を、「主催/提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、43件、0件、78件、20件であった。

	主催/提携・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	70	8	46	56	180
2004年度	54	5	43	61	163
2005年度	75	25	34	25	159
2006年度	88	17	35	23	163
2007年度	85	12	31	26	154
2008年度	55	12	50	32	149
2009年度	86	11	57	23	177
2010年度	82	28	55	22	187
2011年度	41	8	42	15	106
2012年度	37	19	49	17	122
2013年度	51	31	58	40	180
2014年度	65	28	40	25	158
2015年度	72	25	66	24	187
2016年度	60	16	79	14	169
2017年度	59	16	62	23	160
2018年度	52	12	62	12	138
2019年度	53	15	45	19	132
2020年度	18	2	13	14	47
2021年度	20	2	18	27	67
2022年度	43	0	78	20	141
累計	1,166	292	963	518	2,939



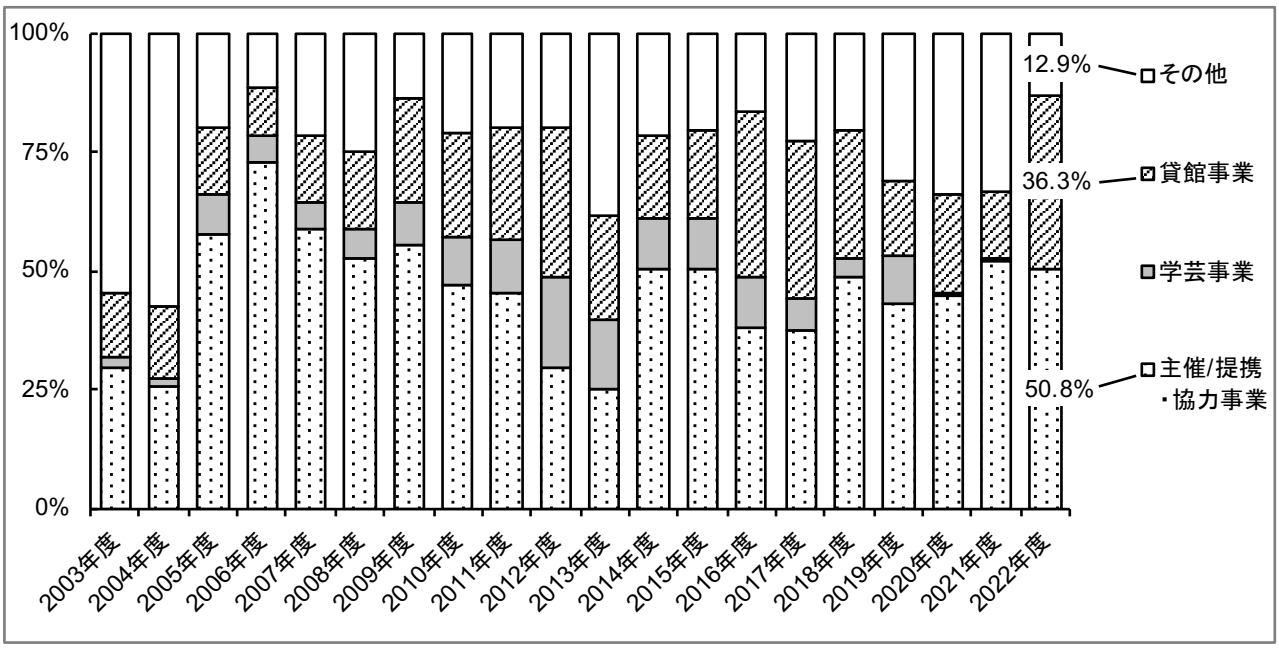
(5) 新聞掲載記事の内容と金額換算

北九州芸術劇場として記事性が高く、公演の内容紹介が掲載されている141件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億4,650万円という結果(21年度: 約8,260万円)で、コロナ禍以前の水準に回復した。22年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約6,200万円であり、補助金収入の約2.4倍のパブリシティ効果があった。

(金額:千円)

	主催/提携・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	62,140	5,331	27,072	114,683	209,226
2004年度	46,211	2,141	27,235	101,577	177,164
2005年度	110,044	15,505	26,622	37,678	189,849
2006年度	160,243	12,451	22,741	24,680	220,115
2007年度	66,027	5,777	16,056	23,737	111,597
2008年度	66,588	7,926	20,392	30,961	125,867
2009年度	65,542	10,316	26,293	15,755	117,906
2010年度	64,078	13,718	28,986	28,598	135,380
2011年度	42,162	10,621	21,443	18,563	92,789
2012年度	31,969	21,021	33,825	21,646	108,461
2013年度	41,879	24,104	36,272	64,035	166,291
2014年度	104,207	22,050	35,890	44,928	207,075
2015年度	97,930	20,472	36,429	39,170	194,002
2016年度	56,447	15,910	52,070	24,061	148,488
2017年度	57,825	9,840	50,418	34,746	152,829
2018年度	80,236	6,733	43,848	33,605	164,423
2019年度	62,971	14,159	23,195	44,969	145,294
2020年度	26,684	530	12,205	20,153	59,572
2021年度	42,980	767	11,193	27,633	82,574
2022年度	74,374	0	53,241	18,868	146,483
累計	1,360,538	219,372	605,426	770,048	2,955,384

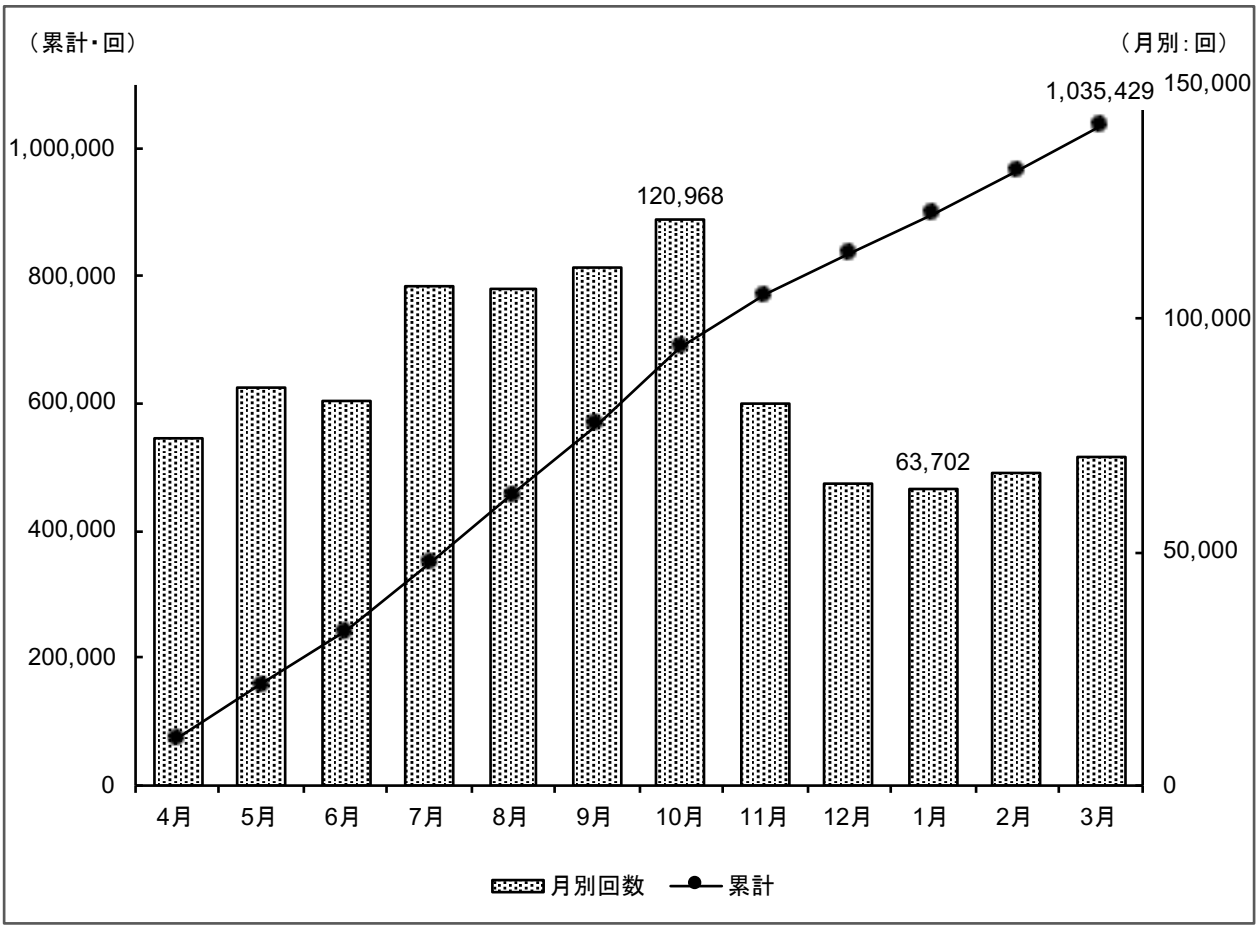
※千円未満を四捨五入しているため、合計・累計の金額が各データの計と合わない箇所がある。



(6) ホームページの月ごとのアクセス回数と累計

2022年度の北九州芸術劇場のホームページへのアクセス回数は累計で1,035,429回となっている。10月のアクセス件数が120,968回で最も多く、1月が63,702回で最も少なくなっている。月平均では86,286回となっている。

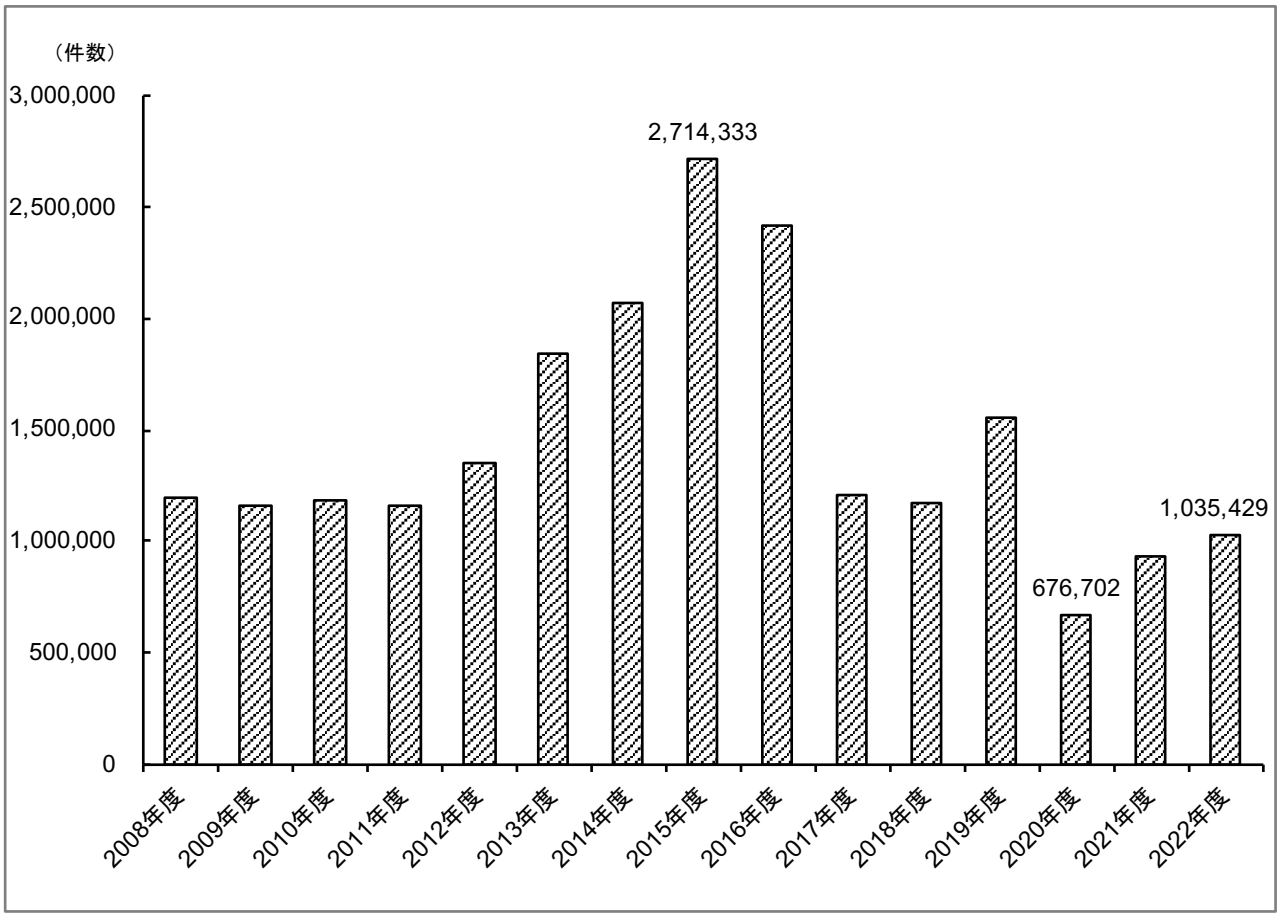
年	月	月別回数	累計
2022年度	4月	74,629	74,629
	5月	85,261	159,890
	6月	82,545	242,435
	7月	107,090	349,525
	8月	106,486	456,011
	9月	111,105	567,116
	10月	120,968	688,084
	11月	81,943	770,027
	12月	64,552	834,579
	1月	63,702	898,281
	2月	66,804	965,085
	3月	70,344	1,035,429



(7) 年度ごとのホームページアクセス回数の推移

2008年度以降の北九州芸術劇場のホームページのアクセス回数の推移を見ると、12年度から15年度にかけてアクセスが増加し、最も多いアクセス回数があったのは2015年度の2,714,333件で月平均では約22万6千件のアクセスがあった。20年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、アクセス件数、月平均回数ともに過去最少となった。22年度のアクセス回数は前年度比で12.2%増加した。

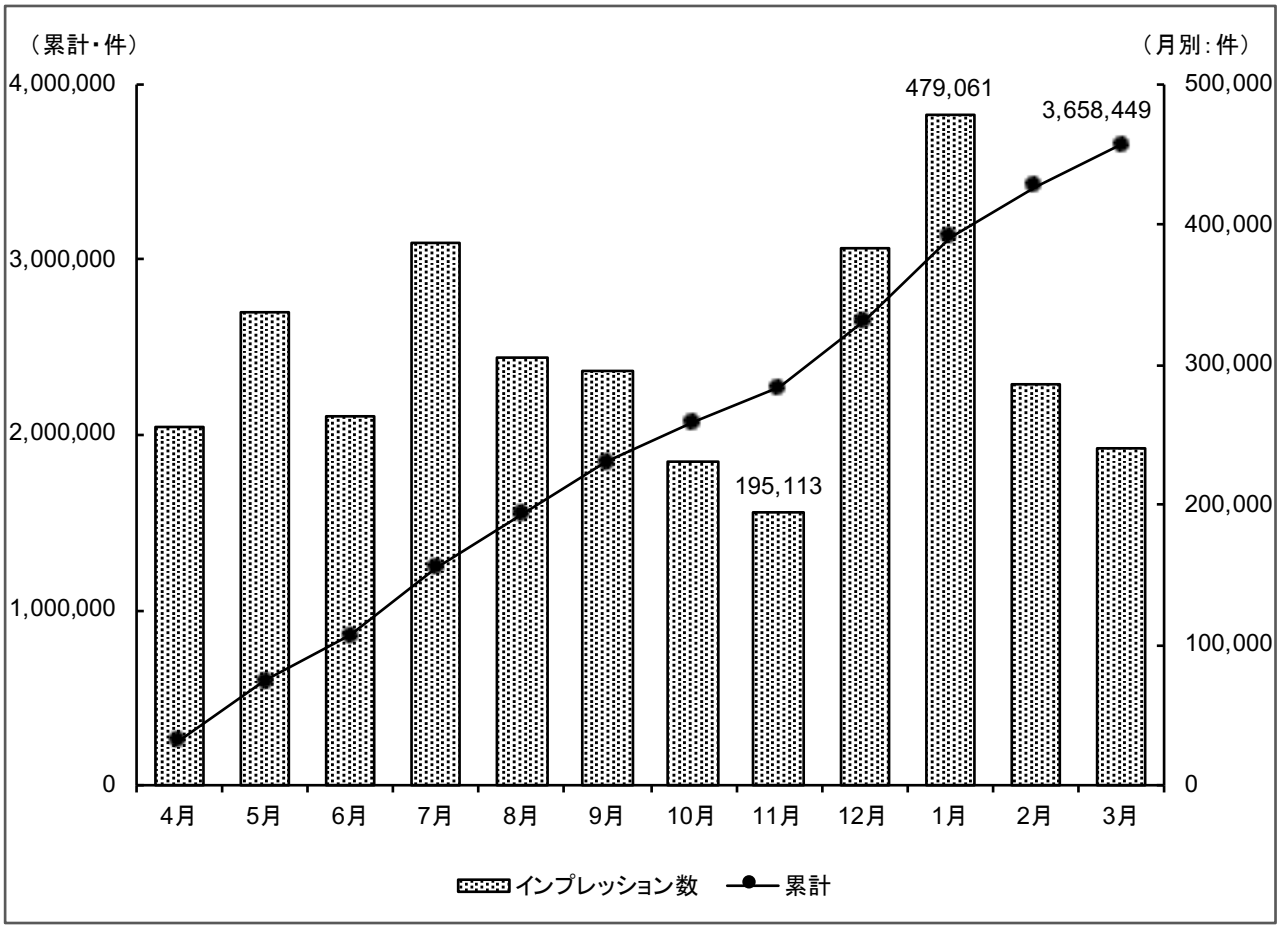
年度	アクセス件数	月平均件数
2008年度	1,191,747	99,312.3
2009年度	1,164,123	97,010.3
2010年度	1,184,765	98,730.4
2011年度	1,160,079	96,673.3
2012年度	1,356,413	113,034.4
2013年度	1,837,352	153,112.7
2014年度	2,065,905	172,158.8
2015年度	2,714,333	226,194.4
2016年度	2,416,185	201,348.8
2017年度	1,208,504	100,708.7
2018年度	1,169,697	97,474.8
2019年度	1,560,639	130,053.3
2020年度	676,702	56,391.8
2021年度	931,378	77,614.8
2022年度	1,035,429	86,285.8



(8) Twitterの月ごとのインプレッション数と累計

2023年3月31日現在のTwitterのフォロワー数は8,020人で、2022年度の北九州芸術劇場のTwitterのインプレッション数（投稿が他のTwitterのアカウントを持つユーザーに表示された回数）は累計で3,658,499件となっている。1月のインプレッション数が479,061件で最も多く、11月が195,113件で最も少なくなっている。月平均では304,871件となっている。

年	月	インプレッション数	累計
2022年度	4月	254,974	254,974
	5月	338,052	593,026
	6月	263,681	856,707
	7月	386,582	1,243,289
	8月	305,227	1,548,516
	9月	295,139	1,843,655
	10月	231,543	2,075,198
	11月	195,113	2,270,311
	12月	382,739	2,653,050
	1月	479,061	3,132,111
	2月	286,771	3,418,882
	3月	239,567	3,658,449



北九州芸術劇場事業評価調査（その20）報告書

調査・発行｜ 公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11
tel. 093-562-2655 fax. 093-562-2588

調査委託 ｜ 合同会社文化コモンズ研究所
〒231-0003 神奈川県横浜市中区北仲通3丁目33番地
関内フューチャーセンター#156
Email info@ifcc.jp

発 行 日 ｜ 2024年3月

©（公財）北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
合同会社文化コモンズ研究所

無断転載・複写を禁じます。